

伊東忠太建築作品

525.1-1897



1200500745323

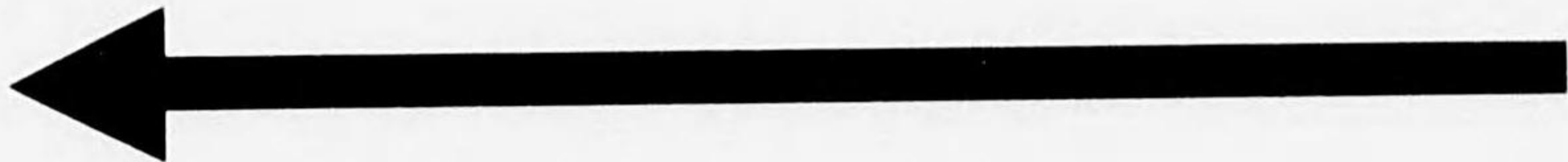
525.1

89



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

始



TI 2M-34

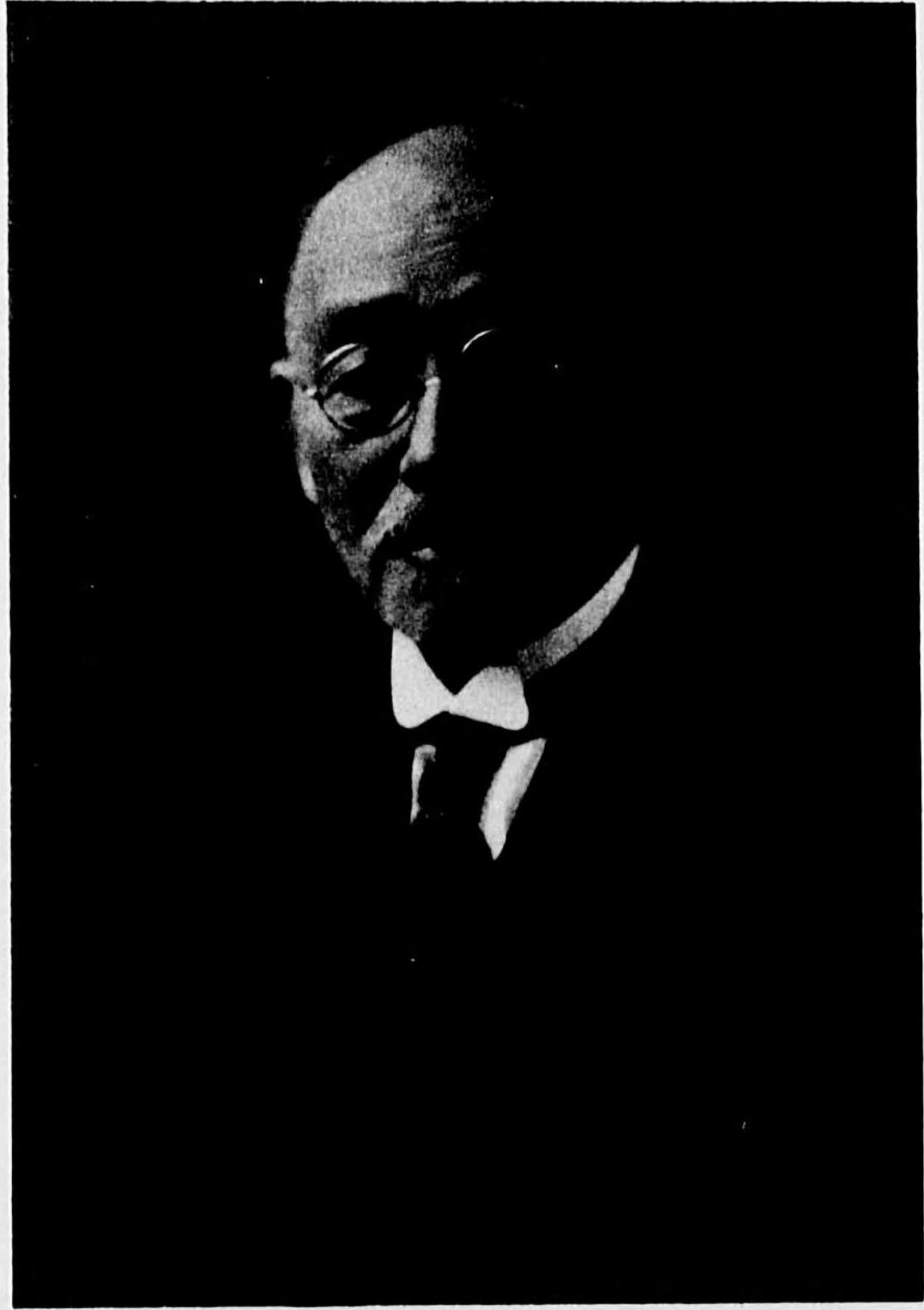
525.1
I.89
7



忠太建築作品



伊東博士作品集刊行會編
城南書院發行



工學博士伊東忠太氏

工學博士 伊東忠太氏 略歴

慶應三年十月二十六日
 明治二十五年七月十日
 同二十六年二月四日
 同二十九年五月七日
 同三十年一月二十二日
 同三十一年七月十一日
 同三十二年七月十二日
 同三十三年九月二十日
 同三十四年二月八日
 同三十五年三月十三日
 同三十八年六月二十二日
 同三十九年五月一日
 同四十年五月四日
 同四十二年十月二十二日
 同四十四年六月二十七日
 昭和二年六月八日
 同三年三月三十一日
 同四年四月十四日
 同四年六月八日
 同四年四月十五日
 同四年四月三十日
 同八年四月二十六日
 同十年七月十一日
 同十一年一月一日
 同十二年六月二十四日
 同十三年五月十四日
 同十三年五月三十日
 同十一年十一月十日
 同十四年一月三日

山形縣米澤市に於て出生
 東京帝國大學工科大學造家學科卒業
 直ちに大學院に入學
 東京美術學校講師を囑託せらる
 古社寺保存會委員 昭和四年より國
 寶保存會委員被仰付
 工科大學講師を囑託せらる
 造神宮技師兼内務技師に任ぜらる
 東京帝國大學工科大學助教授を兼任
 東京帝國大學博物館學藝委員被仰付
 工學博士の學位を得
 建築學研究の爲滿三箇年間支那印度
 土耳古へ留學、出發
 歸朝
 東京帝國大學工科大學教授に任ぜらる
 明治神宮造營局參與被仰付
 同局工營課長となる
 臨時議院建築局常務顧問被仰付
 帝都復興院評議會評議員被仰付
 帝國學士院會會員被仰付
 帝國博物館評議員被仰付
 東京帝國大學教授を辭す
 早稻田大學教授となる
 東京帝國大學名譽教授の稱號を授けらる
 東京帝國大學講師を囑せらる
 東方文化學院東京研究所研究員を囑
 託せらる
 重要美術品等調査委員を囑託せらる
 日滿文化事業評議員となる
 滿洲國文教部囑託となる
 朝鮮寶物古蹟名勝天然記念物保存委
 員となる
 帝國藝術院會會員被仰付
 日獨文化交流教授として獨逸に出張
 歸朝
 帝國博物館顧問被仰付
 東亞文化協會評議員に聘せらる

發刊趣旨

東京帝國大學名譽教授工學博士伊東忠太先生は一代の碩學にして
 且つ我が建築界の長老たり、しかも齡將に暮壽に達せんとして愈々
 嬰孺、既に文獻は架に積んで山を成し、作品は棟を並べて街を造る
 幸なる哉、文獻は既に集成せらるゝも、遺憾なる哉、作品は未だ之
 を蒐めたるもの無し。しかも博士の作品は澎湃として極らず、沸々
 として盡きざる藝術境より出でて意想縱橫、蓋し現代建築界に獨特
 の地位を確保するものなり。由て茲に吾人本會を組織し、本書刊行
 の舉に出で従來の遺憾を一掃し、之を世上に贈ると共に博士の喜壽
 に近きを紀念せんとするものなり。

昭和十六年仲秋

伊東博士作品集刊行會

藤島亥治郎
 田邊泰
 濱松義雄

921
 114

凡例

- 一 作品は建築・工藝・繪畫・彫刻の各種に亘りその代表者を網羅すべく努めたり。
- 一 建築及工藝は實施不實施の如何を問はず、これを用途別に集録せり。
- 一 設計圖面は努めて博士の自筆になる原案を收めたり。従つてこれと實施作品との間に多少の相違するものもあるべし。
- 一 卷末作品年表は博士自ら整理せられたるものによる。其他全卷を通じ博士の校閲を経たり。
- 一 本書の編輯に關する一切の責任は藤島これを負ふものなり。
- 一 本書刊行に賛 各種の援助を與へられたる鴻湖の士及び出版を快諾せられたる城南書院主中村勝哉氏に謝意を表す。

目次

工學博士伊東忠太氏肖像及略歴……………卷頭
發刊趣旨・凡例……………卷頭

作品

繪畫・彫刻

繪畫

釋迦降魔相……………一

鐘 窟……………三

迦 樓……………三

魍 魎……………五

西 遊……………五

瓢 箪……………六

日暮れて途遠し……………六

山 水……………七

敢 開……………七

時事漫畫十二題……………八

彫 刻……………八

金銅聖觀音像……………〇

建築・工藝

神 社

官幣社明治神宮……………二

本殿・中門・拜殿・南神門・石燈籠等……………二

別格官幣社靖國神社……………六

神門・狛犬・大燈籠……………六

豐 國 廟……………三

震災記念堂……………三

湯 島 聖 堂……………六

復興案・椅子……………六

早稻田大學演劇博物館創立……………六

公共建築

東京商科大学兼松記念講堂……………八

大倉集古館……………八

祇 園 閣……………六

北京圖書館……………六

明治節記念塔……………六

住 宅

前入澤邸 荻外莊……………九

白石元治郎氏熱海別邸……………一〇

男爵大倉喜八郎氏小田原別邸……………一〇

久米民之助氏箱根別邸……………一〇

仁王門・石燈籠・五角亭……………一〇

鮎川家先祖供養塔……………一〇

鮎川家 墓……………一〇

田 中 家 墓……………一〇

相 輪 榿……………一〇

藤田家 墓……………一一

男爵大倉喜八郎氏夫妻墓……………一一

伊東家 墓……………一一

官幣大社平安神宮……………〇

大橋殿・白虎樓・龍爪壇・應天門……………〇

官幣大社朝鮮神宮……………二

正殿・瑞垣門・拜殿・表參道等……………二

國幣中社彌彦神社……………六

本殿・拜殿等……………六

別格官幣社上杉神社……………六

本殿・拜殿・寶物殿・狛犬等……………六

佛 寺

日蓮寺佛舍利奉安塔……………〇

奉安塔・石門・石櫛・石柱等……………〇

可睡齊護國塔……………三

中山法華經寺聖教殿……………三

太子 厨子……………三

築地本願寺……………三

明善寺本堂……………八

不忍辨天堂天龍門……………八

總持寺大僧堂……………六

最 乘 寺……………六

御眞殿・唐門・厨子……………六

普光寺毘沙門堂……………六

五 重 塔……………六

東天竺山世尊寺釋迦堂厨子……………六

廟 其 他……………六

補 妣 庵……………七

庵・觀音堂・墓所……………七

白石家 墓……………三

小 磯 家 墓……………三

子爵中牟田家墓……………三

淺野總一郎氏夫妻墓……………三

墓・相輪櫛……………三

伯爵平田東助氏墓……………三

中橋徳五郎氏墓……………三

像 臺 座

上野大佛・石壇・石階……………三

總持寺境内觀音像臺座……………三

有栖川宮威仁親王像臺……………三

南部伯爵像臺……………三

伯爵平田東助氏像臺……………三

男爵前島密氏像臺……………三

西村捨三氏像臺……………三

碑

春畝山博文寺之碑……………三

桃山御陵軍人勅諭之碑……………三

壽多有博士碑……………三

片倉兼太郎氏頌德碑……………三

元寇殲滅碑……………三

櫻花の碑……………三

卒業設計

伊東博士東京帝國大學卒業設計圖……………三

伊東博士主要作品目錄……………三

伊東博士主要作品目錄……………三

繪畫・彫刻



相魔降迦釋



忠太



昭和庚午

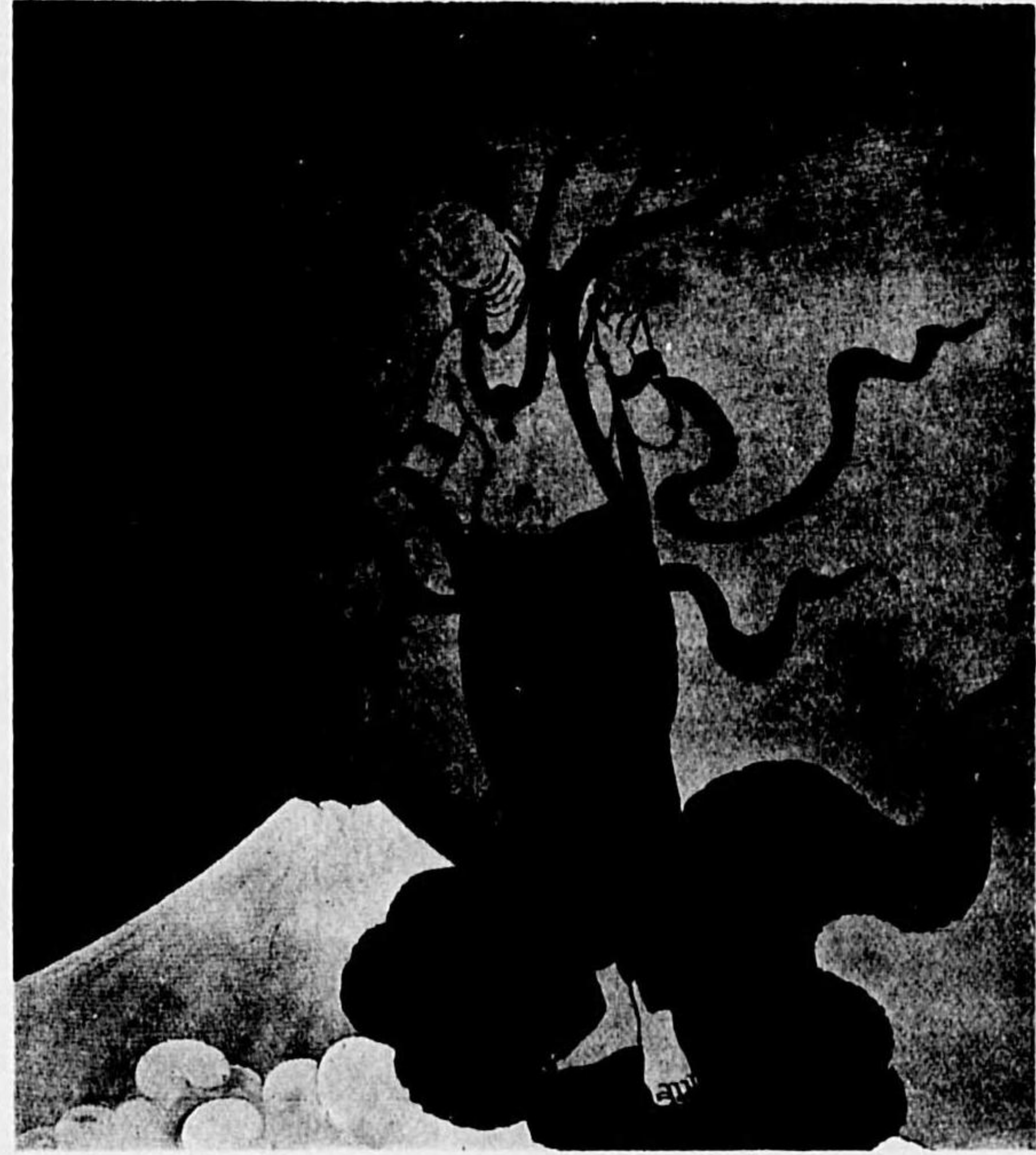
志太

旭 鐘



志太

迦 樓 羅



觀自在菩薩



西遊記

白鹿洞底
流水長
黃鶴樓頂
飛雲高



山水
志太

山
水



志太

敢
闘



志太

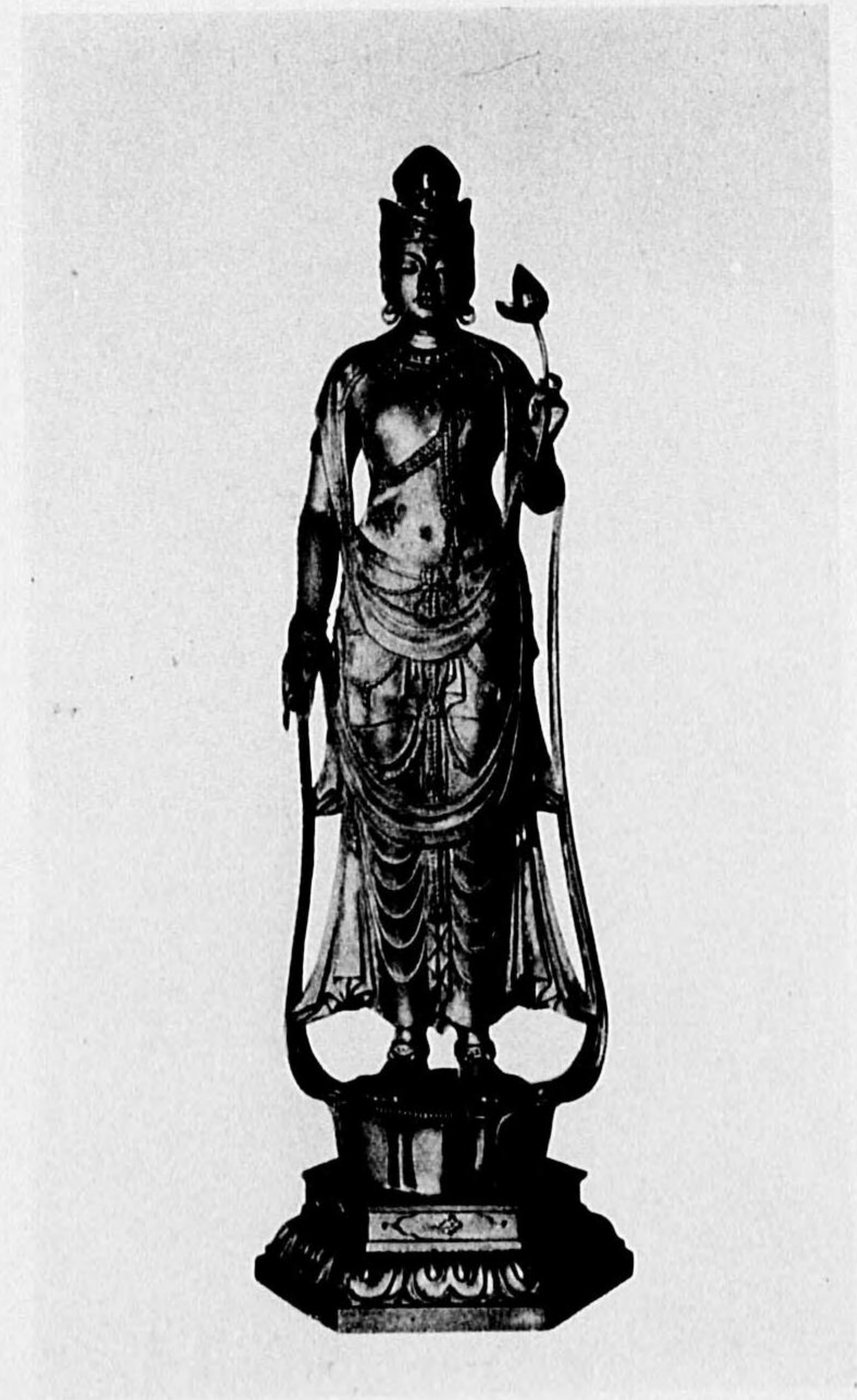
孤
單
鯨



志太

日暮れて途遠し(博士の感慨を偶す)

建築・工藝



金剛觀音像 博士 新海竹太郎 原型



。付み彫柱丸 打具金飾銅金 造木素 尺九三高棟 六六尺五一間梁 尺九二行桁 門 神 南

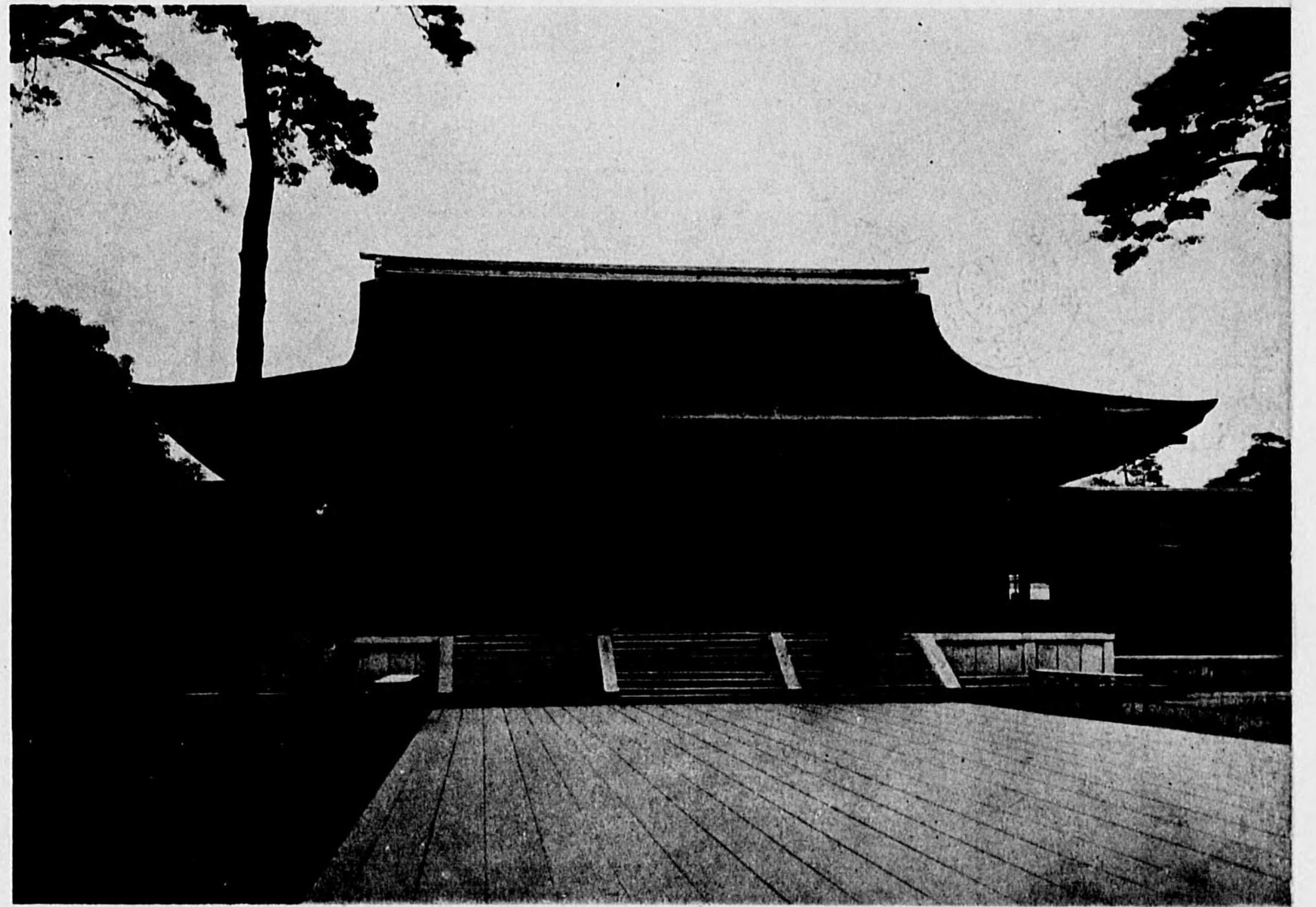
官幣大社明治神宮

東京市世田谷區代々木

明治天皇并びに照憲皇太后の英靈を奉祀す
 大正二年十二月二十日勅令を以て神社奉祀調
 査會官制を公布せられ、同會の調査書議によ
 り大正三年二月御鎮座地として舊南豊島御料
 地を撰定、大正四年五月一日内務省告示を以
 て右御治定あらせらるゝ旨公布。同年四月三
 十日勅令を以て明治神宮造營局官制公布せら
 れ、その總裁には伏見宮員愛親王殿下を戴き
 以て社殿神苑を造營し奉る。

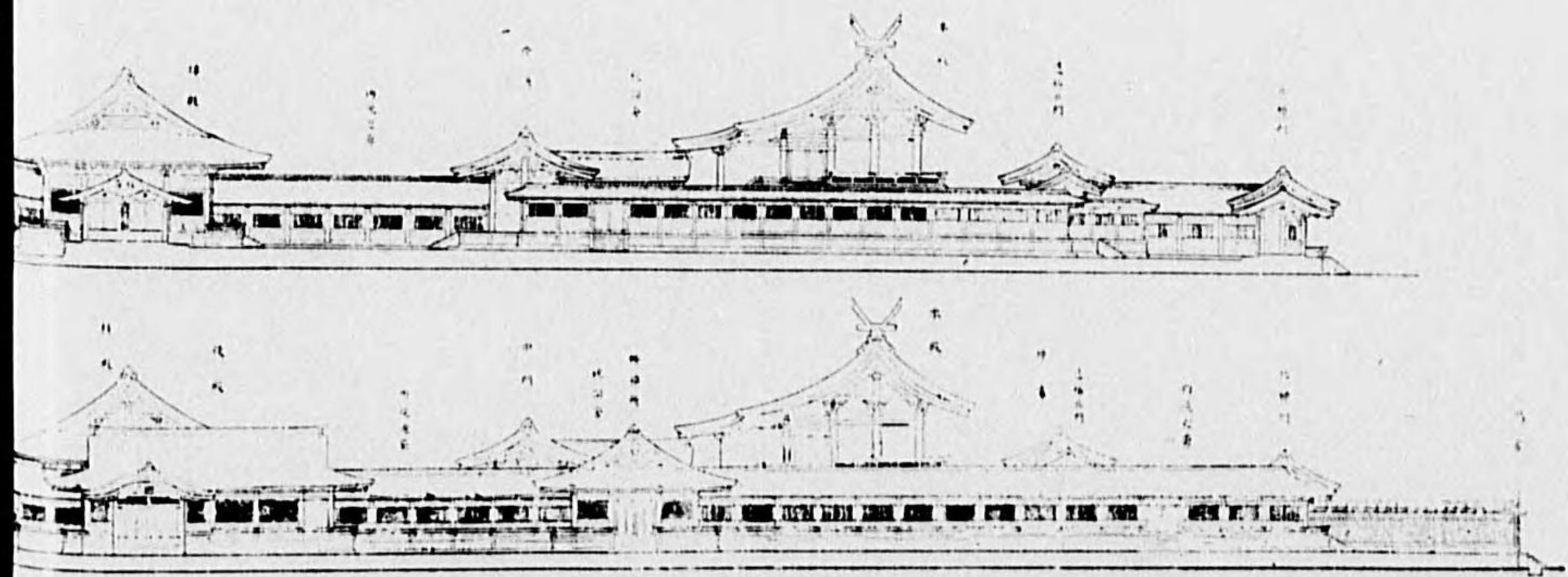
- 大正四年十月七日 地鎮祭
- 同 五年三月二十五日 新始祭
- 同 八年五月二十七日 立柱祭
- 同 九年七月十二日 上棟祭
- 同 九年十月二十八日 清祓新殿祭
- 同 十一年十一月一日 鎮座祭

總工費 一、五七九、六〇〇圓
 様式は平安時代式を基調とする流造とし、木
 材は廻廊以内は悉く木曾産檜を、廻廊以外は
 臺灣阿里山の扁柏を用ひ、石材は主として北
 木産花崗石を用ひたり。



拜殿

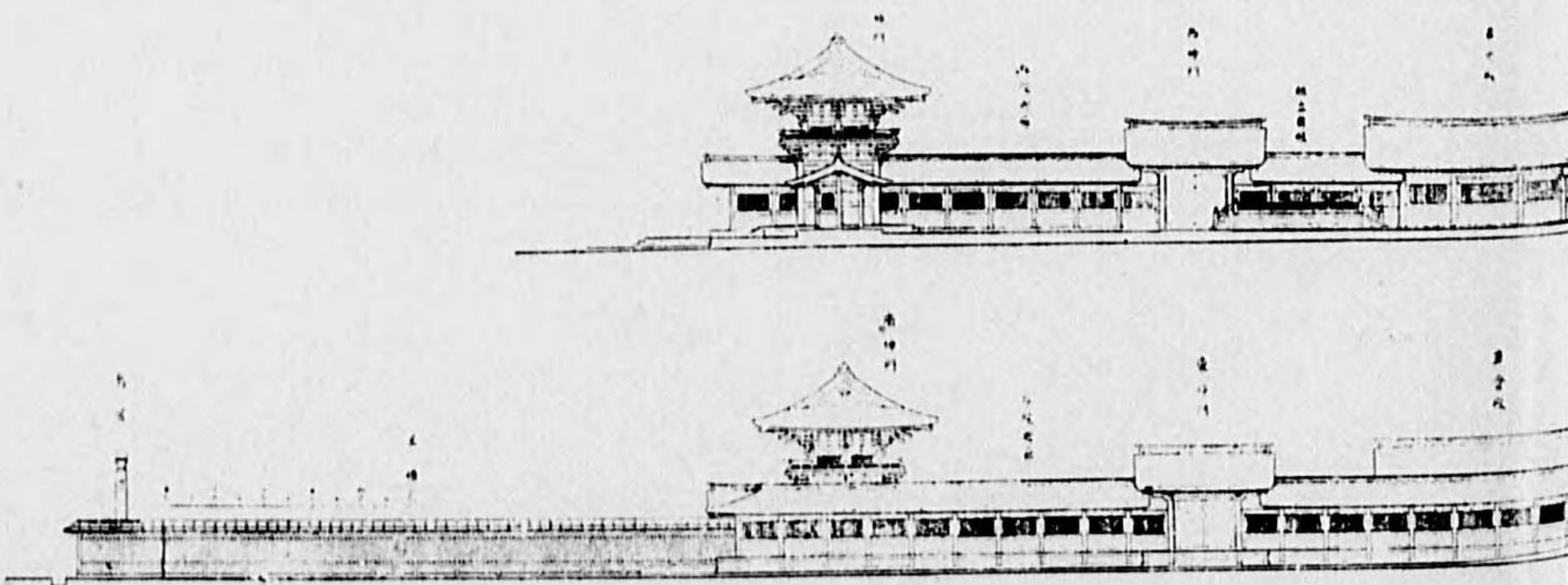
拜殿 桁行五六尺九八、梁間三六尺九六、棟高三五尺六、建坪五八坪七七八、素木造、金銅飾金具打、丸柱彫み付、斗拱出組屋根檜皮葺、簷棟、鬼板等銅包、軒二軒繁様、内部入側斗拱三斗組、筋欄間附、天井化粧屋根裏。



社殿



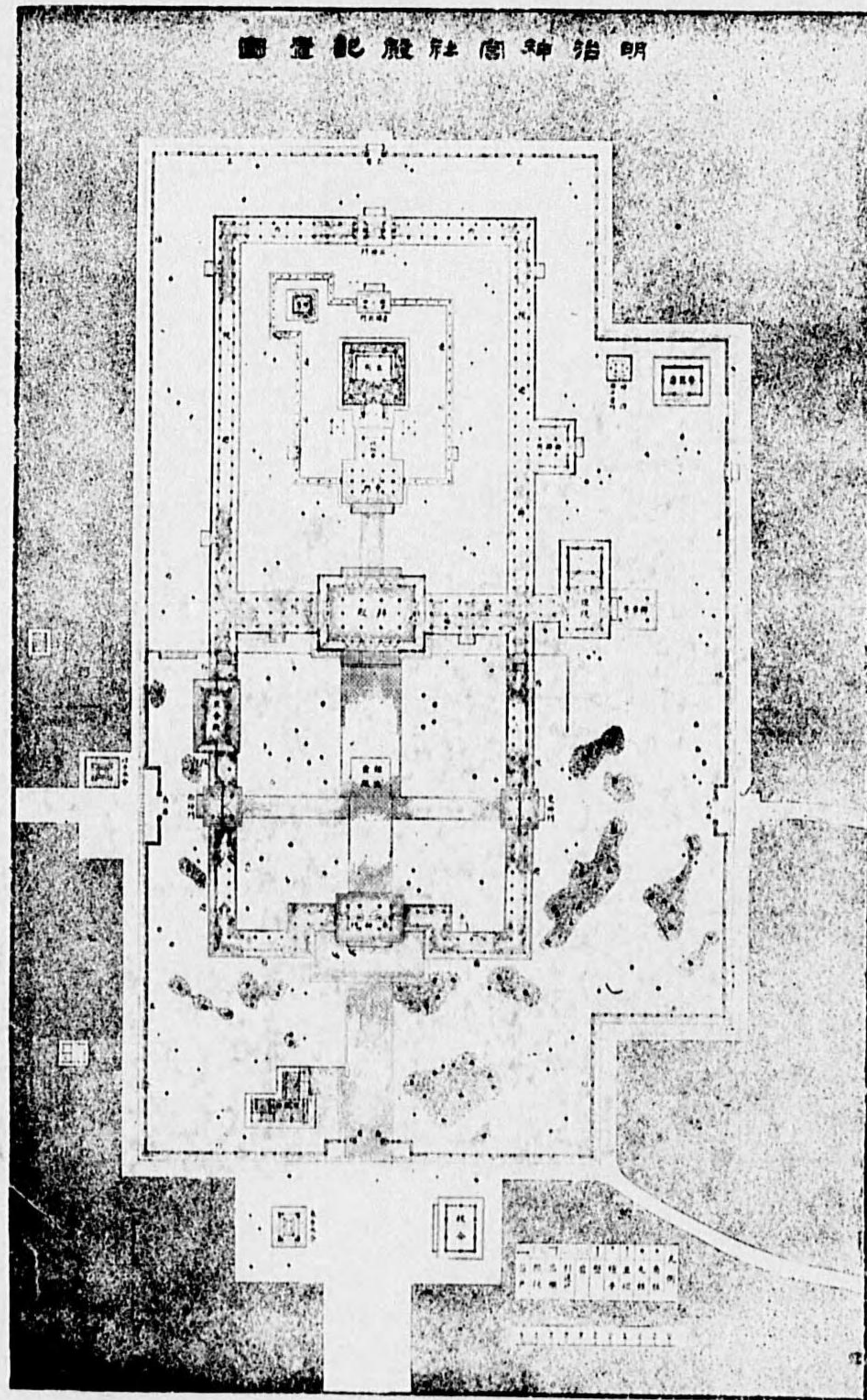
中門及透櫓



中門

中門 桁行二七尺五、梁間一四尺三、棟高三尺三、建坪一〇坪九二。素木造、飾金具打、中の間板唐戸唐居敷建、左右脇の間壁襖子嵌込。三斗組、屋根檜皮葺、軒二軒繁様、化粧屋根裏。

透櫓 桁行延長三四尺一、棟高八尺六五。素木造、飾金具打。屋根檜皮葺、軒一間配棟。



明神宮社殿配置圖

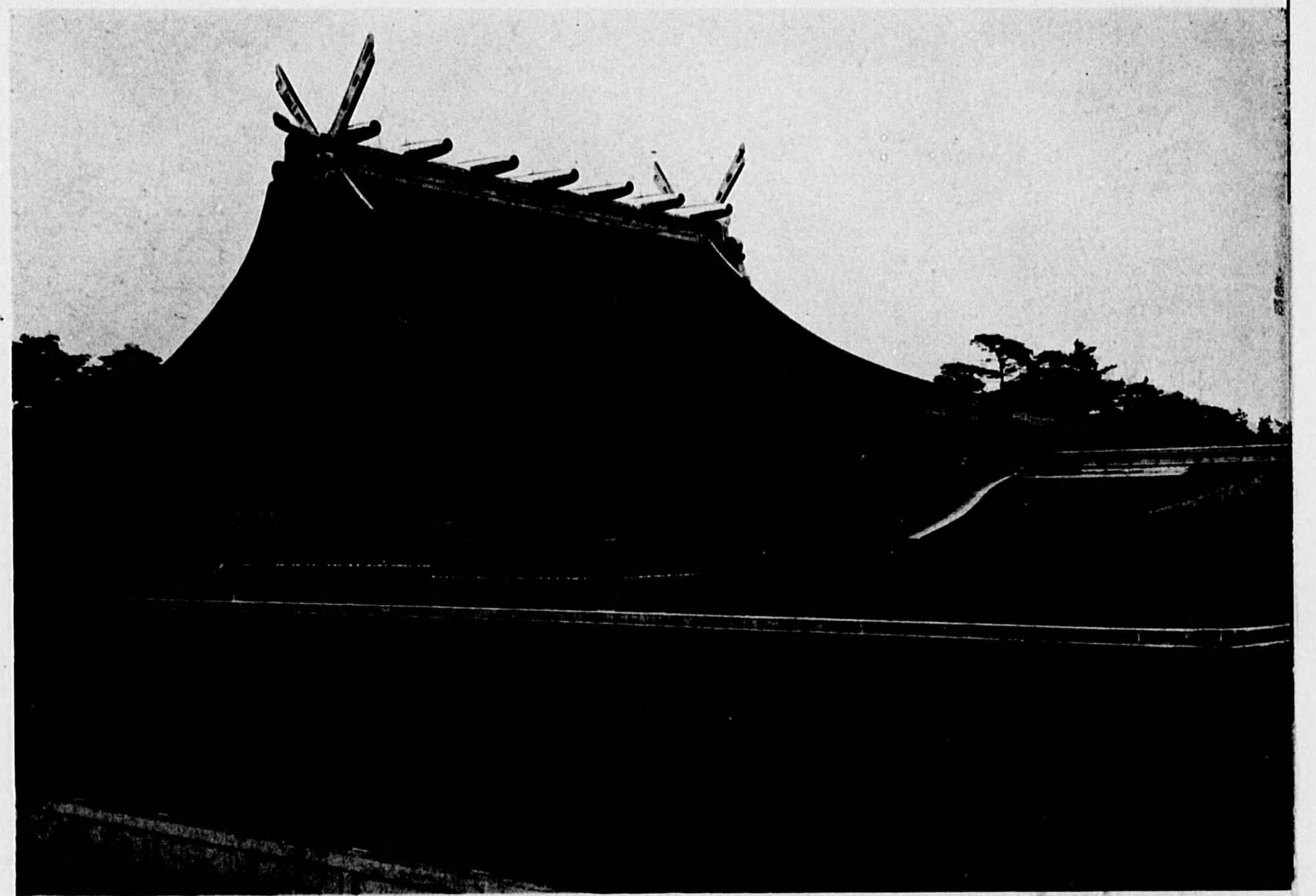
社殿配置圖

主なる工事関係者
 參與 工務課長 工博 伊東忠太
 參與 工務課長 工博 塚本精
 參與 工務課長 工博 佐野利器
 參與 工務課長 工博 關野貞
 參與 工務課長 工博 桐山平太郎
 參與 工務課長 工博 安藤時藏
 技師 大村米次郎
 技師 木村米次郎

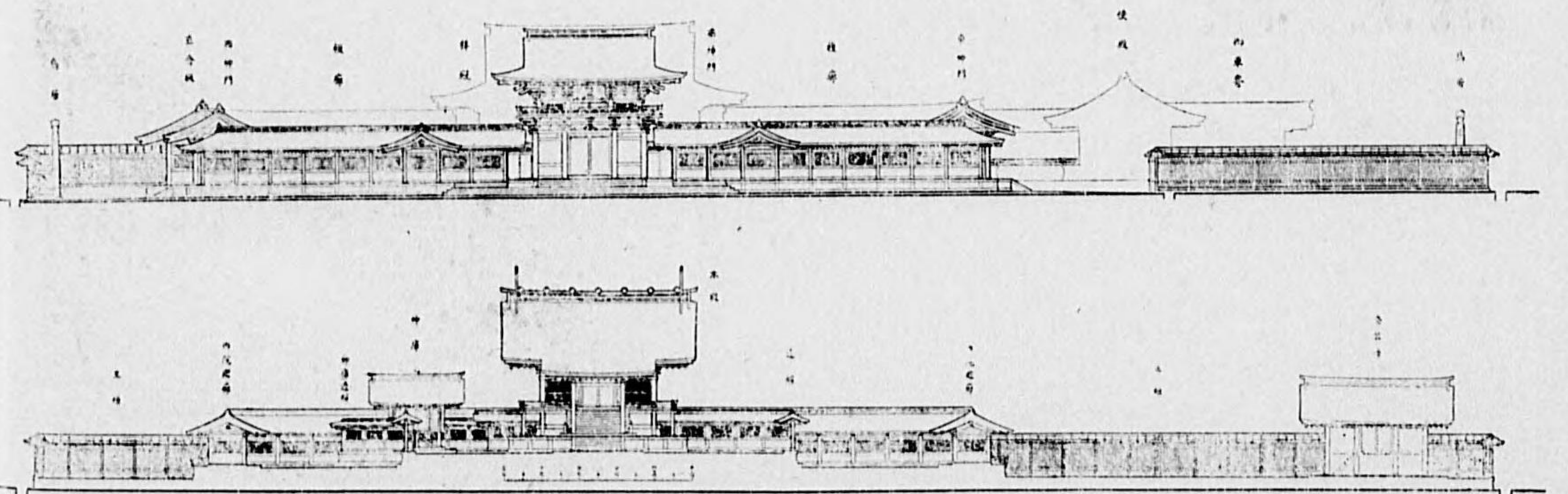
境内總面積二二、九一六坪。玉座内御敷地六五〇坪。南・北・西の三參道にて本宮に達す。社殿各門前及各參道口に高さ三十九尺六寸の大鳥居合せて八基あり。社殿は南面し棟數十八棟、御垣三重、鳥居四基、建坪總數六五六坪、玉座東西六三間乃至五〇間、南北一二二間、廻廊東西三三間、南北八〇間御建物の配置圖示の如し。
 尙神苑北側に南面して寶物殿あり、造營局の設計に係る。神苑内に舊御苑、舊御殿等を包含す。



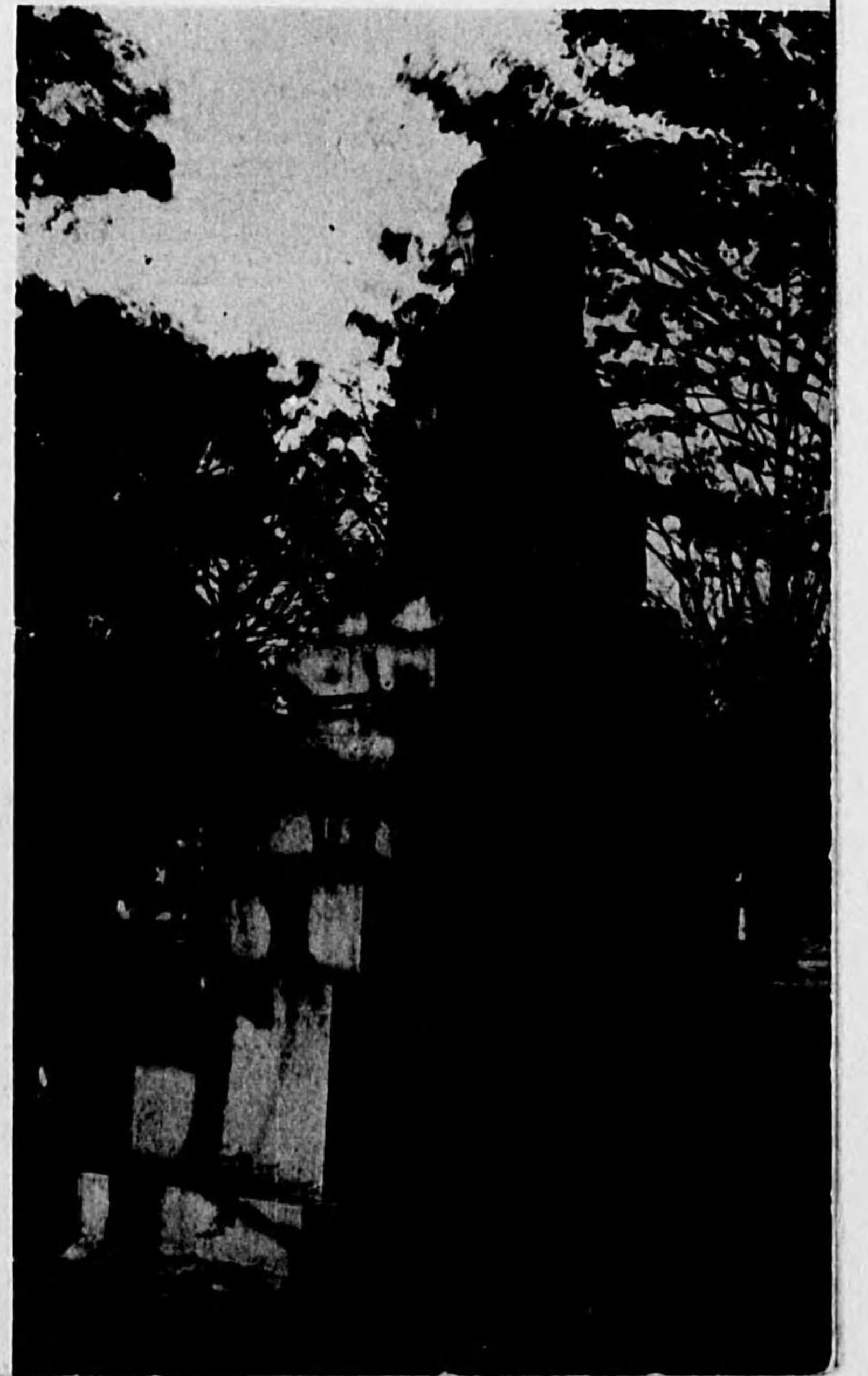
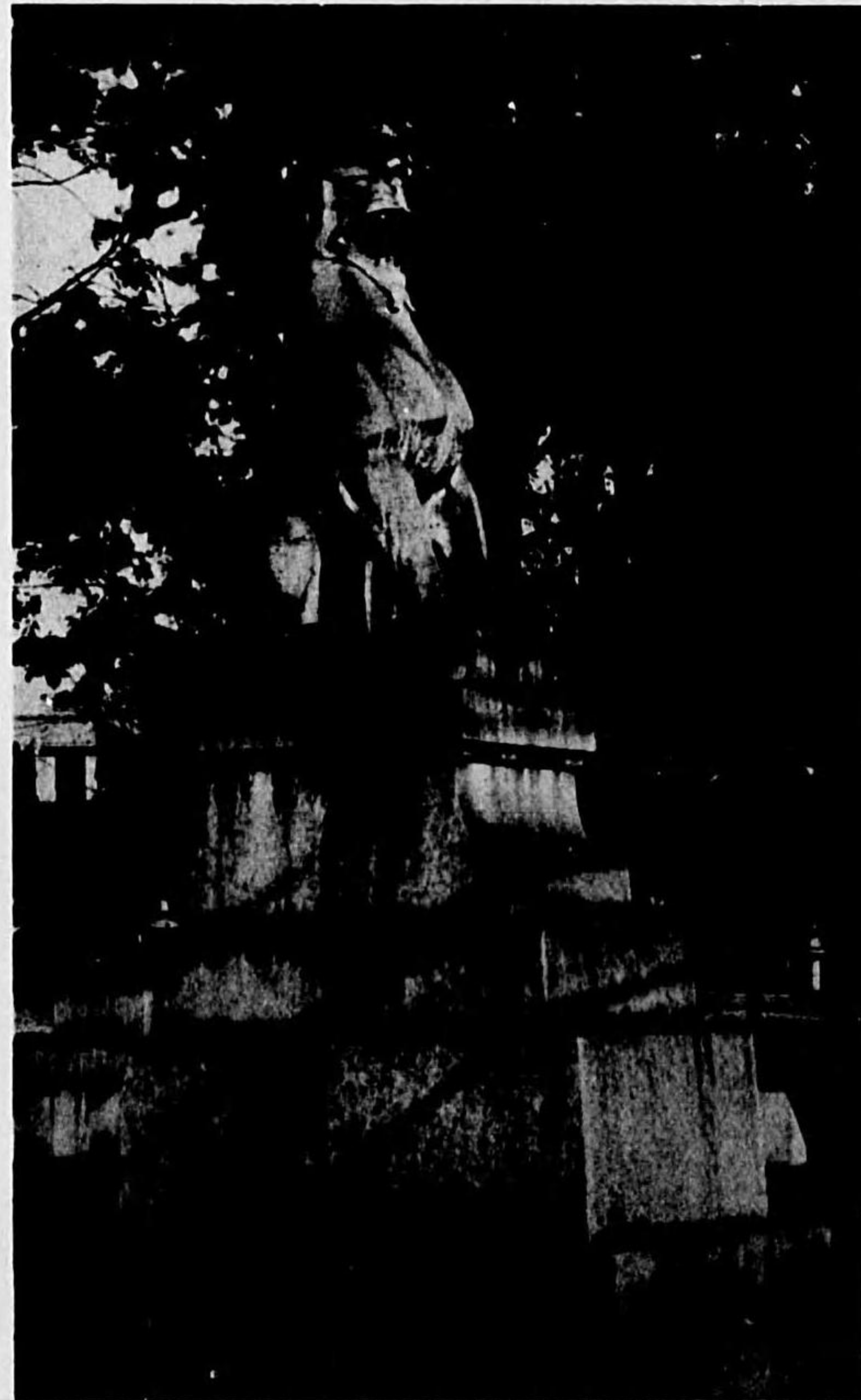
表參道口石燈籠
 昭和十一年



組斗三 付み彫に共柱角取面大柱丸包板鋼飾棟 葺皮檜根厚 打具金飾造木素 五八五坪九二坪建 三尺七三高棟 尺七・九二共間梁行桁 殿、本

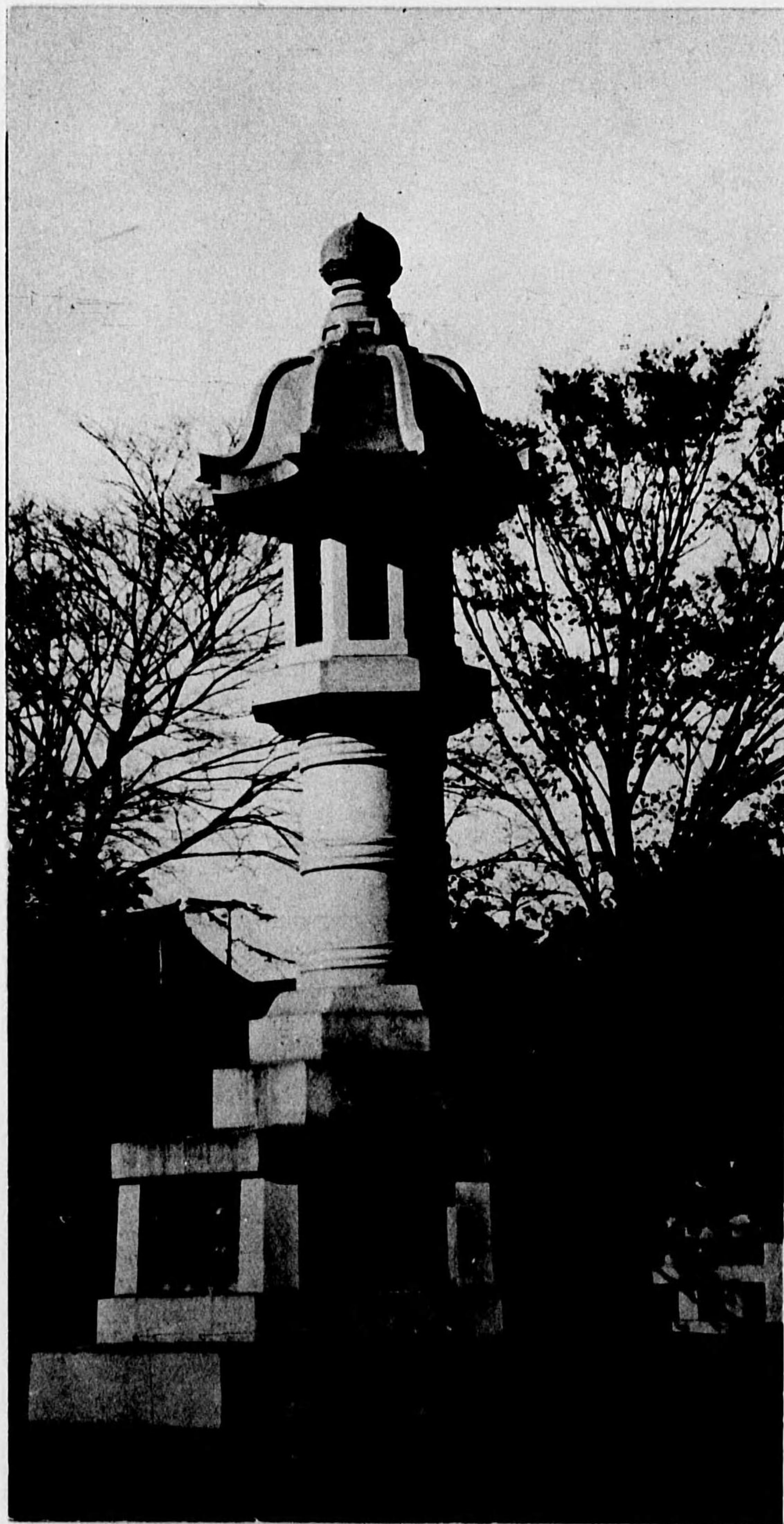


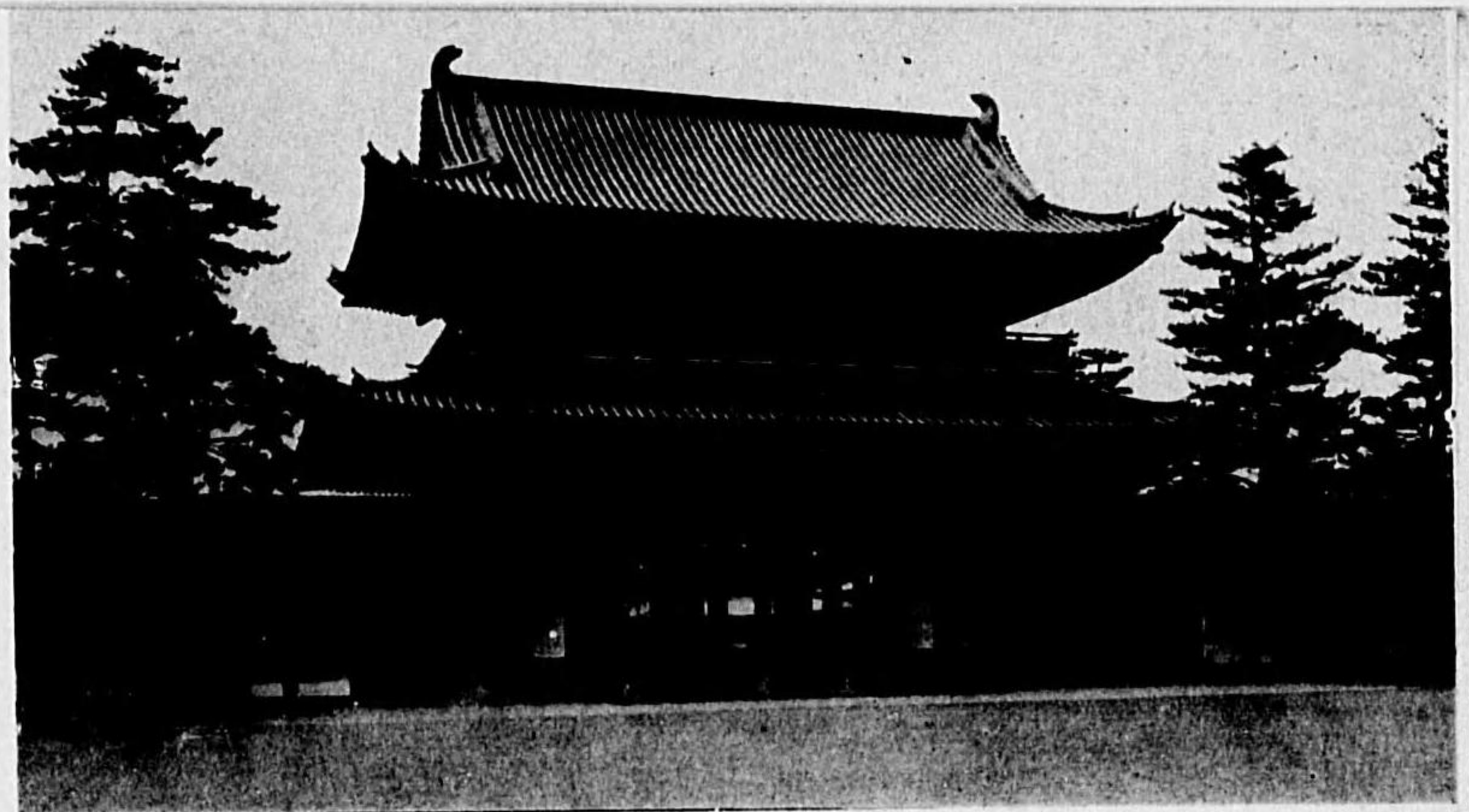
社殿横斷面圖



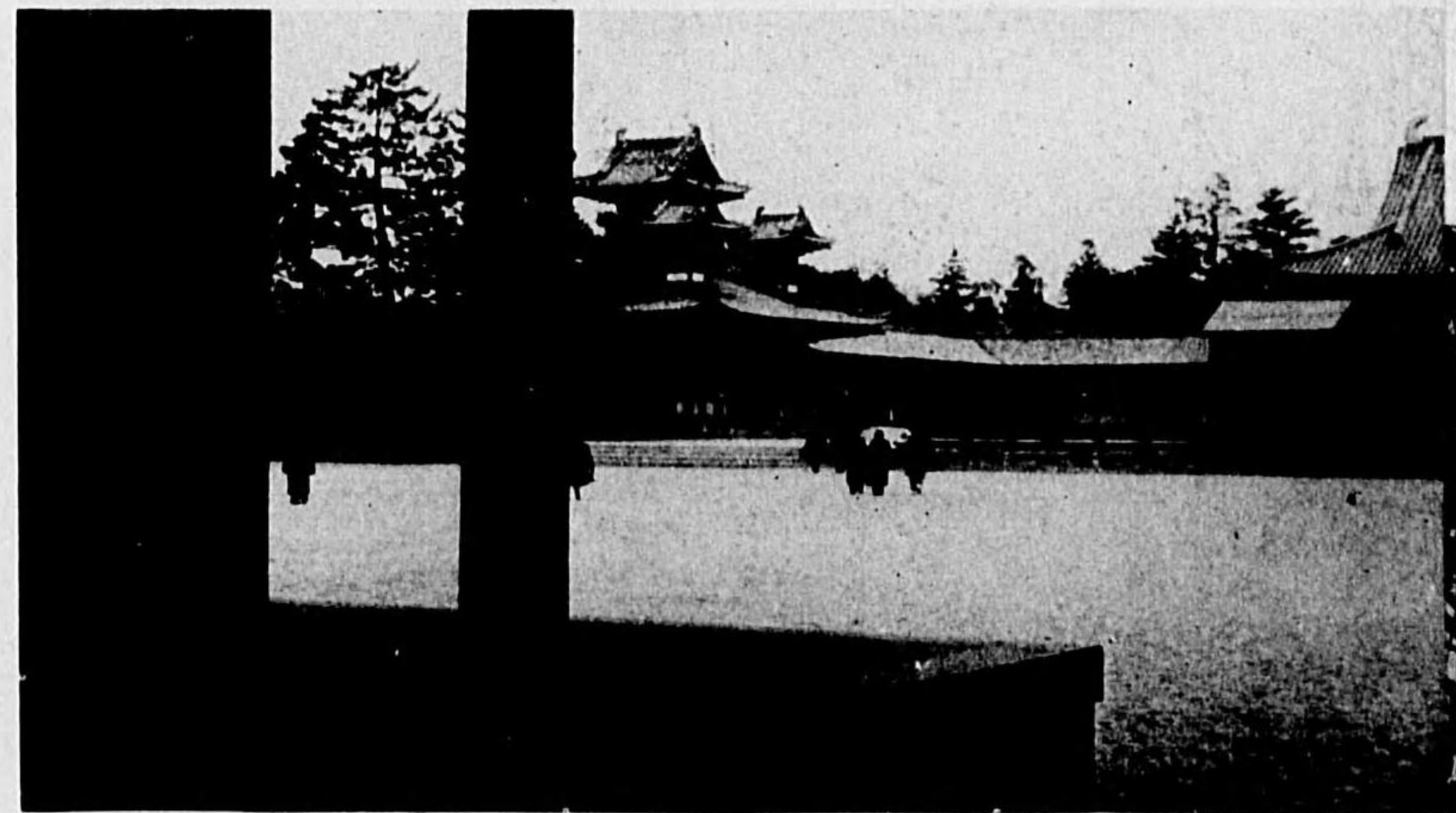
大 燈 籠

花園石造 基壇格板及火袋障子銅板製 基壇格板には浮彫にて向つて左の燈籠には陸軍の、右の燈籠には海軍の歴史的事蹟を浮彫す。昭和十年十一月二十二日
根津嘉一郎氏奉獻

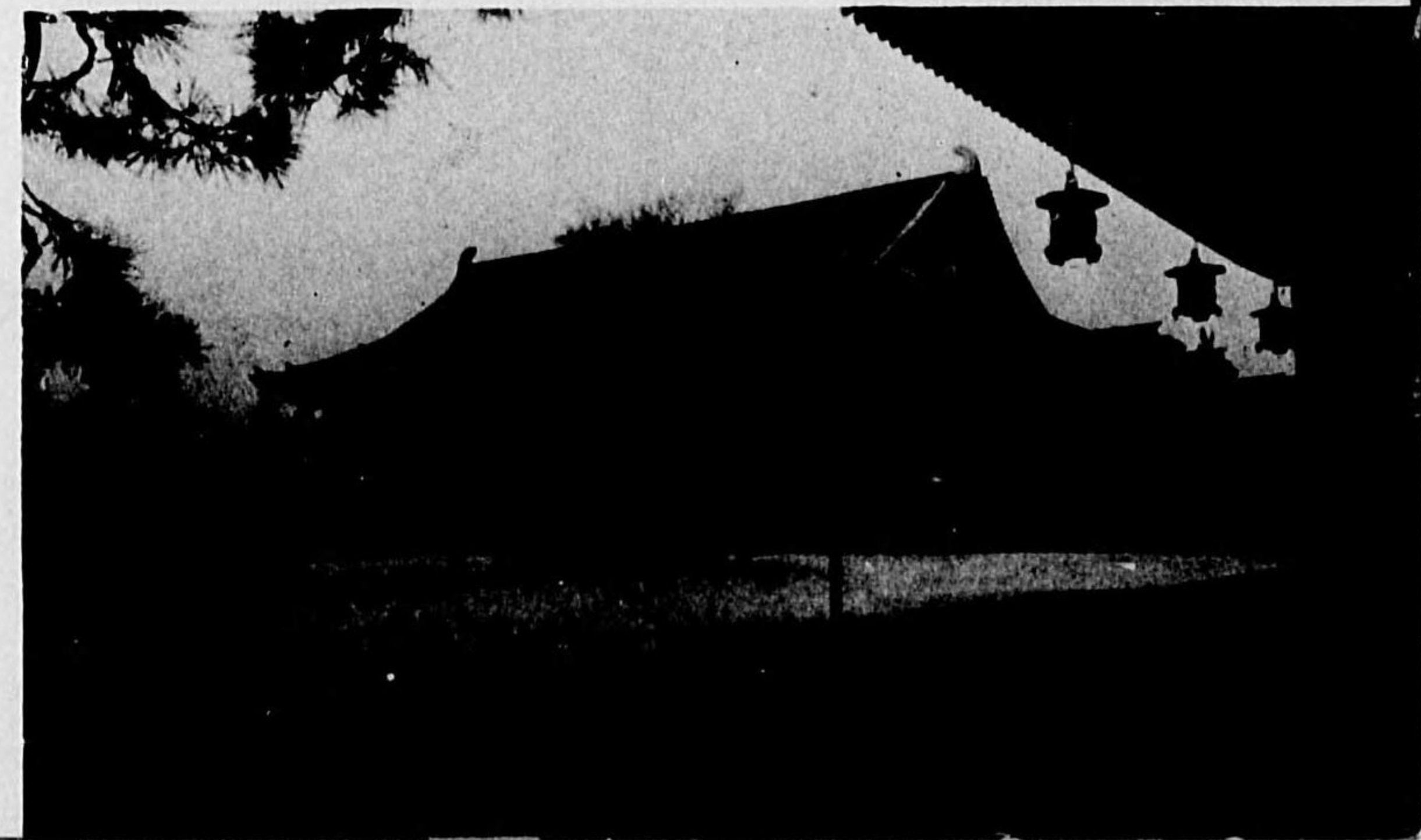




應天門 左右の廻廊は昭和十五年内務省神社局設計により新設



白虎樓・龍尾壇等

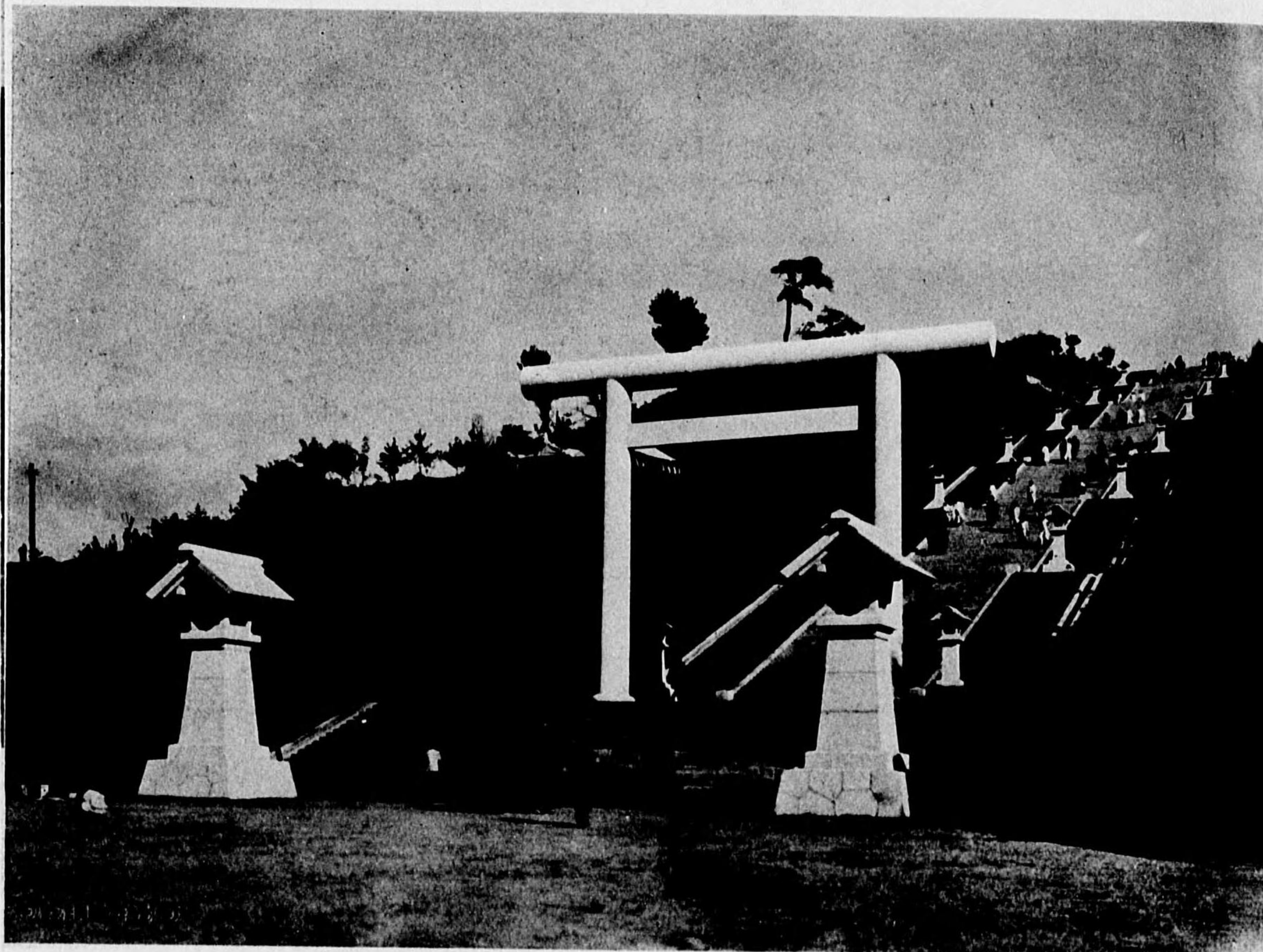


大極殿

官幣大社平安神宮

京都市東山區所在 竣工 明治二十八年

明治二十八年平安奠都一千百年記念祭舉行せらるゝに當り、京都市は桓武天皇御經營の平安大内裡朝堂院の一部を復原再建して平安神宮を創建し奉らんとして、設計を宮内省匠寮技師木子清敬及伊東博士に委嘱、博士等は努めて舊制の復原を試みたるも京都市の事情により建築の規模・様式・手法等を變改したのは遺憾である。復原した建築は大極殿・蒼龍樓・白虎樓・廻廊一部・龍尾壇及び應天門である。



上仕叩小塗石擬石崗花造トーリクノ筋鐵 寸四尺六二法内柱 寸二尺七三高居島大。四八三數段階總 間四幅 造石崗花段階大 遺參表

官幣大社朝鮮神宮

朝鮮京城府南山

御祭神 天照皇大神

明治天皇

大正九年五月二十七日 地鎮祭

同 十年六月十日 新始祭

同 十三年四月三日 上棟祭

同 十四年十月十五日 鎮座祭

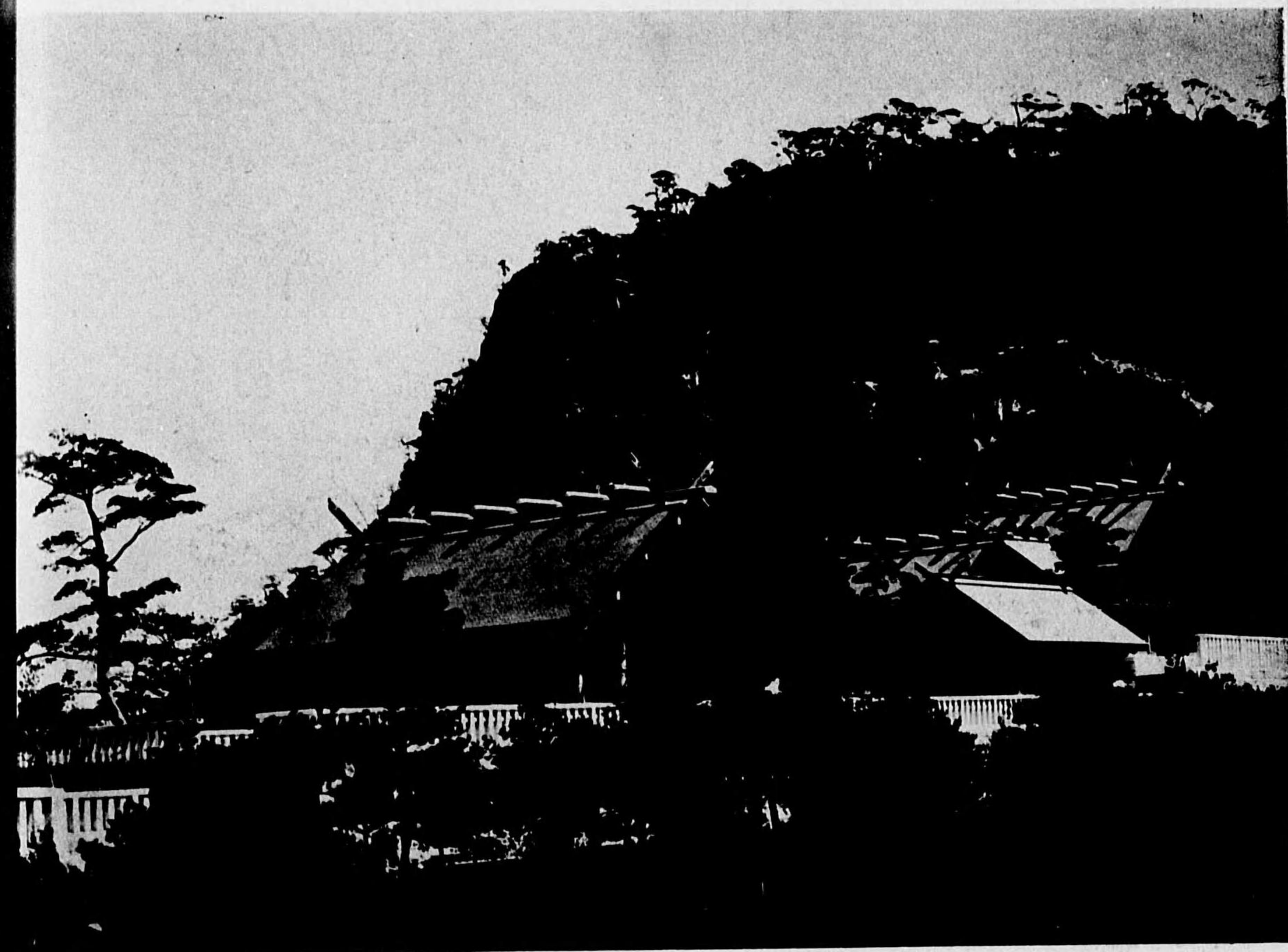
境内地は南山中腹を平均して西北に面し、其の面積約八千二百坪。

周圍十一萬坪は内苑とし、其の外方約十萬坪を外苑とす。

境内玉垣内は上中下三段とし、玉垣外には上中下三段の廣場あり、石階段による表參道の他東西の二參道あり。

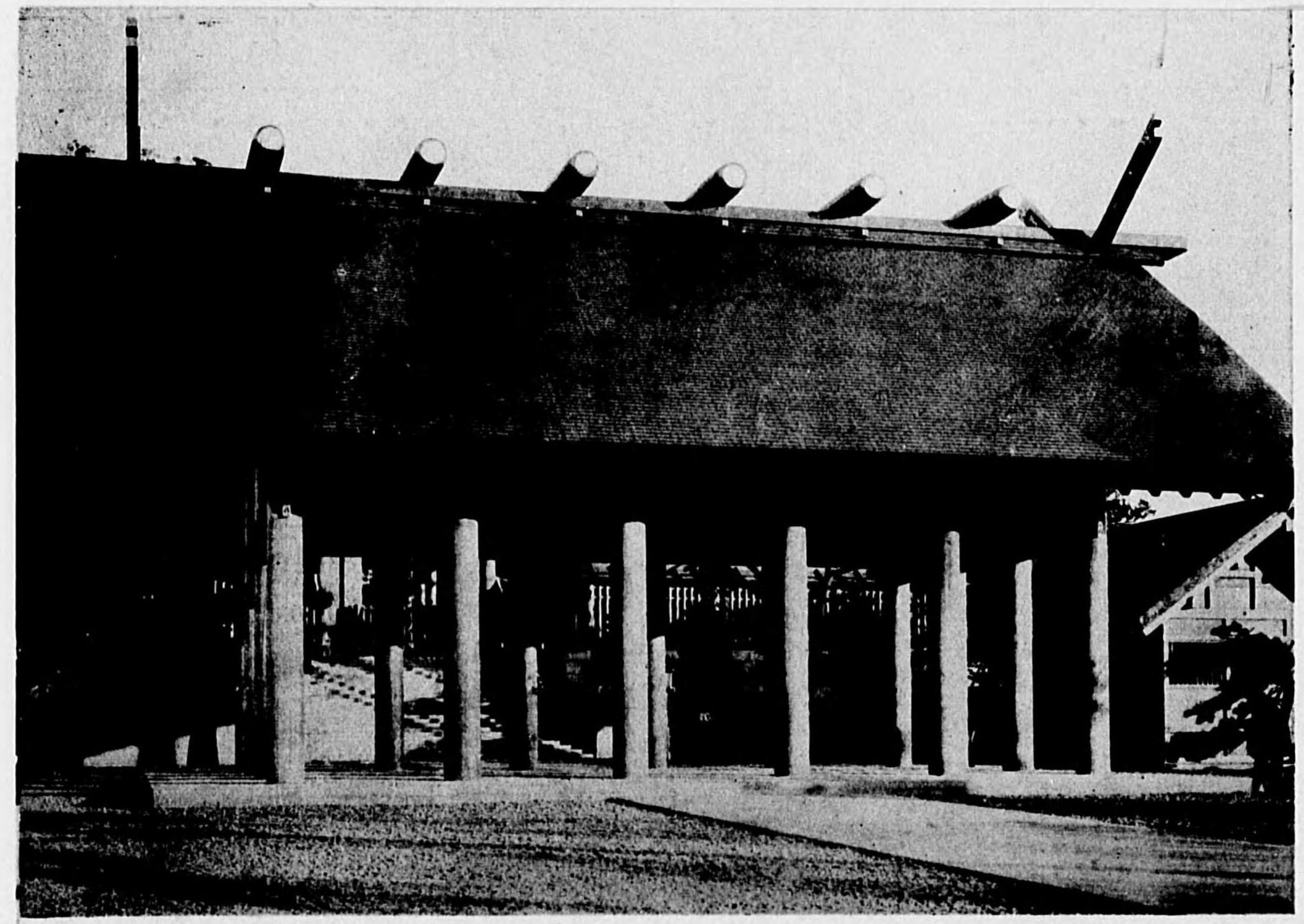
正殿・神庫・祝詞舎・瑞垣門・拜殿・神饌所、神符守札授與所・手水舎・祭器庫・瑞垣・勅使殿・社務所・參集所・鳥居四基・燈籠多數、段玉垣・石垣・石階段等あり。

總工費 一、五六四、八五二圓。



。等所額神・殿拜・門垣瑞・殿本 圖 側 内 境

主要材料
 正殿に木曾御料林檎材其他に
 は臺灣産扁柏材等石材は主と
 して京城府東大門外探石場産
 花崗石
 設計及施工
 朝鮮總督府内務局建築課
 工事顧問 伊東博士
 御神寶裝飾
 内務省造神宮技師 井上清



拜殿

桁行四八尺梁間一・二尺軒高二・一尺
 九寸厚根銅鍍葺木部各小口及千太
 葛緒木・障泥板の鼻等は鍍金飾金
 具附床はコンクリート叩上に成鏡
 南道利原郡産白色豆砂利敷

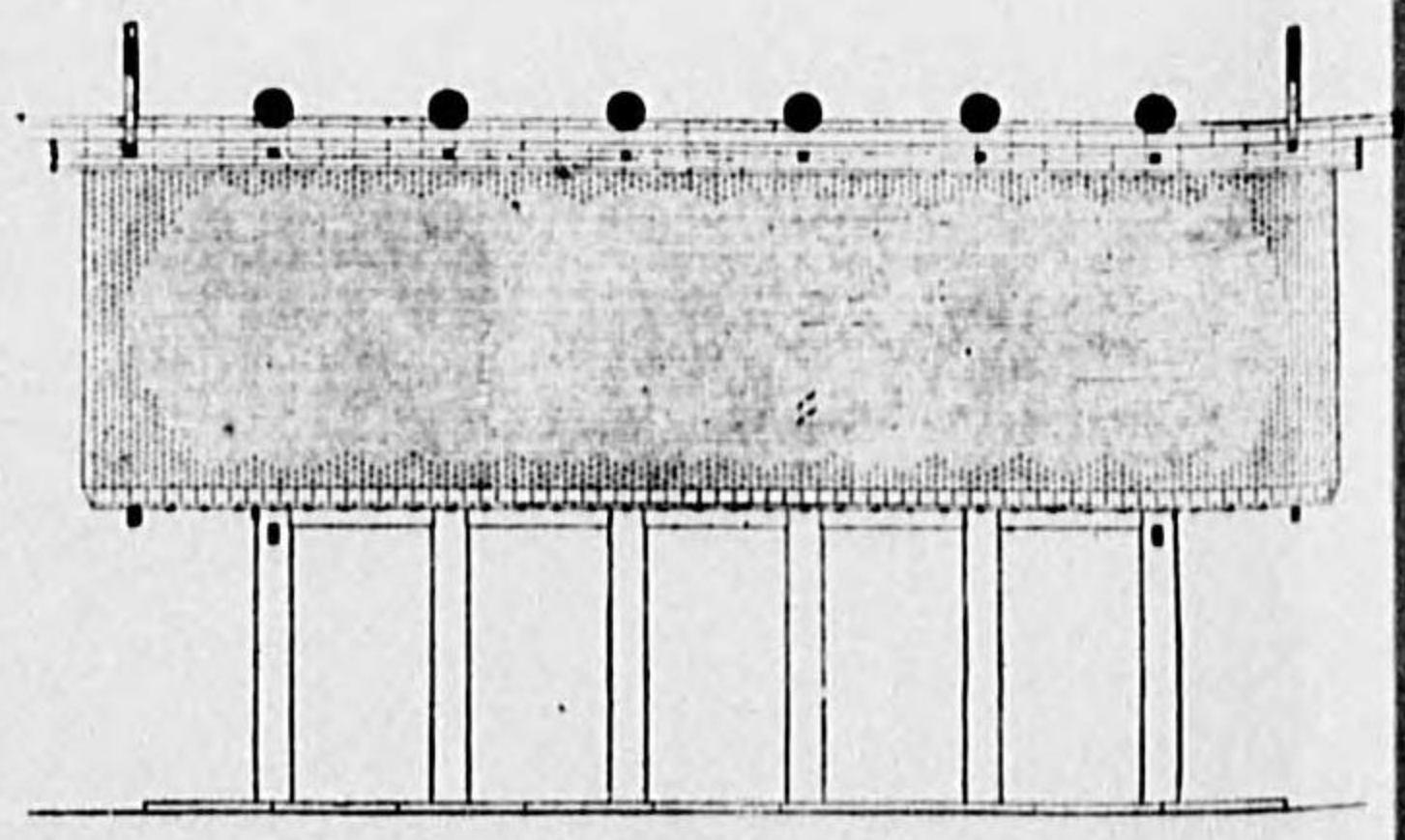
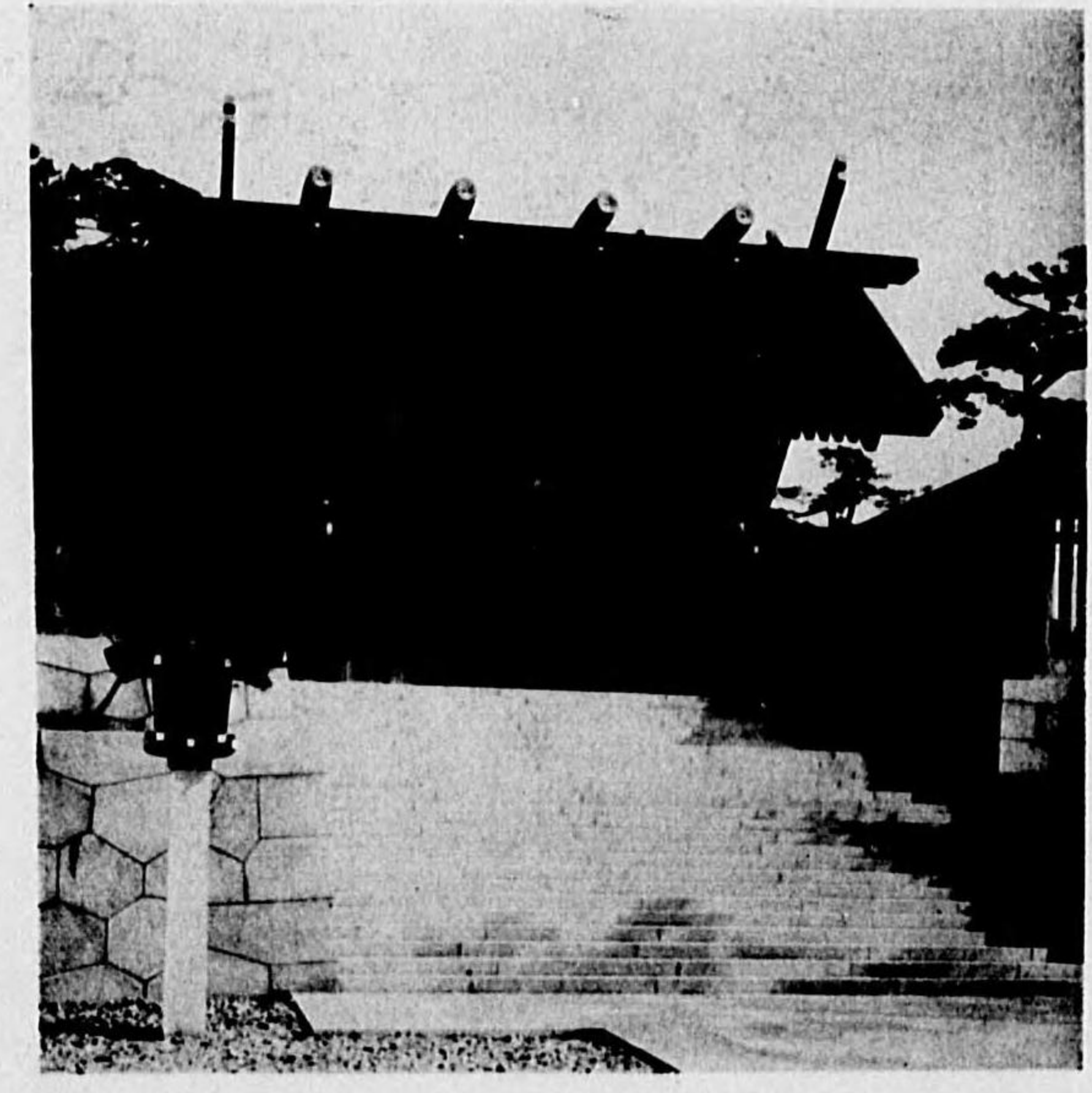


圖 圖 立 正 殿 拜

瑞 垣 門

桁行一九尺六寸梁間一・一尺建坪五坪九合八勺
 軒高一七尺五寸銅鍍葺鍍金飾金具附

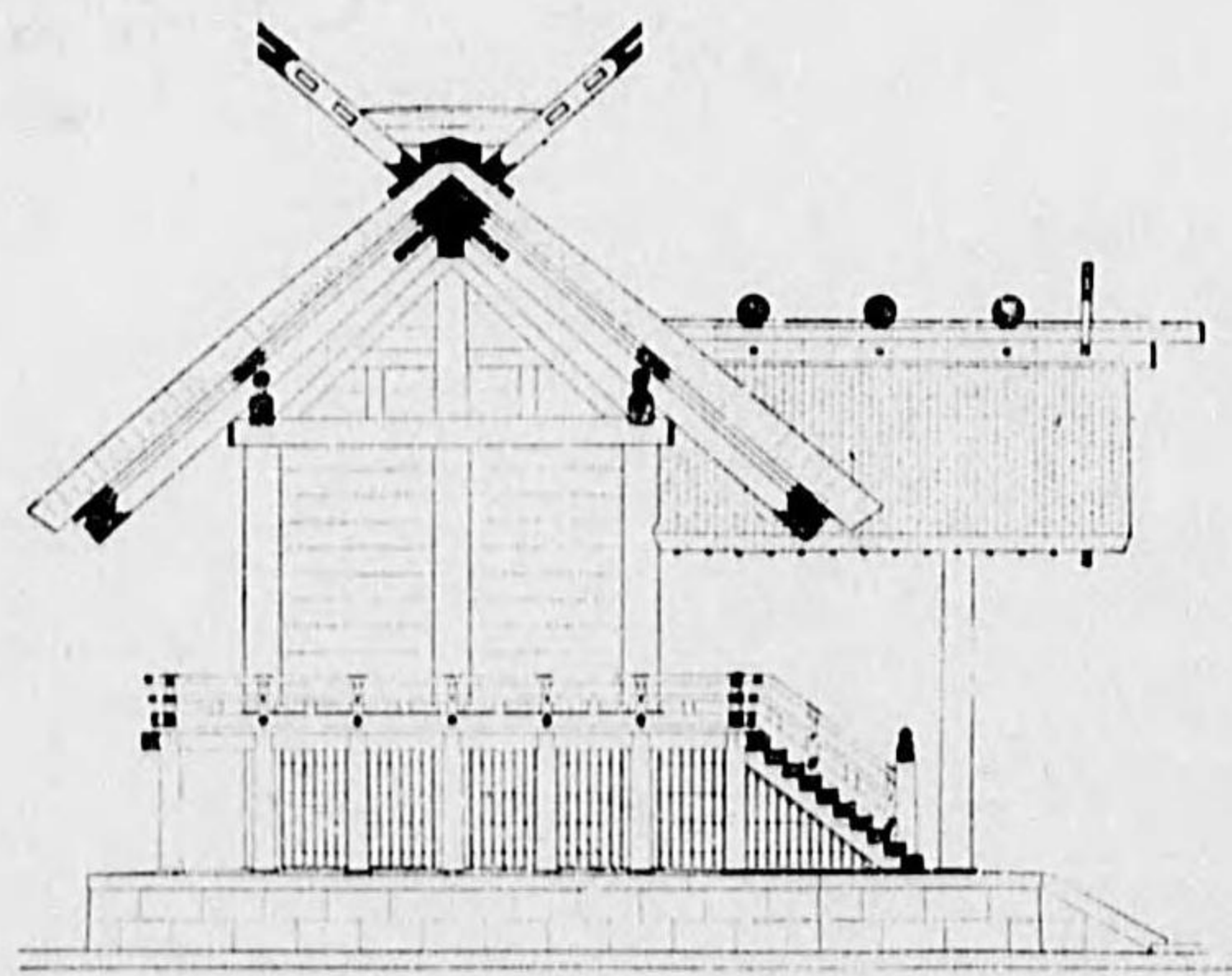




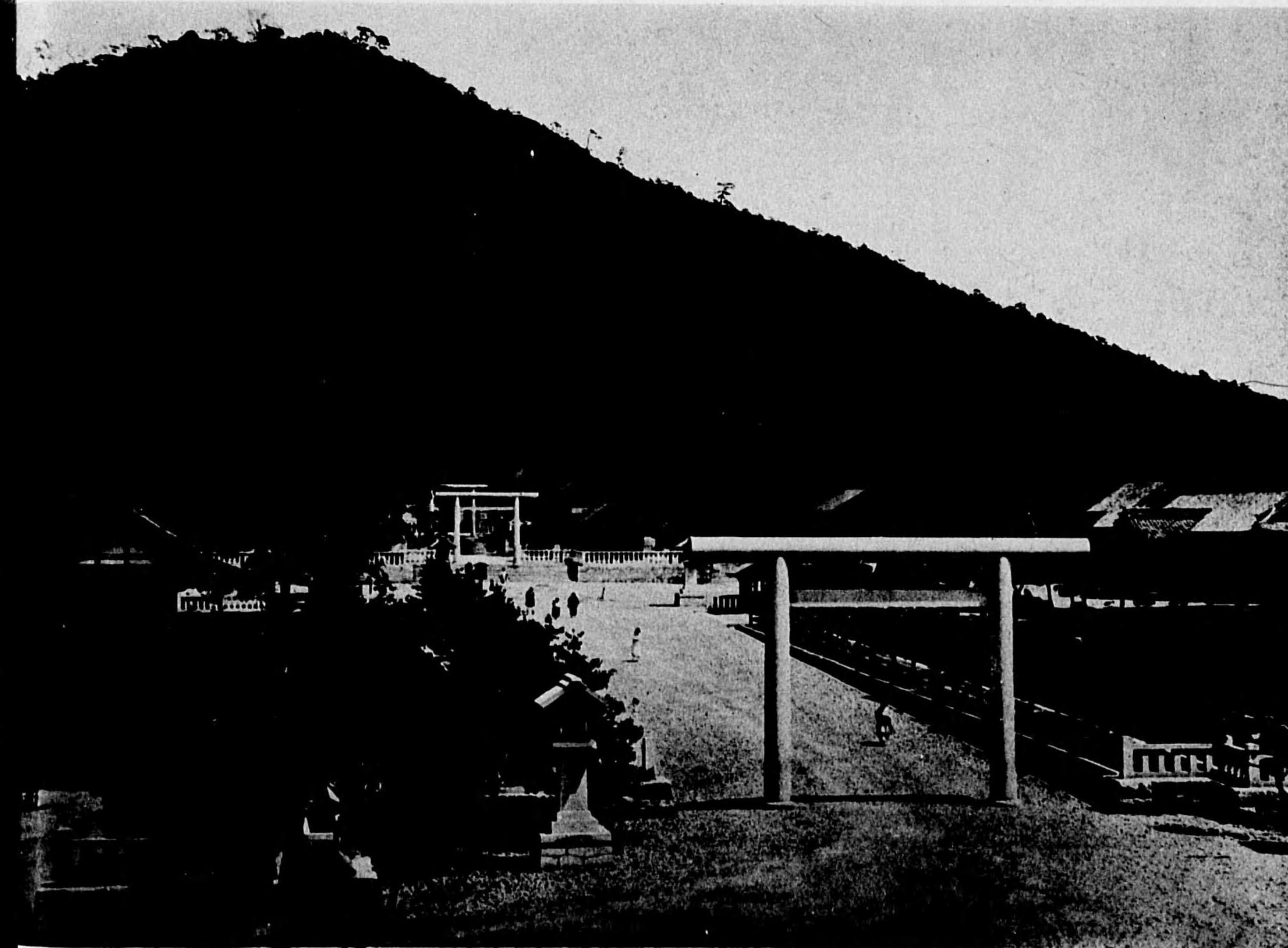
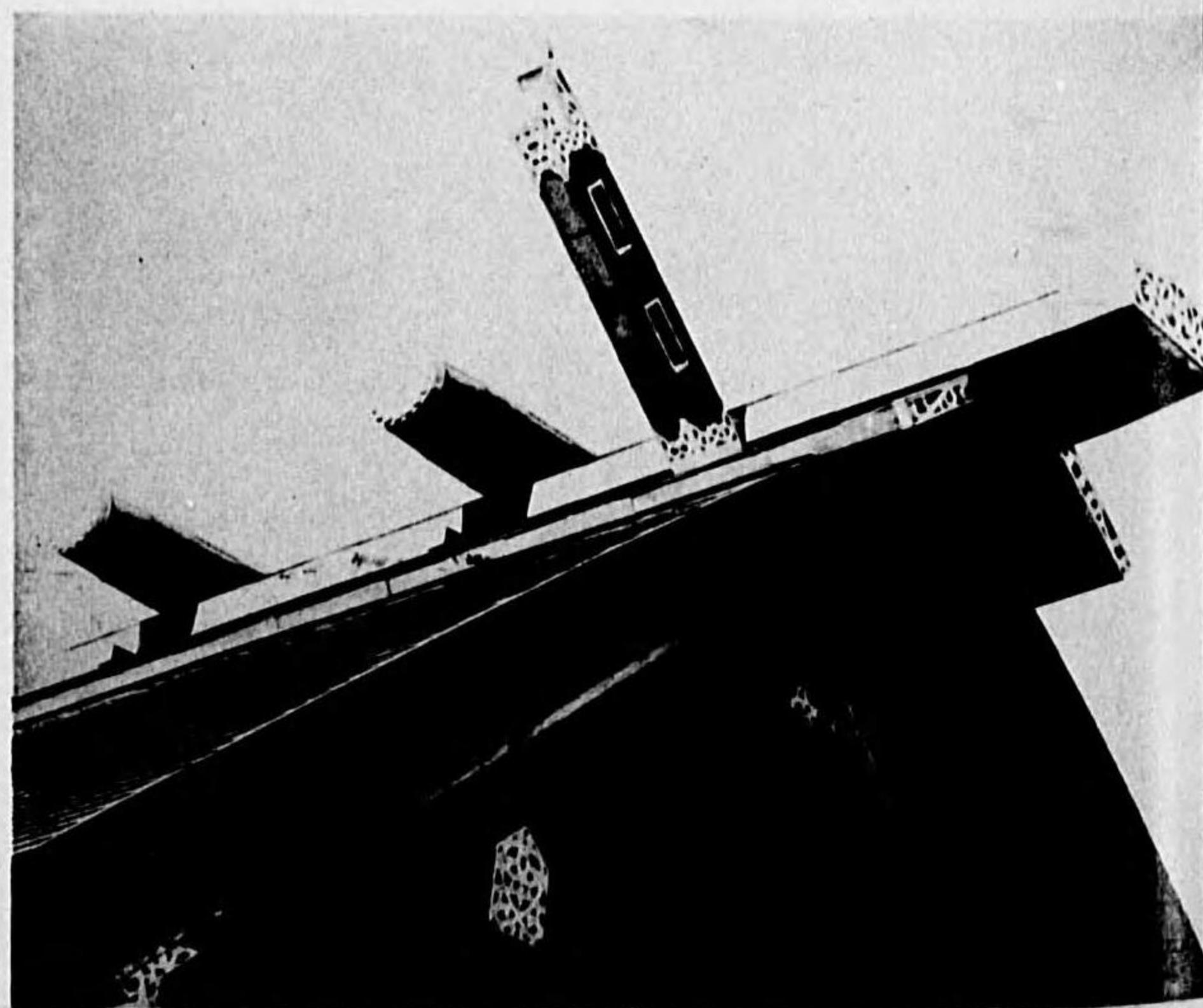
正殿
神明造向拜附桁行二四尺 梁間一
八尺 建坪一七坪 軒高二二尺九寸
石増上に立ち、床下に慶尙南道東
萊郡産黑色砂利を敷く。屋根其他
拜殿に同じ。

正殿

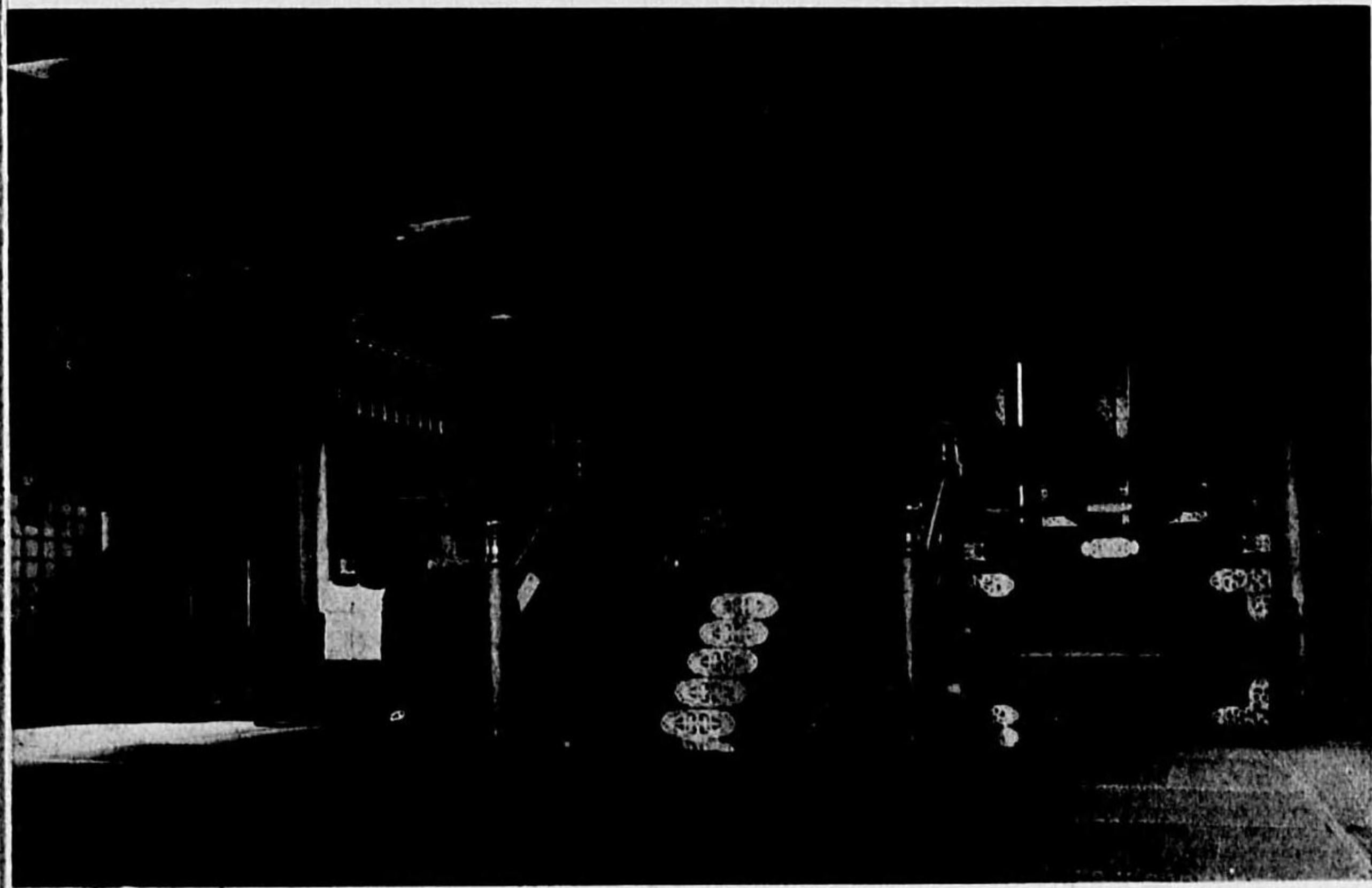
正殿屋上



正殿側立圖面

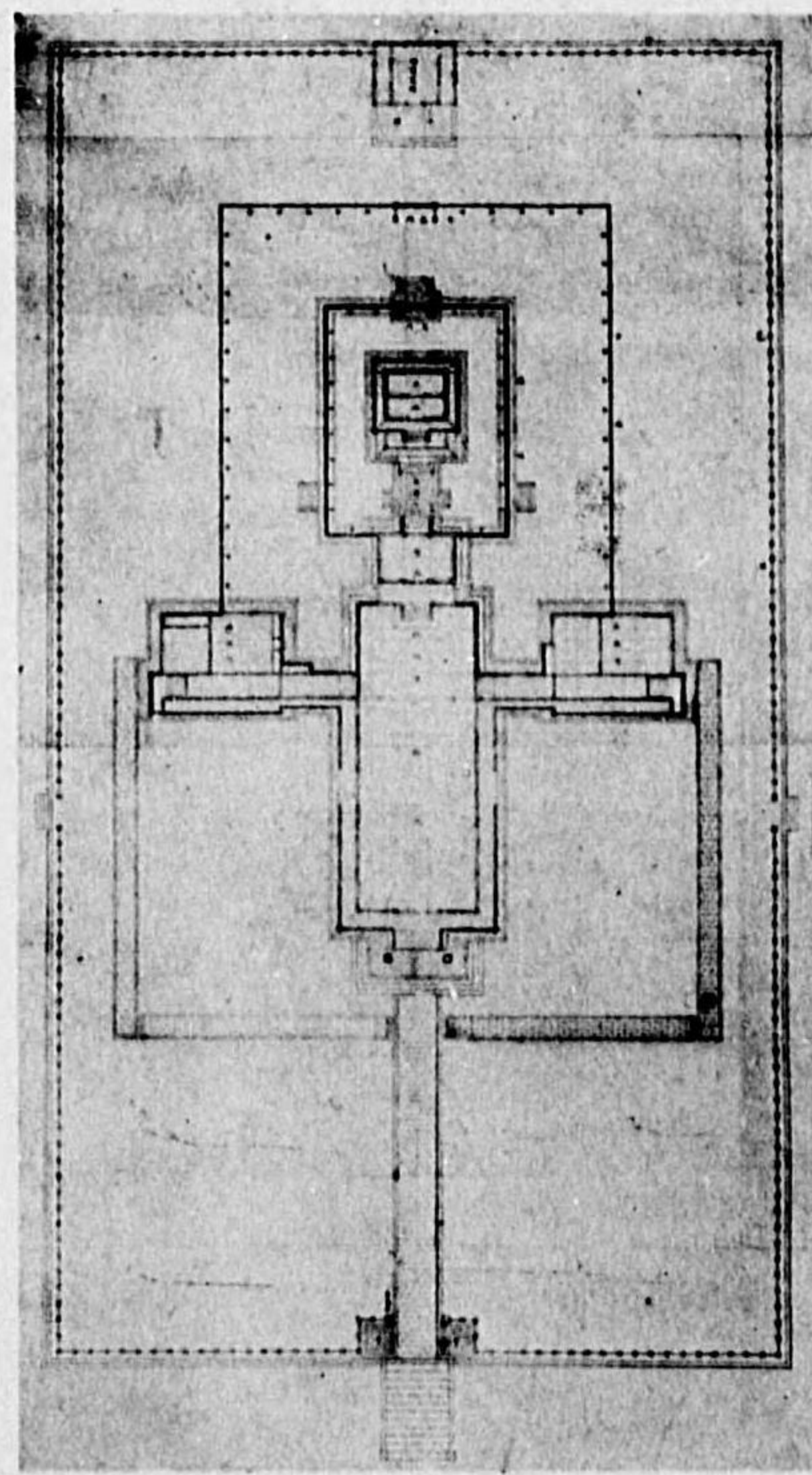


内境正
造石崗花 寸三尺一法内柱 尺八二高 居島の一
造石崗花 寸九尺五法内柱 尺一高二 居島の二
造石崗花 寸二尺三法内柱 寸一尺八一高 居島の三
三七坪三三坪建 所務社 方 右
一六坪五三坪建亭山南 所憩休 方 左

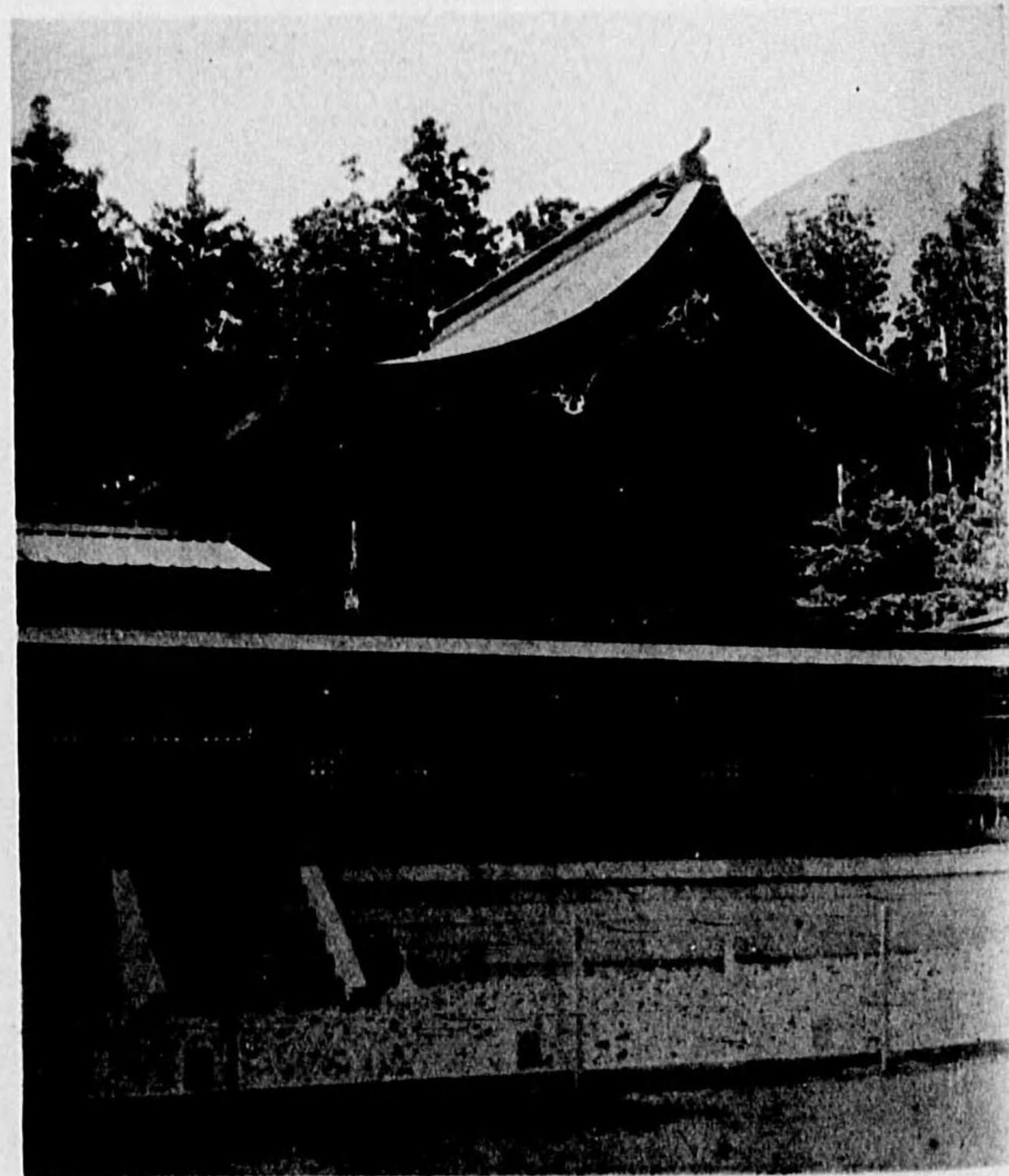


拜殿 桁行五四尺 梁間三〇尺 向拜付檜及樺素木造 鍍金具附 内部燈敷

拜殿内部

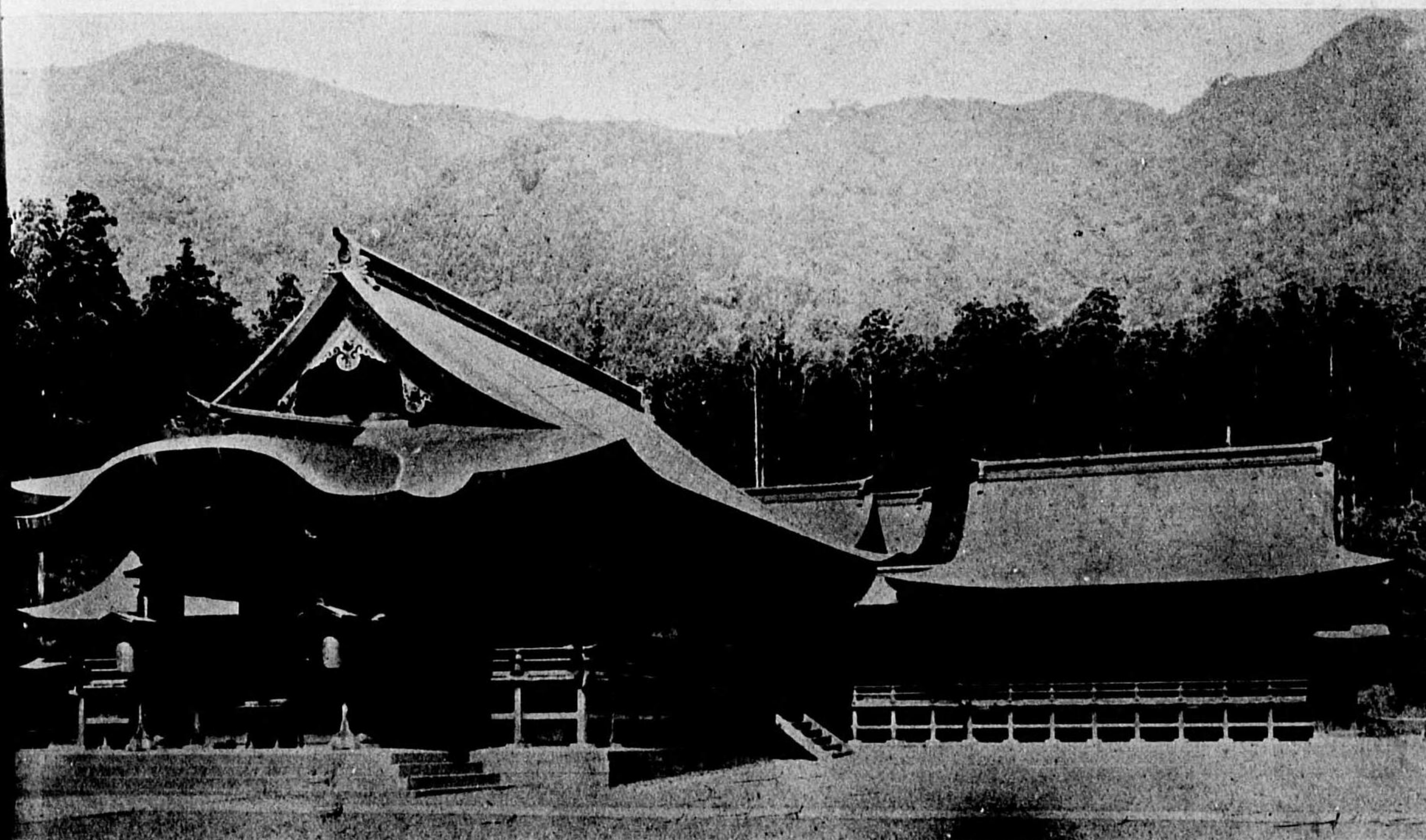


平面圖



本殿

桁行一五尺二 梁間一八尺九 檜素木造 鍍金具以銅製鍍金及漆箔敷



右側向所拜殿

國幣中社彌彦神社

新潟縣西蒲原郡彌彦村

起工 大正二年十月

上棟 大正四年五月

竣工 大正五年十月二十日

總工費 二八八四六一圓七七

設計・監督 工博 伊東忠太郎

監督 大江新太郎

奥山龜藏

奥本五市

用材 石材は新潟縣下草水産花園石及茨城縣

稲田産花園石。木材は主として木曾産

檜、破風・扉板は阿里山扁柏。棟木一

本のみ神社の古例により佐渡産明檜を

用よ。

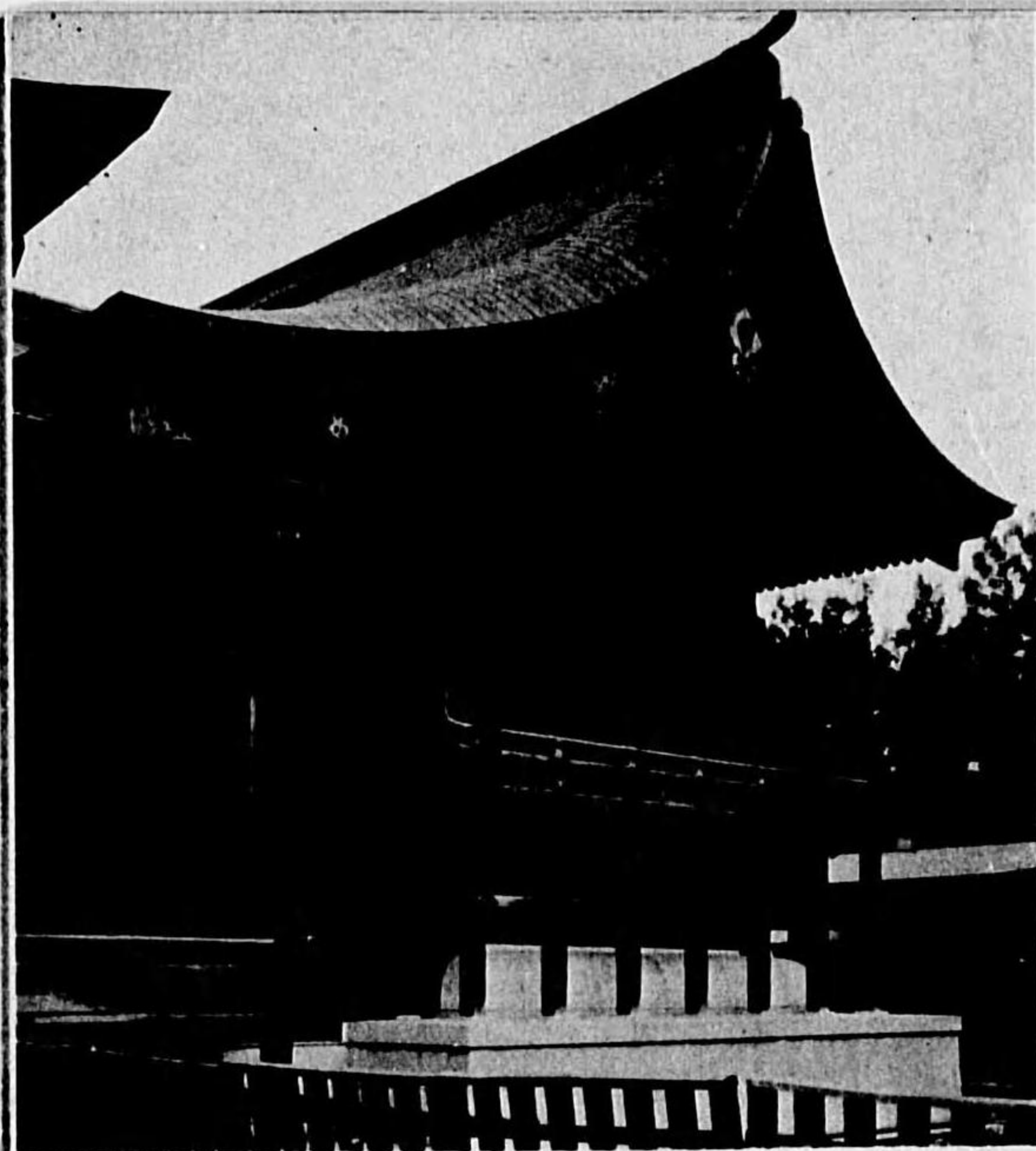
造營建築名 本殿・幣殿・祝詞舎・拜殿・神

饌所・瑞垣及塞門・玉垣及塞門・荒垣

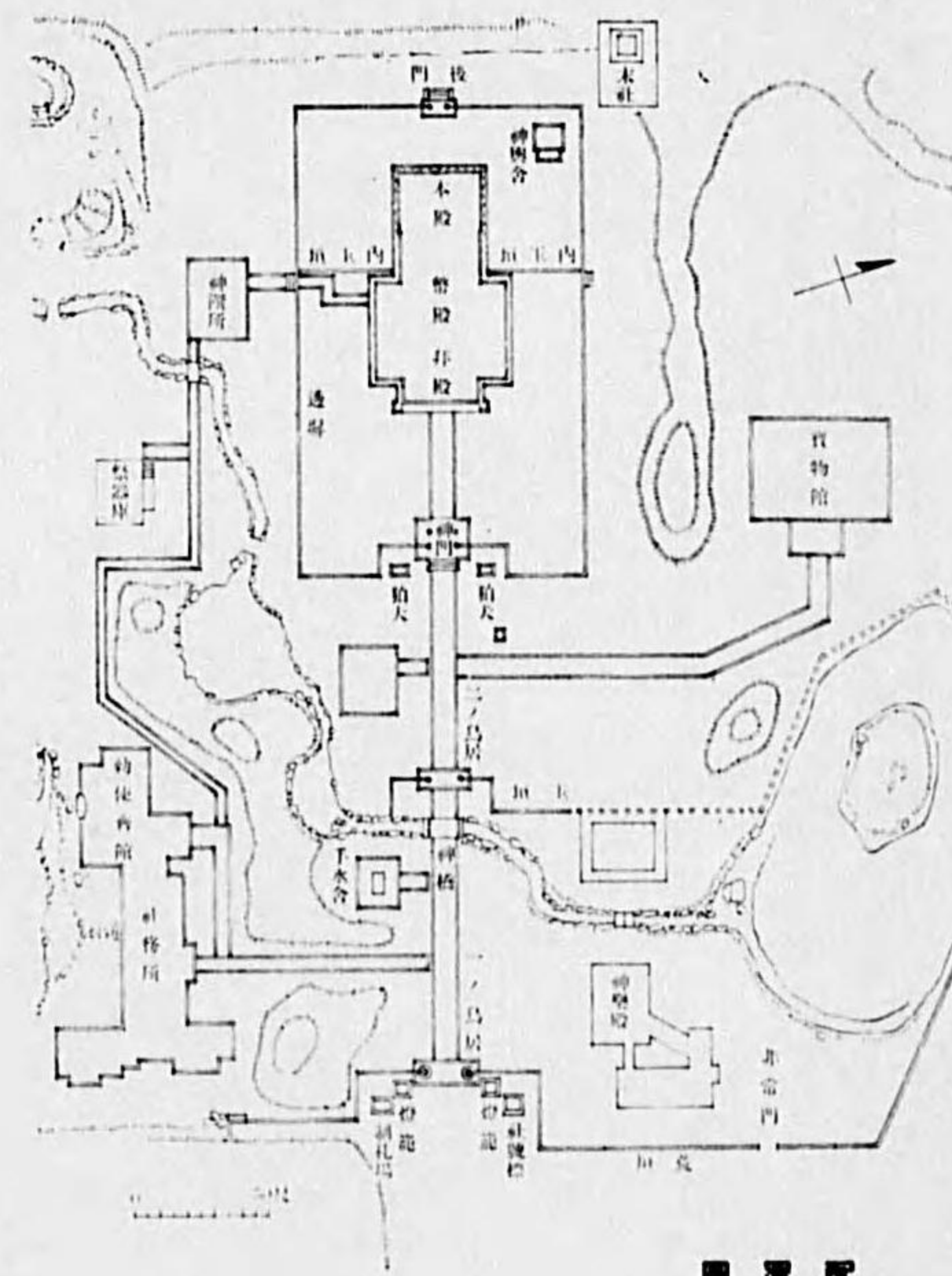
・鳥居・社務所・伺候所・攝社・石廊下

・舞殿・樂舎・拜觀所・手水舎・勅使館

・鼓樓・倉庫・繪馬殿・神符授與所等。



尺三一間梁 尺〇二行桁殿本 じ同に殿拜材用造構 殿幣・殿本

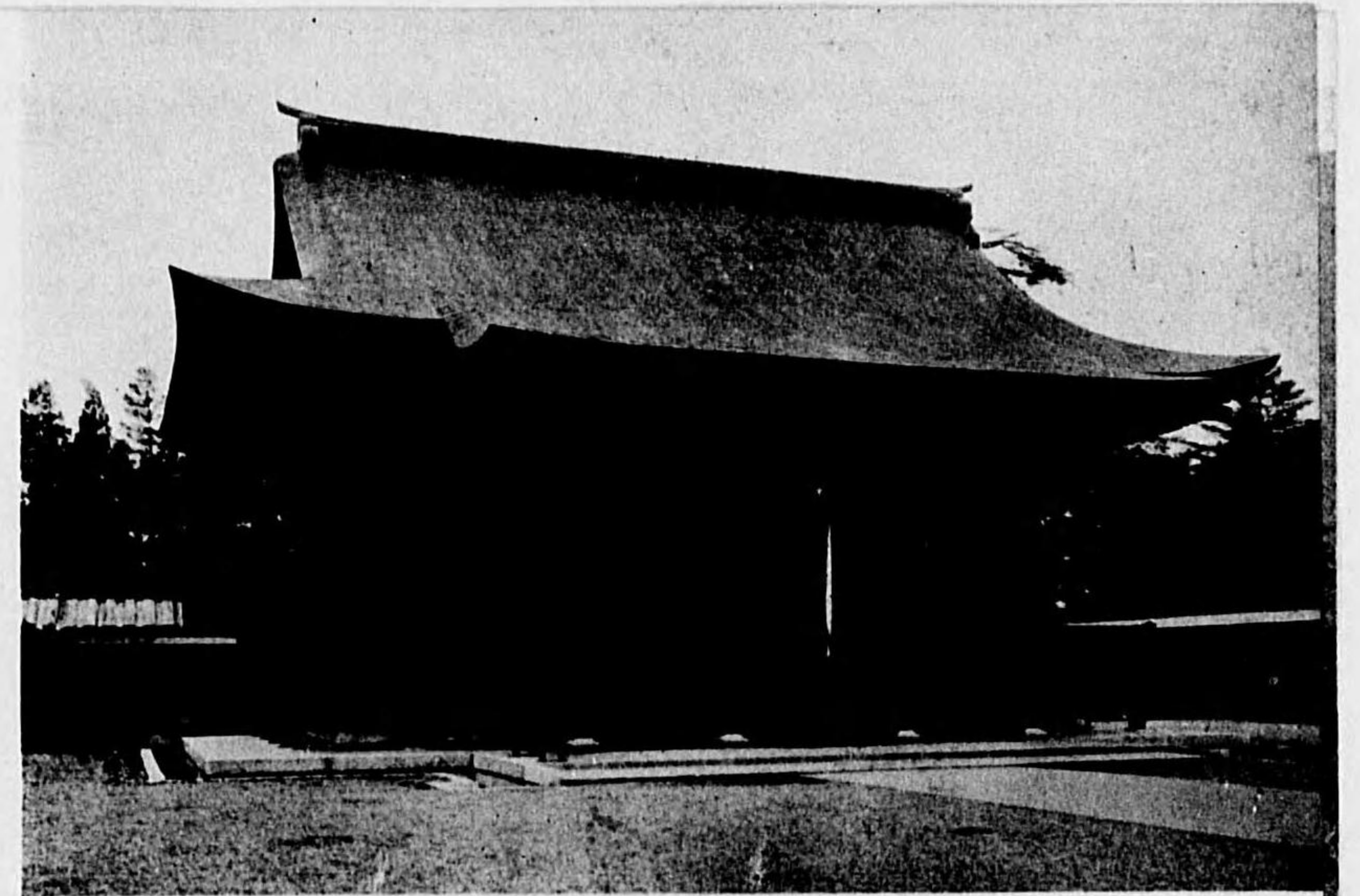


圖置配

別格官幣社上杉神社

山形縣米澤市

地鎮祭	大正九年十一月	設計及工事顧問	伊東博士
木造始祭	同十年四月	監督	奥本五市
上棟祭	同十一年四月	神寶裝飾調査	井上清
竣工	同十二年四月	大工棟梁	小林平次郎
總工費	四十六萬圓餘		



葺板銅根屋 打具金銅金 造木素檜 寸五尺一二間梁 寸六尺四三行桁 殿拜

田稻 寸二尺八高總 對一 犬 狛
刻彫一宗見深 案原士博 造石崗花小産



犬 狛

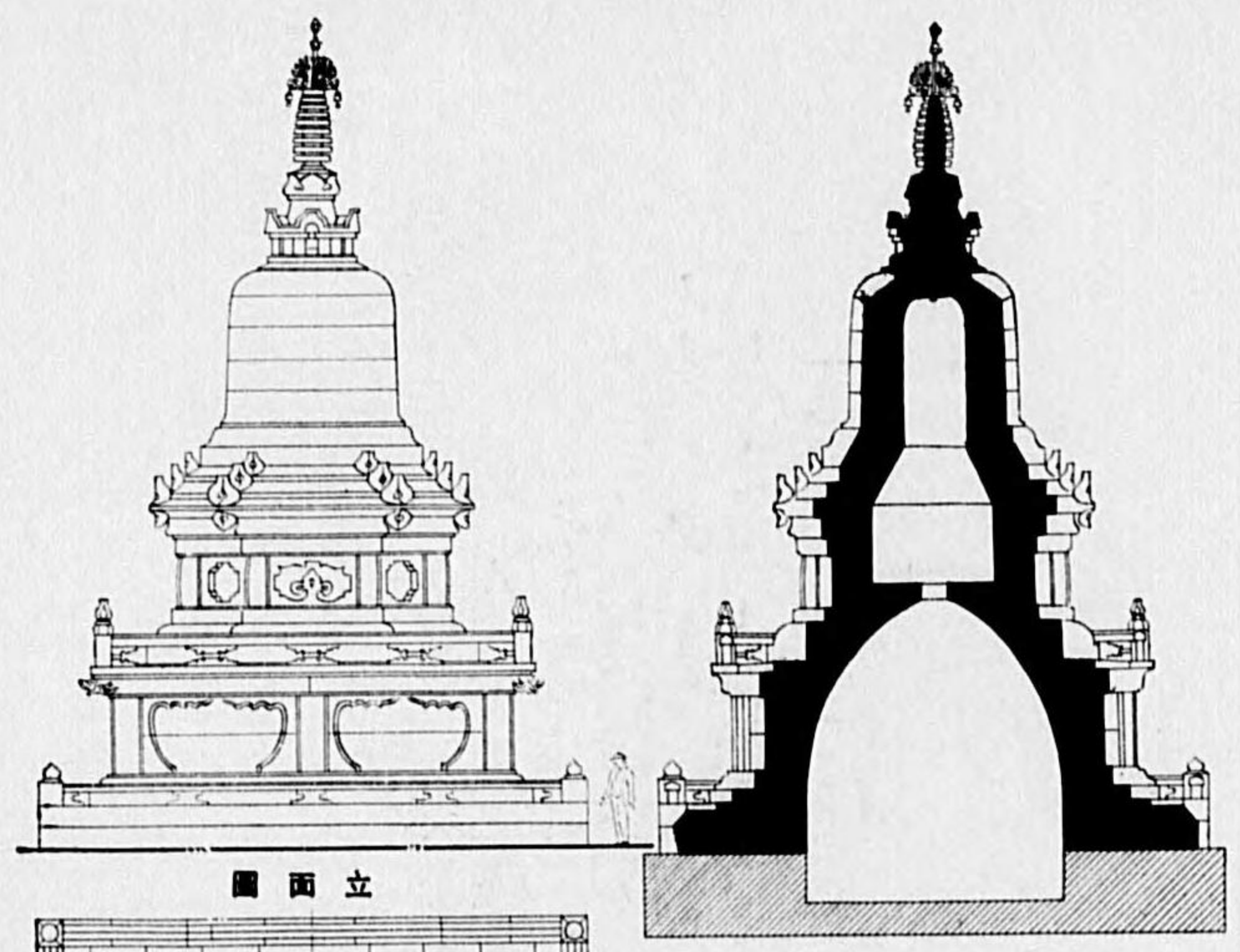


、葺本瓦掛葉根屋 造ト一ツクンコ筋鐵 尺〇三間梁 尺四五行桁 (殿照積) 殿物賣
敷クアルコ 張板拭床 井天格部内



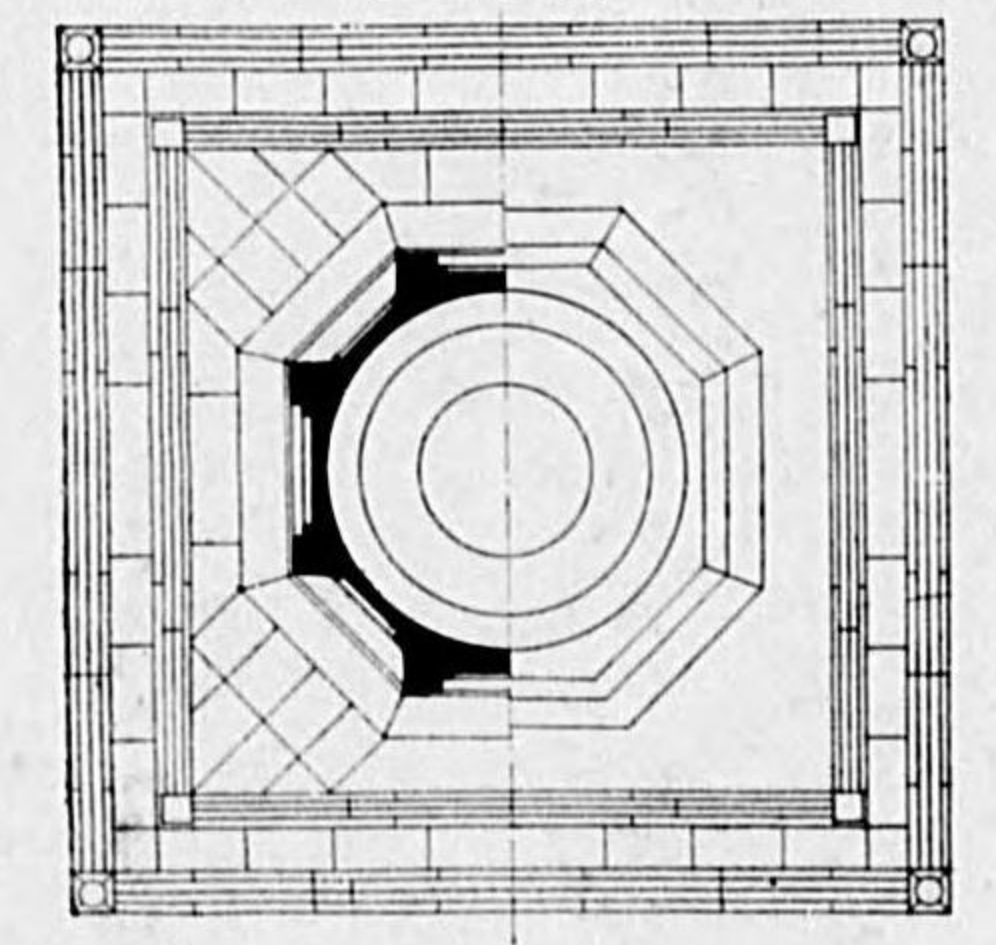
葺板銅根屋 造木素檜 尺一一間梁 尺六行桁 門 神





立 面 図

断 面 図

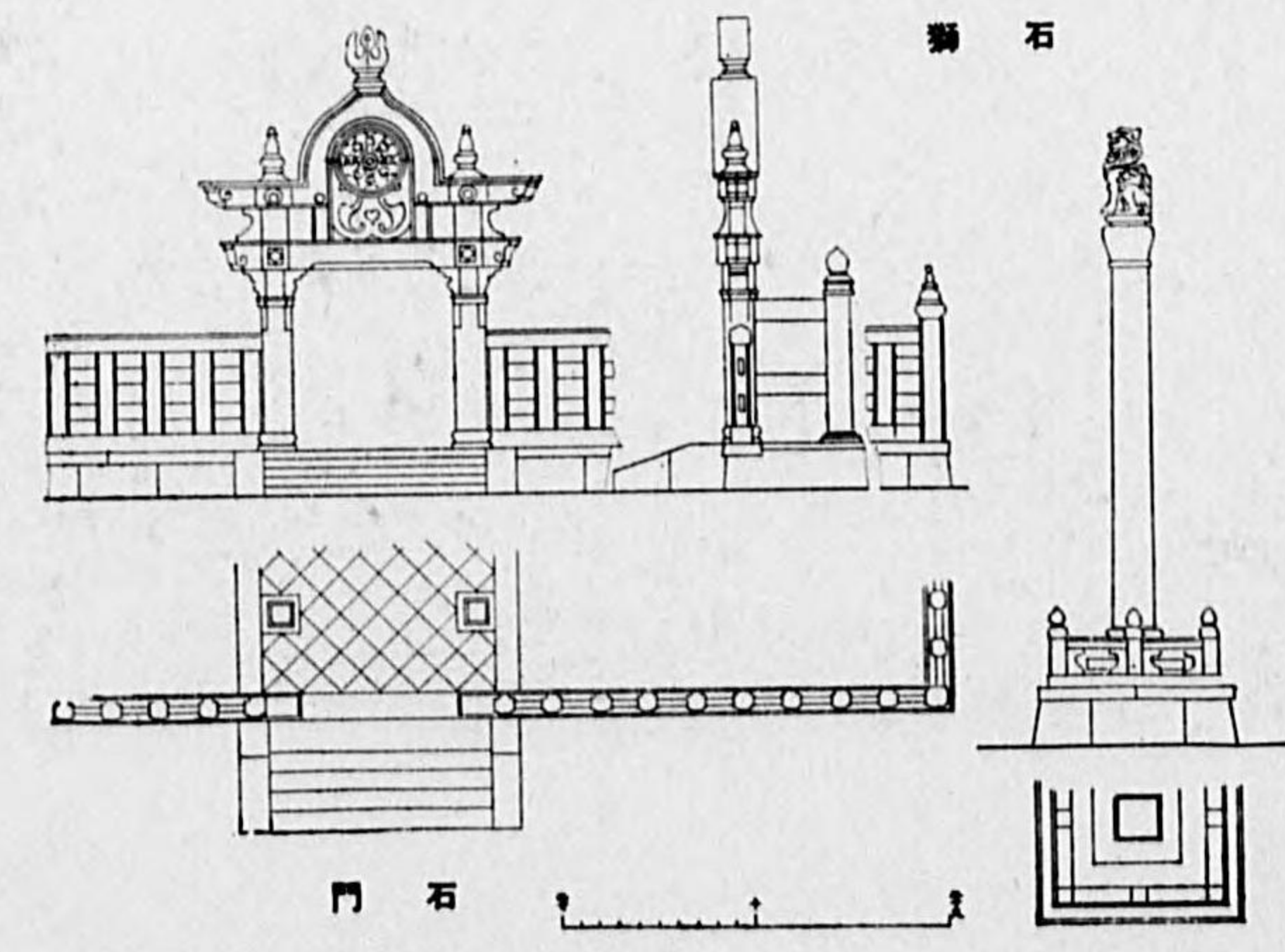


平 面 図

奉 安 塔



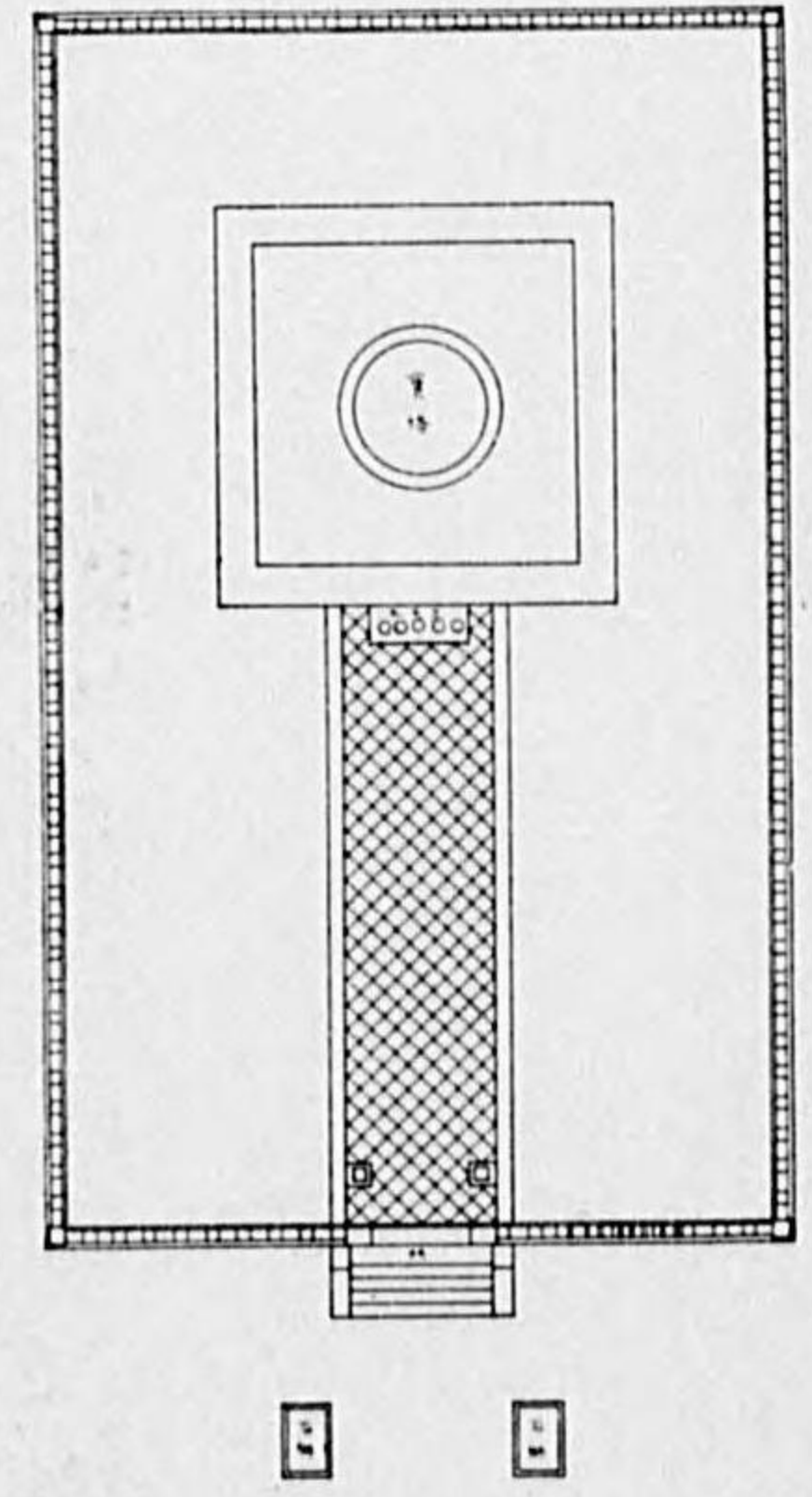
獅 石



門 石

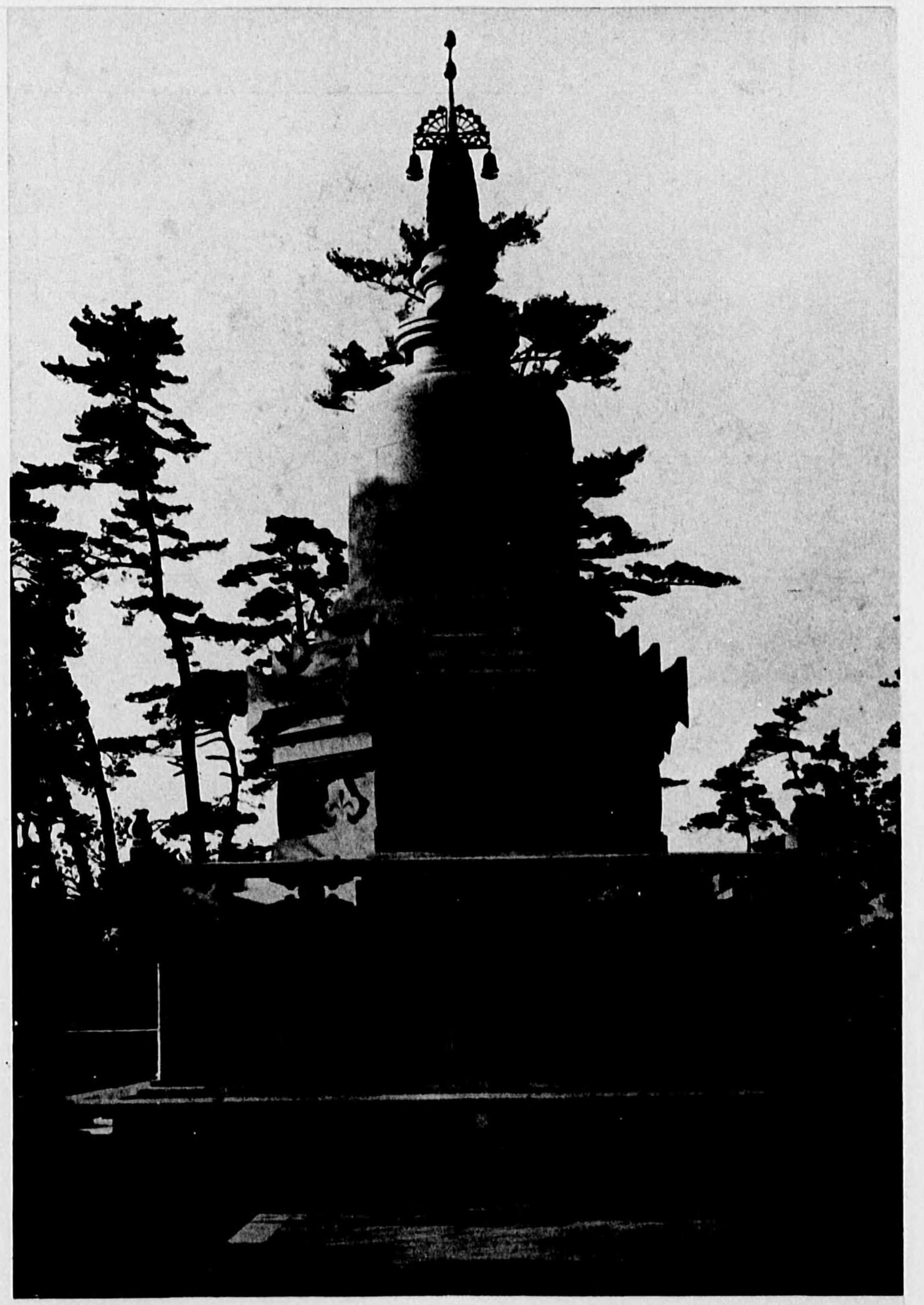
柱 石

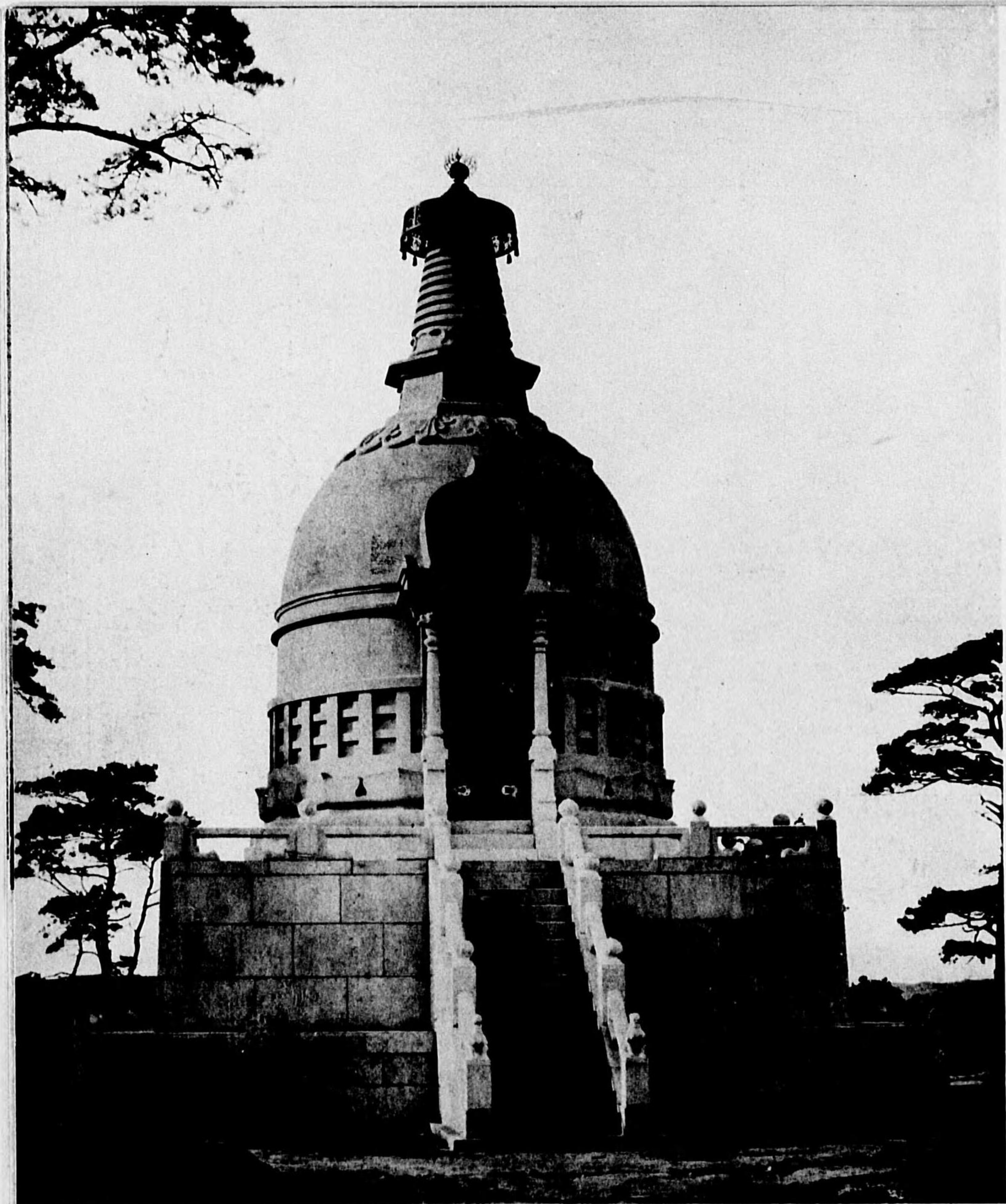
所在 名古屋市東區 覺王山
 明治三十一年印度ビツブラーグにて發見せられたる釋尊の眞骨の一部を明治三十三年「暹羅國家より日本國民への贈物」として寄贈を受けたるを以て日本佛教各宗の協議を経て名古屋市東區覺王山に奉安と決定、奉安塔は大正七年造立せらる。
 施工者は清水庄太郎 大理石造
 但し、當初の計畫は圖示の如く奉安塔の他各種の象設及び伽藍を豫定せしも奉安塔とその周圍の玉垣の他は實現せられず、別人による別の設計にてその周圍は整へられたり。



配 置 圖 (初當畫計)

日 蓮 寺 佛 舎 利 奉 安 塔





景 前

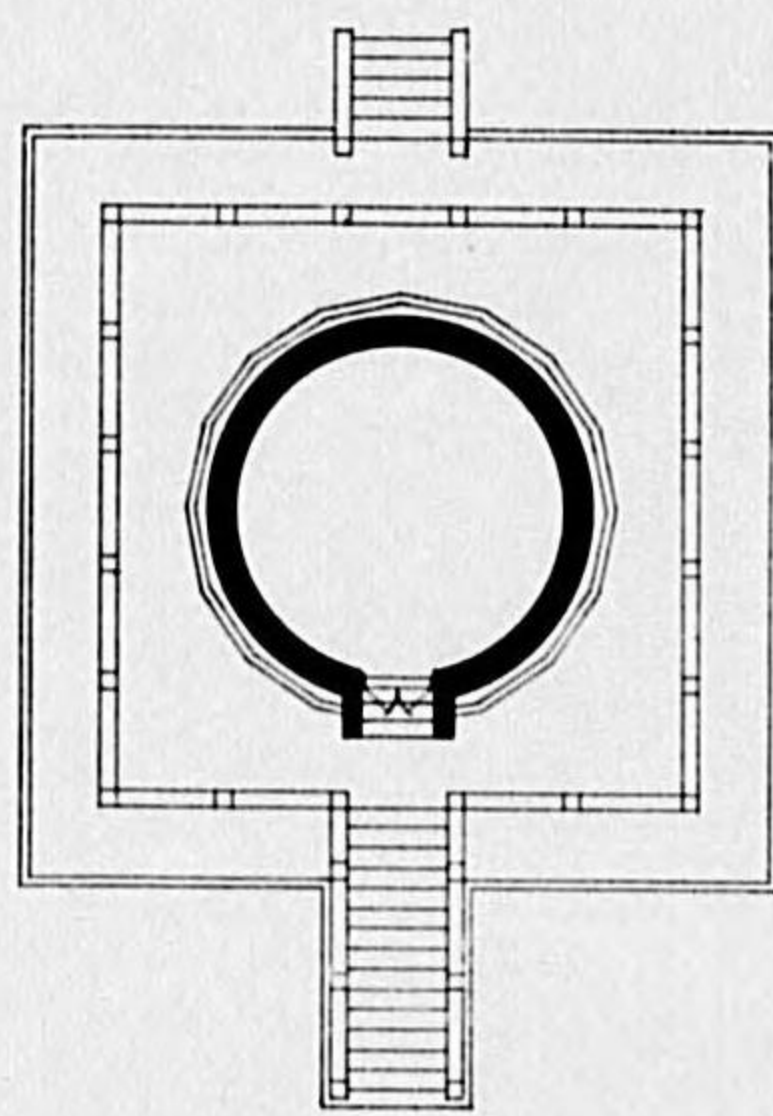
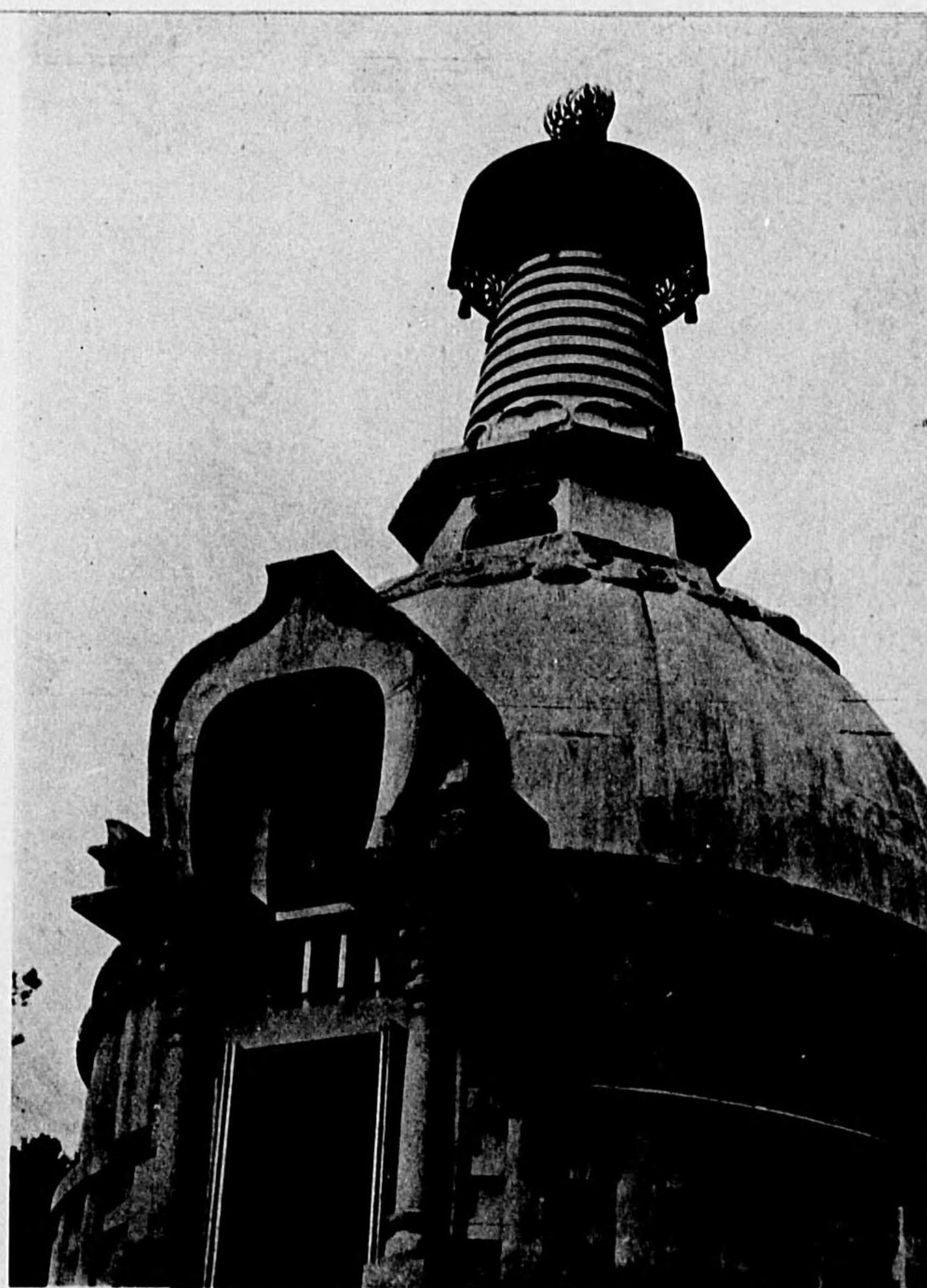


圖 面 平



身 塔

可睡齋護國塔

愛知縣岡智郡久勢西村

起工 明治四十二年八月

竣工 明治四十四年

明治三十七八年戦役記念塔として造立

設計・監督 工博 伊 東 忠 太

構造 工博 佐 野 利 器

鐵筋コンクリート造。基壇は花崗石造。

塔はモルタル白色塗、塔内は緑色漆喰

塗。入口上方窓は青銅透金具摺硝子。

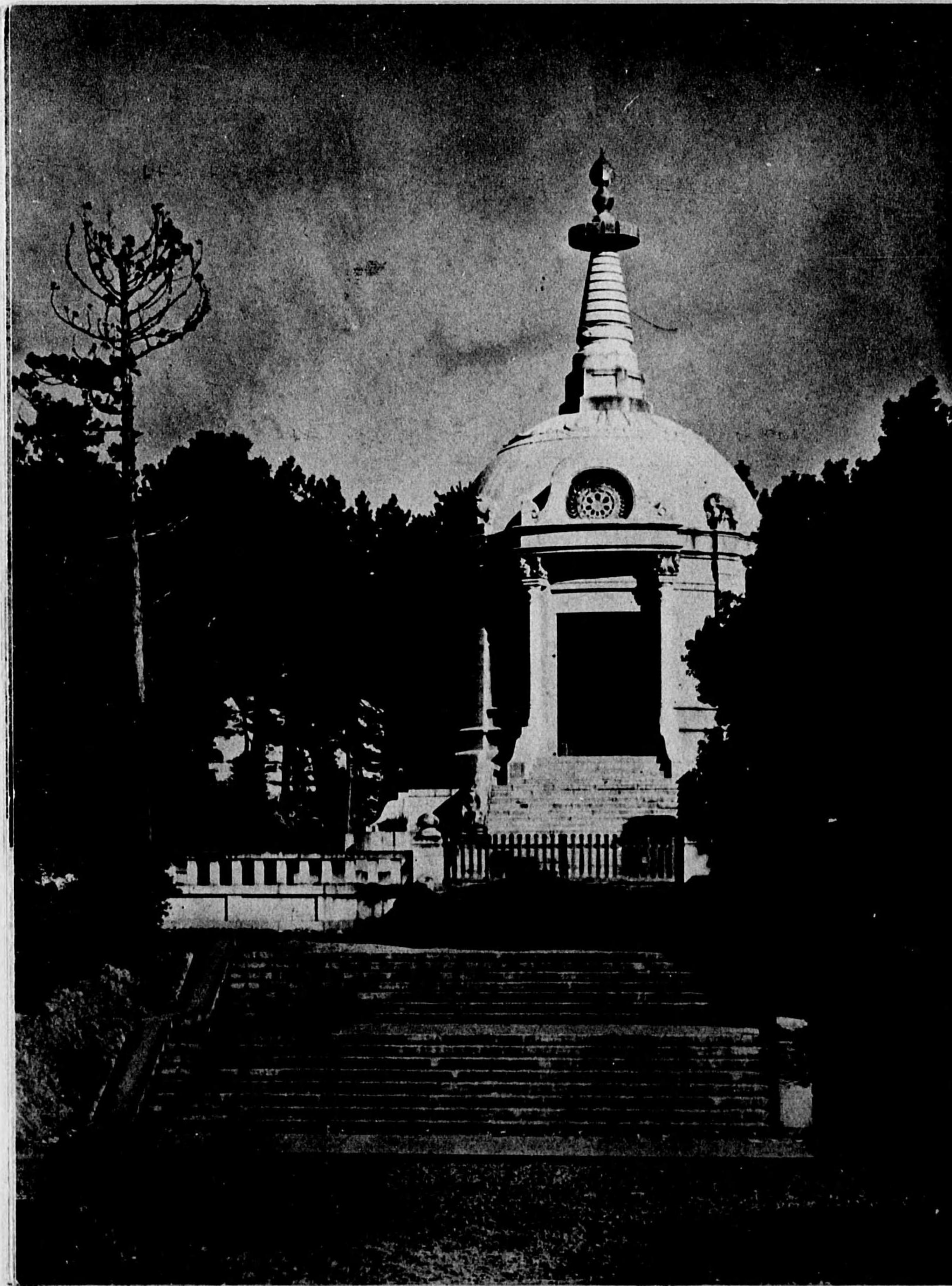
欄間は銅板赤塗、花文様打付。寶蓋青

銅製。寶珠・花表鍍金にて金色に輝く。

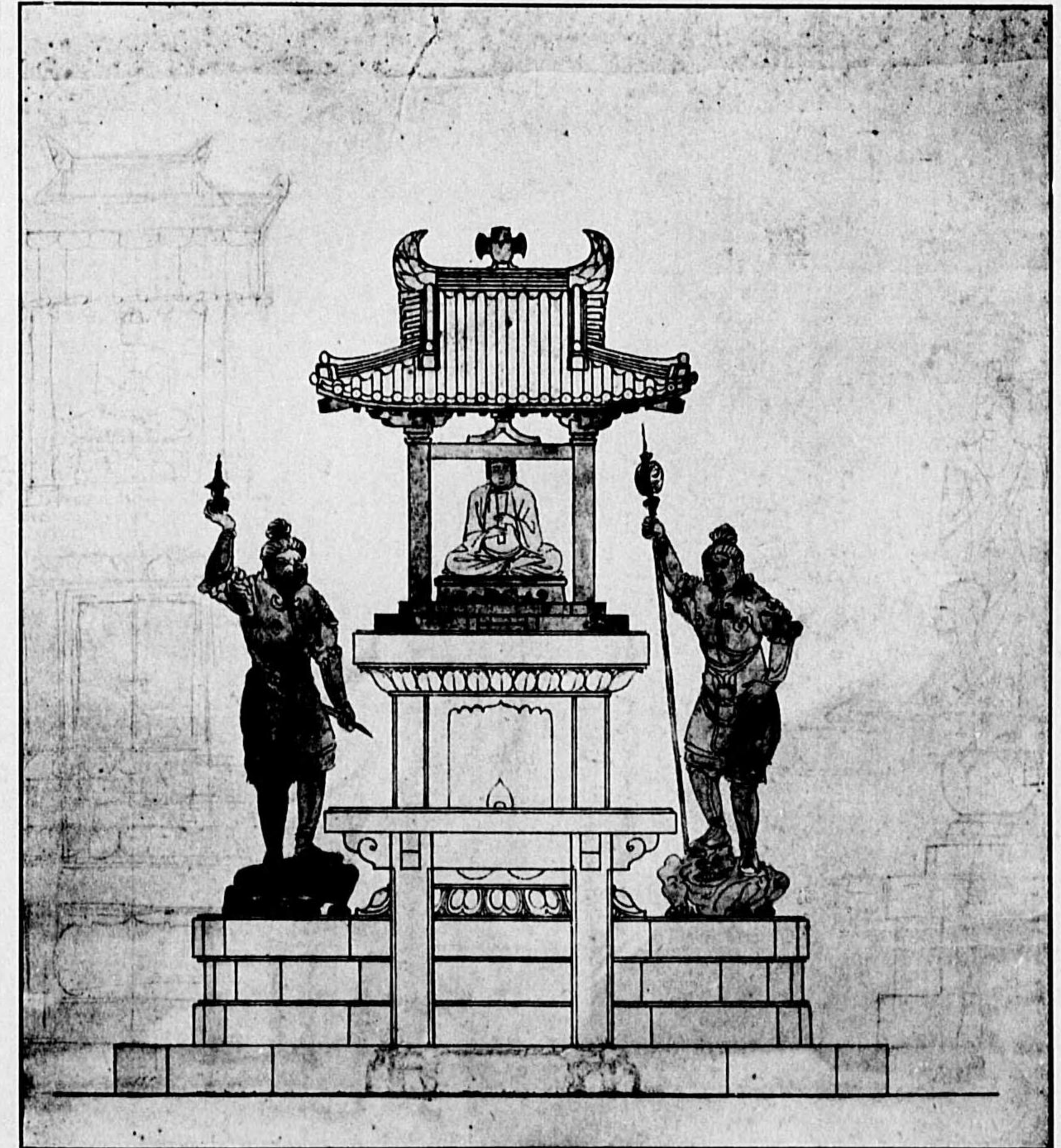
扉、素木造銅金具打付。床、小豆色人造

石。基壇内に方形の室あり、遺骨を安

置す。

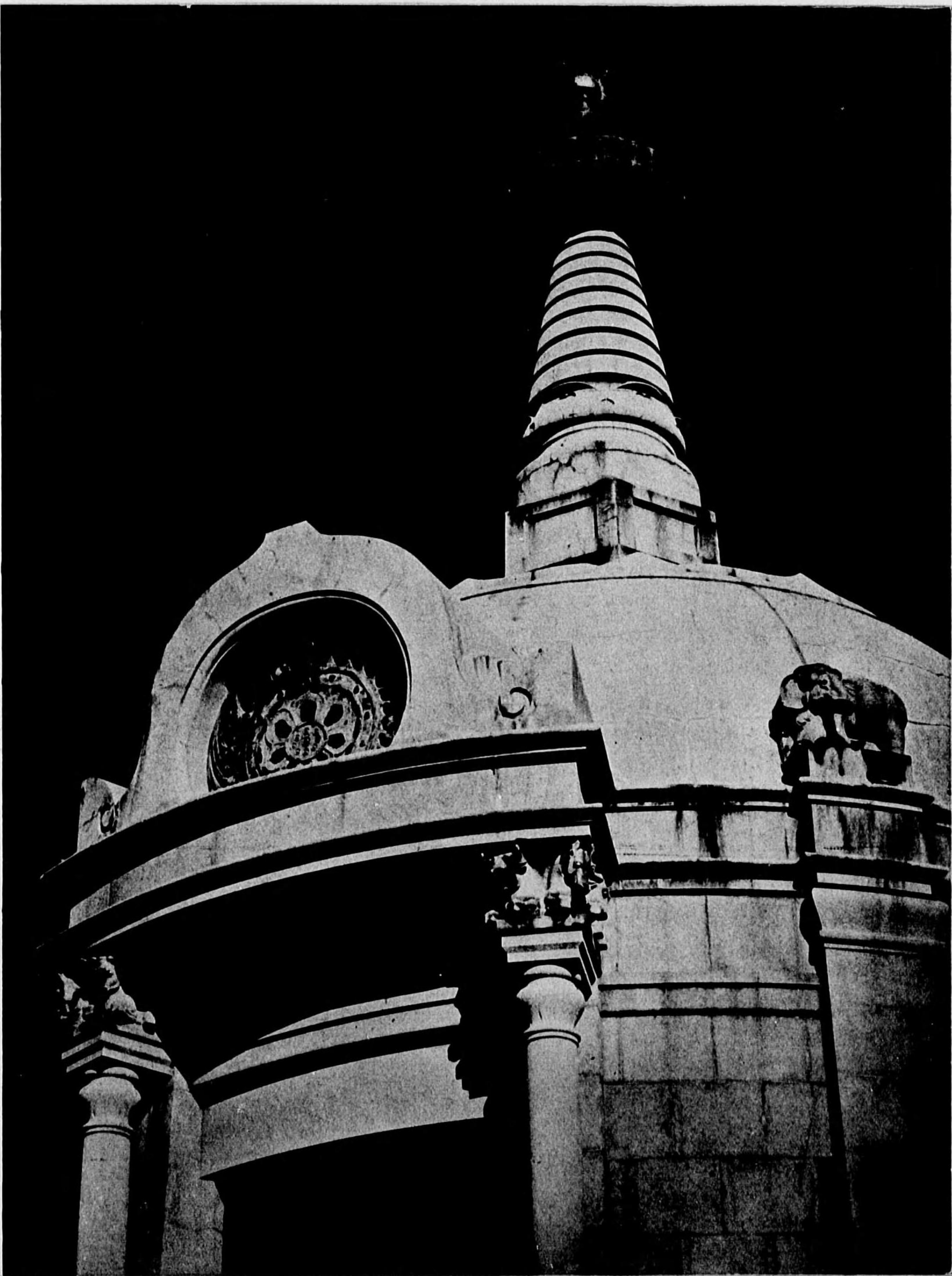


中山法華經寺聖教殿



(施貨末) 案原子厨子太しりな定像の置安内塔





上部詳細

所在 千葉縣中山法華經寺境内
 起工 大正十五年十一月
 竣工 昭和六年四月
 總高 七五尺五寸
 構造・仕上 土壇玉垣は花園石造。塔身は基礎より相輪まで鐵骨鐵筋コンクリート造。軒蛇腹以下花園石貼付。圓蓋は人造石小叩仕上。相輪の傘蓋以上は青銅製、寶珠は金銅製。入口内外二重の扉は鐵製にて青銅製金具取付。火燈窓には青銅製蓮子を建込み、その内側に鐵製引戸あり、更にその内側に木製引戸を設く彫刻は全部相模横根澤石を用よ。

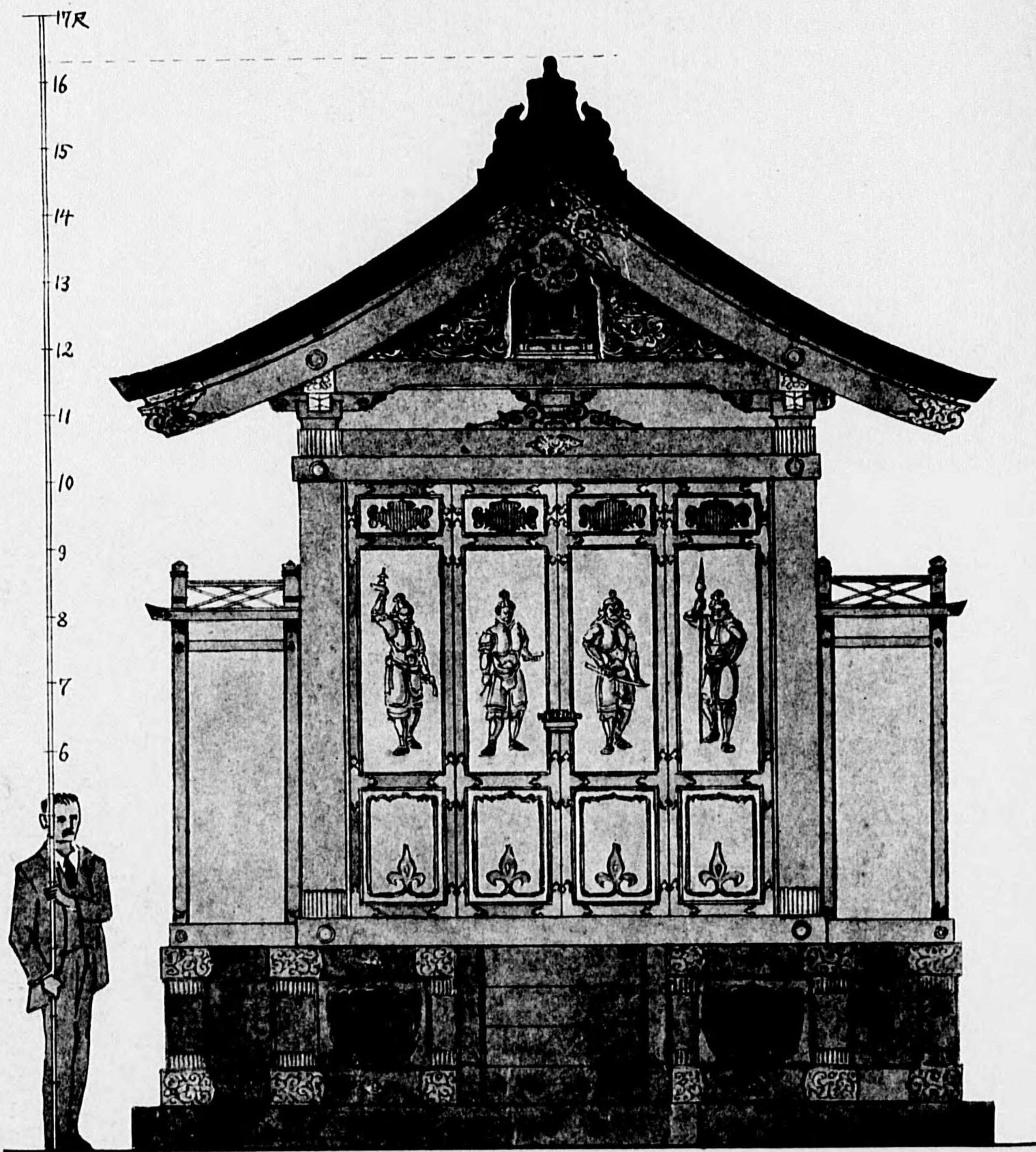
入口廻り詳細



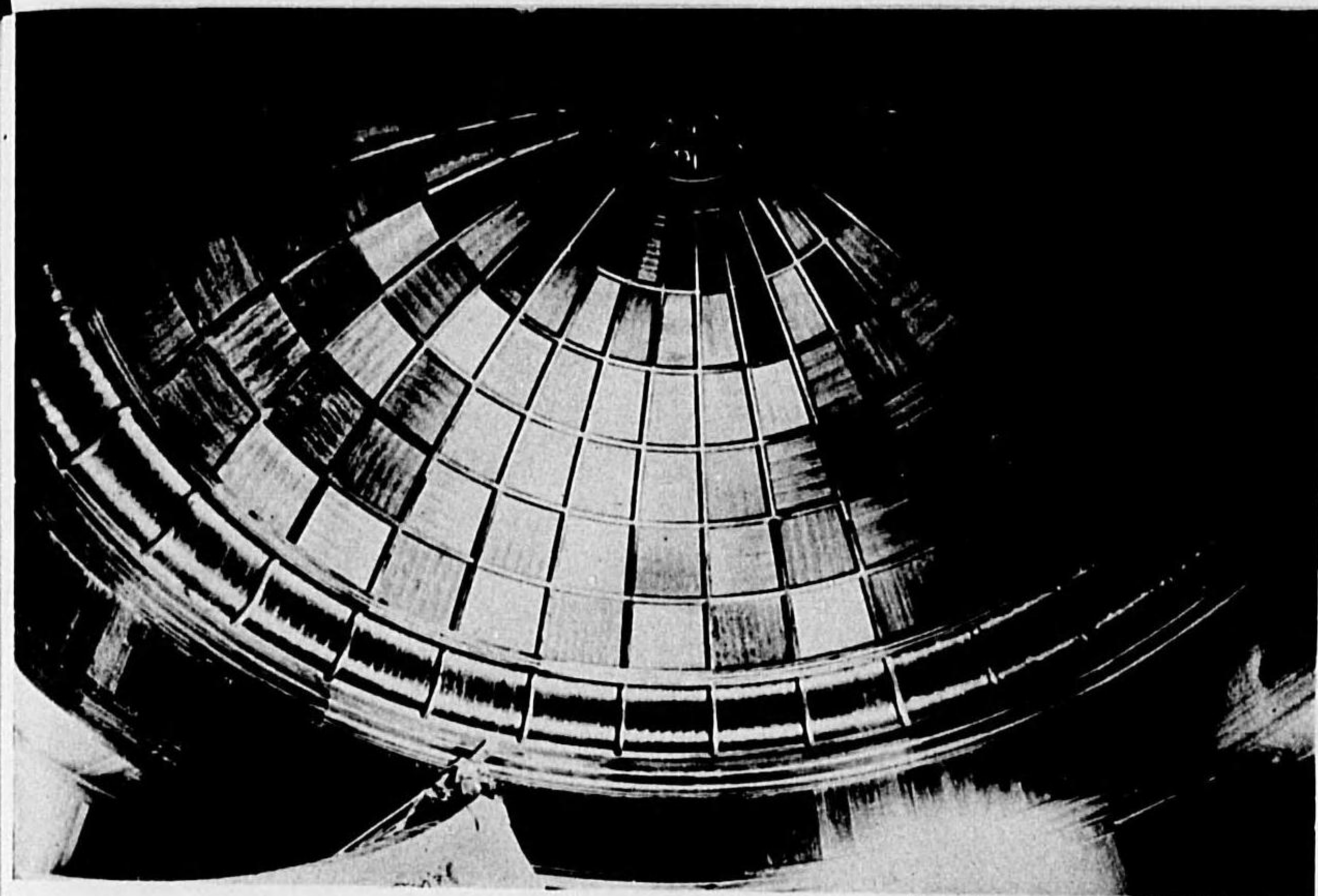
石獅



設計監督 工學博士 伊東忠太
 石材彫刻原型 工學博士 内田祥三
 四天王彫刻 新海竹藏
 工事請負 清水組

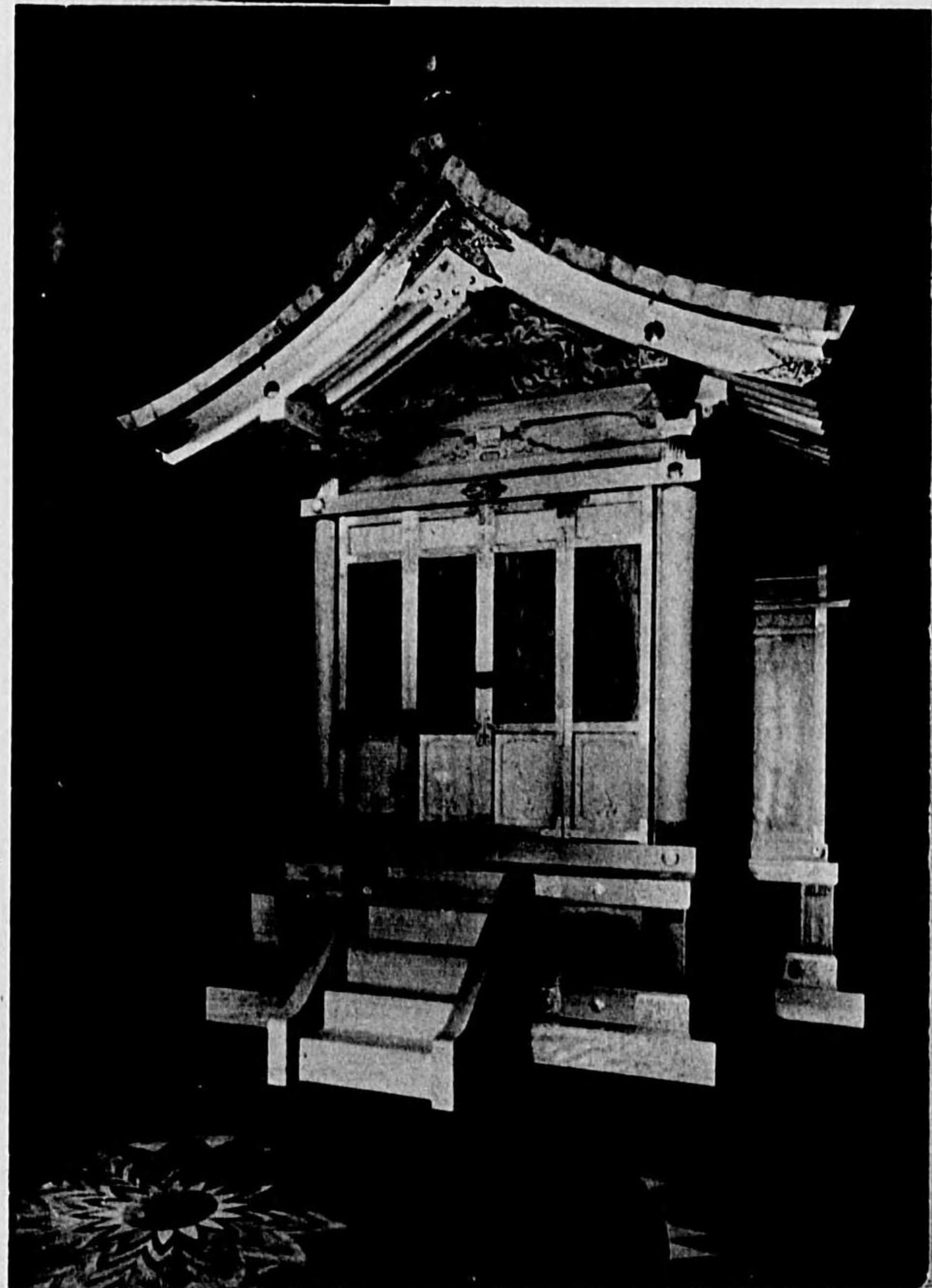


(筆自士博) 子厨内殿聖寺經華法山中

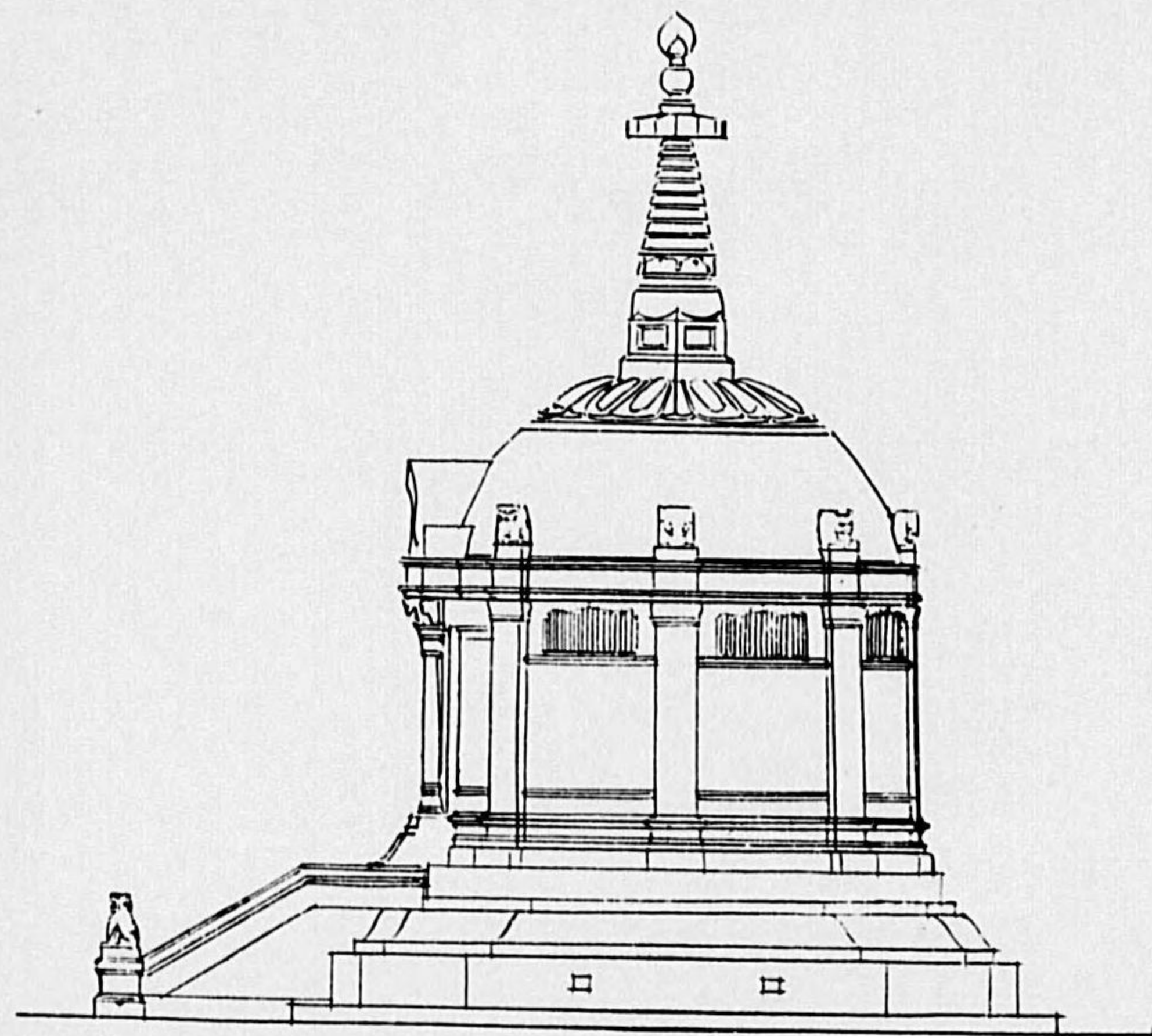


天部内

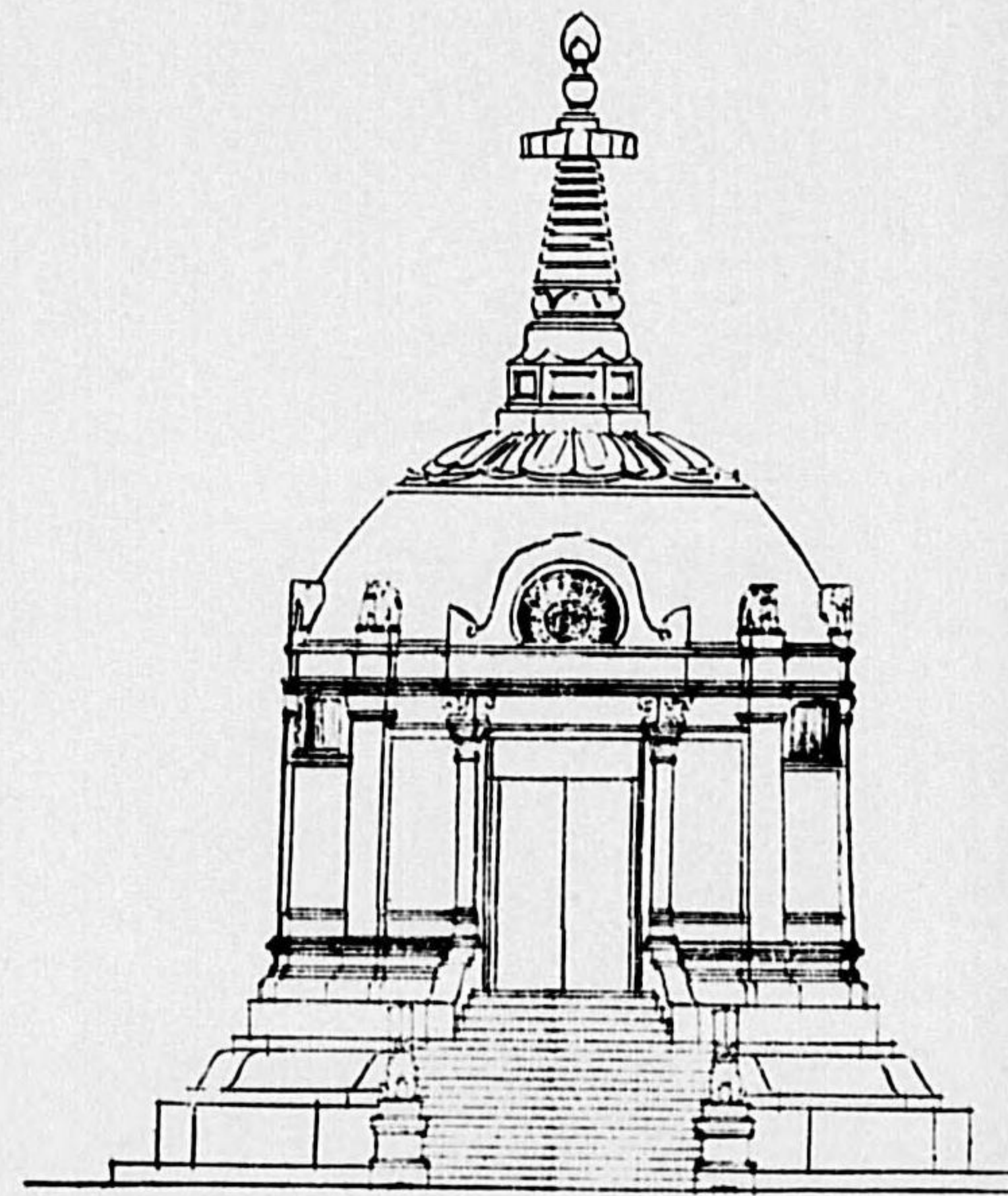
床は寄木貼、壁より天井まで全部チーク材にて雜作。その下地コンクリート壁の表面には全部厚一寸の抗火石を貼り、床下に濕氣防止の爲換氣通風用の地中層を設く。厨子は全部木曾産構造、屋根銅板葺、金具は銅製金箔押。御厨子内箱は總桐製、金具は純銀製。



子厨



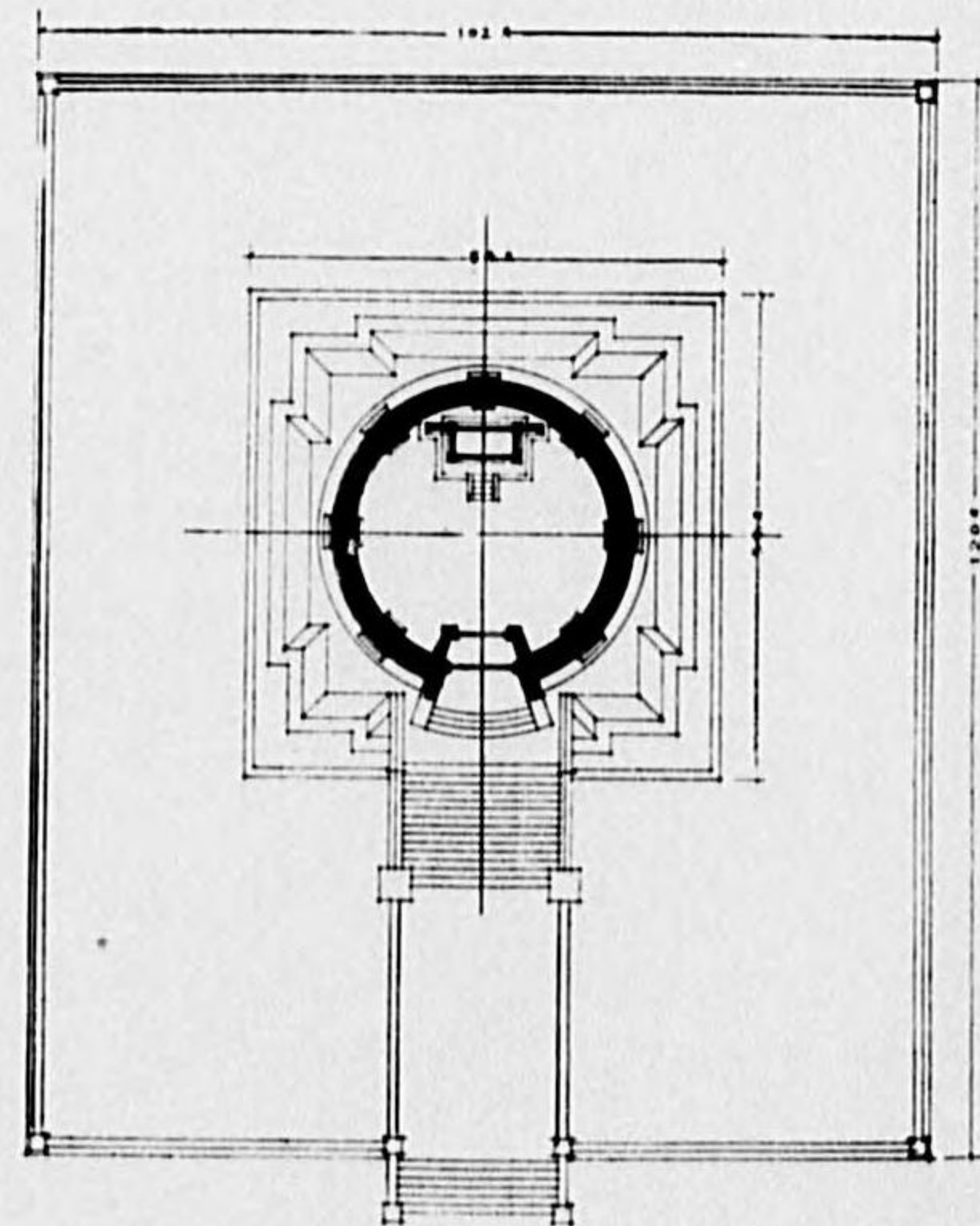
圖面側



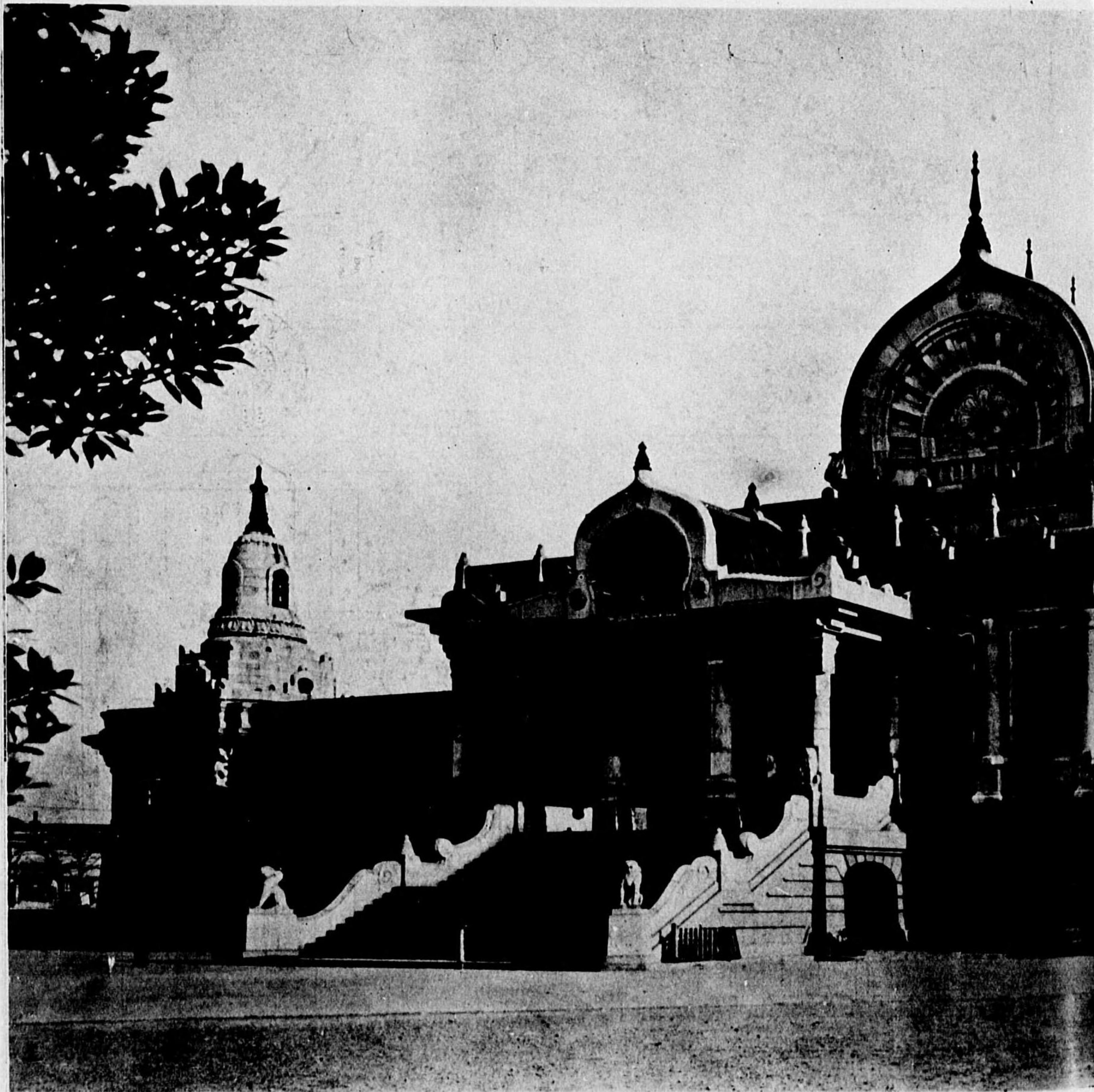
圖面正



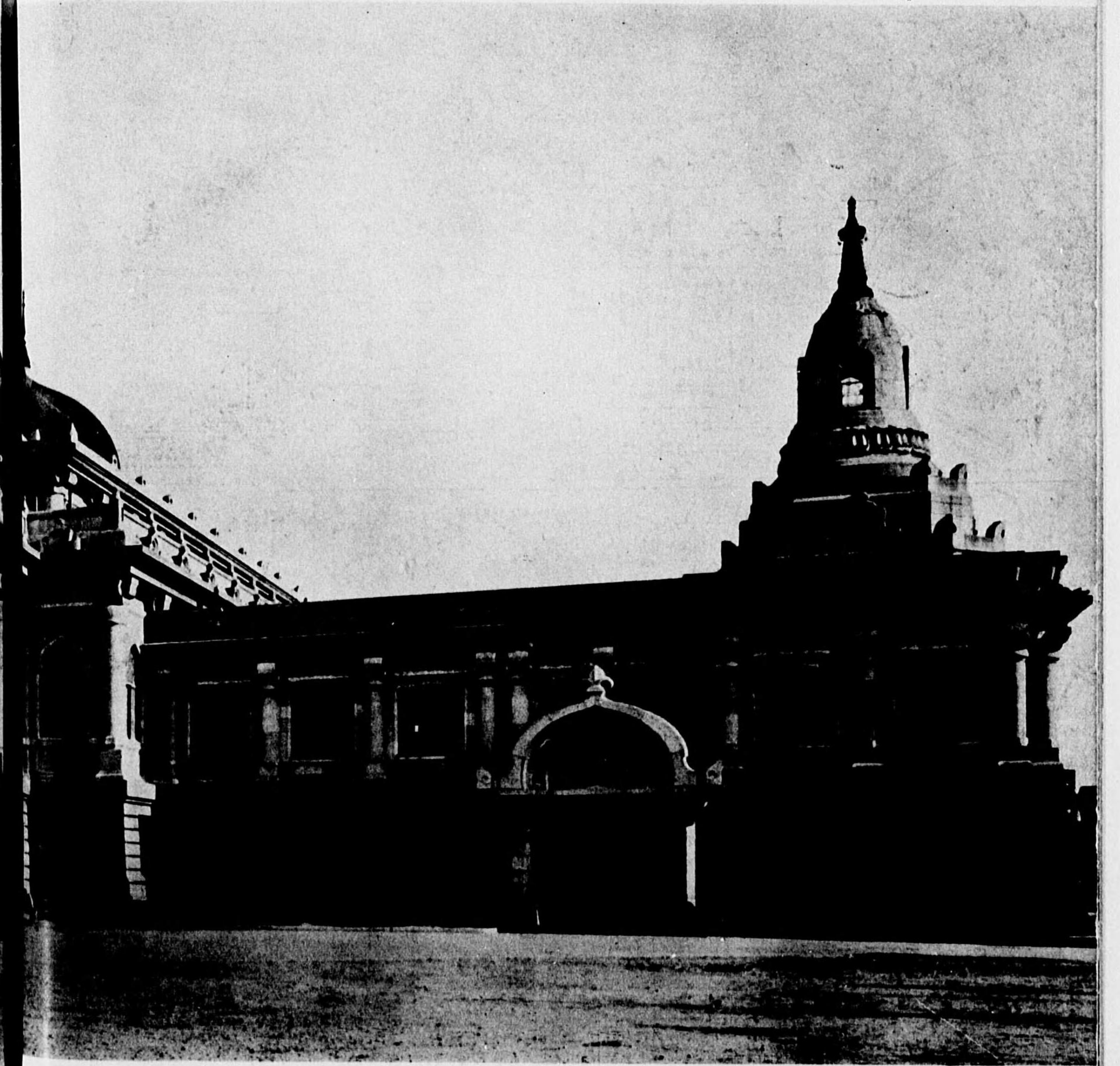
圖面斷縱

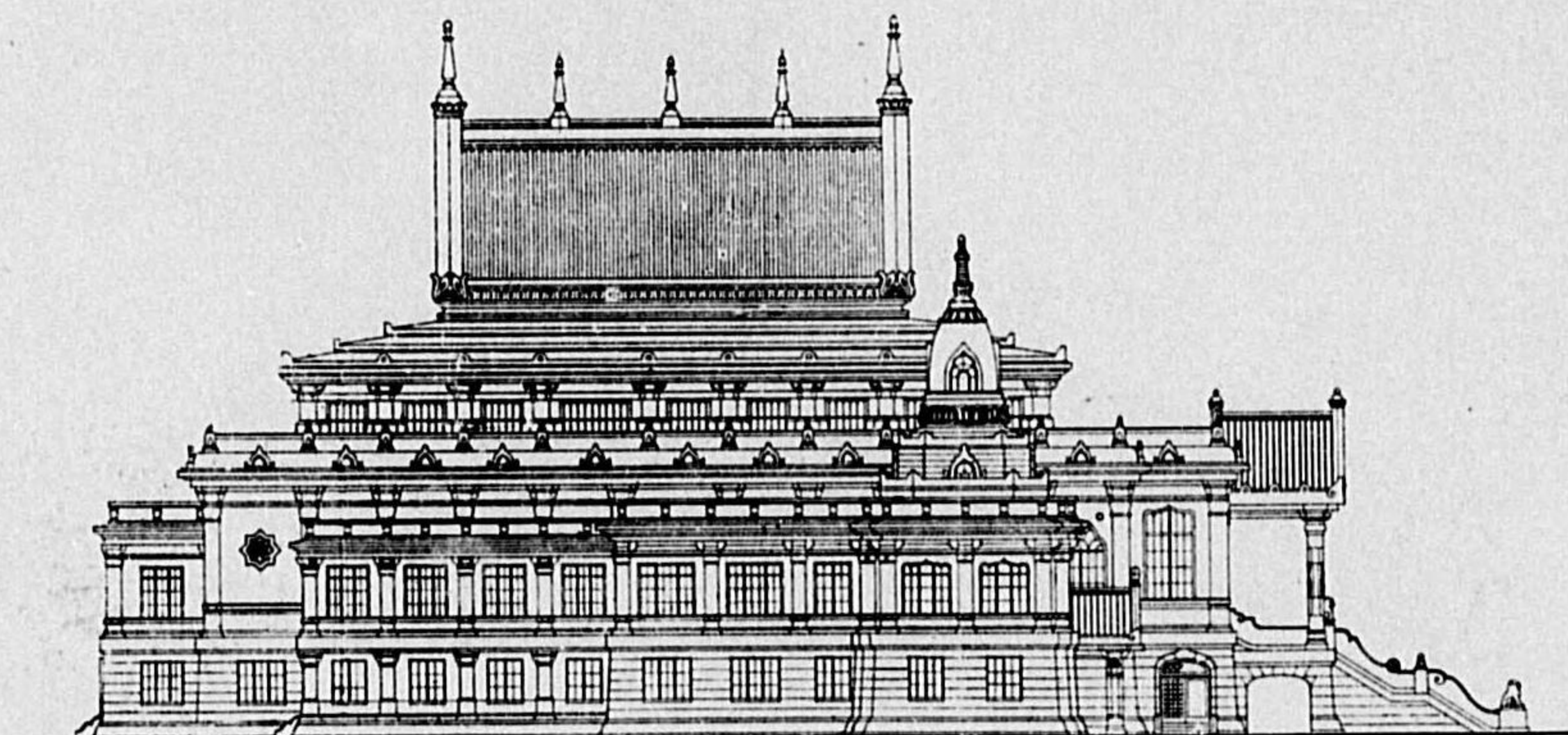


圖面平

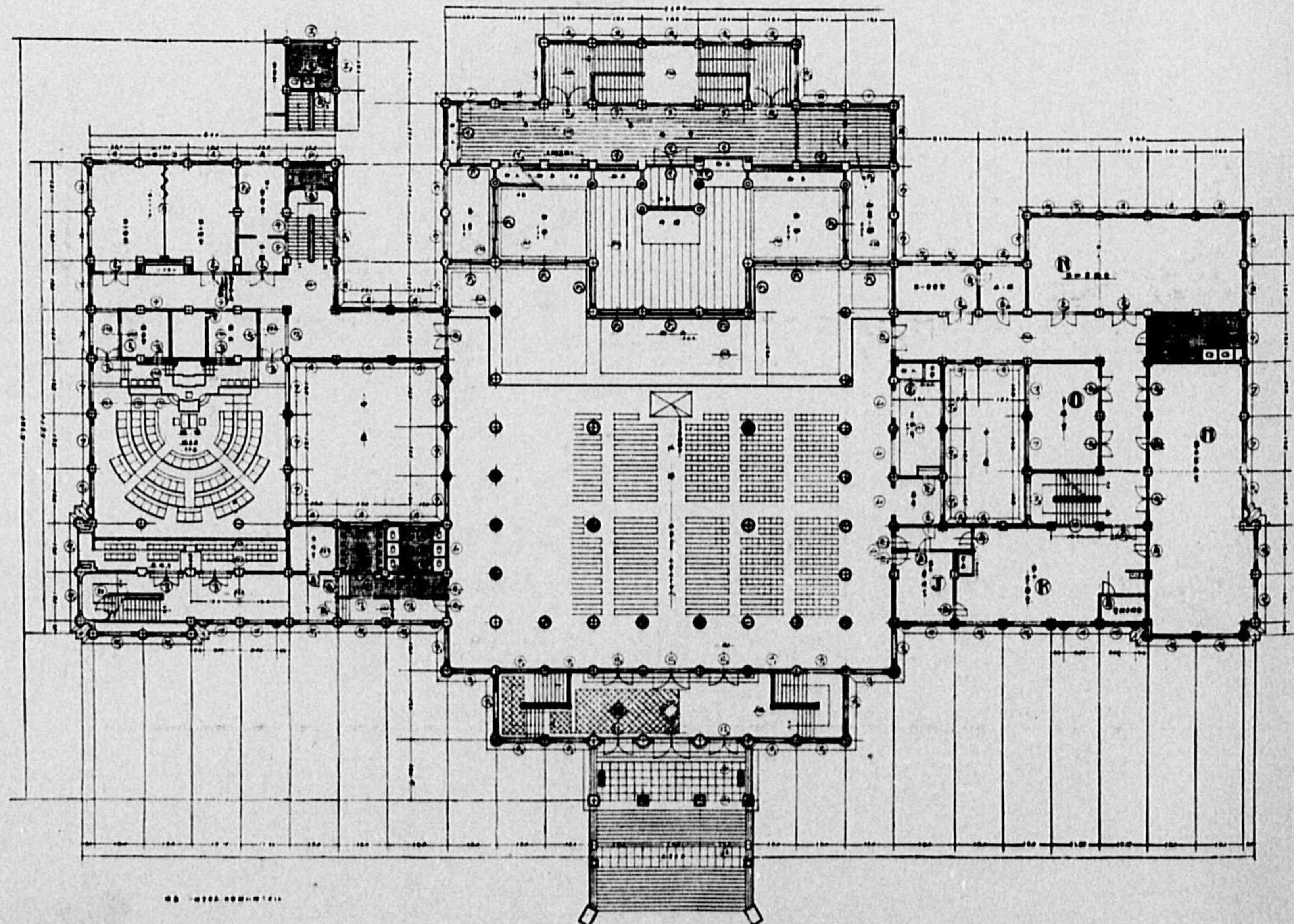


築地本願寺

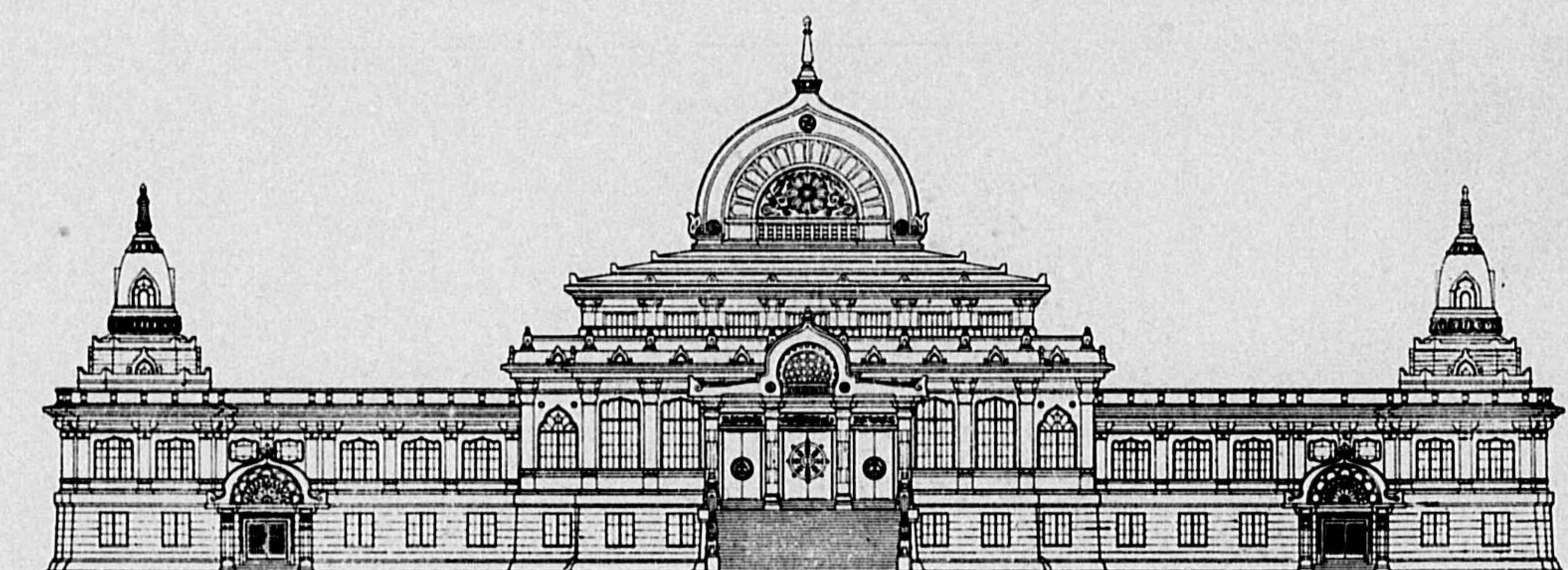




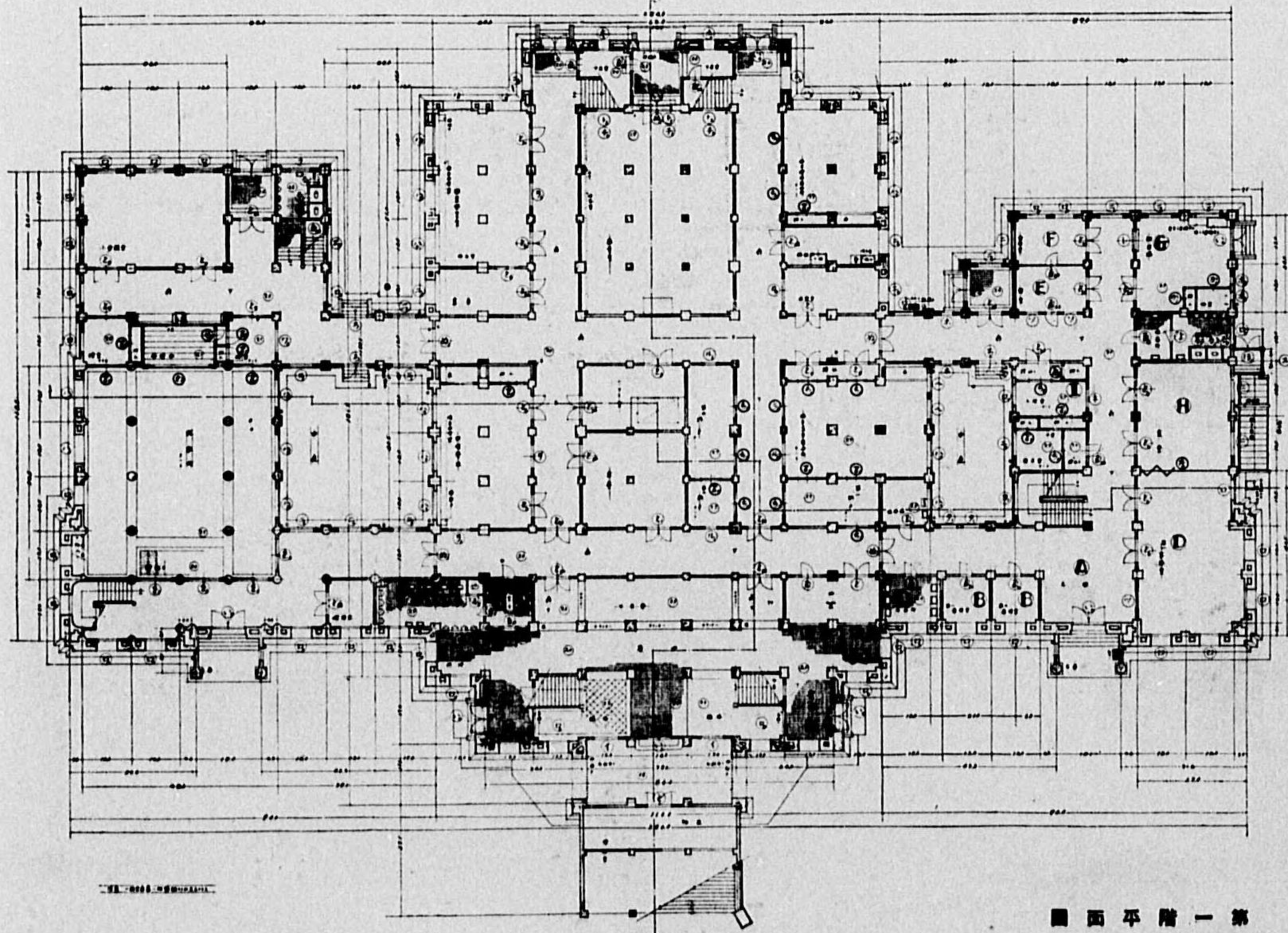
圖面側



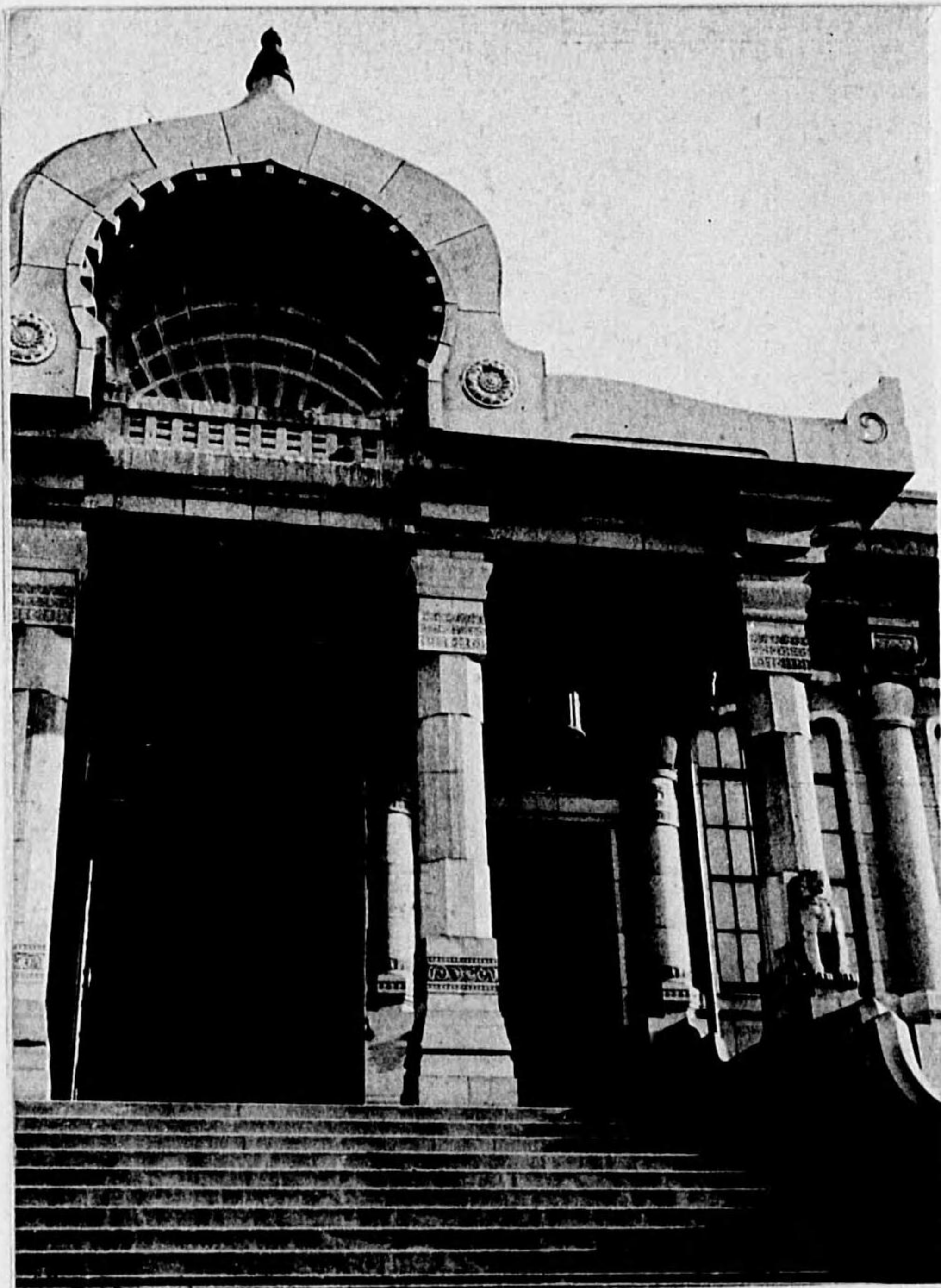
圖面平階二第



圖面正



圖面平階一第

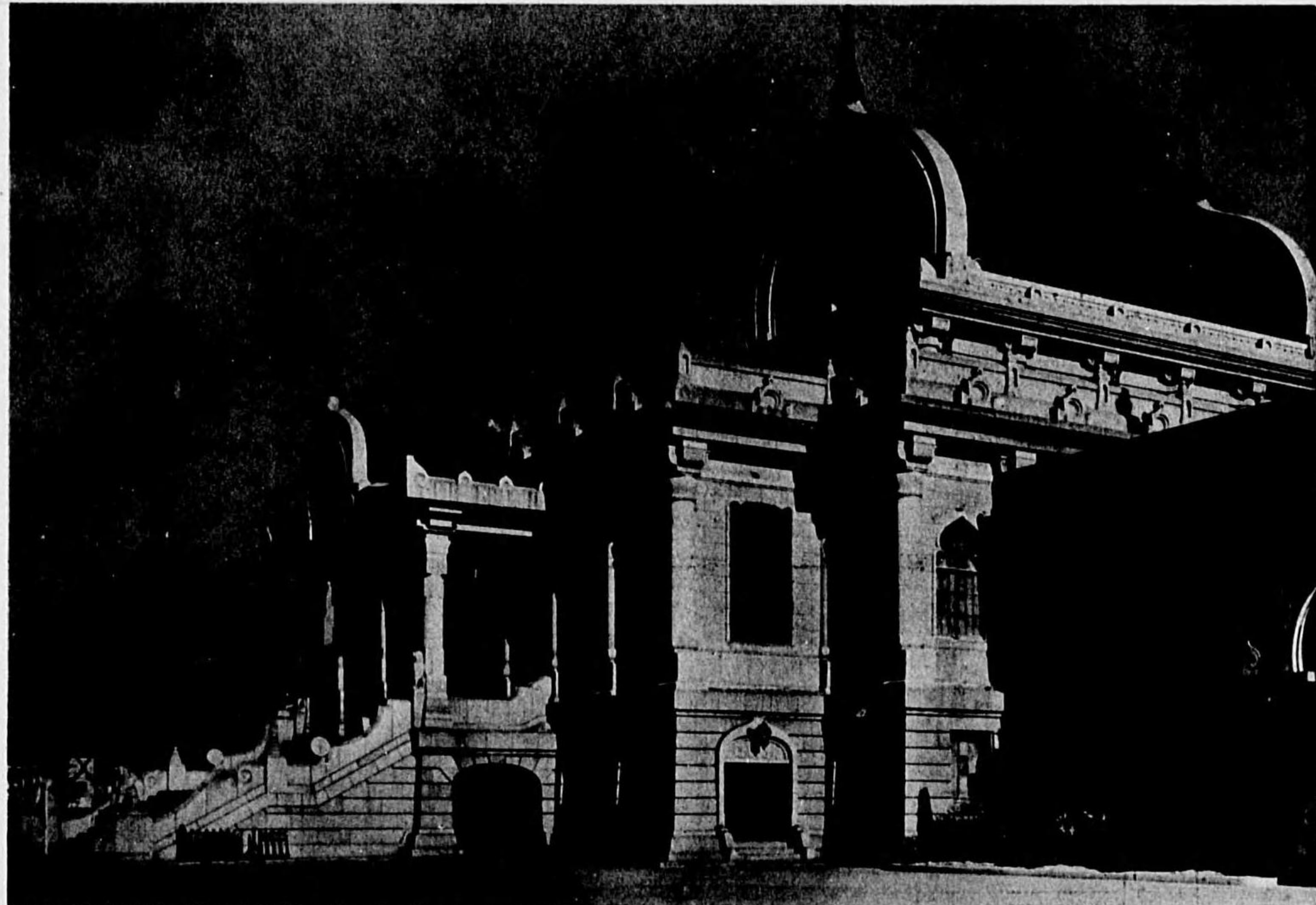


向
拜

構 造 本堂・兩塔屋及大會議室は鐵骨鐵筋コンクリート造 其他は鐵筋コンクリート造

外部仕上 各出入口階段石は岡山縣產萬成石 正面及兩側面の一部銅蛇腹以下は岡山縣產鬼赤石積 其他の壁面は鬼赤石の碎石による擬石小叩ビシャン叩き仕上 本堂大扉根兩妻・軒蛇腹は同材料にて人造石洗出 勾配屋根は銅板葺 其他の屋上はアスファルト防水工事の上タリンカー・タイル敷

出入口及窓建具 スチール製 向拜出入口はブロンジング仕上 鍍金金具取付 出入口共ベニヤ又はエポキシ塗仕上



中
央
部

起工 昭和六年四月十五日
竣工 昭和九年六月二十五日
施工 松井組

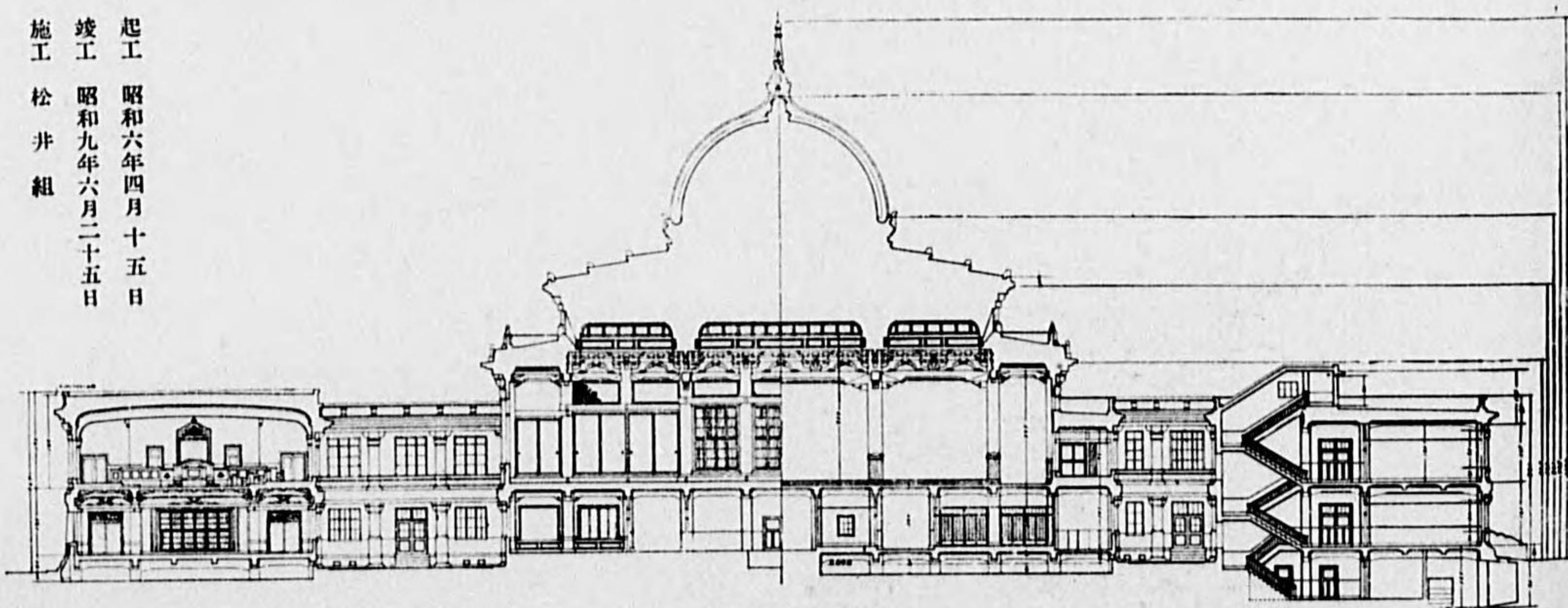
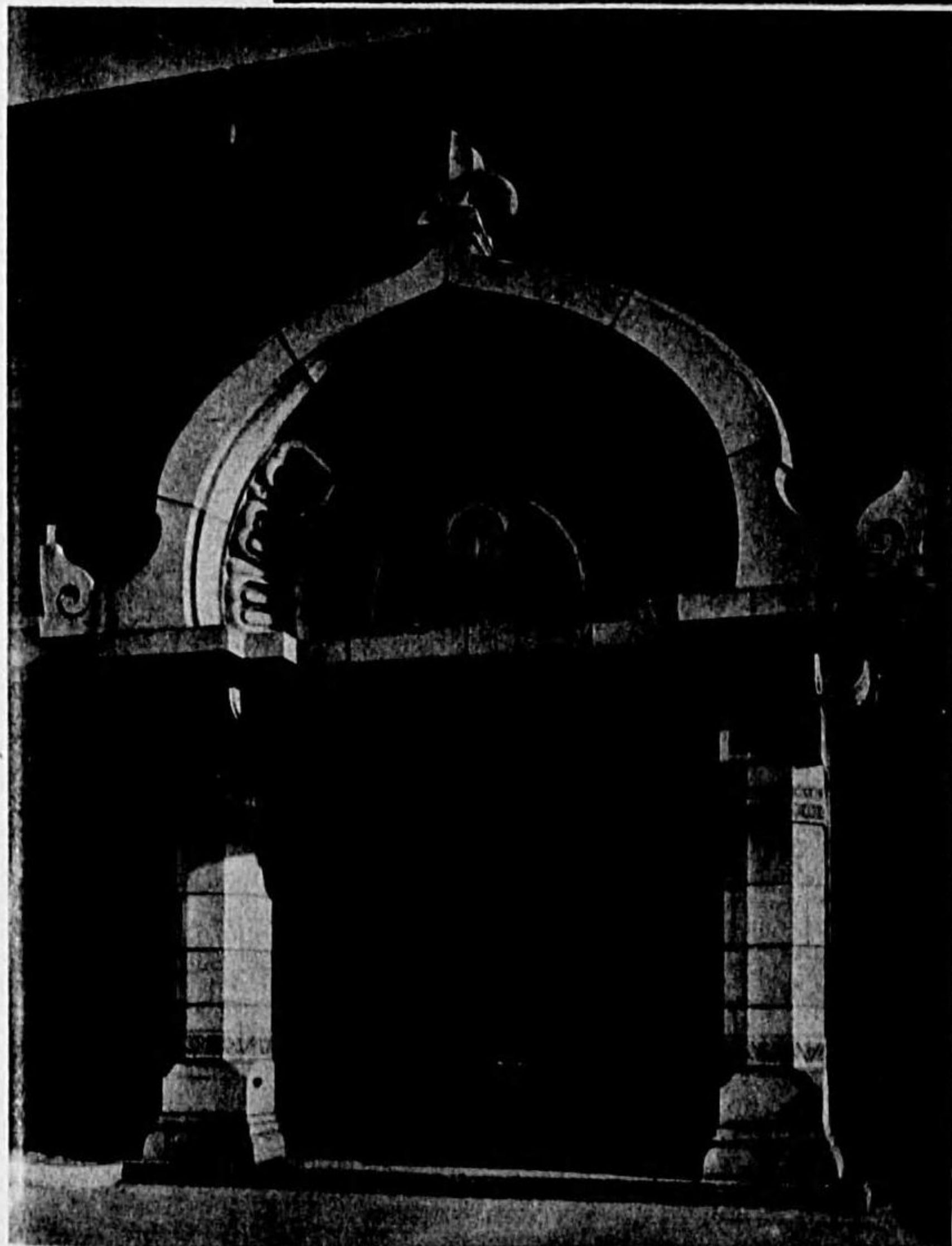
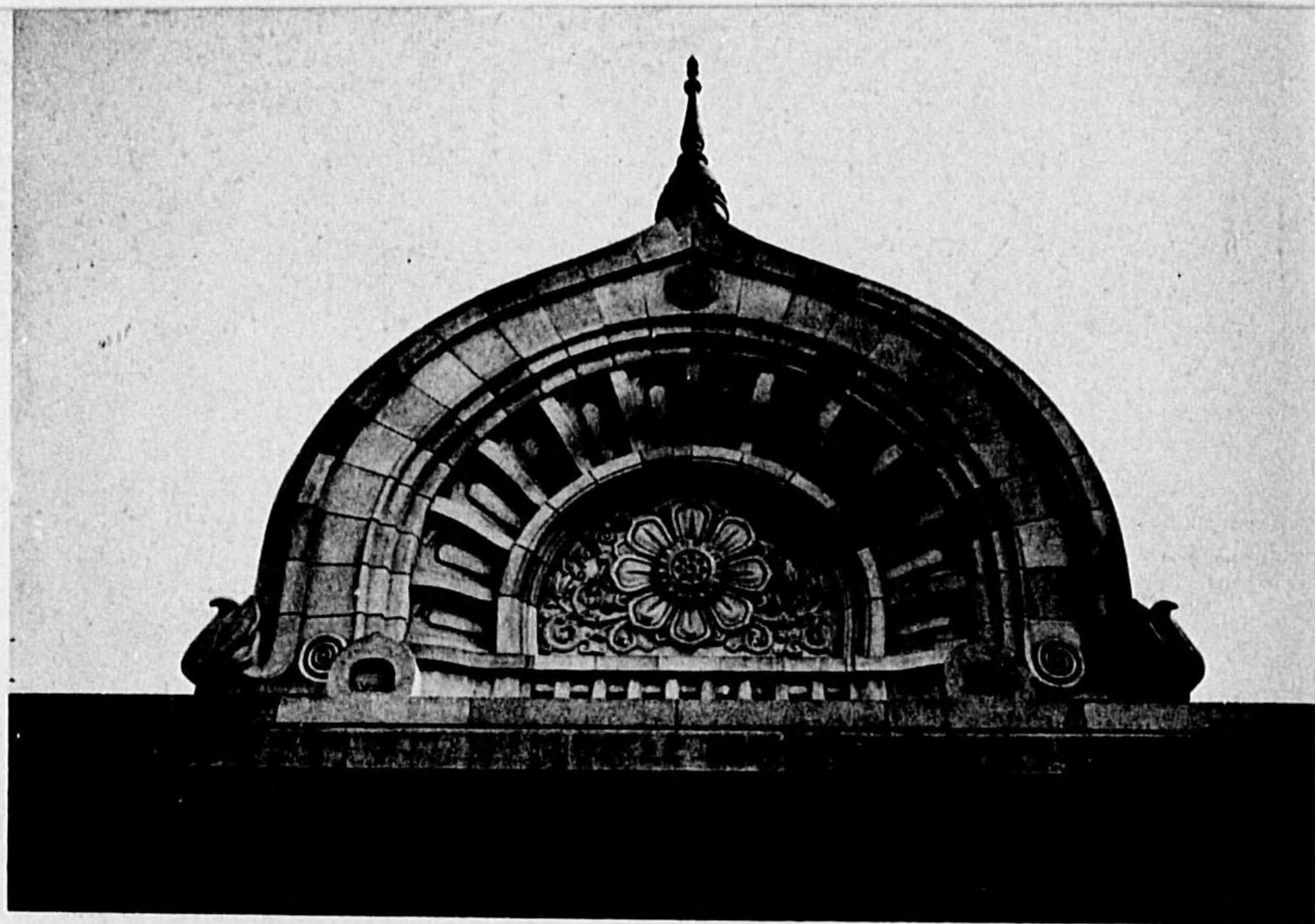


圖 面 斷 横

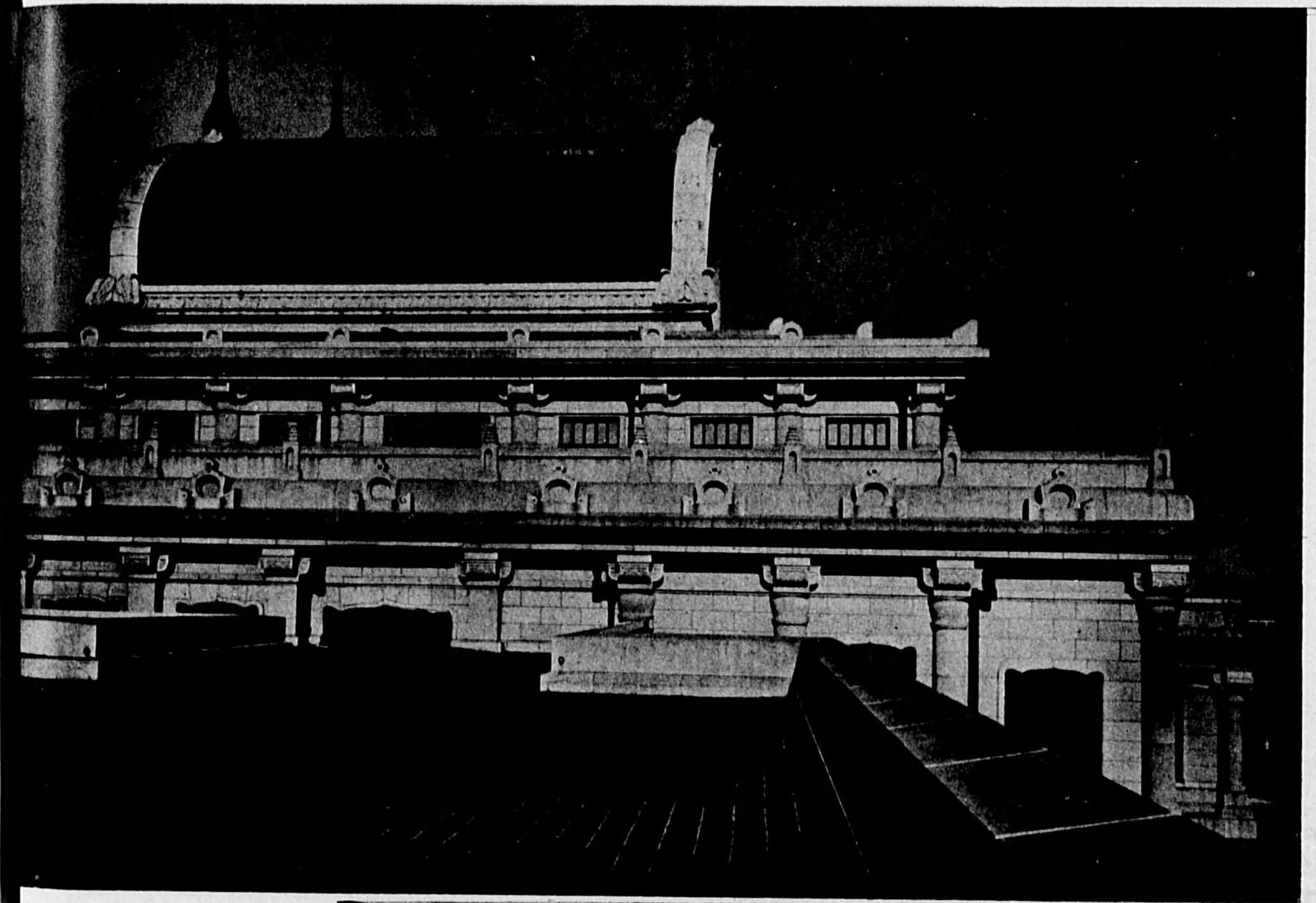


側
方
入
口

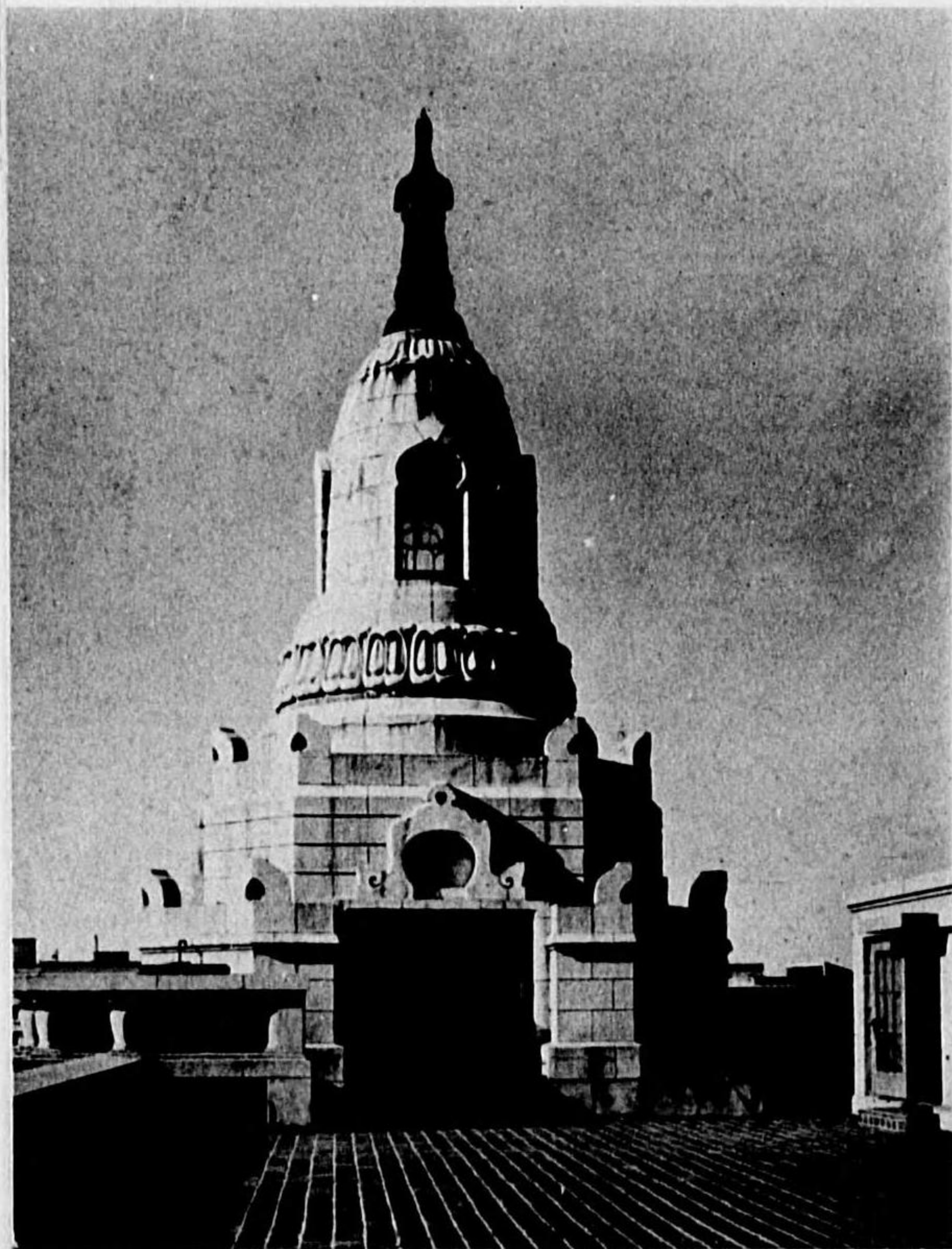
所在 東京市東區區廳地三丁目一番地
敷地面積 五九二〇坪
建築延坪 一九六一坪
正面總間口 四八間二尺
奥 行 三一間
高 さ 本堂尖塔頂まで二一四尺
様式 印度佛敎式 古代中天竺に行はれたる様式を基礎として適宜に機骨摹胎し且つ後期印度式の手法を加味せり。細部には爪哇のゴロ・ブドル其他印度系の地方の手法を適用す。但し本堂内部は純日本式とす。



正面切妻

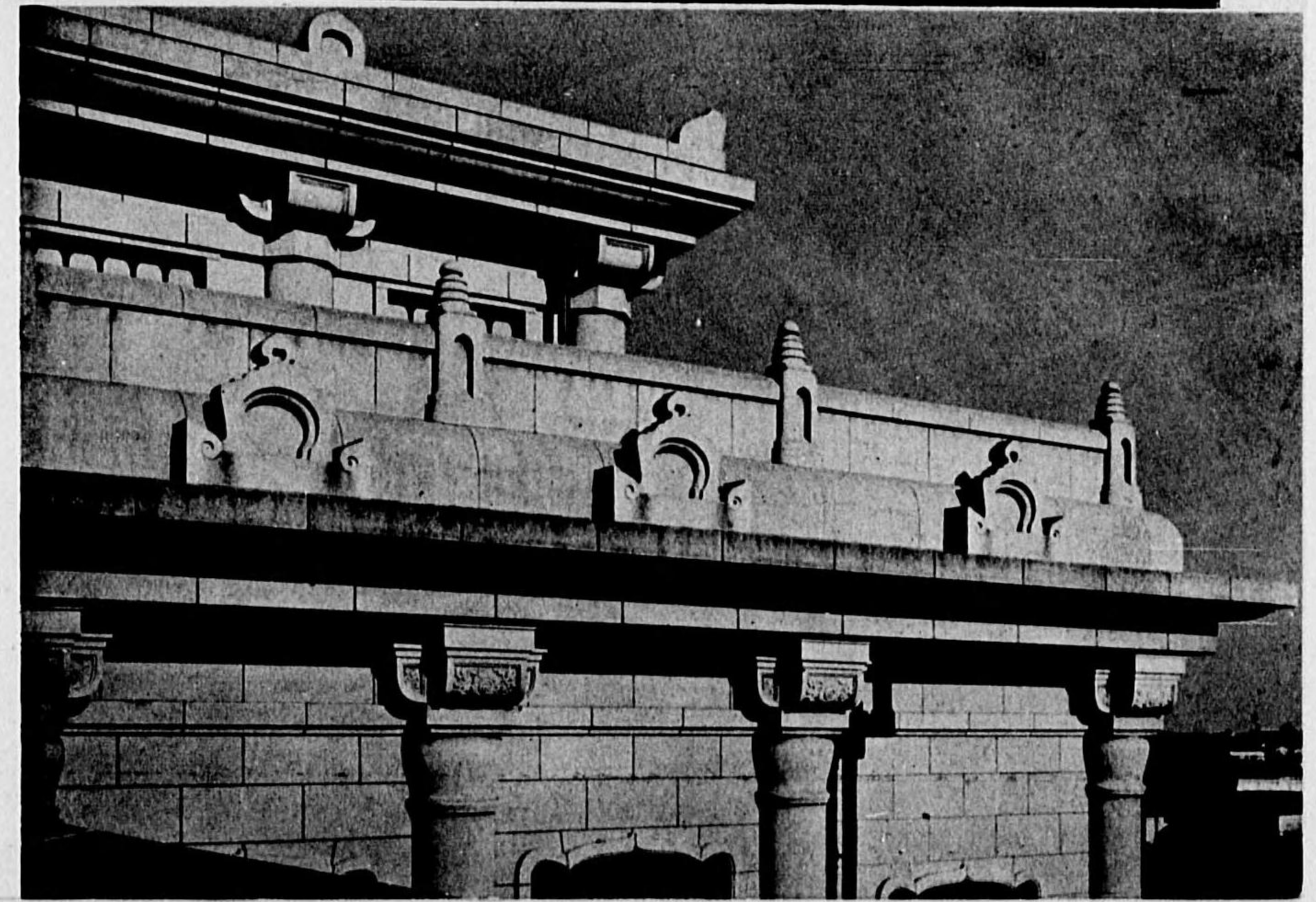


大本堂上部



鐘樓

氣電は木撞 檼は屋塔翼左 檼は屋塔翼右
す作操りよにラツキス内所敬説階一 置装



大本堂上部詳細



堂本大

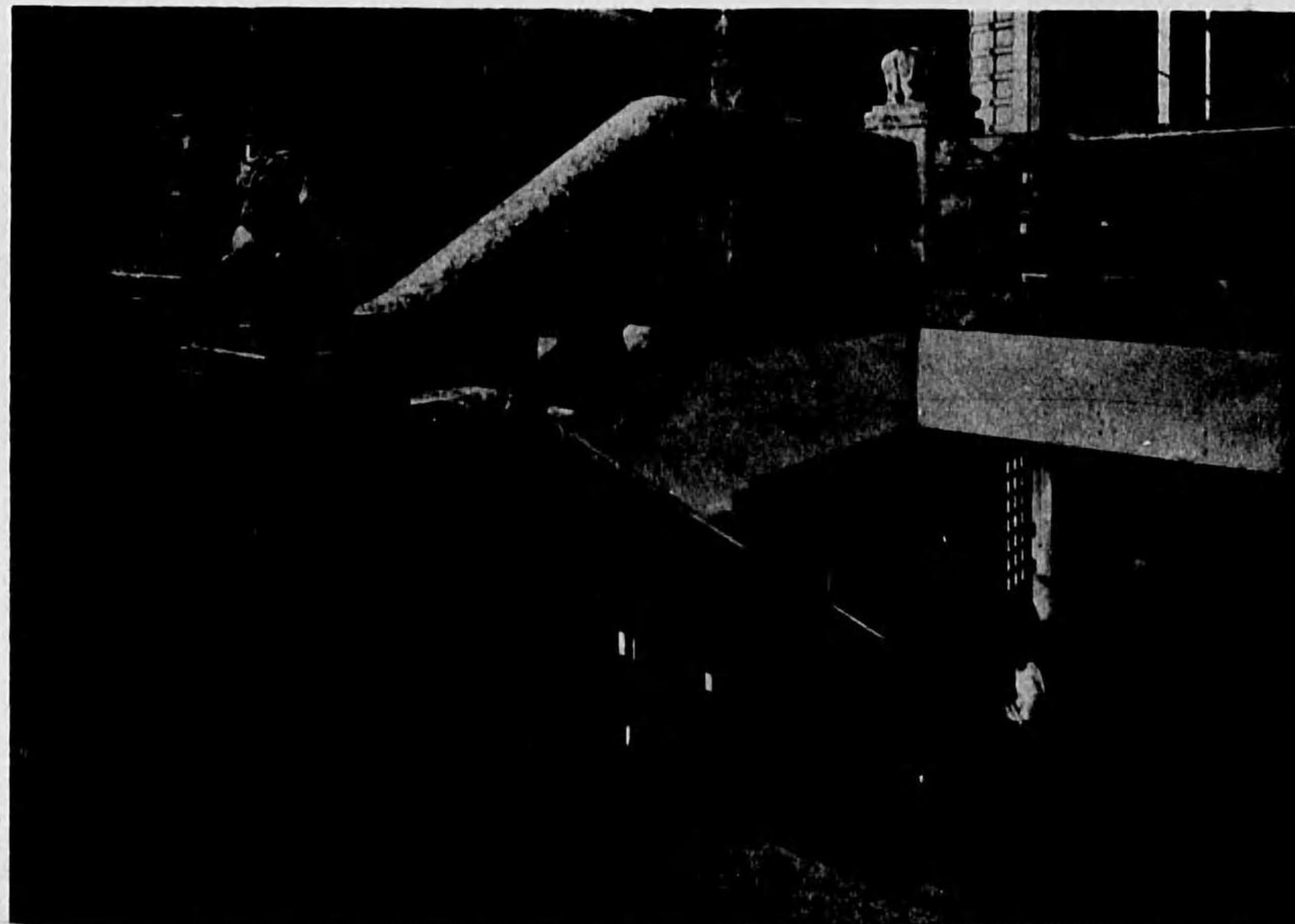
内陣及餘間 七〇坪 内陣は床板張漆呂色
仕上 餘間は疊敷 柱・虹梁・壁はコンク
リート造 長押・天井は檜造 柱・長押及壁地
は漆下地に金箔押 金具は金鍍金製 虹梁・
斗拱・墓股等は漆下地極彩色仕上 天井漆呂
色仕上 面金箔押 格間は檜ベニヤ板極彩色
仕上 内陣正面は障子金箔押 餘間は金鍍
上部欄間及墓股は箔押

大本堂上

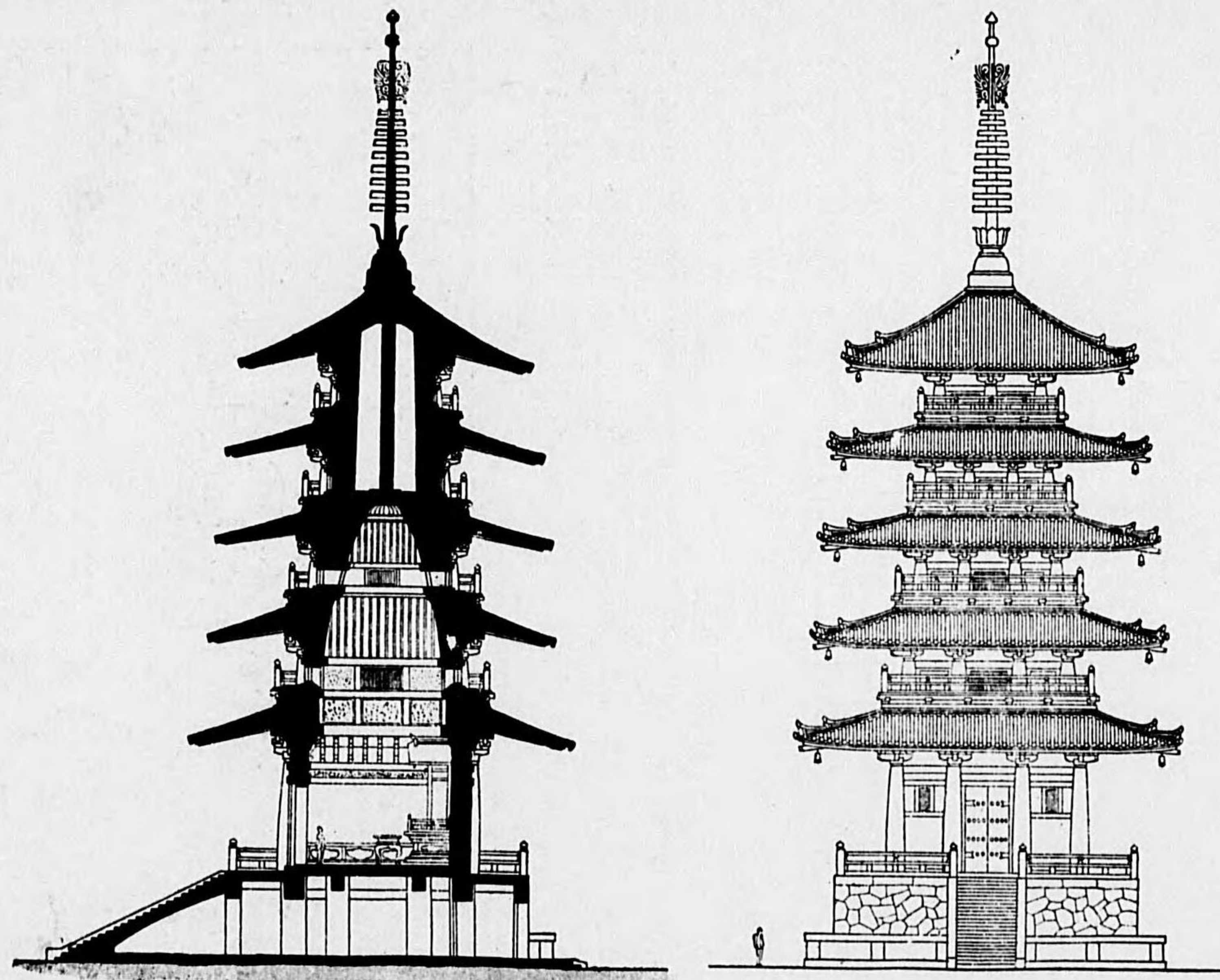
大本堂外陣及鞘の間廣さ二三一坪
座席數七七四 床はNS床及ゴム
タイル市松貼 鞘の間は巾木テラ
ゾ貼 腰は鋳鐵製ブロンズ仕上
上テーク木目塗 各側柱及棟柱は
根巻鋳鐵製ブロンズ仕上一部
電鍍グリン嵌込 斗拱・彫刻等檜
白木造金鍍金具打 格間はテッ
クス貼着色仕上 柱・虹梁及壁地
はコンクリート ネイルタリート
色仕上



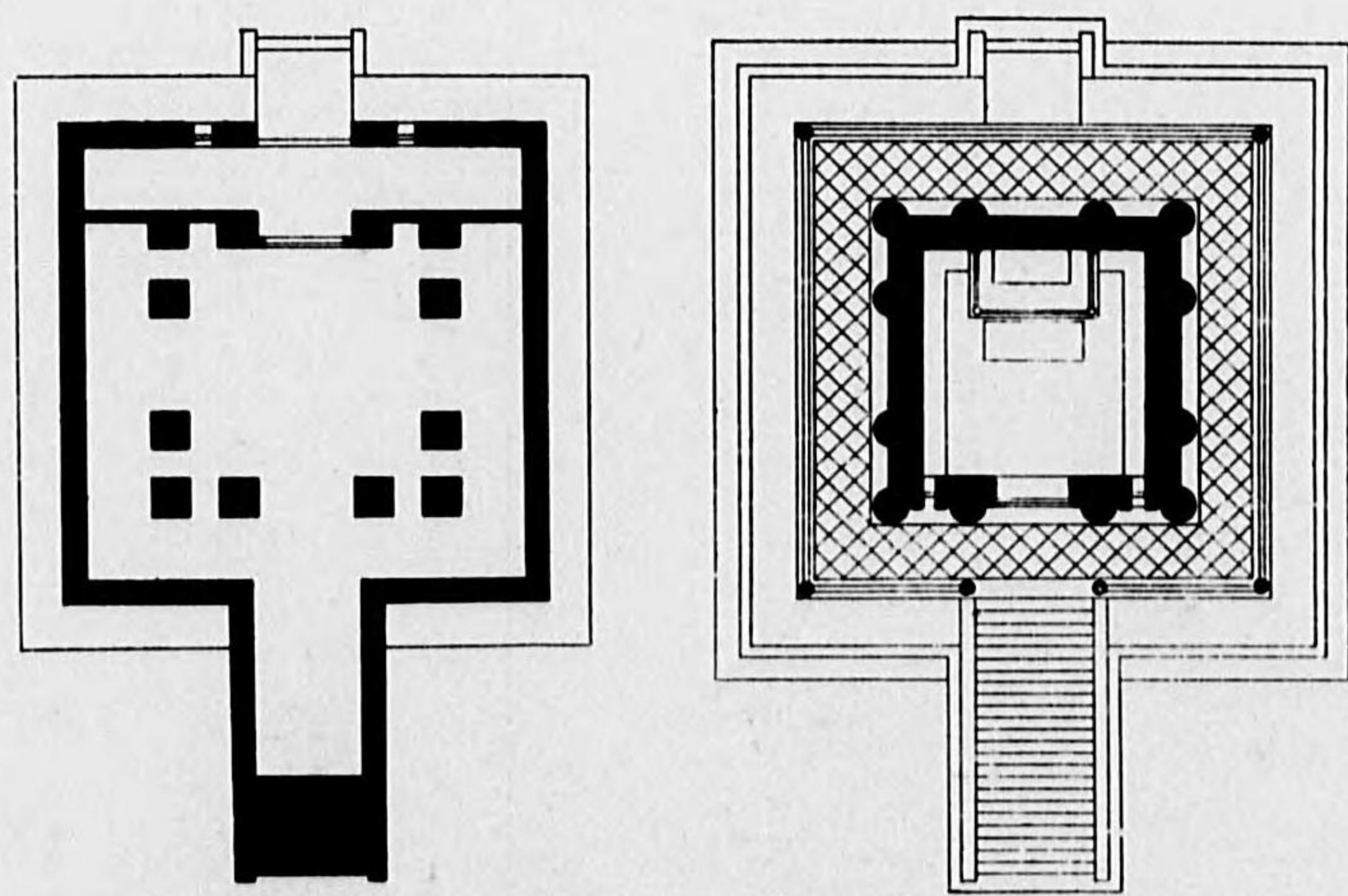
大本堂前廊



大本堂前廊階段



断面 1 立面 2



上層平面 下層平面

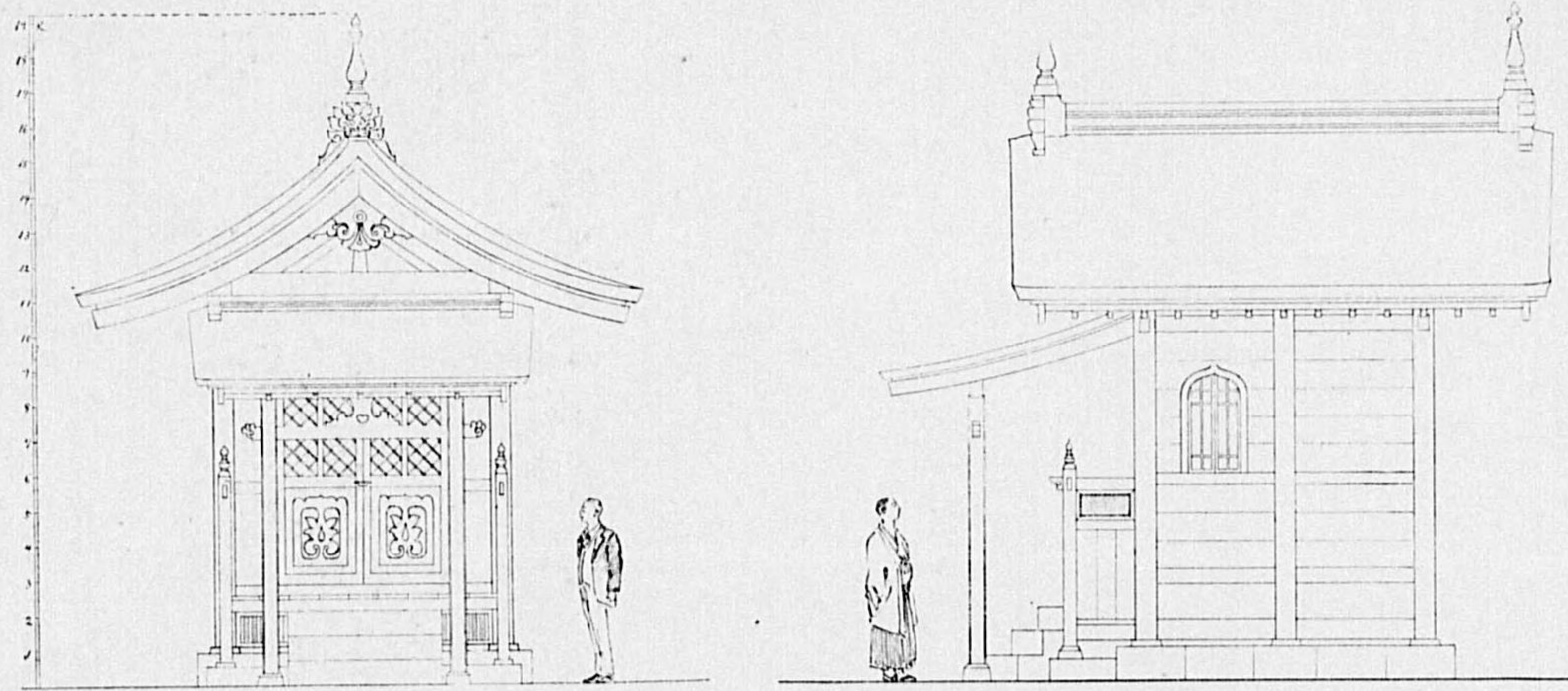
五重塔 (不實地)

某所に造立の計畫にて設計せられたるもの

大會講堂
七〇坪 床リノリウム敷
壁地ケンビス仕上 天井
石膏格天井 格間ケンテ
ツクス貼ベンキ塗仕上



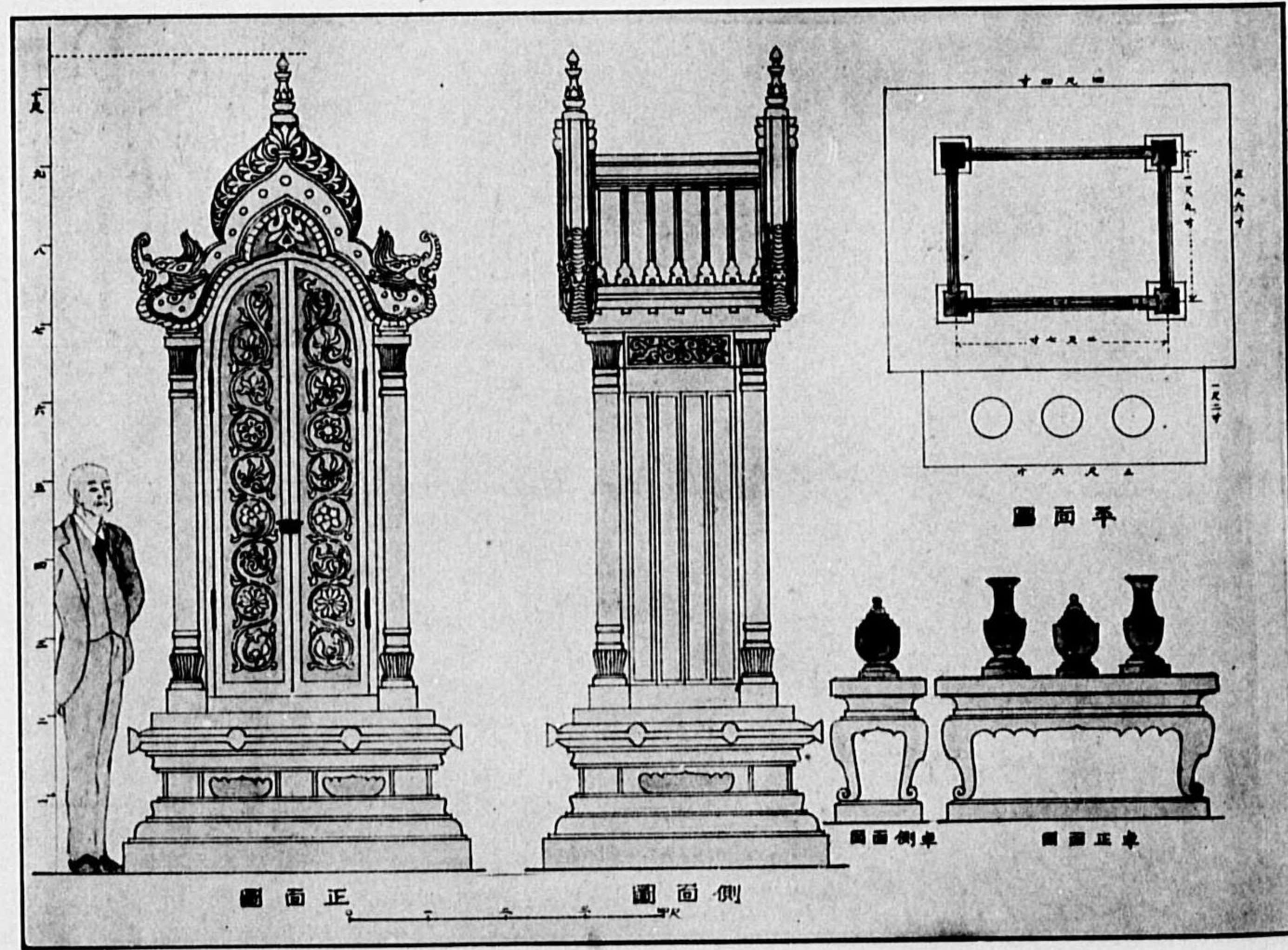
説 所
床疊敷 柱及壁萬年壁着色
天井ため色面金仕上 格間
ケンテツクス着色 各柱上
部及梁持送は石膏及陶金製
金粉スプレー仕上 持送の
一部に電燈装置佛間は漆呂
色仕上箔押へ



正面

側面

(のちのよに筆自士博 施實未) 圖計設堂迎釋



正面

側面

平面

側卓

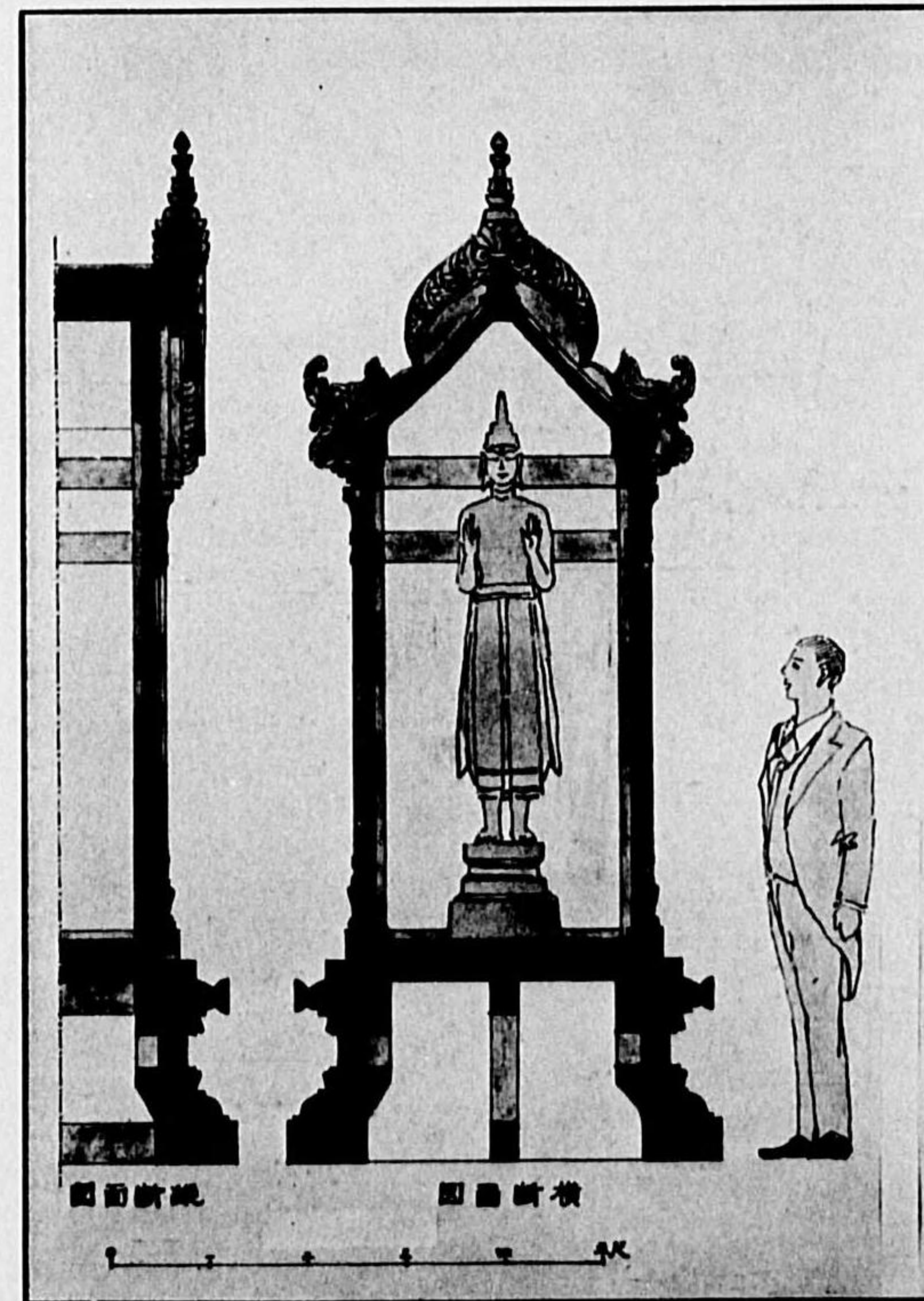
正卓

(筆自士博) (二) 圖計設



外景

東天竺山世尊寺
釋迦堂内厨子
愛知縣岡崎市大町
チーク素木造 泰式 全高一丈一尺
大正十三年岡崎市出身羽川志賀重昂氏外遊の
際入手せられたる泰國の釋迦佛像其他を岡崎
市に寄附せられたるを以て氏の主唱により寺
院を建立 建築を伊東博士に 造園を林學博
士田村剛氏に委嘱せるも伊東博士の設計にし
て完成せるものは本厨子及前卓にして内に前
記佛像を収めて本尊とし 同博士の設計によ
らざる假本堂に収めたり 假本堂は昭和四年
竣成



側面

正面

(筆自士博) (一) 圖計設

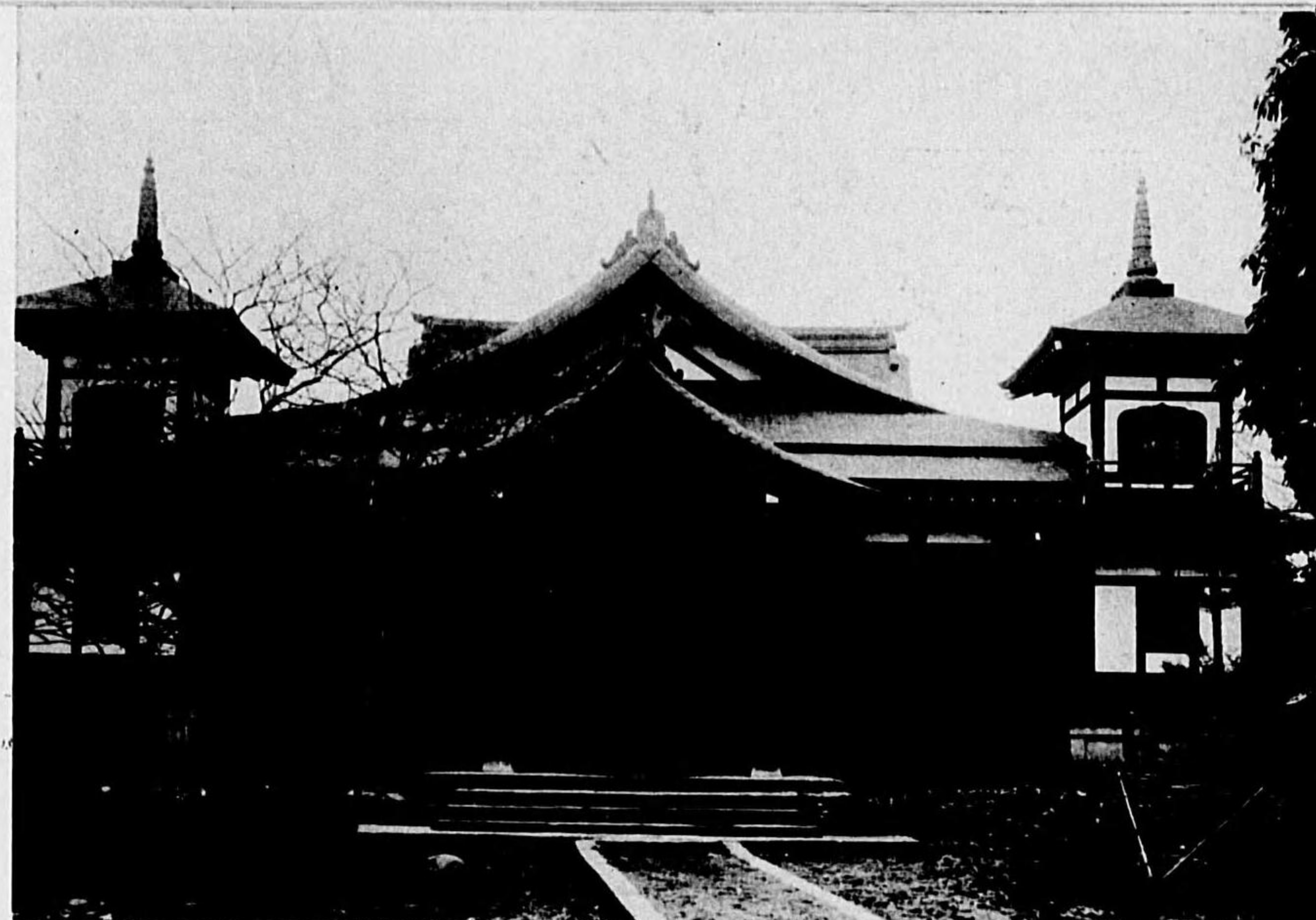


りたれらせ用適に計設の寺願本地築に後は案考るたけ設と樓鐘樓鼓に右左堂本。市形山

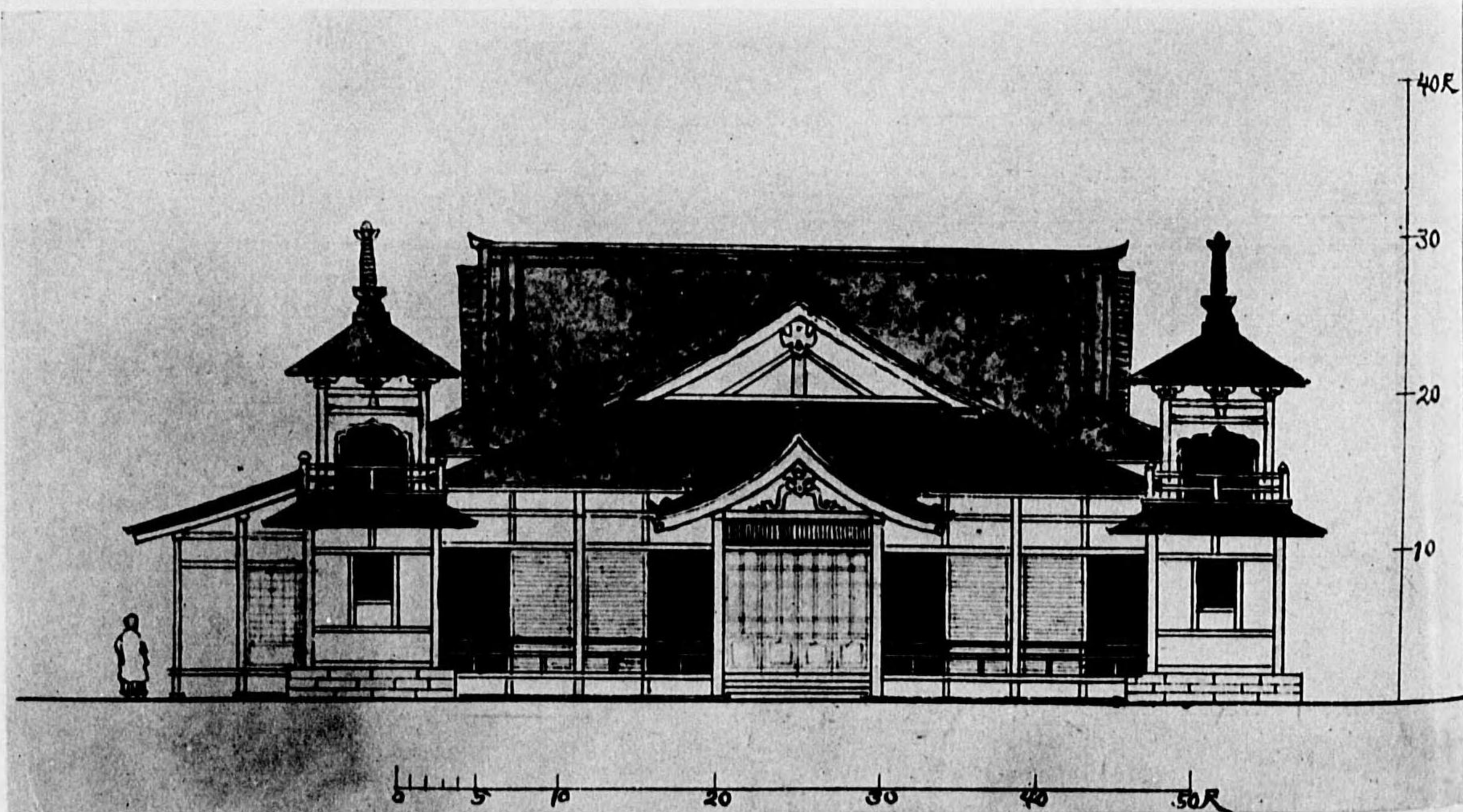
内
部

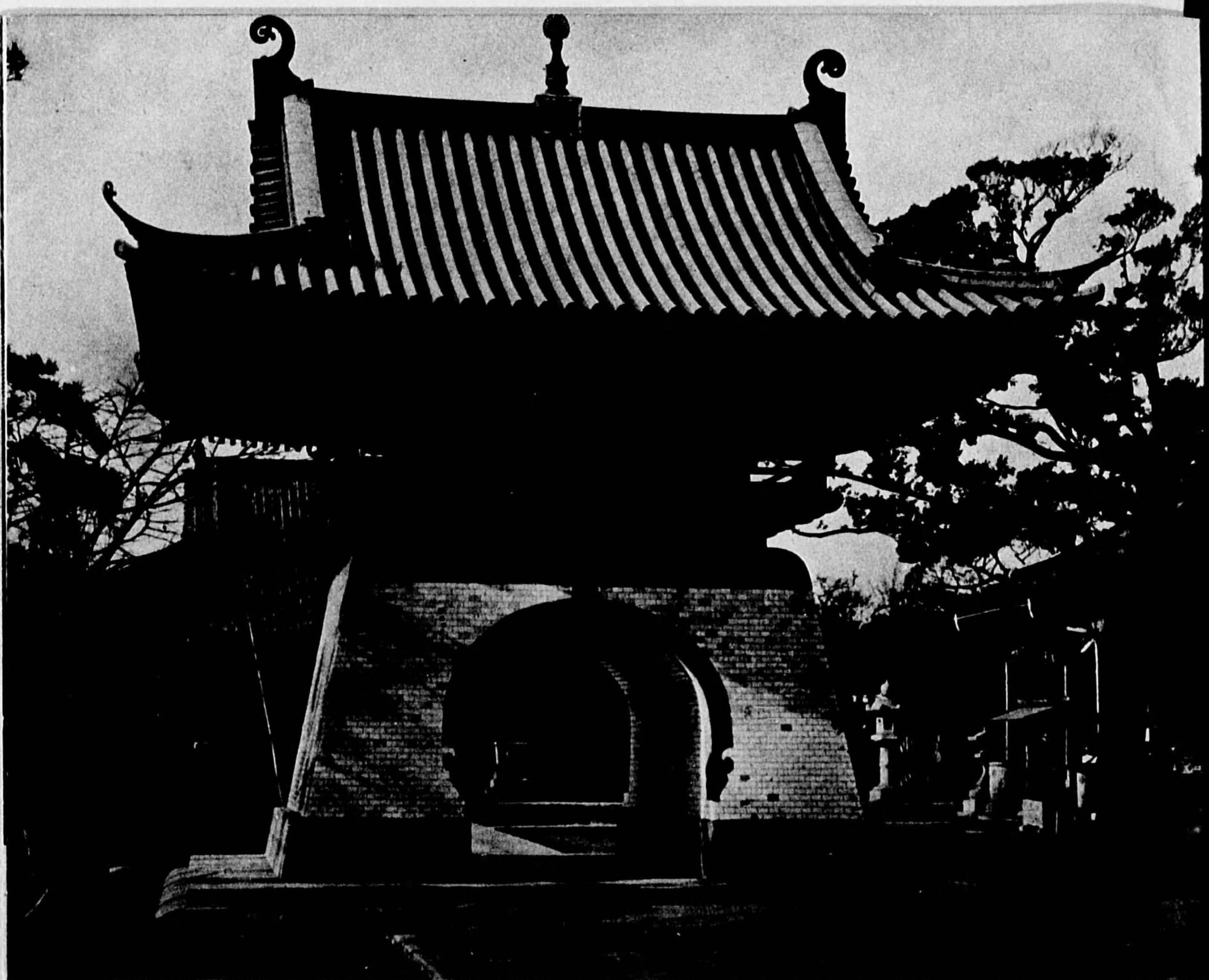
(筆自土博) 圖 面 立

堂 本 寺 善 明



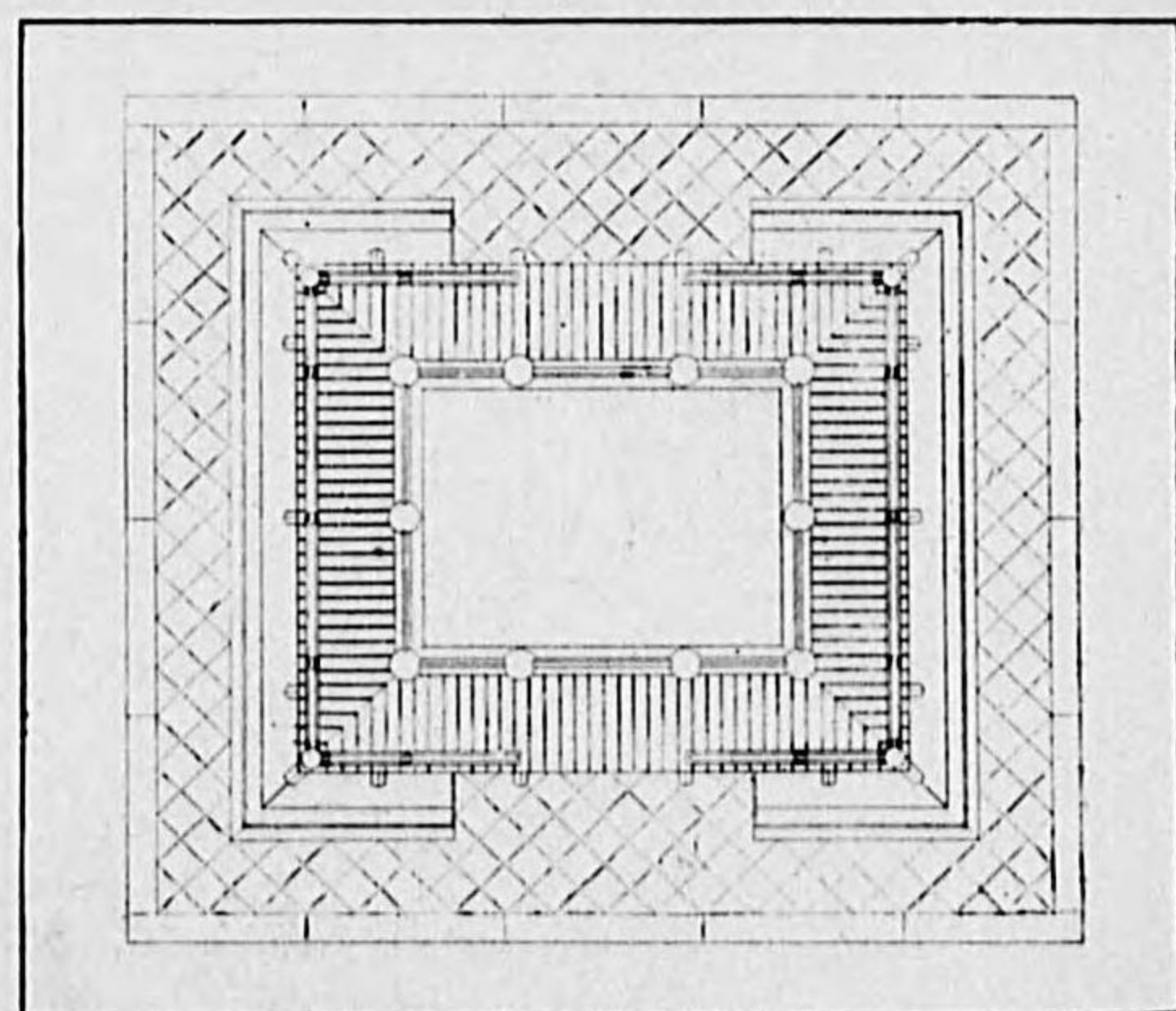
西 正



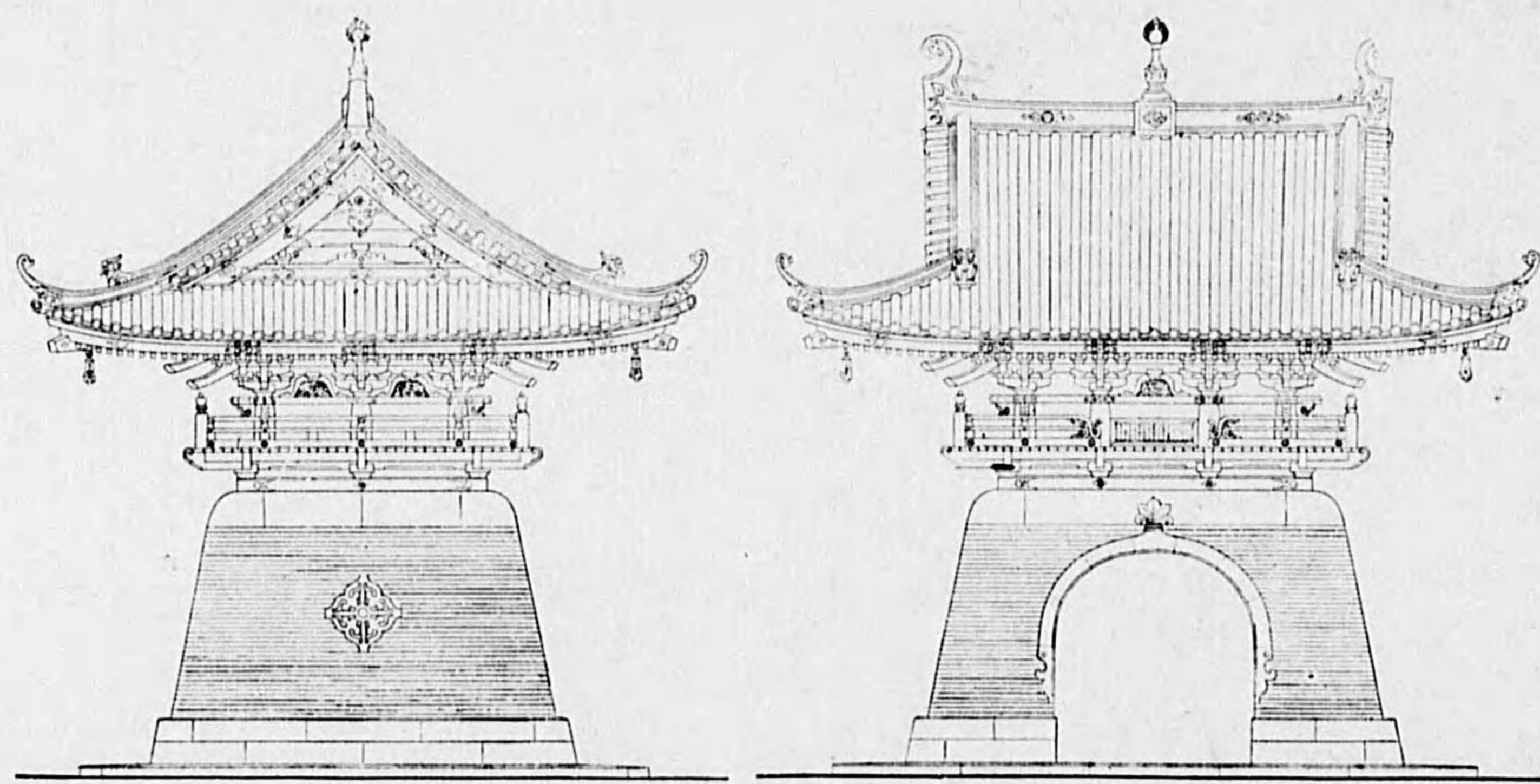


外景

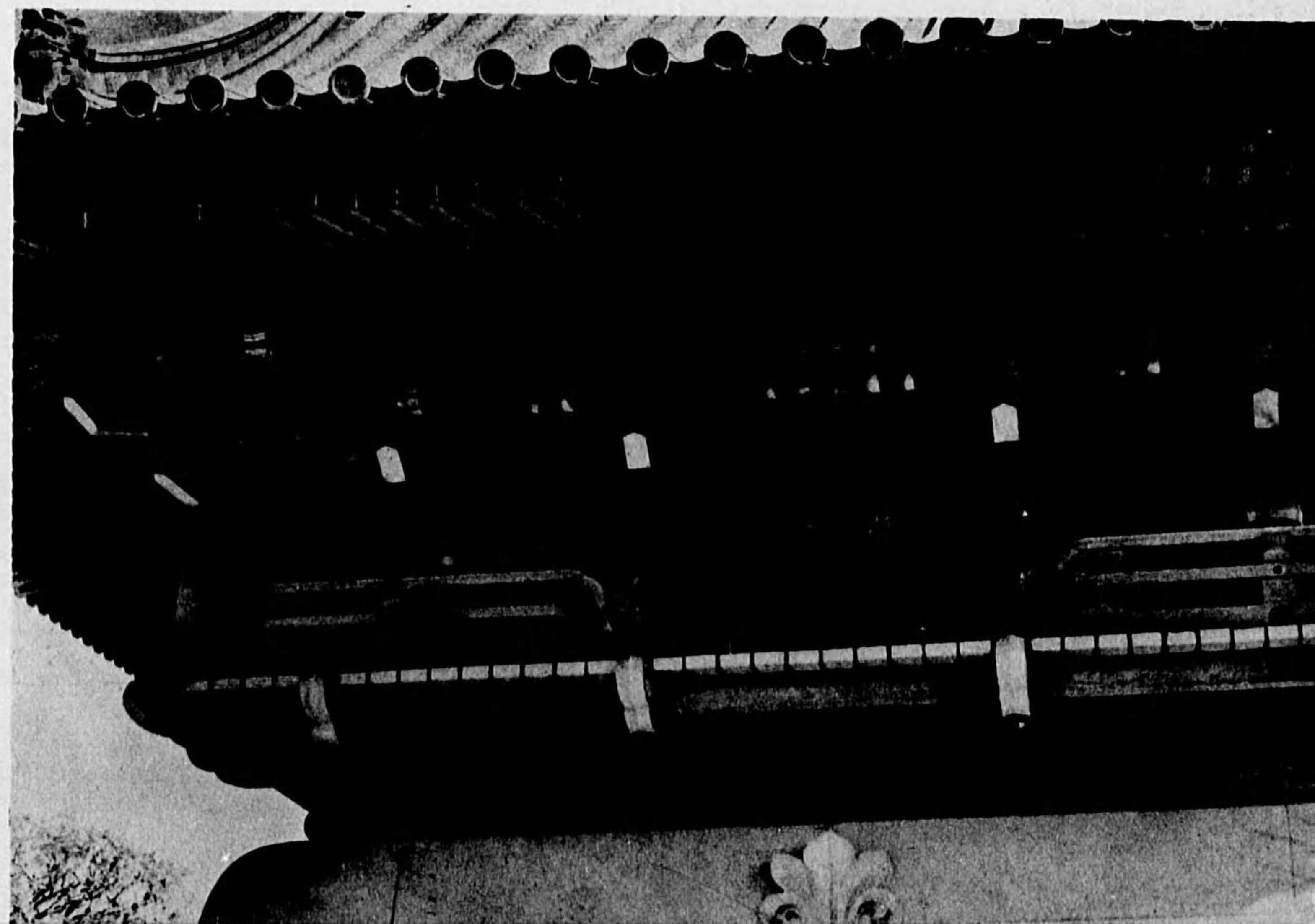
不忍辨天堂天龍門
 起工 大正二年三月
 竣工 大正三年三月
 工費 二萬圓
 主任 金子清吉
 拱門は白タイル及花崗石貼、木部
 は朱漆塗、屋根青銅葺。



平面圖



立面圖

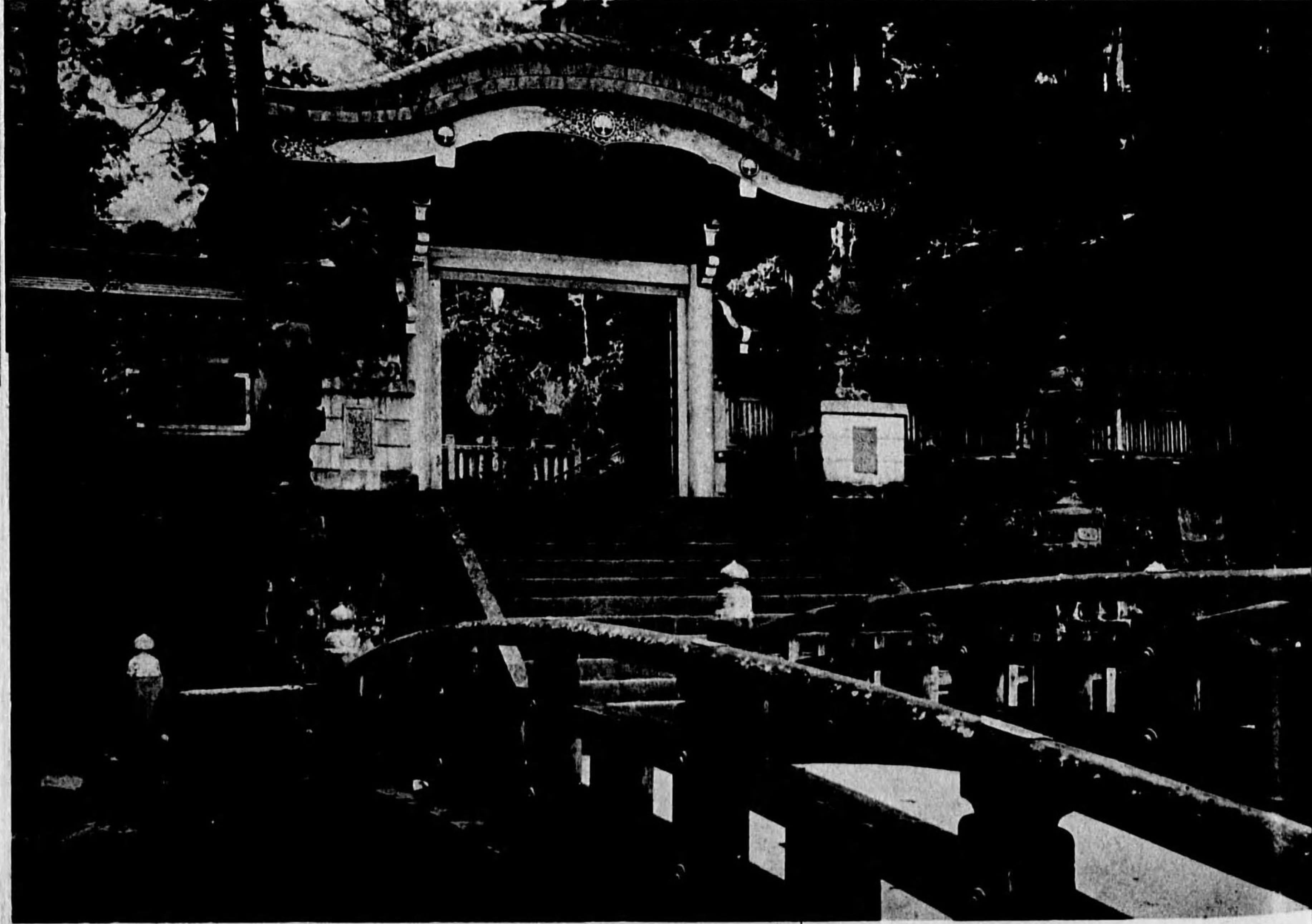


上部詳細

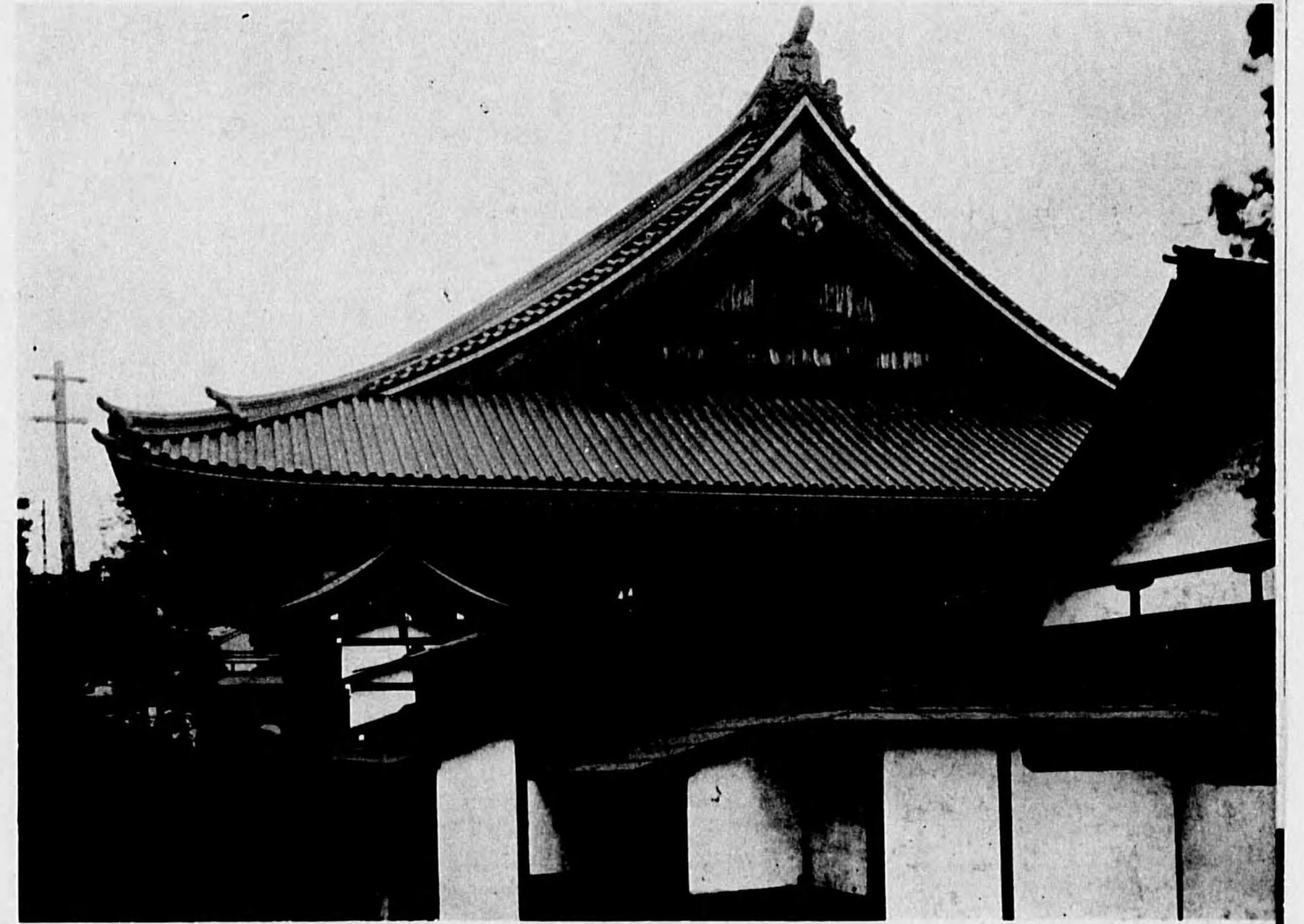
寺 乘 最

中山雄大本關郡上柄足縣川奈神

十成完等門唐・殿真御中のそ りあ等門表・院書大・堂本・堂山開・殿真御に畫計興復の後災罹



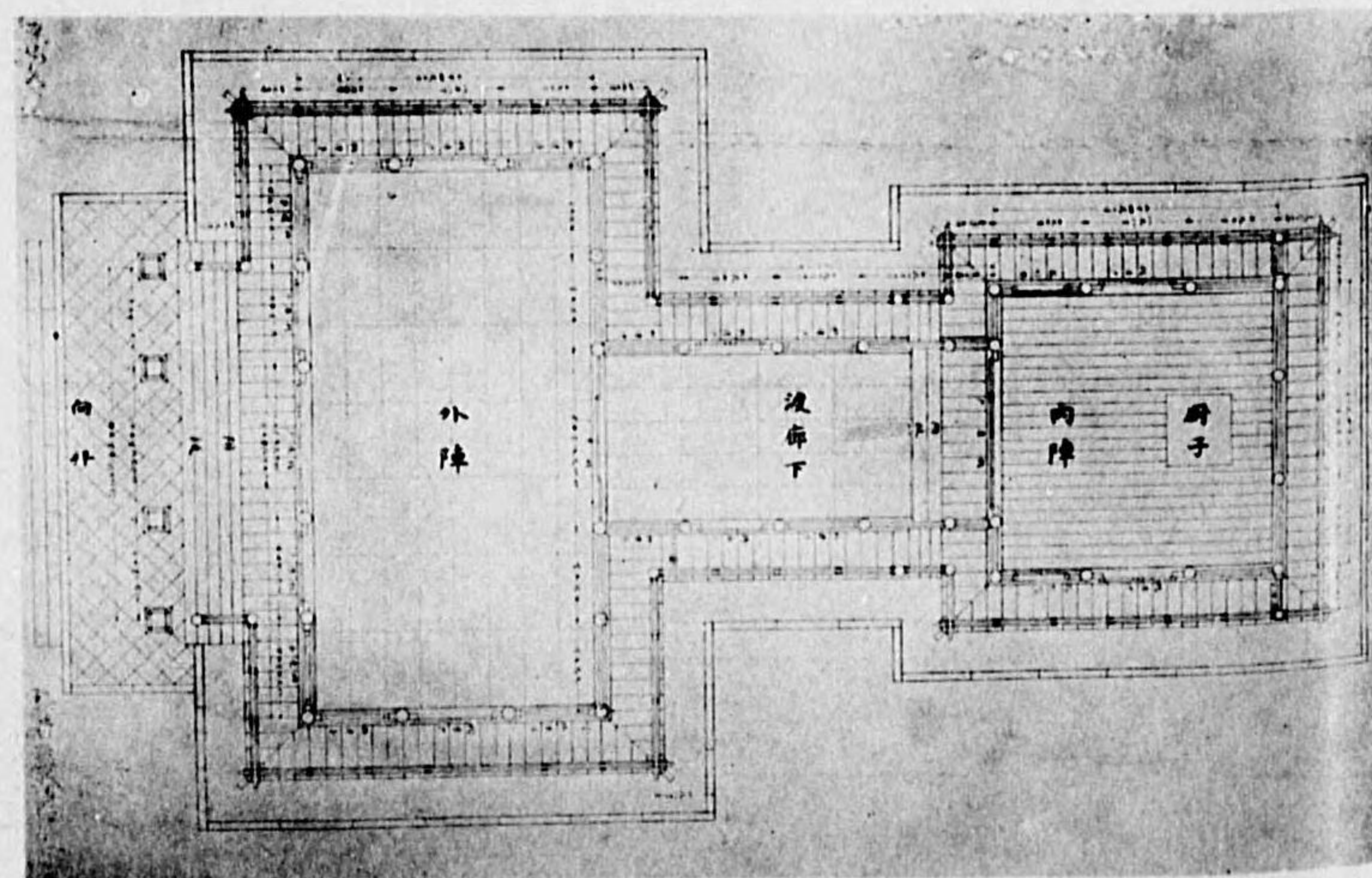
刻彫の氏伸藤内は像の狗天 打具金金鍍 造木茶 欄・堰・門唐



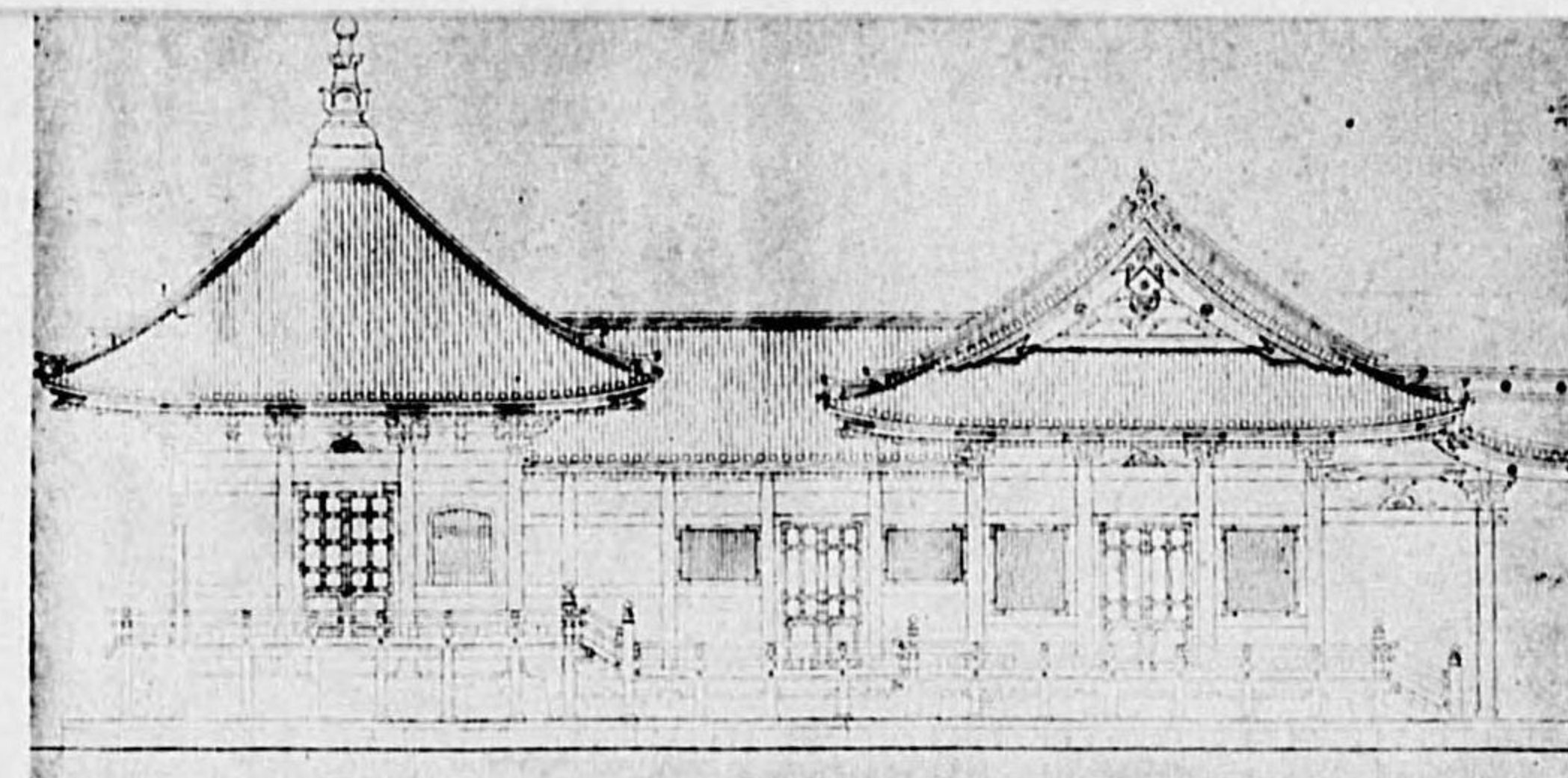
葺板銅根屋 造木素樺 古清子金 任主 年二十和昭工竣 區見鶴市濱橋 堂僧大寺持總



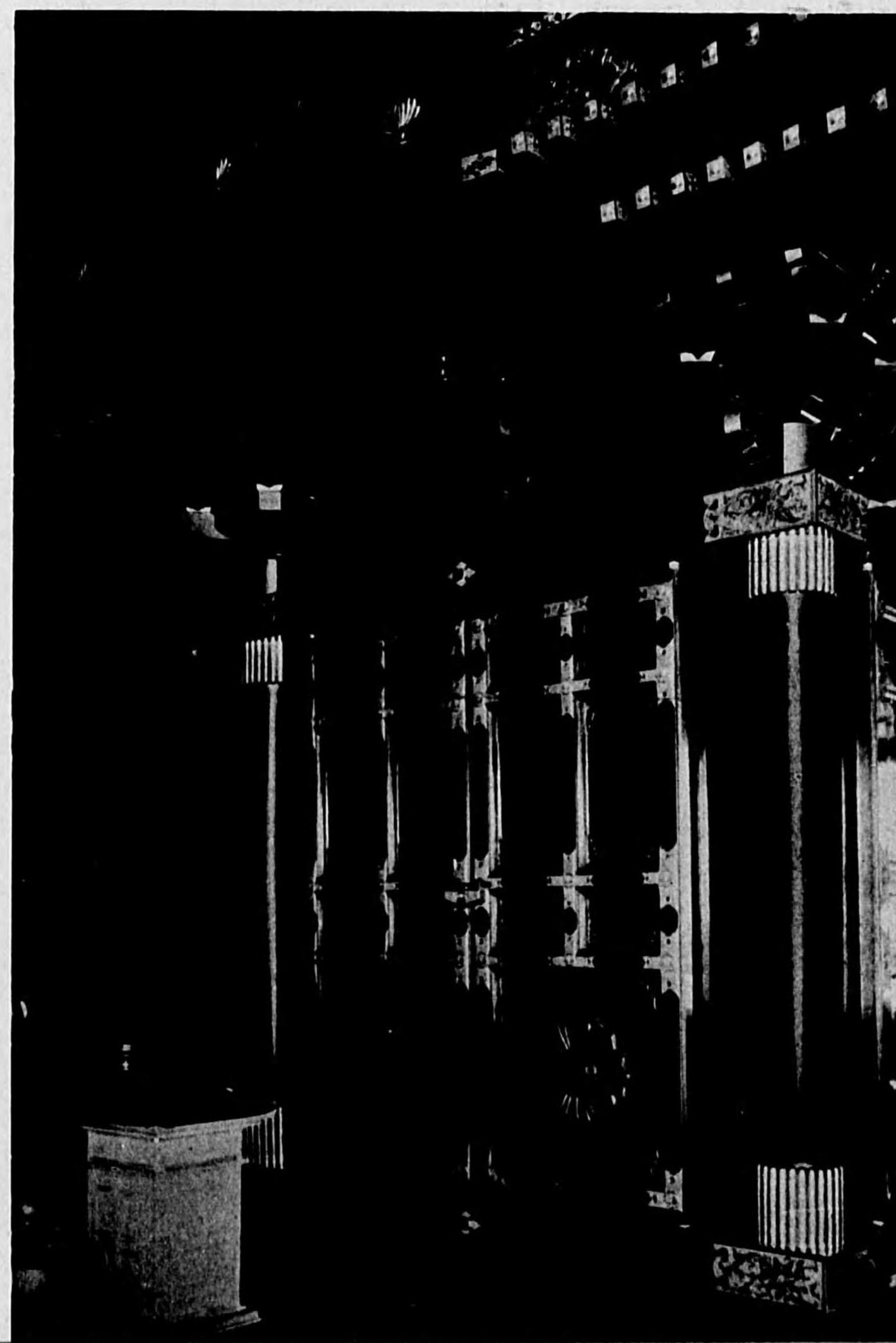
打具金被造木素樺 殿 眞 御



御眞殿平面圖

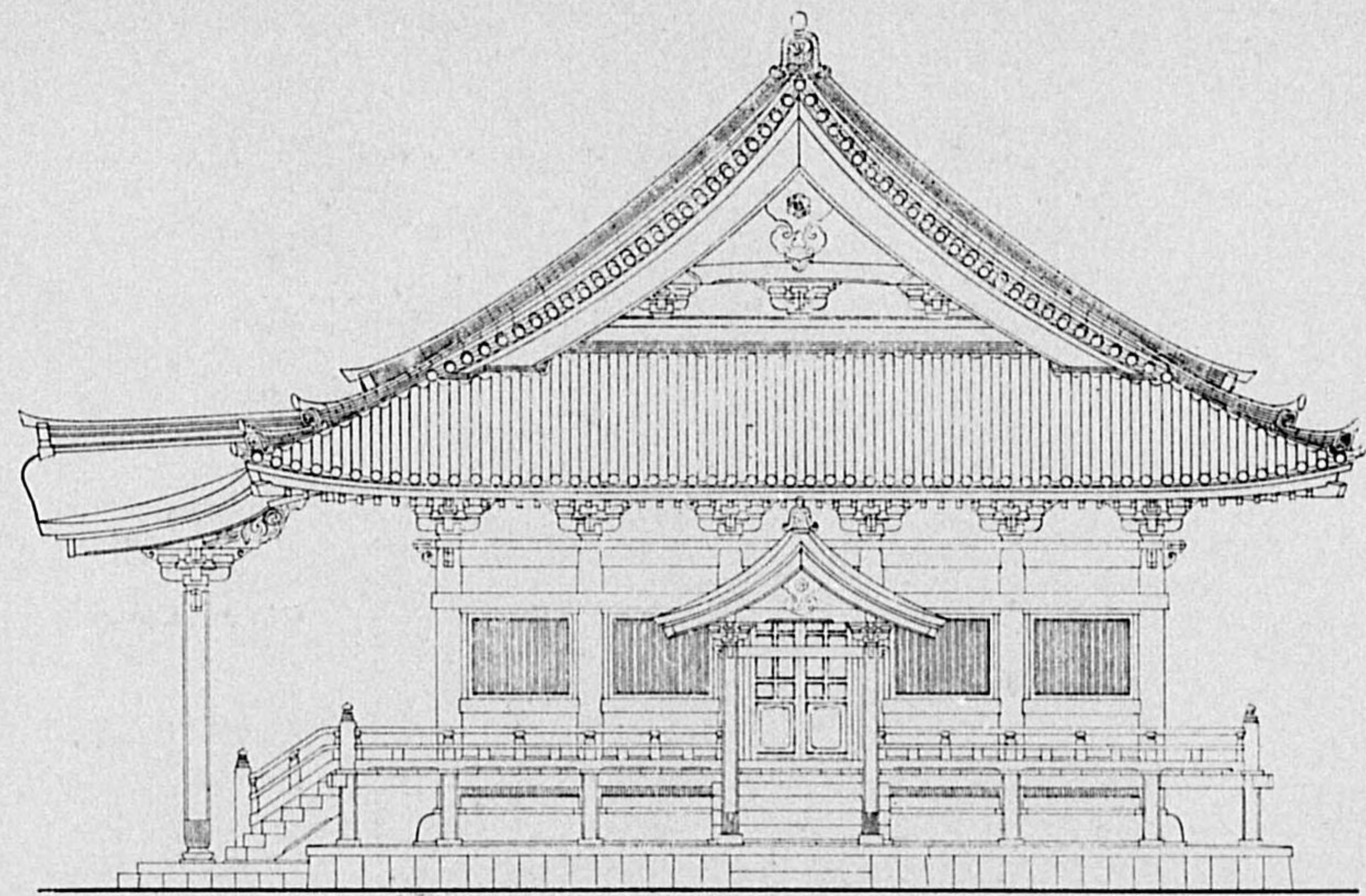


御眞殿側面圖

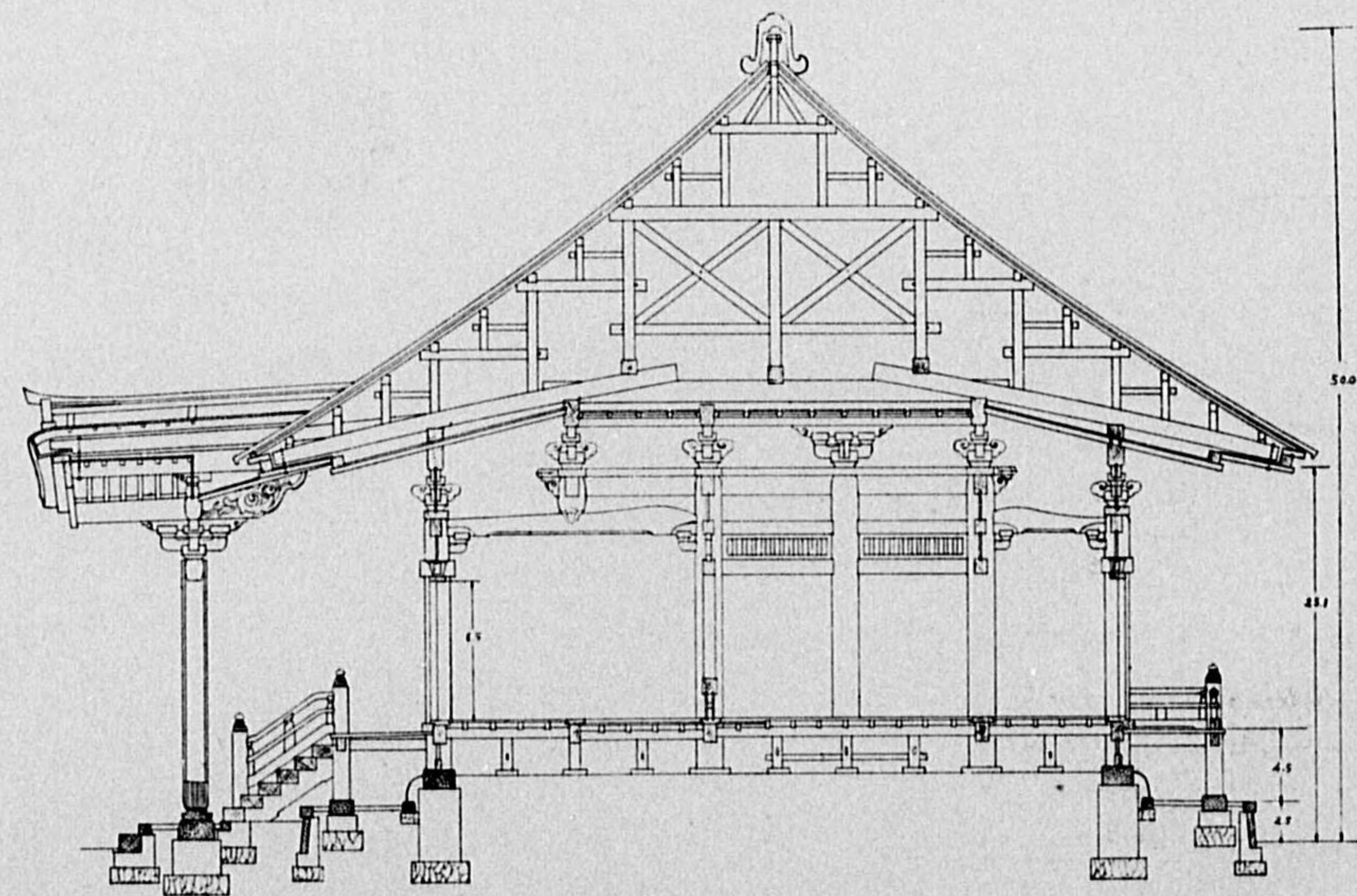


御眞殿内陣厨子

呂色漆喰 鍍金具打
地鎮祭 昭和四年六月十五日
起工式 同 五年七月十日
上棟式 同 七年十月二十一日
竣工 落慶式 同 九年四月二十一日
總工費 三九四〇一六圓
設計 伊東博士
監督 金子清吉
棟梁 加納茂一

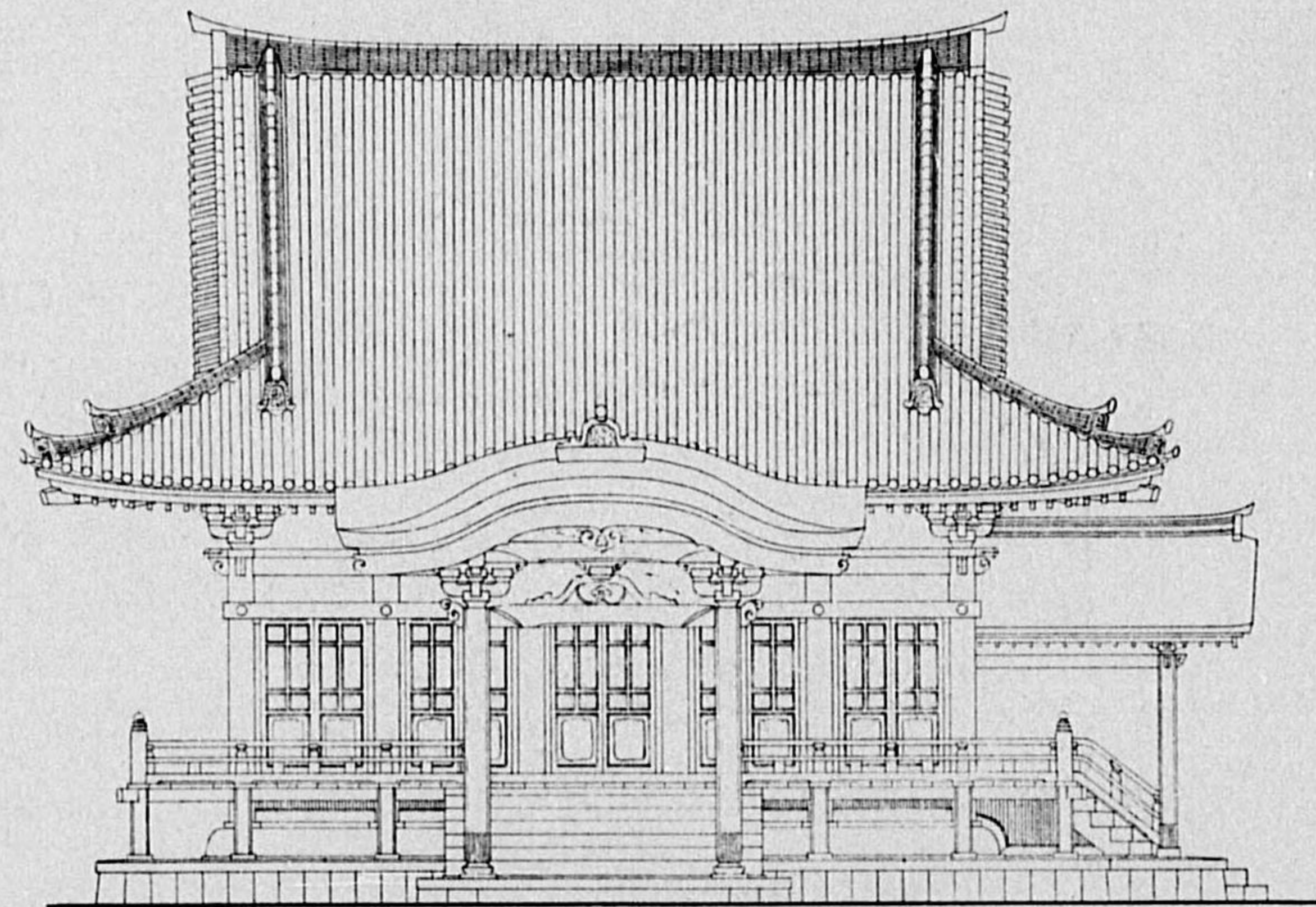


0 10 20 30 40 ■ ■ ■

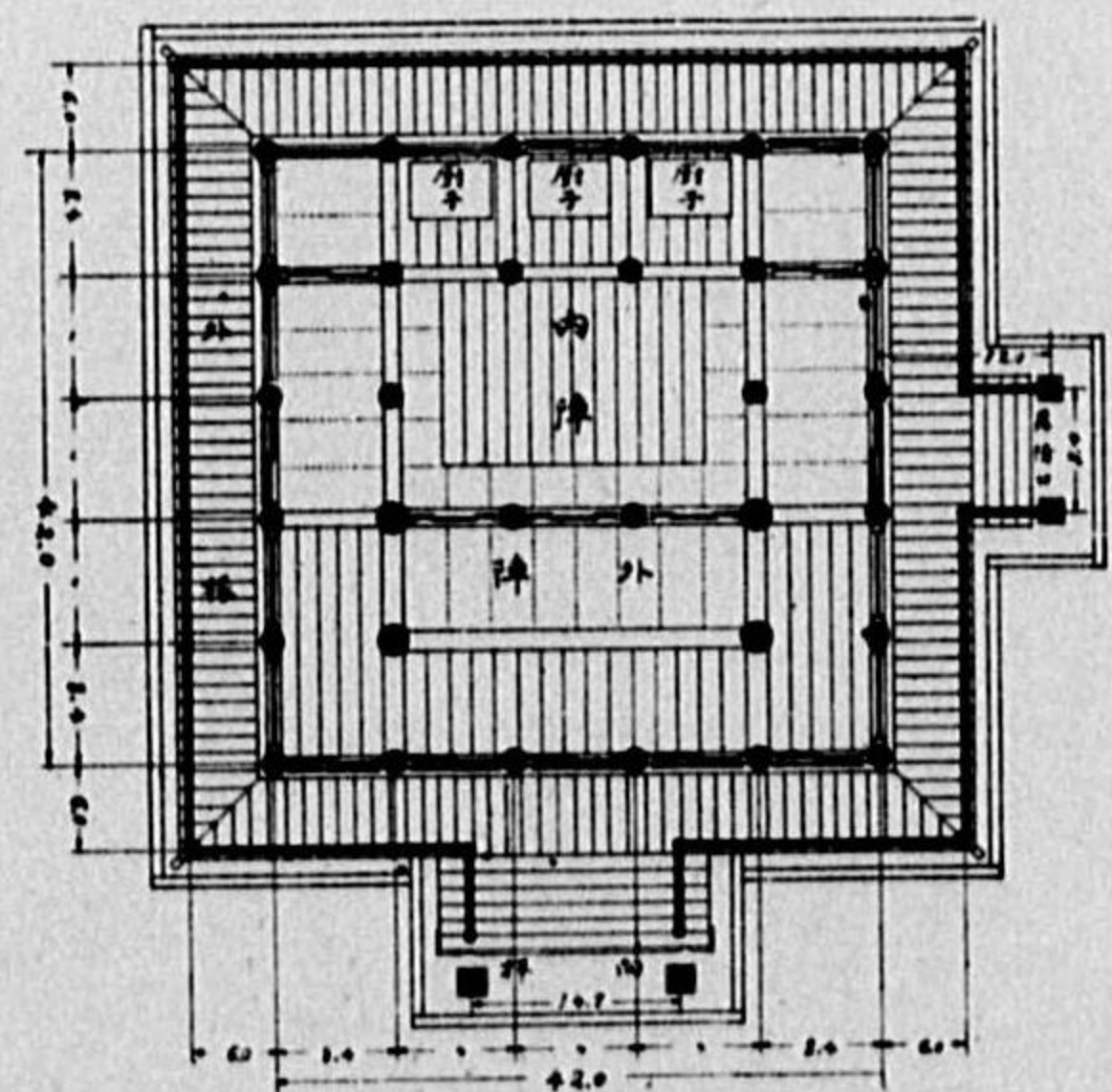


0 10 20 30 40 ■ ■ ■

普光寺毘沙門堂
新潟縣南魚沼郡蒲佐村大字蒲佐
昭和十二年竣工 素木造 主任 金子清吉



0 10 20 30 40 ■ ■ ■



家
25.0x35.0
20.0x35.0
10.0x35.0
10.0x35.0

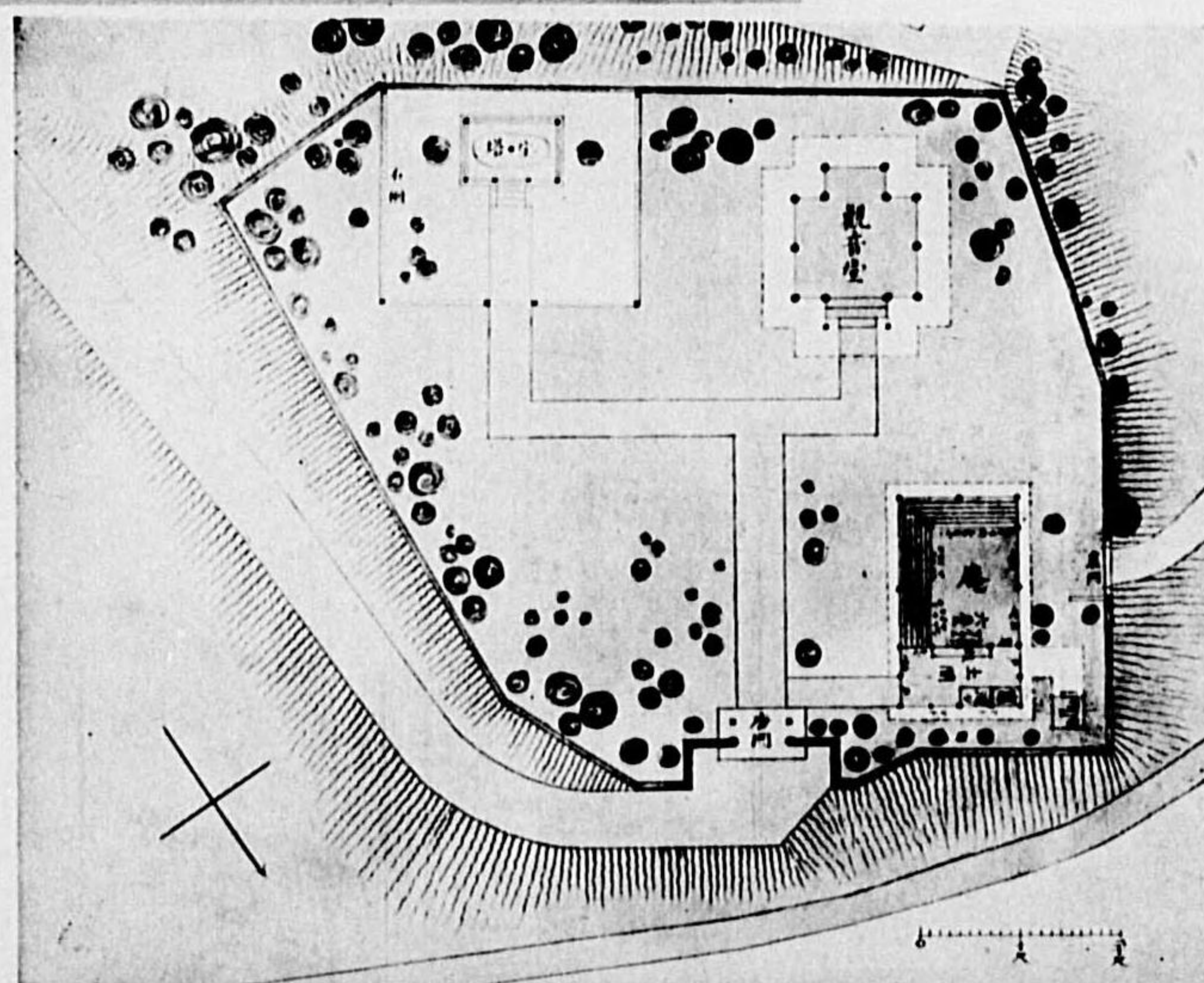
0 10 20 30

■ ■ ■



観音堂

大正三年頃竣工
大正府内郡上村



配置圖 (博士自筆)



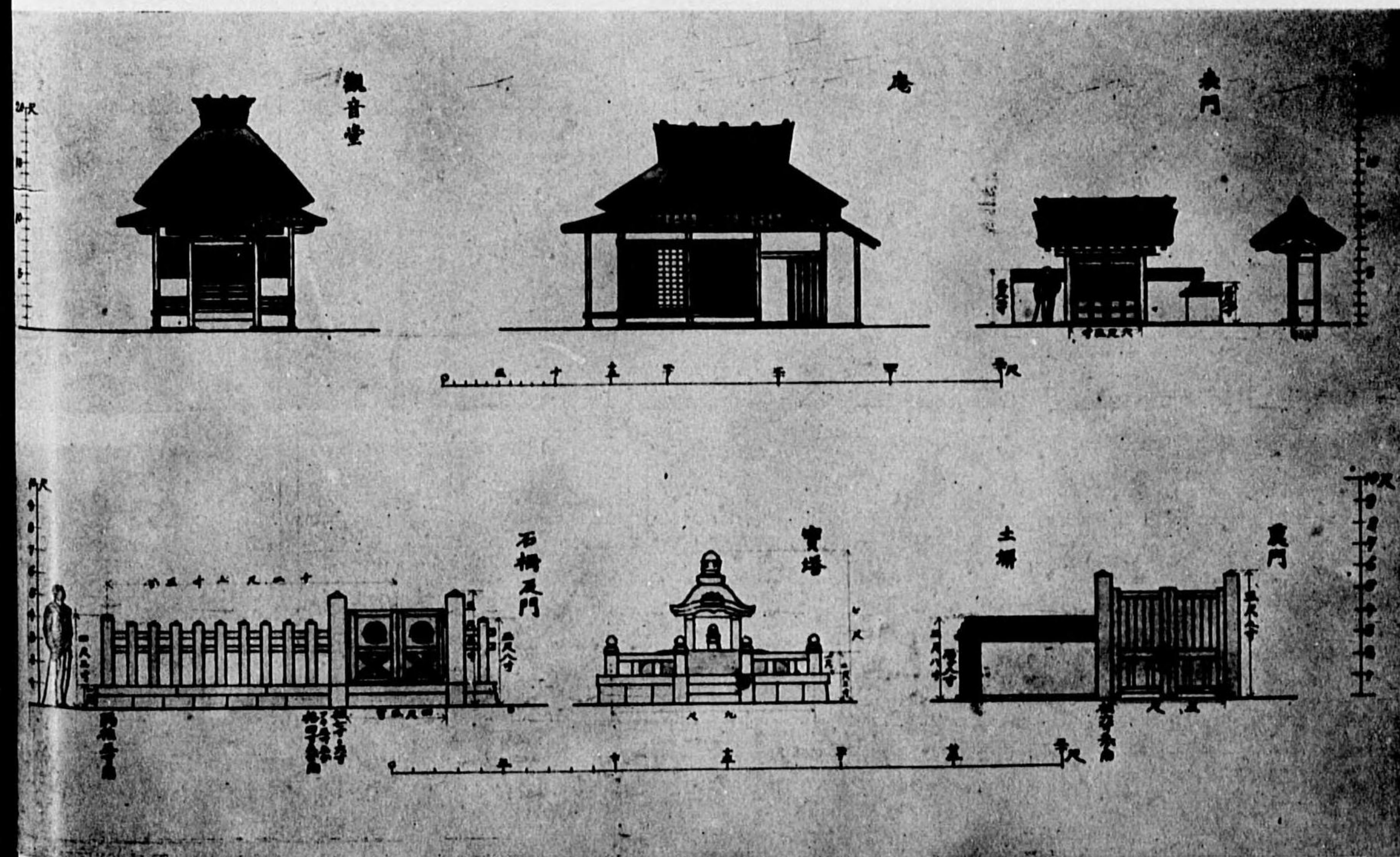
燈籠所



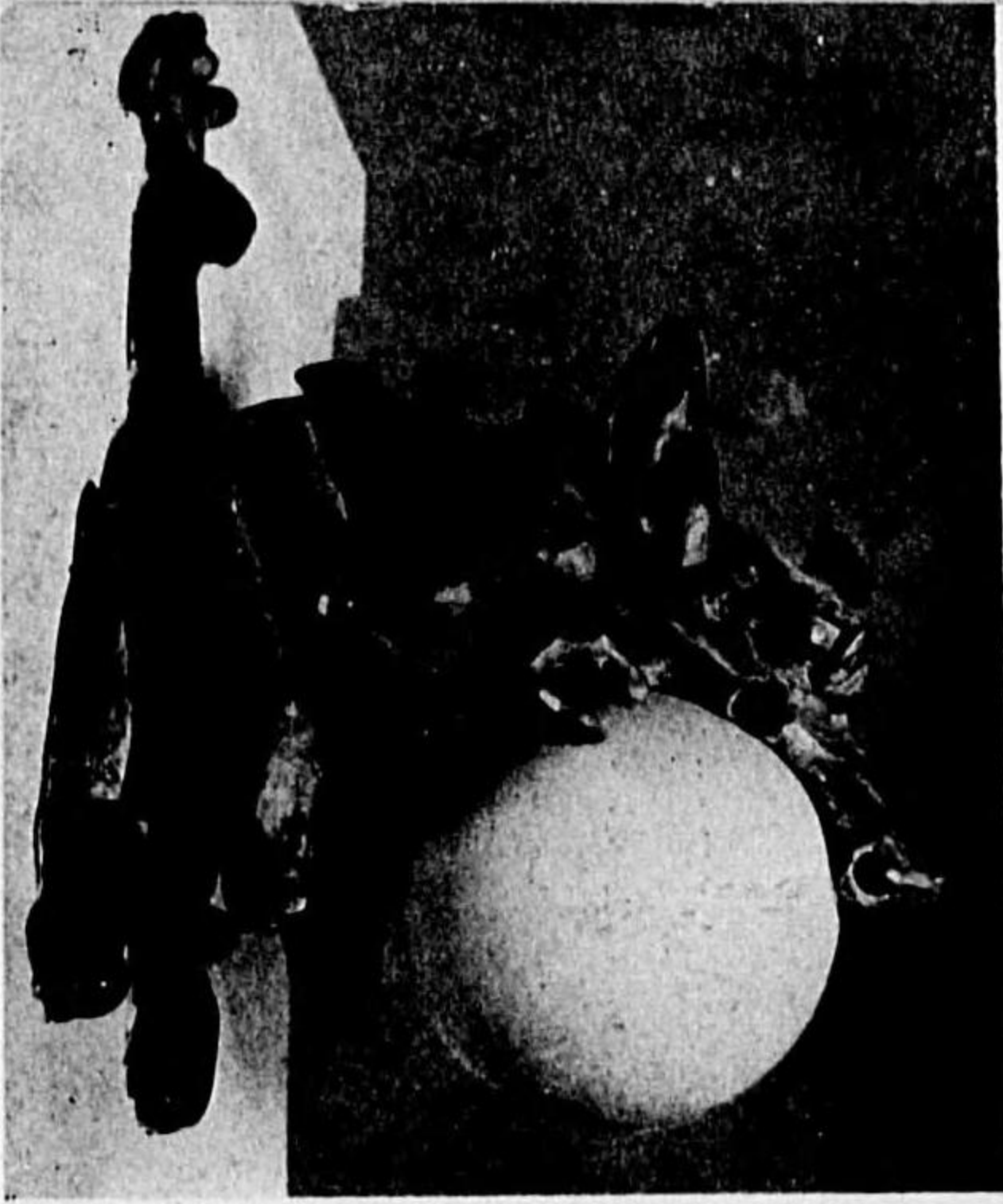
燈籠所

補正夫人晚樓の再興せよるもの

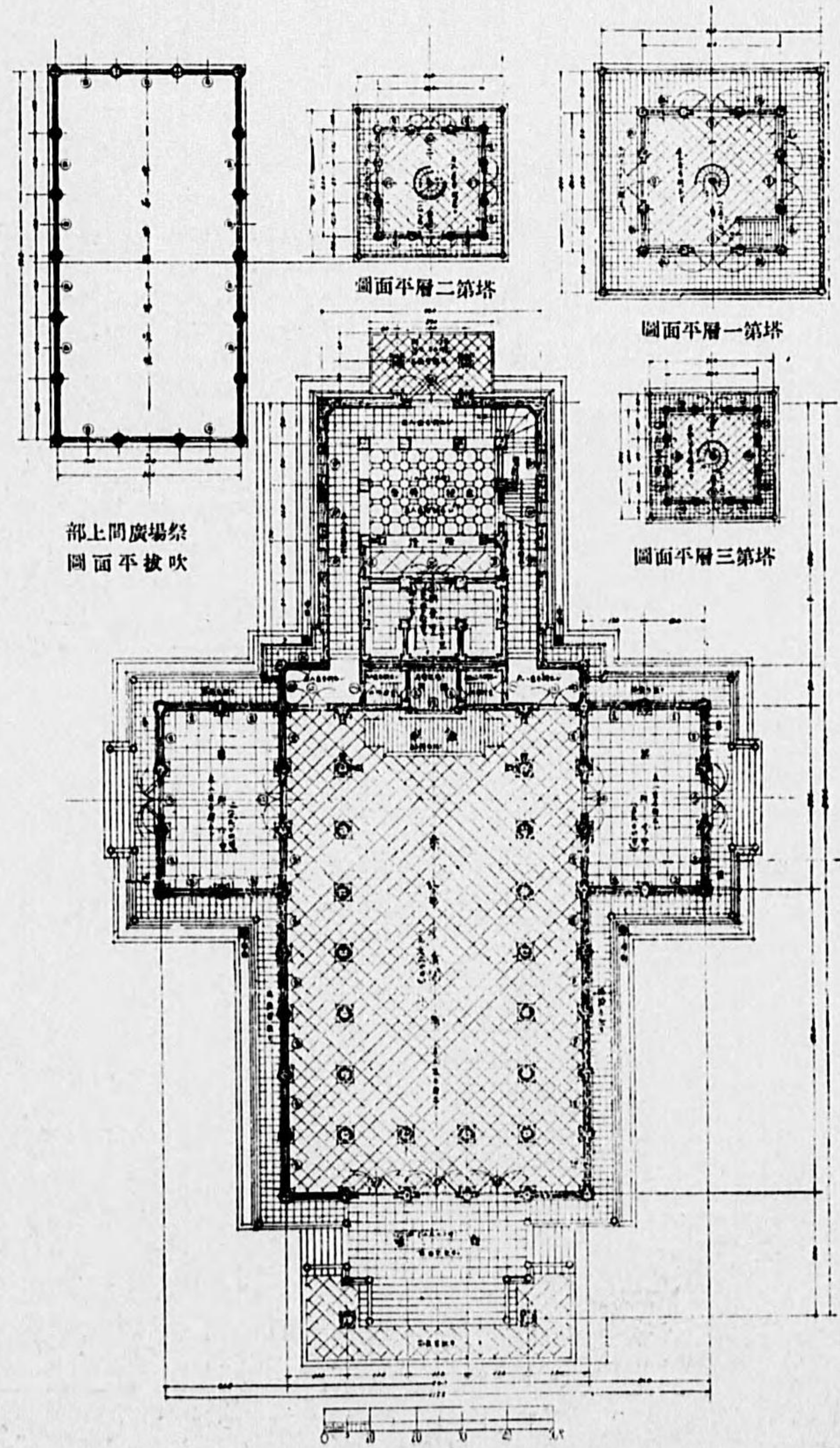
設計圖 (博士自筆)



堂念記災震

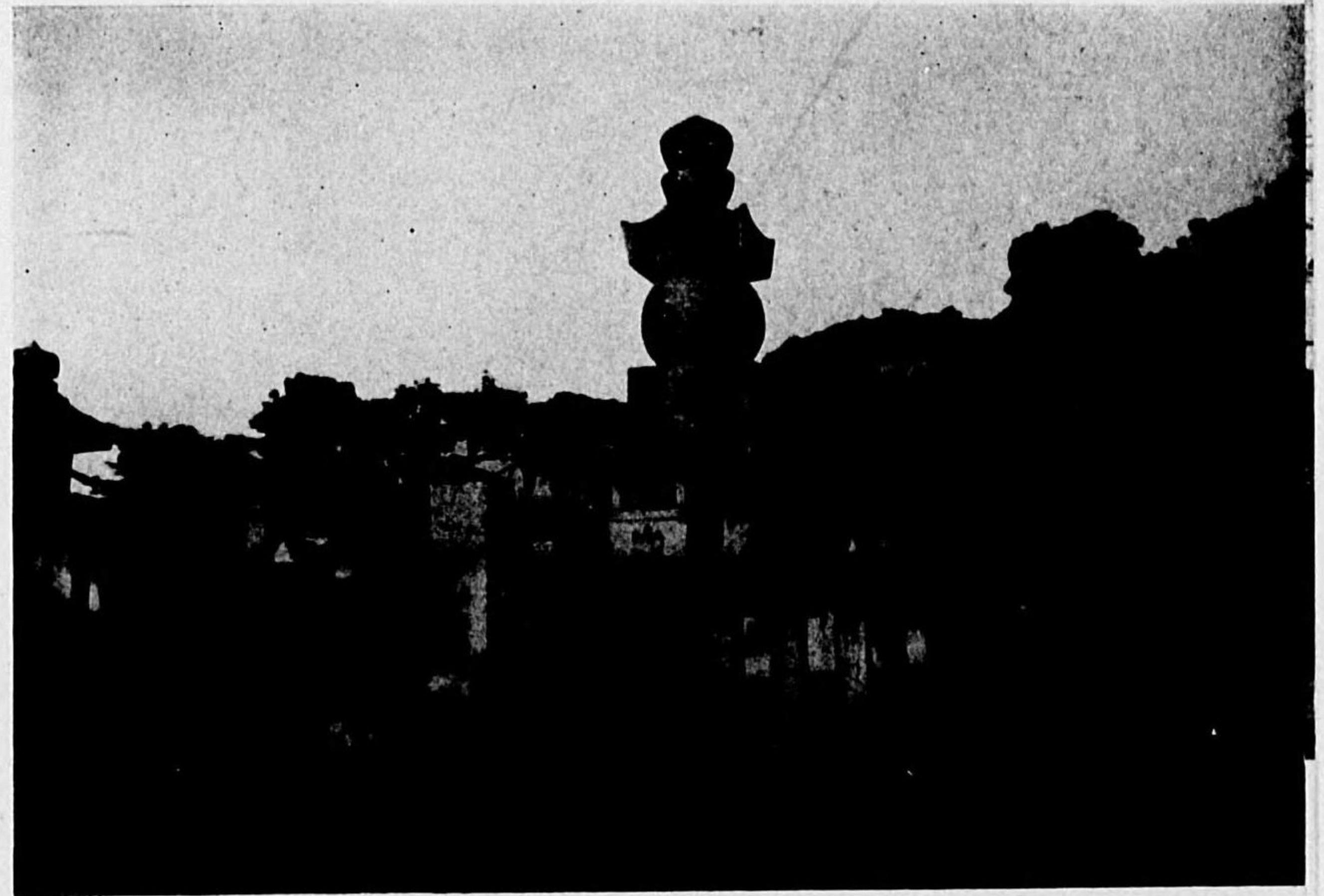


トツケツラフ置控典祭



圖面平層一第

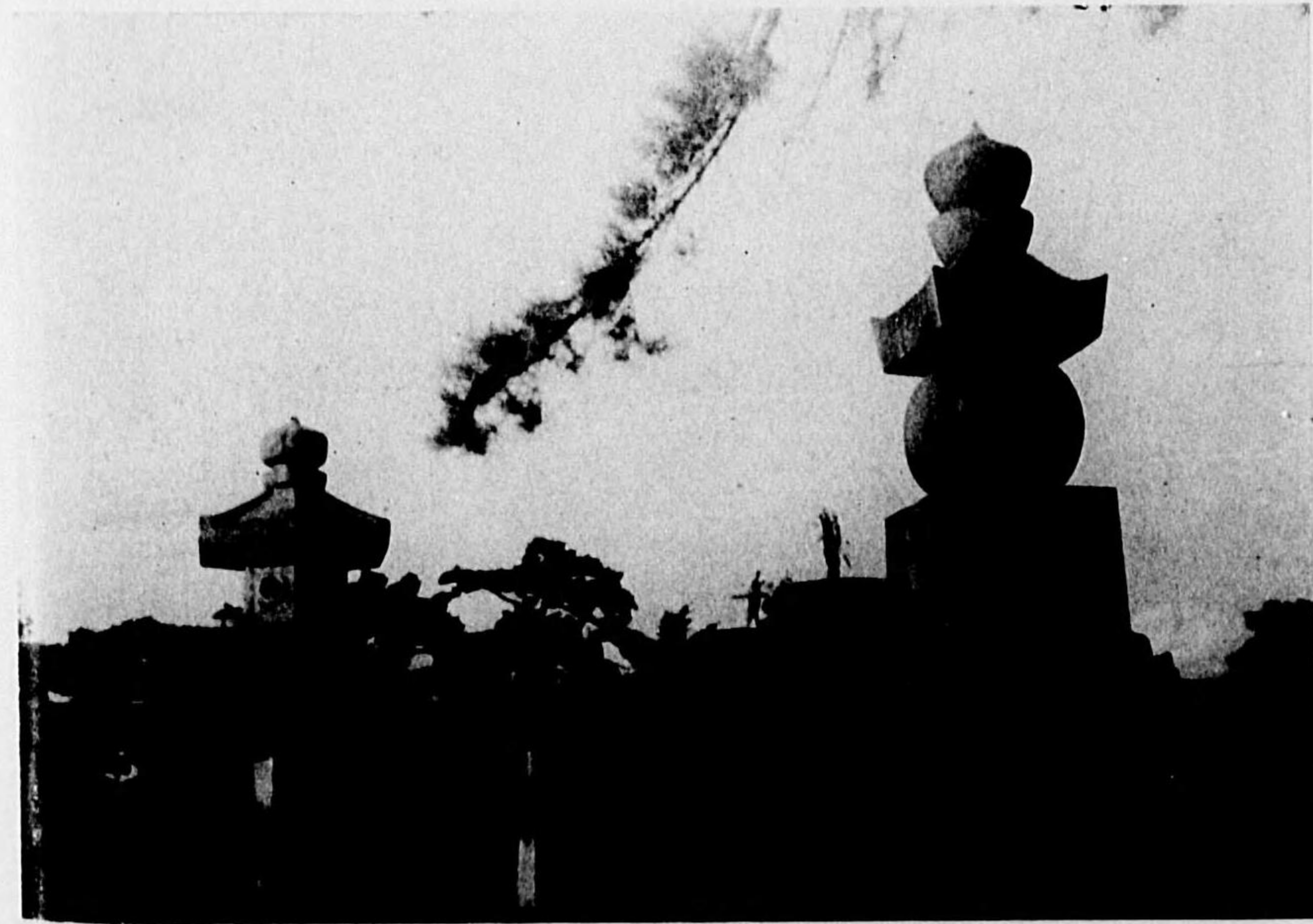
東京市本所區構綱
 建設者 財團法人東京震災記念事業會
 起工 昭和三年六月八日
 竣工 昭和五年八月三十一日
 敷地面積五九二二坪八一
 建築面積三七七坪六三 延坪四二八坪四四
 本堂棟高六九尺 塔高一三五尺
 顧問・設計並監督 工學博士伊東忠太
 顧問 工學博士塚本 靖
 同 工學博士佐野利器
 同 工學博士佐藤功一
 請負 戶田組
 工費 六七三〇〇圓



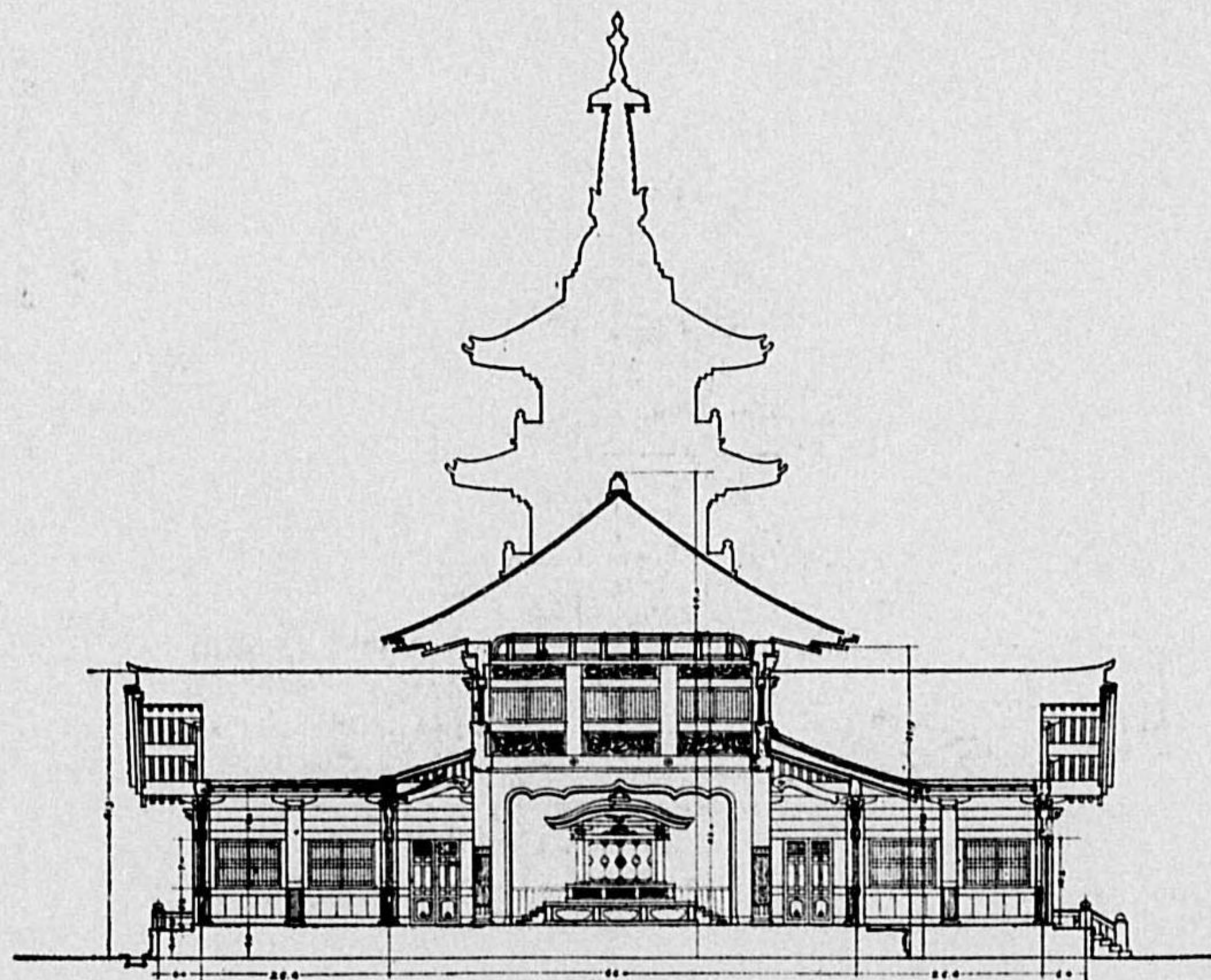
臺國廟

京都市東山區阿彌陀堂頂上
 明治三十一年三月竣工
 五輪堂高さ三丈一尺八寸 花瓶一對及香爐
 共に高さ六尺 皆花園石造 鳥居二基を滑
 り拜殿に達し その背の石階四八九級を
 上りて臺塔に達す

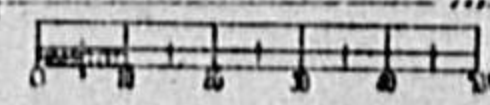
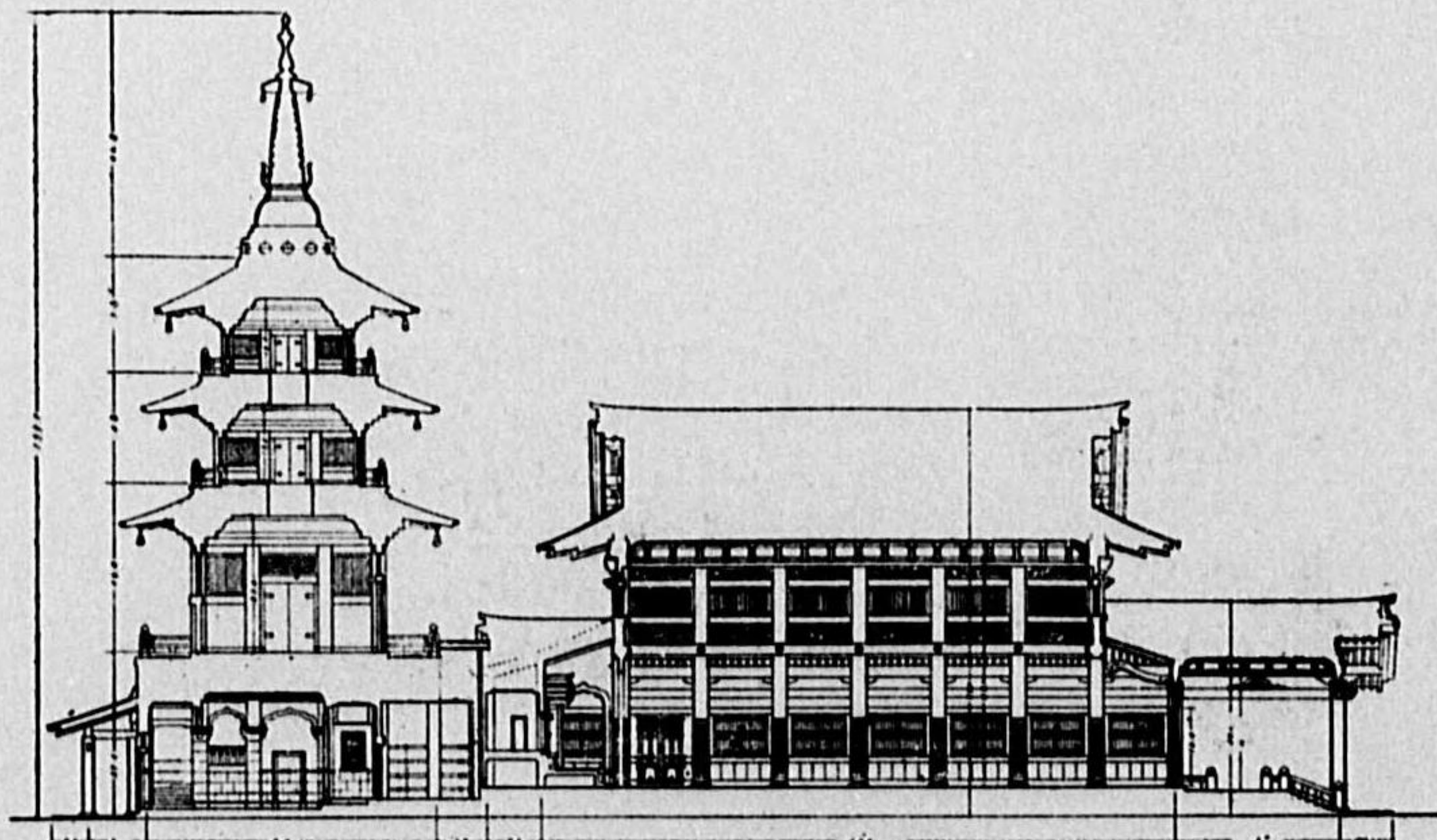
面正



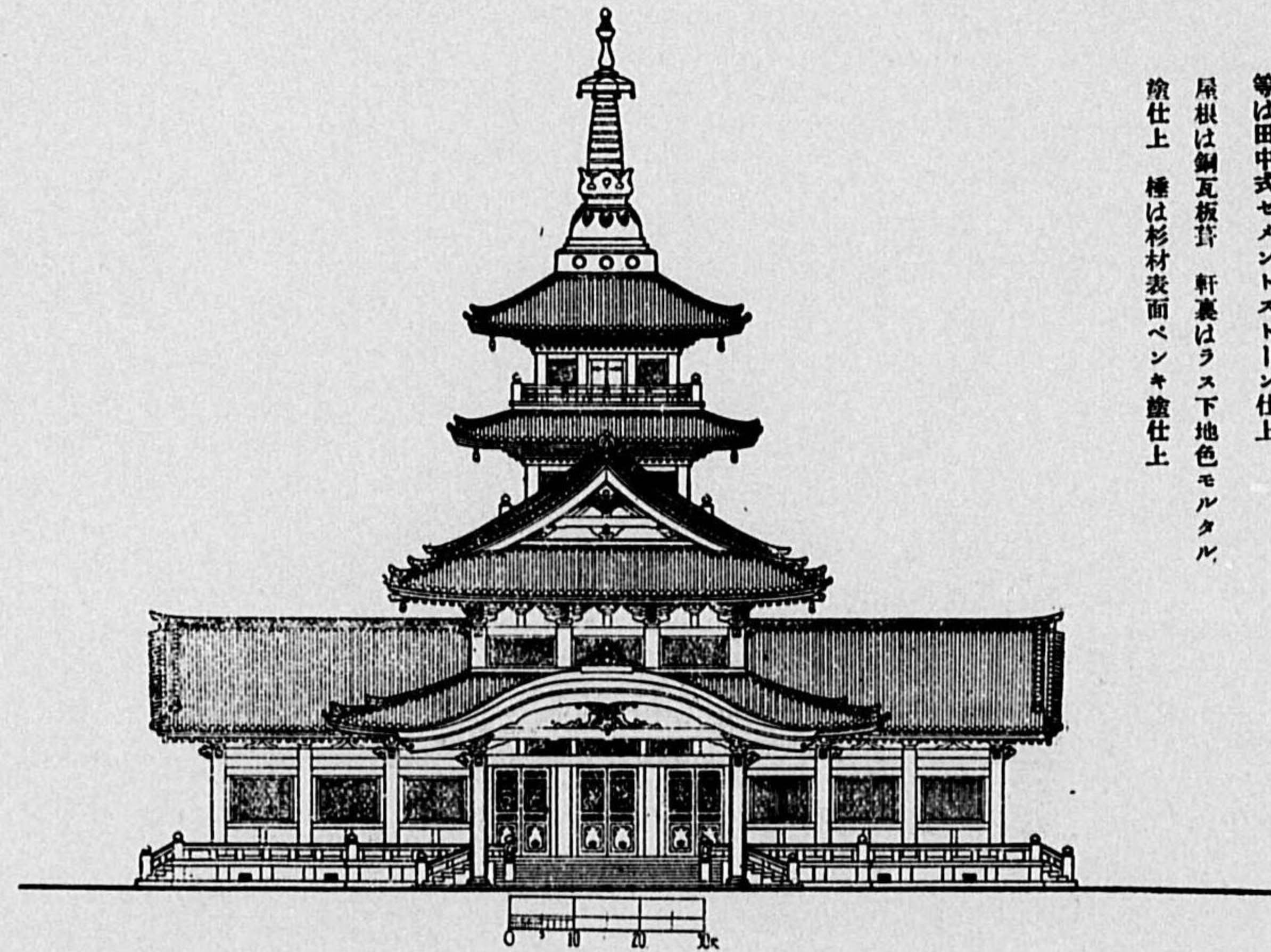
圖面



断面横

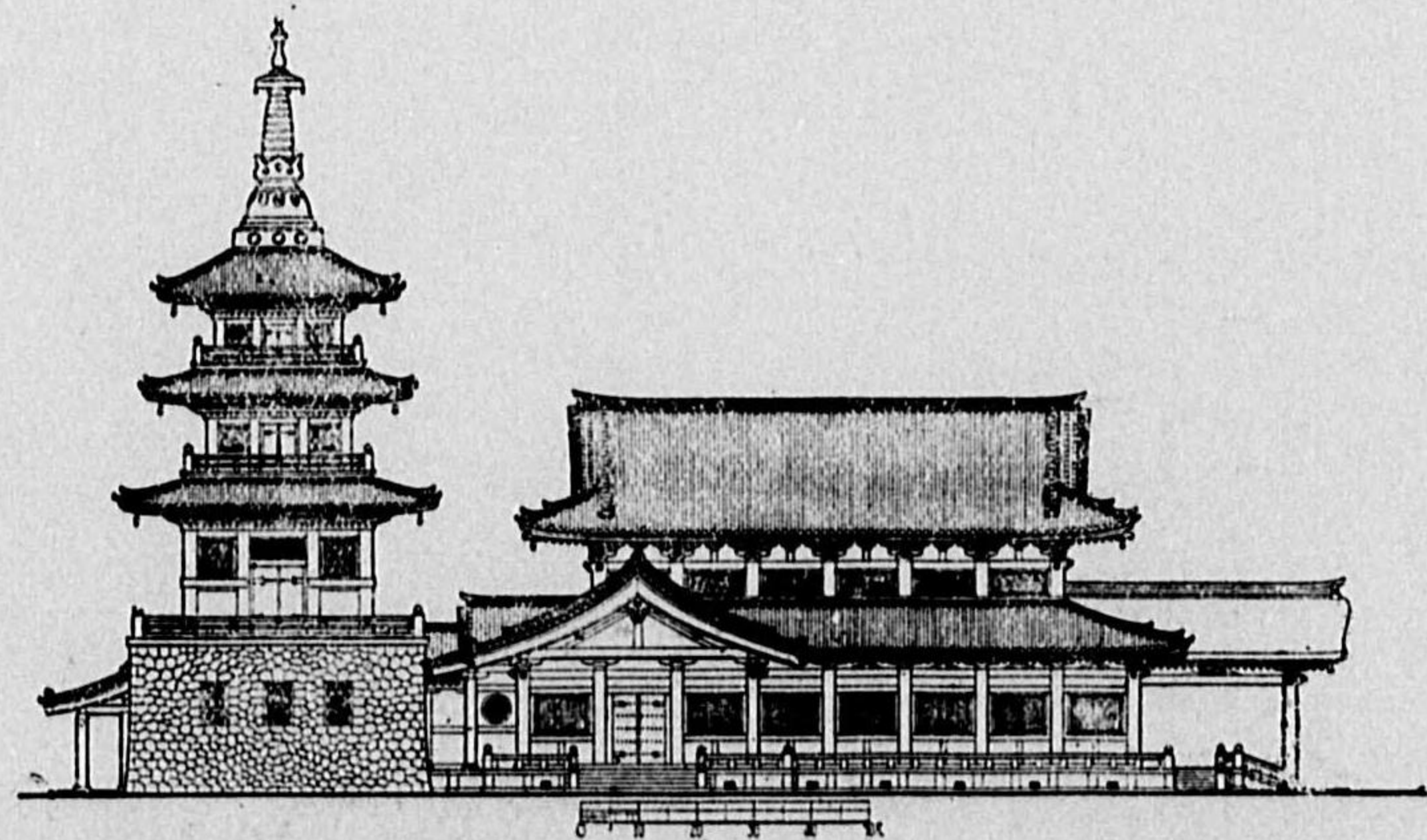


断面縦



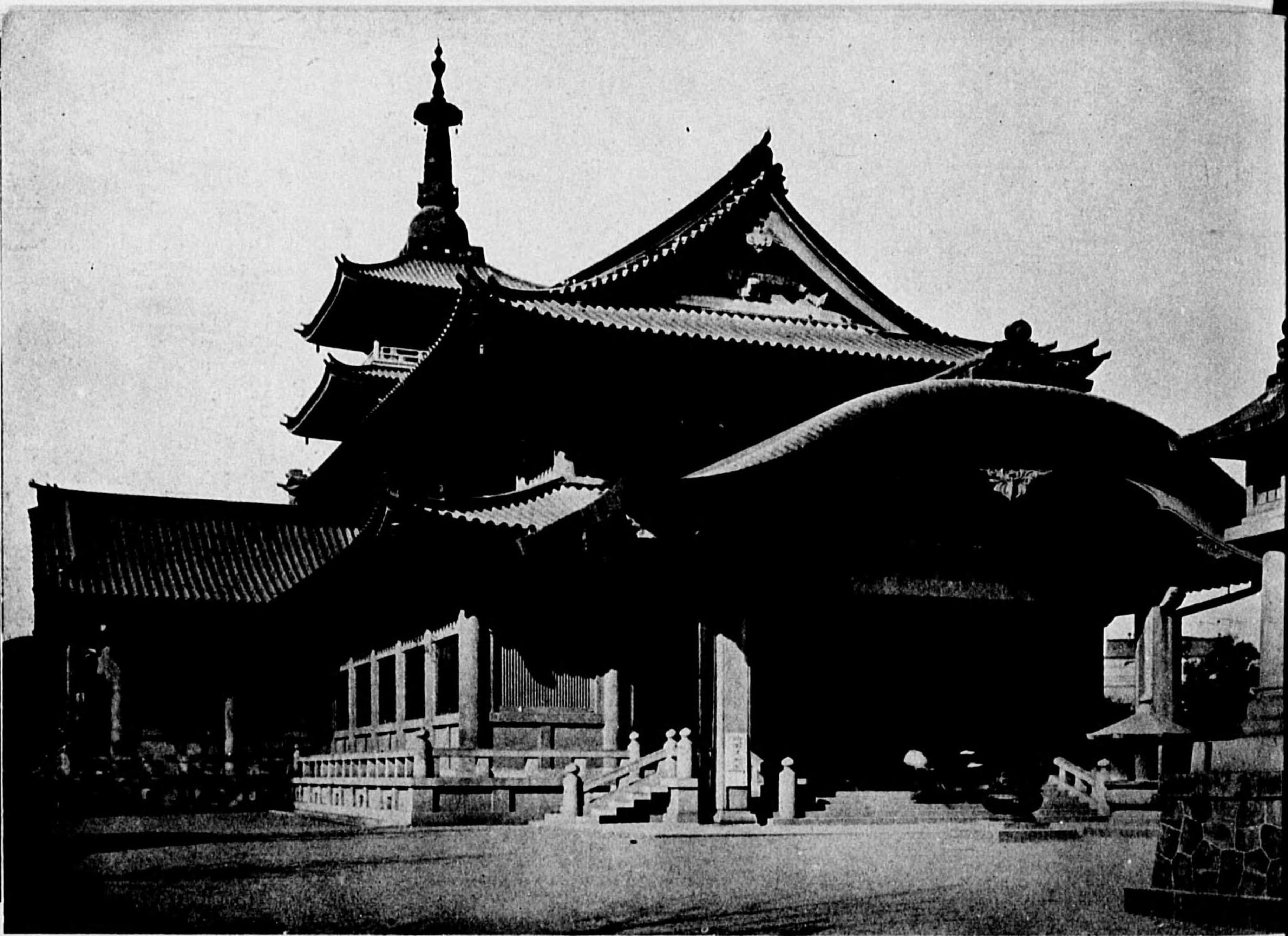
正面

鐵骨鐵筋コンクリート造 基礎及勾欄は古間
石、正面階段石は小御影 柱・桁・壁・斗拱
等は田中式セメントストーン仕上
扉根は銅瓦板葺 軒裏はラステル下地色モルタル
喰仕上 檼は杉材表面ベニヤ喰仕上



側面

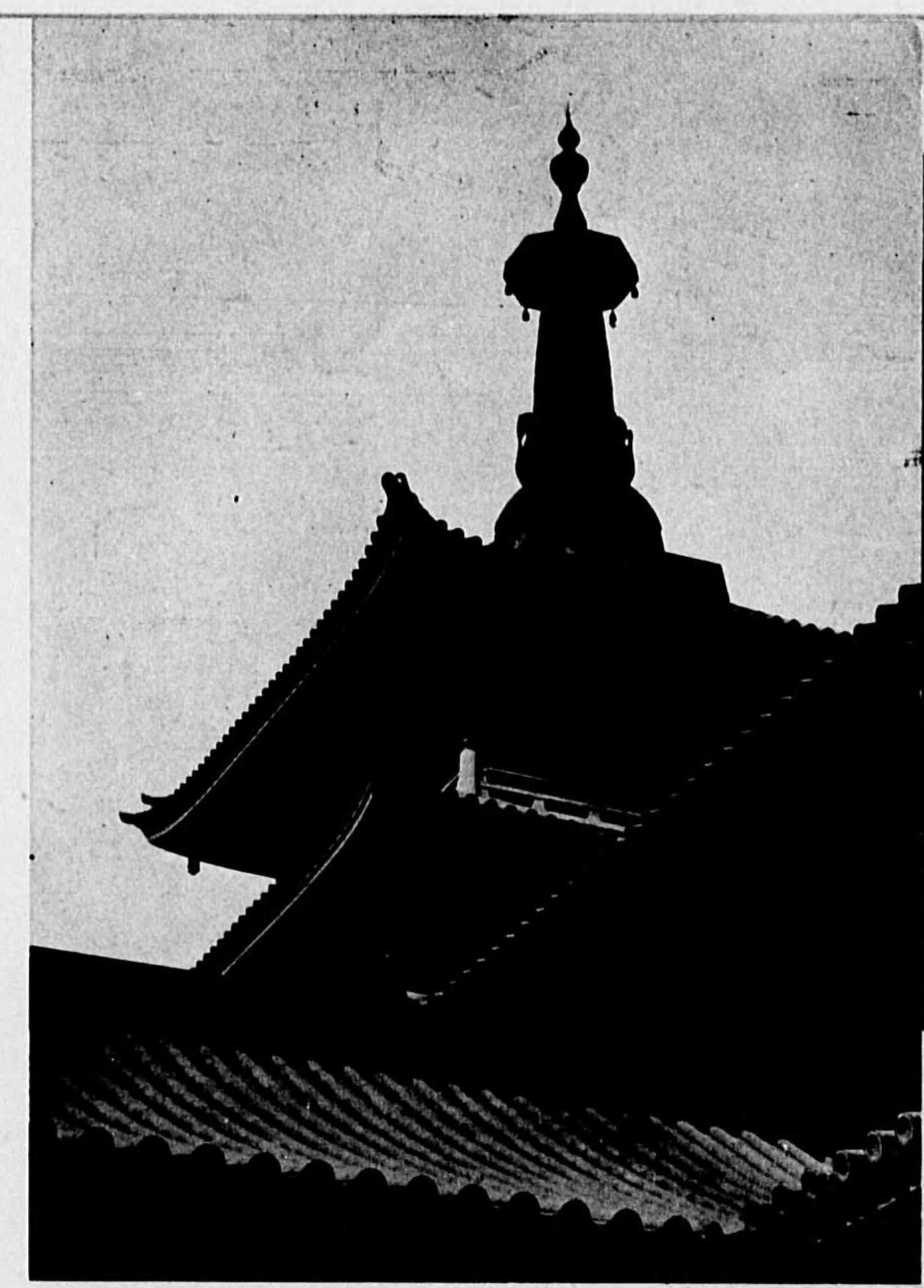
貼ノイタトシメセは縁藩 上仕叩小ソートストシメセは欄勾層各 物給銅青は輪相



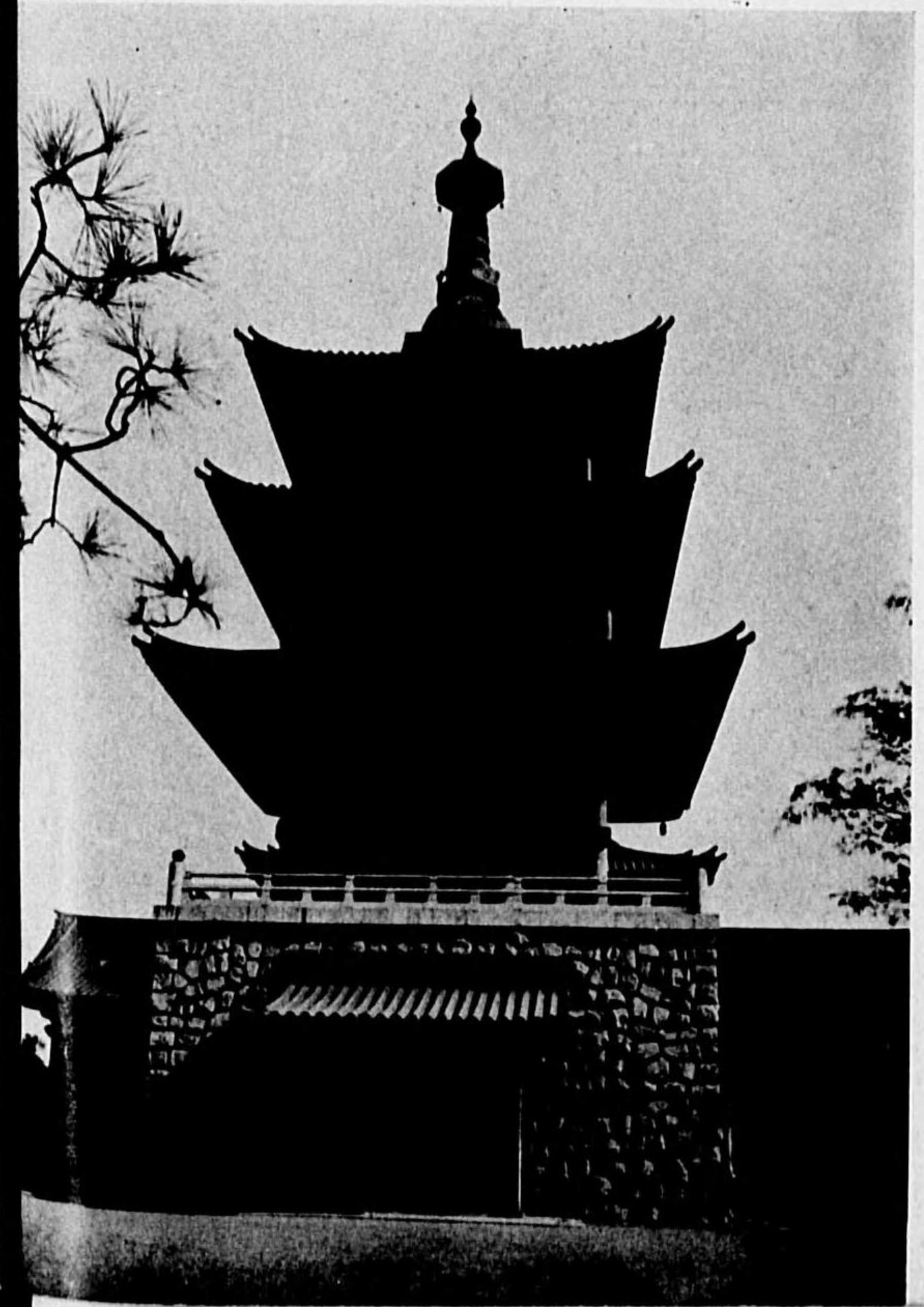
堂 本

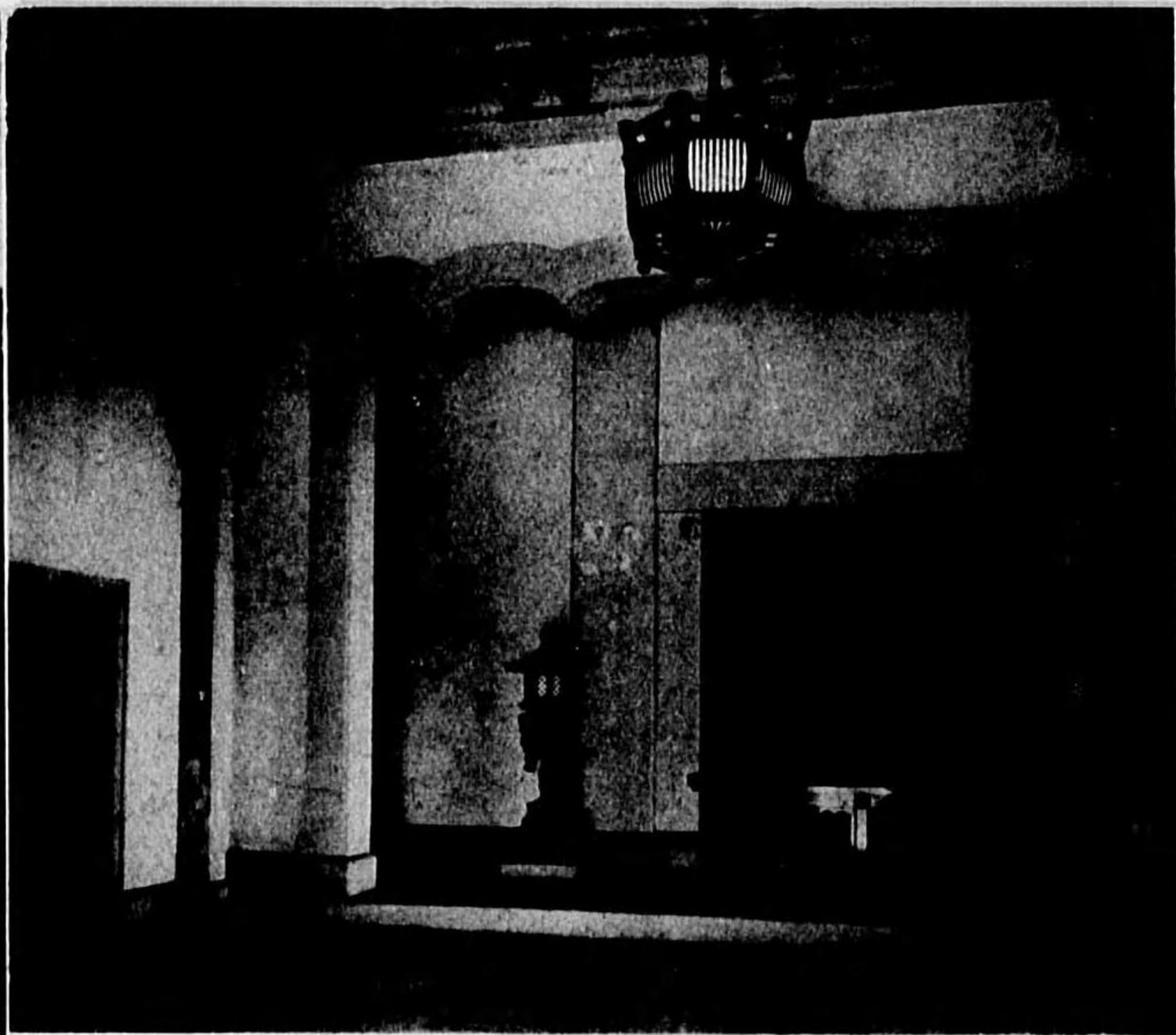


向拜唐破風



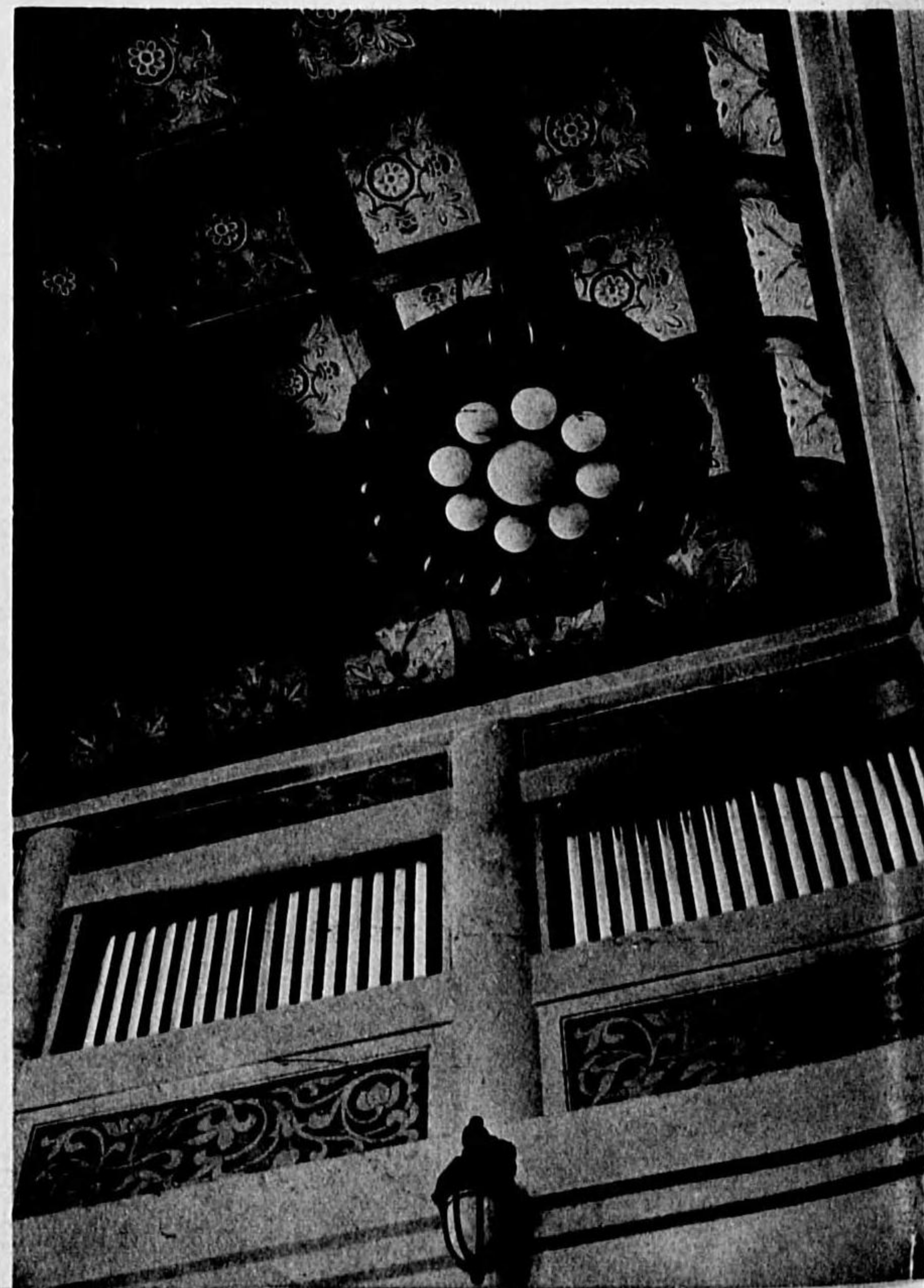
部 上 塔





塔内納骨室前室

本堂及塔共に床は人造石研出 壁は漆喰塗の上水性塗料ホルムスデ イスタムパー タンボ仕上 腰はセメントストーン小叩仕上

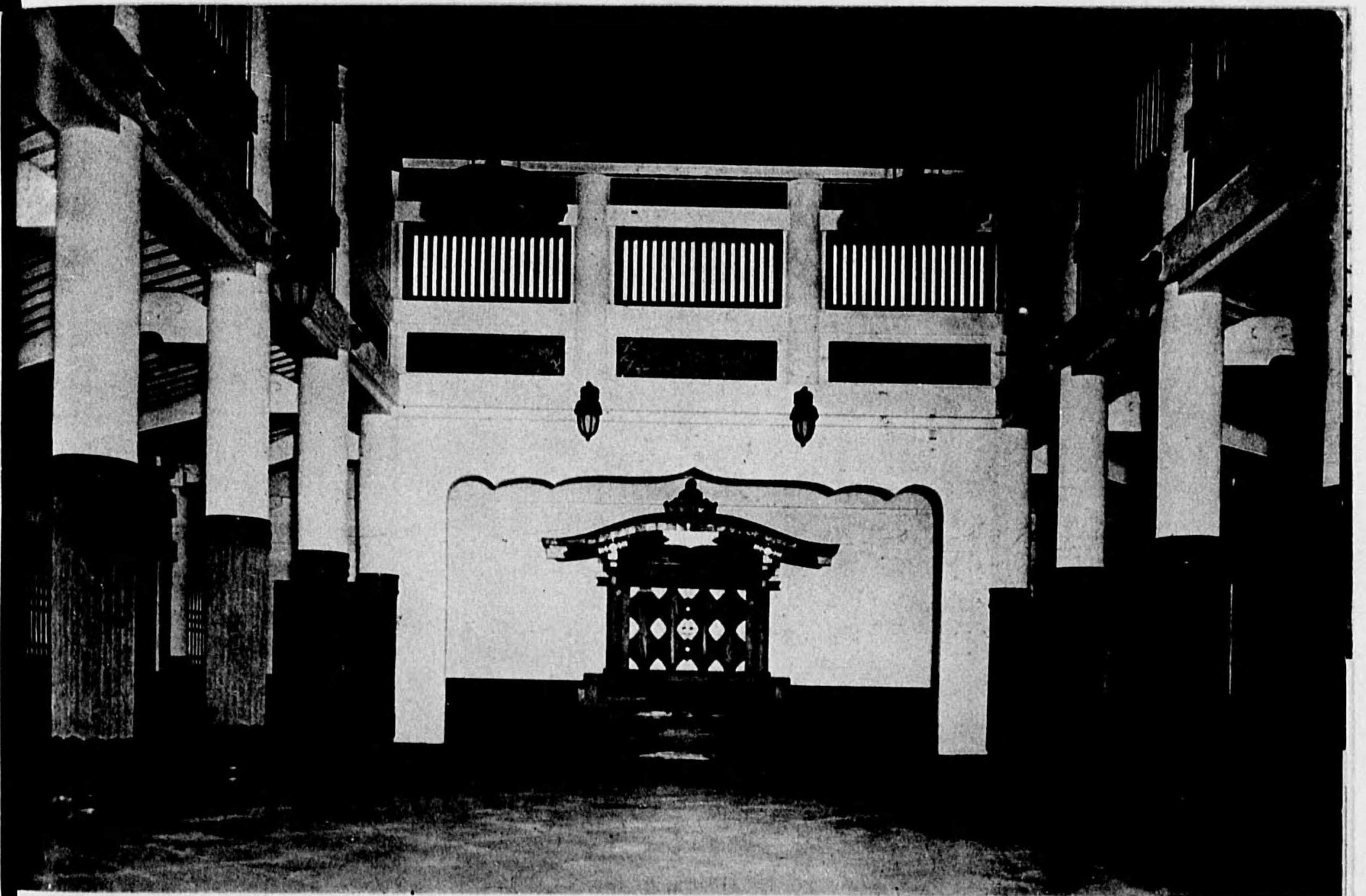


祭場廣間上部

格縁はアビトン材篇組 蟻状仕上格間はセロテックス。表面繪様はペンキ型にて彩色 小壁繪様亦セロテックスの表面ペンキ塗の上取付



祭場廣間入口扉

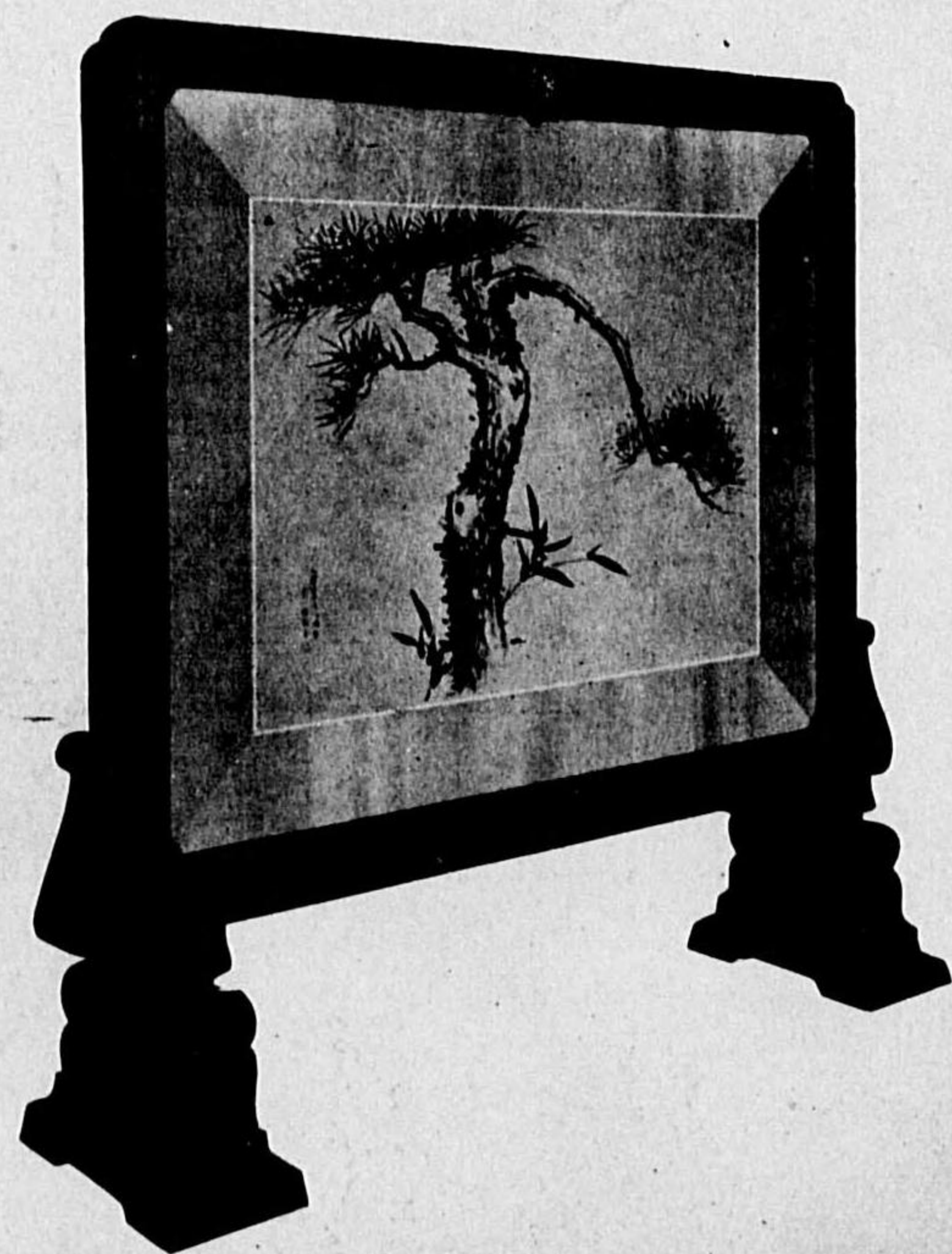


祭場廣間



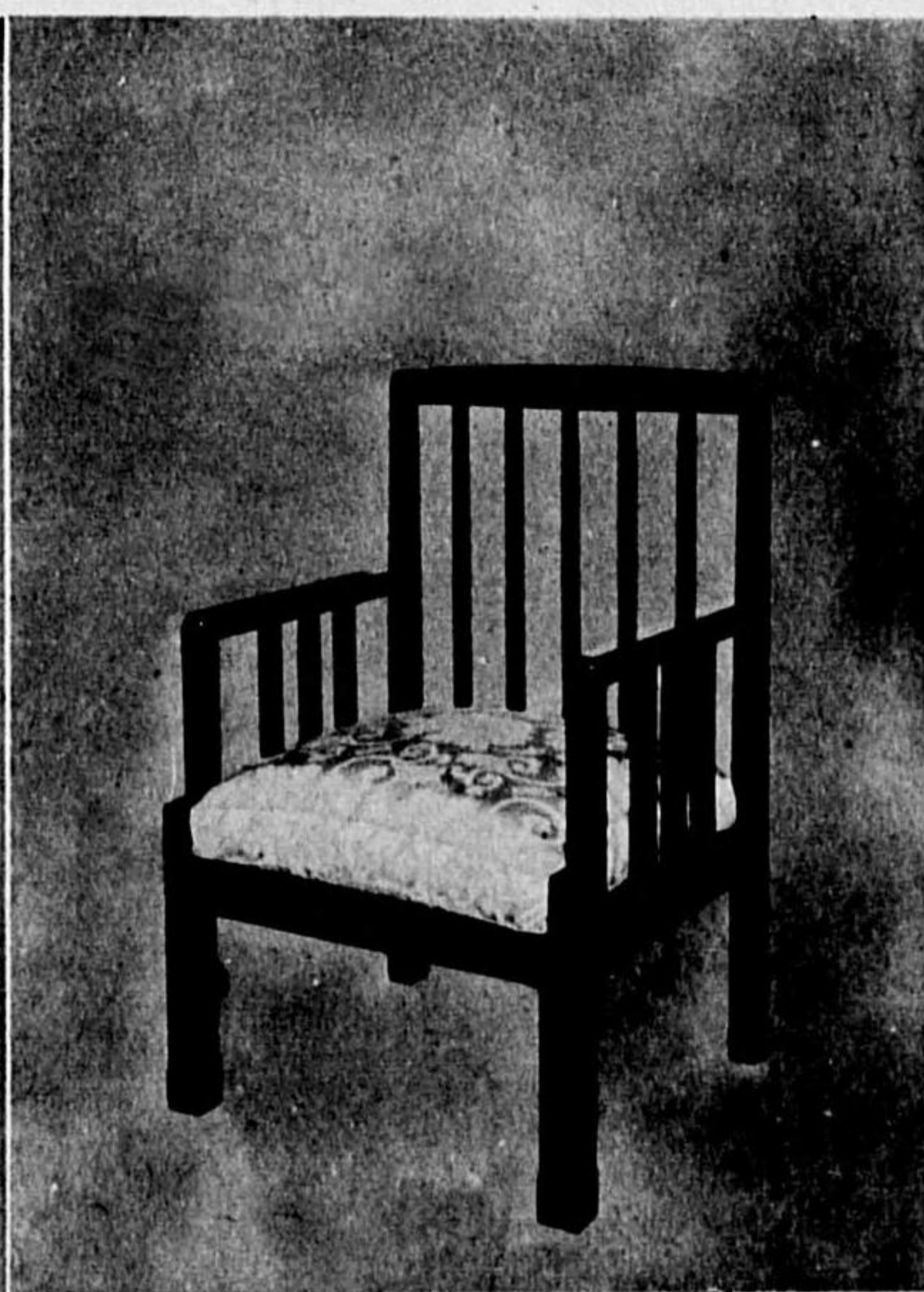
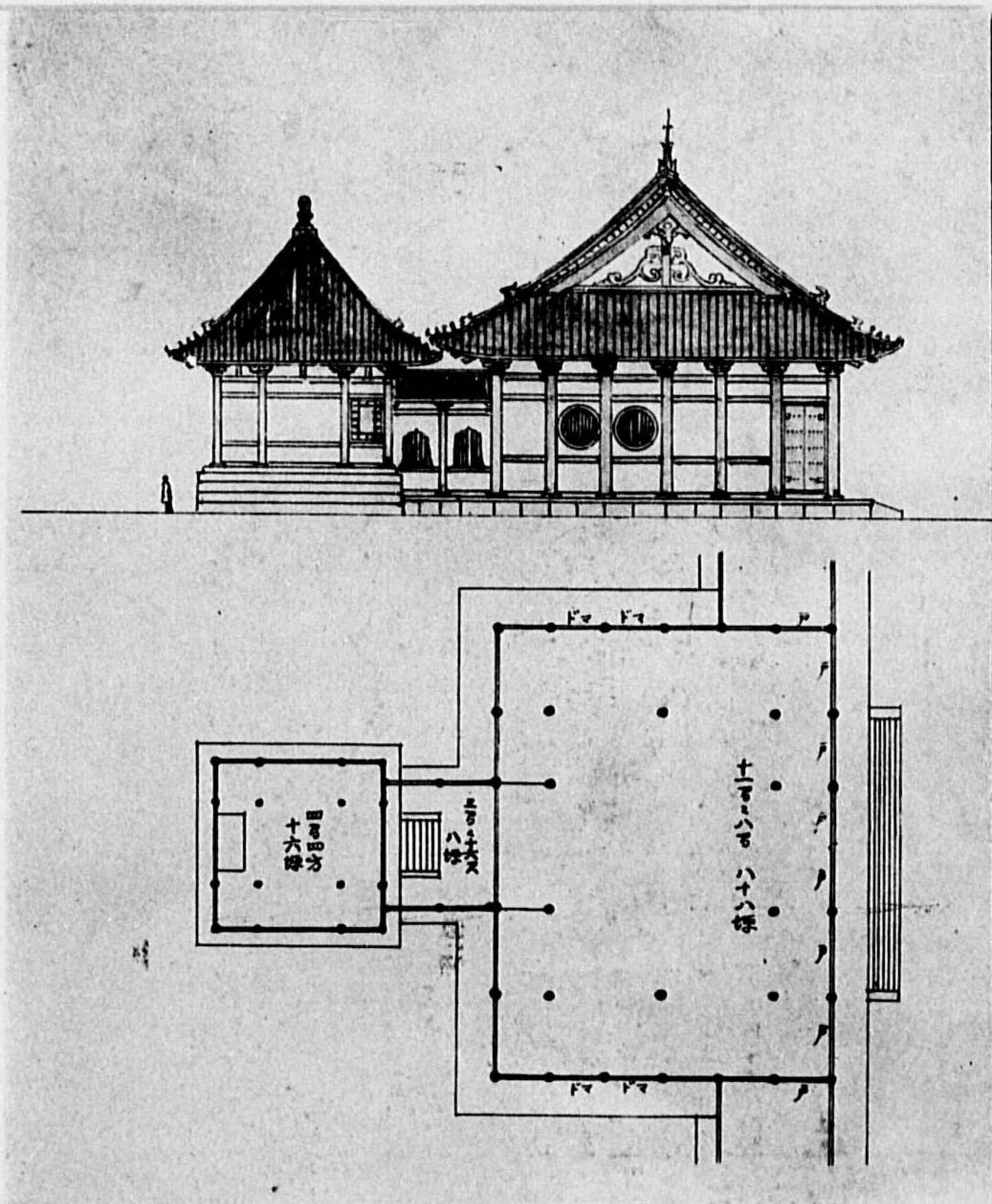
祭場廣間獨立柱の金物は鑄鐵製アロンズメタ リコン仕上 礎盤石は田中式擬石研出 厨子は總て臺灣檜造 飾金具は銅板打抜彫刻の上金箔押鍍金 祭壇廻りはチーク材を用ひ漆拭仕上とす

向拜天井

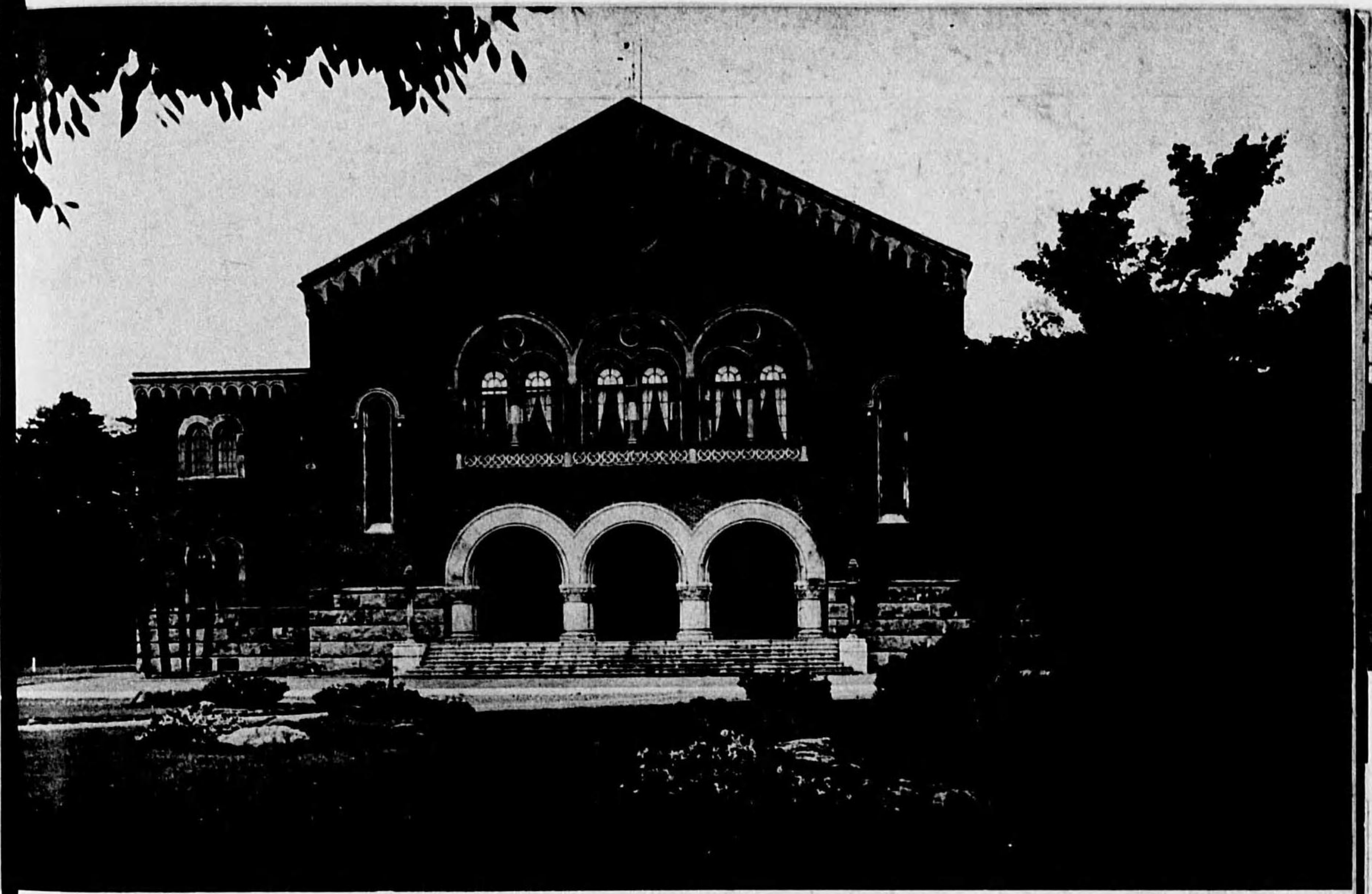


立 術 館 物 博 劇 演 學 大 田 稻 早
 さ 高 縁 額 寸 三 尺 五 寸 高 贈 寄 氏 吉 達 深 入 士 博 學 齋 頃 年 三 十 和 昭
 目 段 七 記 功 太 本 輪 は 表 材 クー ナ は 縁 分 三 尺 五 寸 巾 分 八 寸 一 尺 四
 に 人 夫 深 入 り 氏 畫 芳 蘭 梅 は 妻 齋 郎 十 岡 川 市 句 の 世 辭 秀 光 智 明
 り あと 「 芳 蘭 梅 未 辛 人 夫 士 博 深 入 」 贈 寄

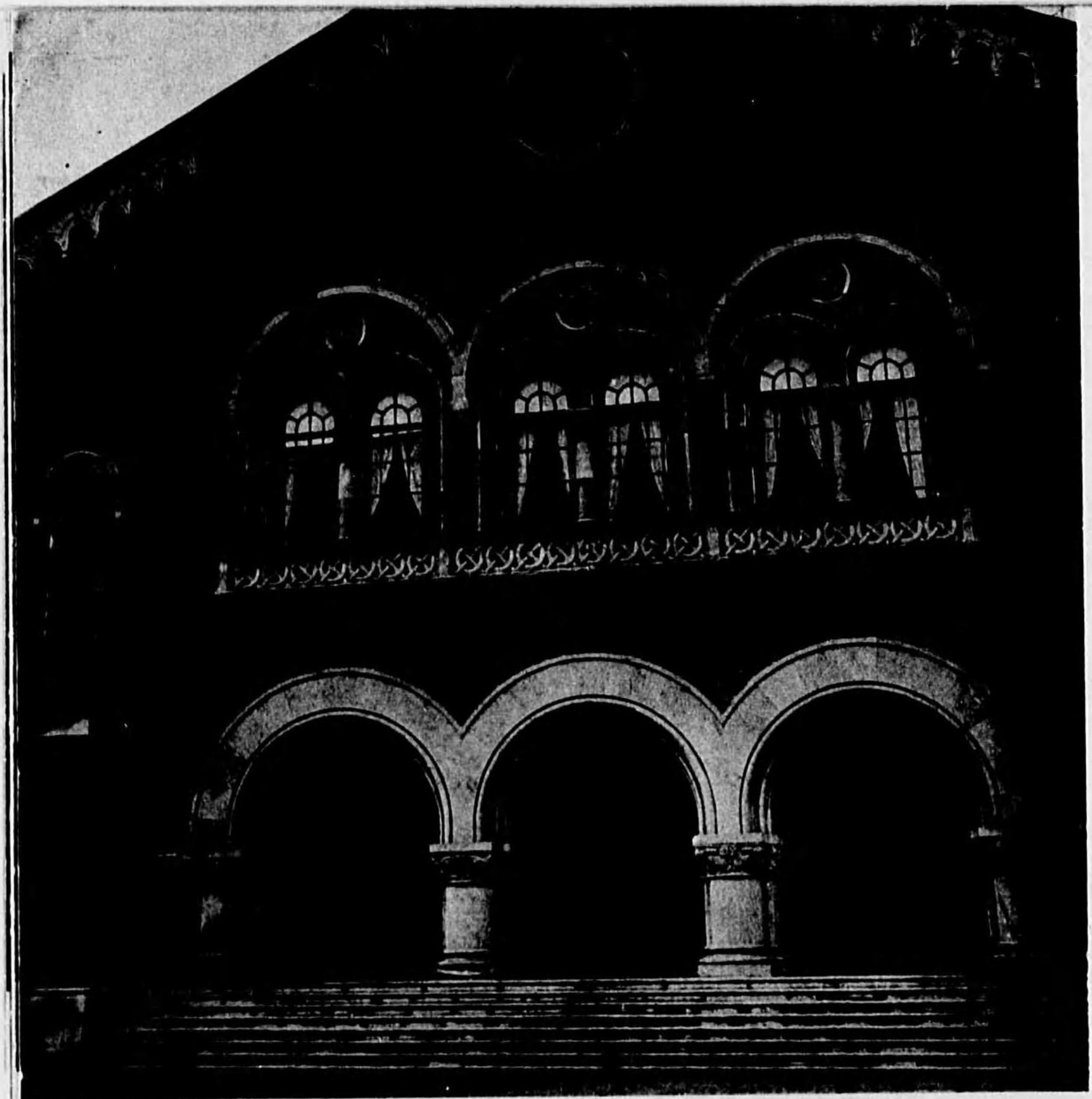
(施實不) 案 築 建 興 復 堂 聖 島 湯



湯 島 聖 堂 大 成 殿 内 椅 子 二 種
 紫 檀 製 緑 色 緞 子 蒲 團 付



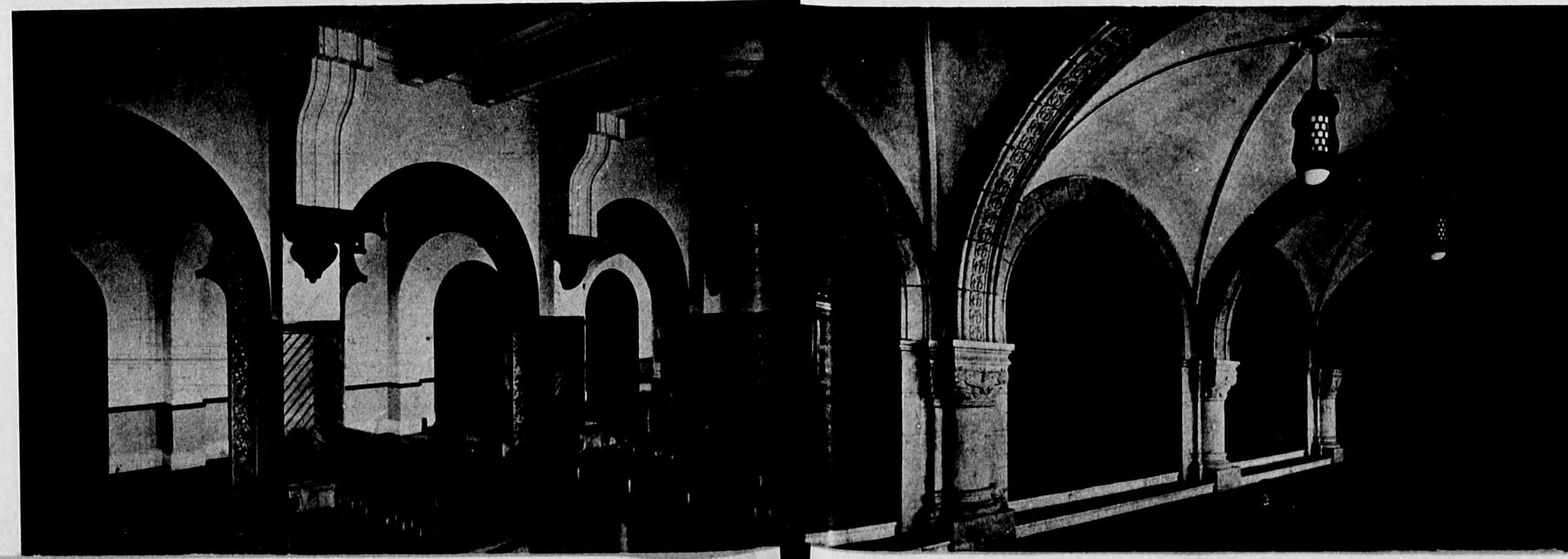
正面



正面詳細

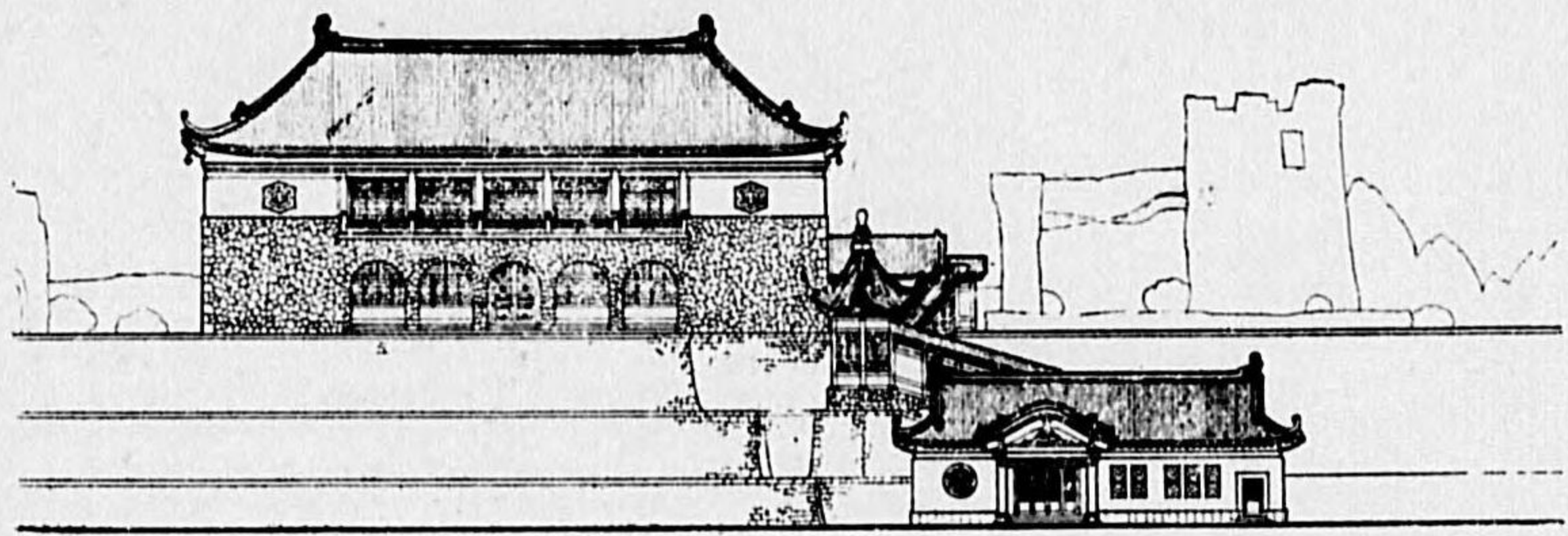
東京商科大学兼松尾記念講堂
 所在 東京府北多摩郡谷保村谷保字舞島道北
 在神戸市株式会社兼松尾商店が故業松尾治郎翁の十三回忌辰に當るを
 記念し寄附せられたるものなり
 ●設計着手 大正十四年七月十六日
 起 工 大正十五年八月八日
 上 棟 昭和二年三月十三日
 竣 工 昭和二年八月三十一日

室内

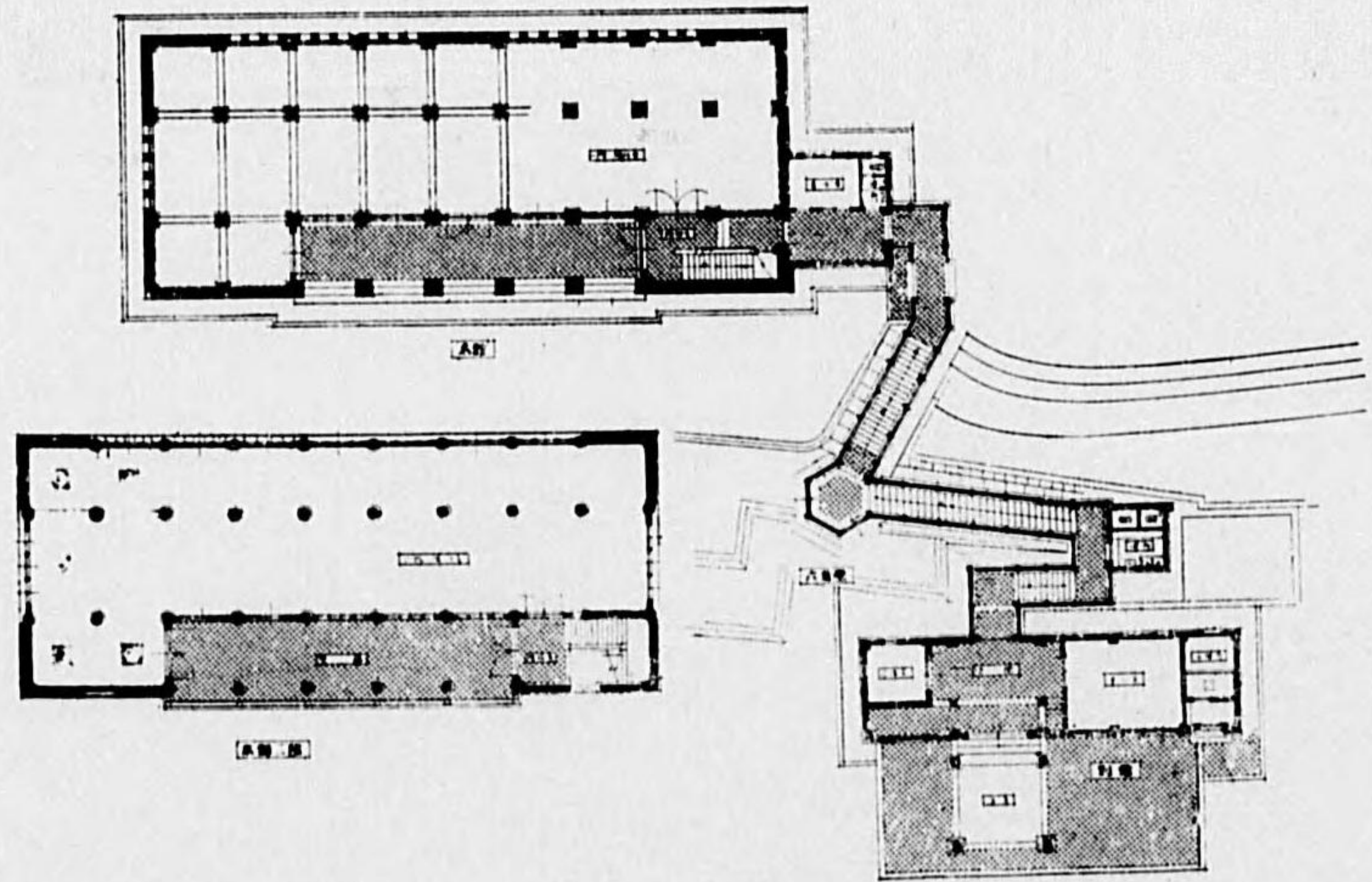


廣間

設計監督 伊東忠太 工務所長 松井角平
 設計主任 徳岡鼎
 第一階面積 四 四 五 坪 總延坪 八 三 五 坪
 壁 鐵筋コンクリート造貼壁式 外壁茶褐色スクラッチタノ
 ノ貼 腰廻り及玄關廻り日出石 蛇腹及胸廻り彫刻富國石
 屋 根 大屋根鐵骨小屋組洋瓦葺 陸屋根鐵筋コンクリート造
 床 面 玄關稻田産花崗石張 各階各室ユーロリス仕上
 内壁及天井 天井は主として白漆喰 各彫刻は石膏 特殊の室は着
 色塗料仕上隨所懸嵌及壁紙



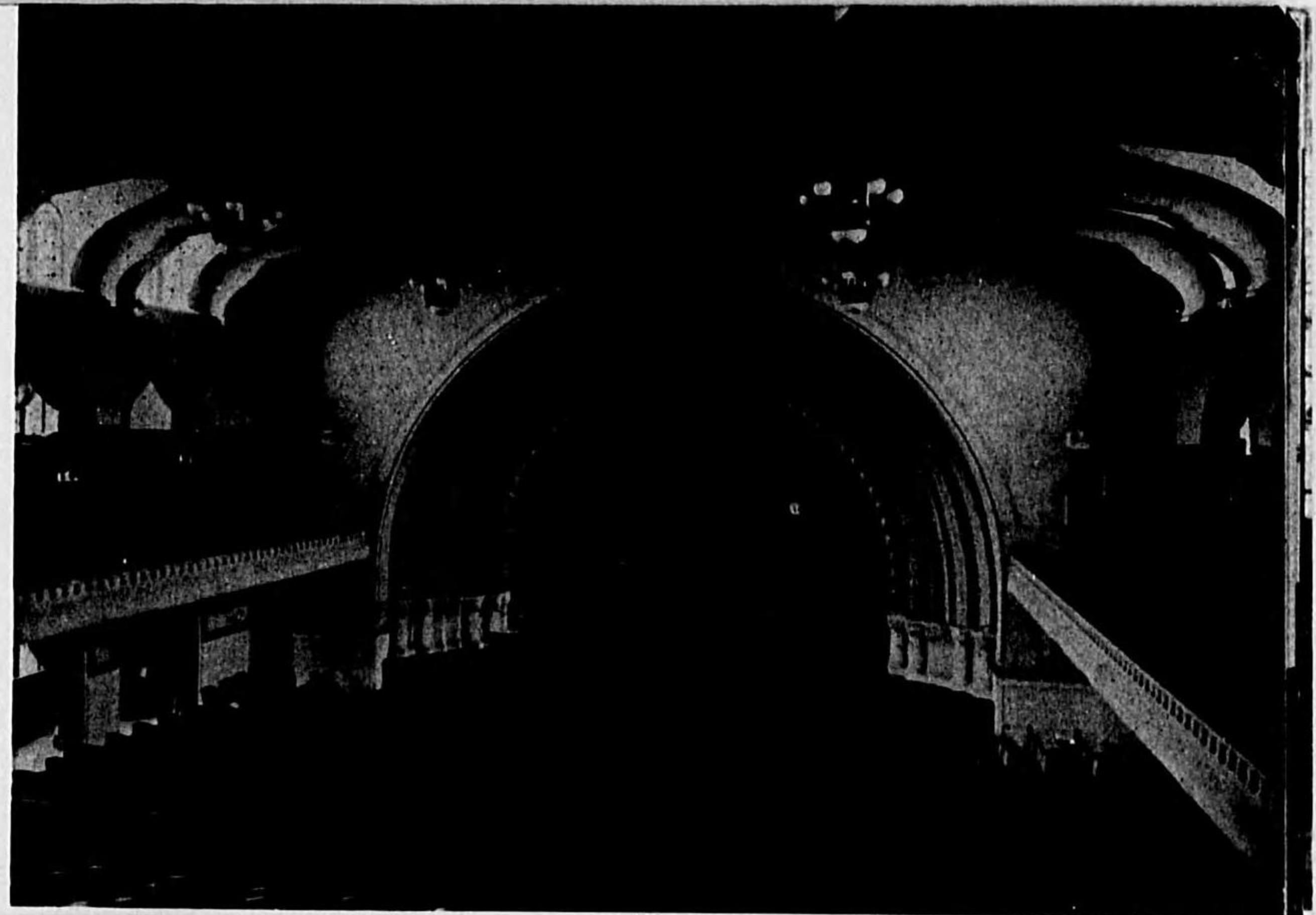
立面



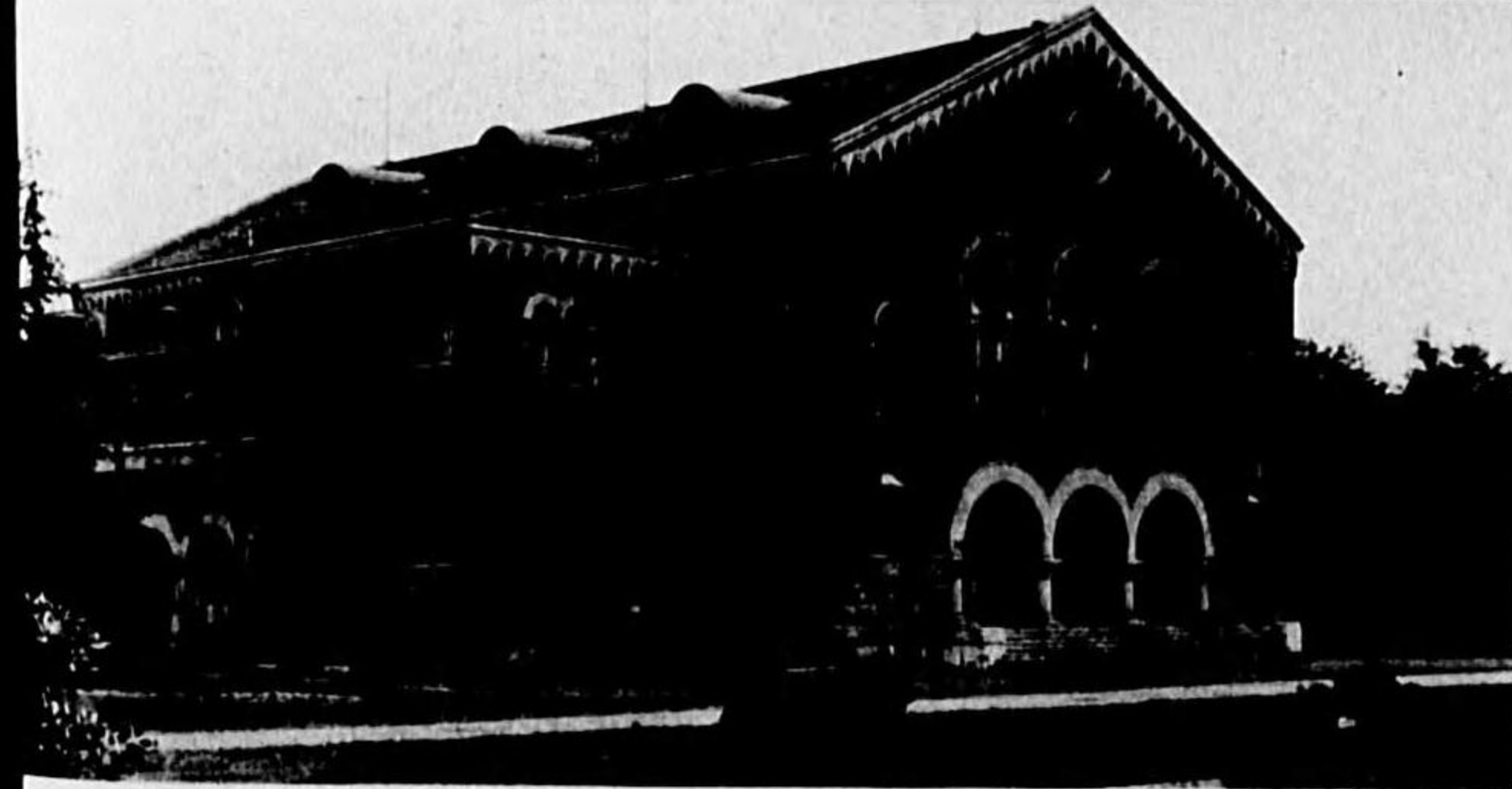
平面

大倉集古館

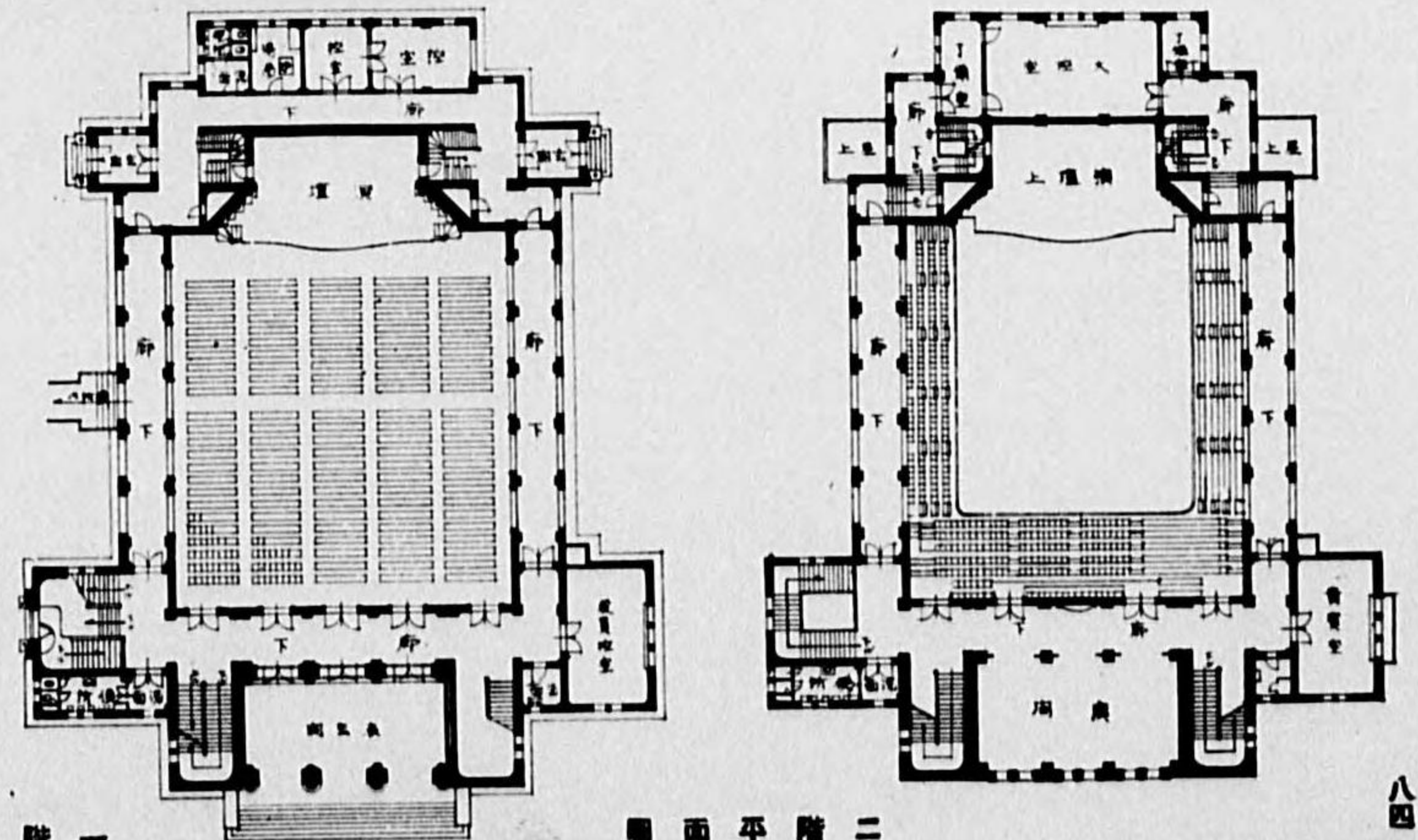
起工 大正十五年一月二十日
 竣工 昭和二年十一月二日
 敷地面積 四八二四坪三
 延坪 二〇一坪五
 延坪 三二七坪五
 施工 大倉土木株式会社
 本館・附属舎・廊下及六角堂及別館
 より成る 本館棟高鶏尾上端まで五
 尺八寸
 構造 主要軸部鐵筋コンクリ
 ート造 屋上小屋組鐵骨造
 外部仕上 本館の腰は六ヶ村石亂
 石貼 他は全部モルタル塗 ロング
 ライフペイント仕上 屋根銅板葺
 屋根飾動物は銅板打出



講堂内部



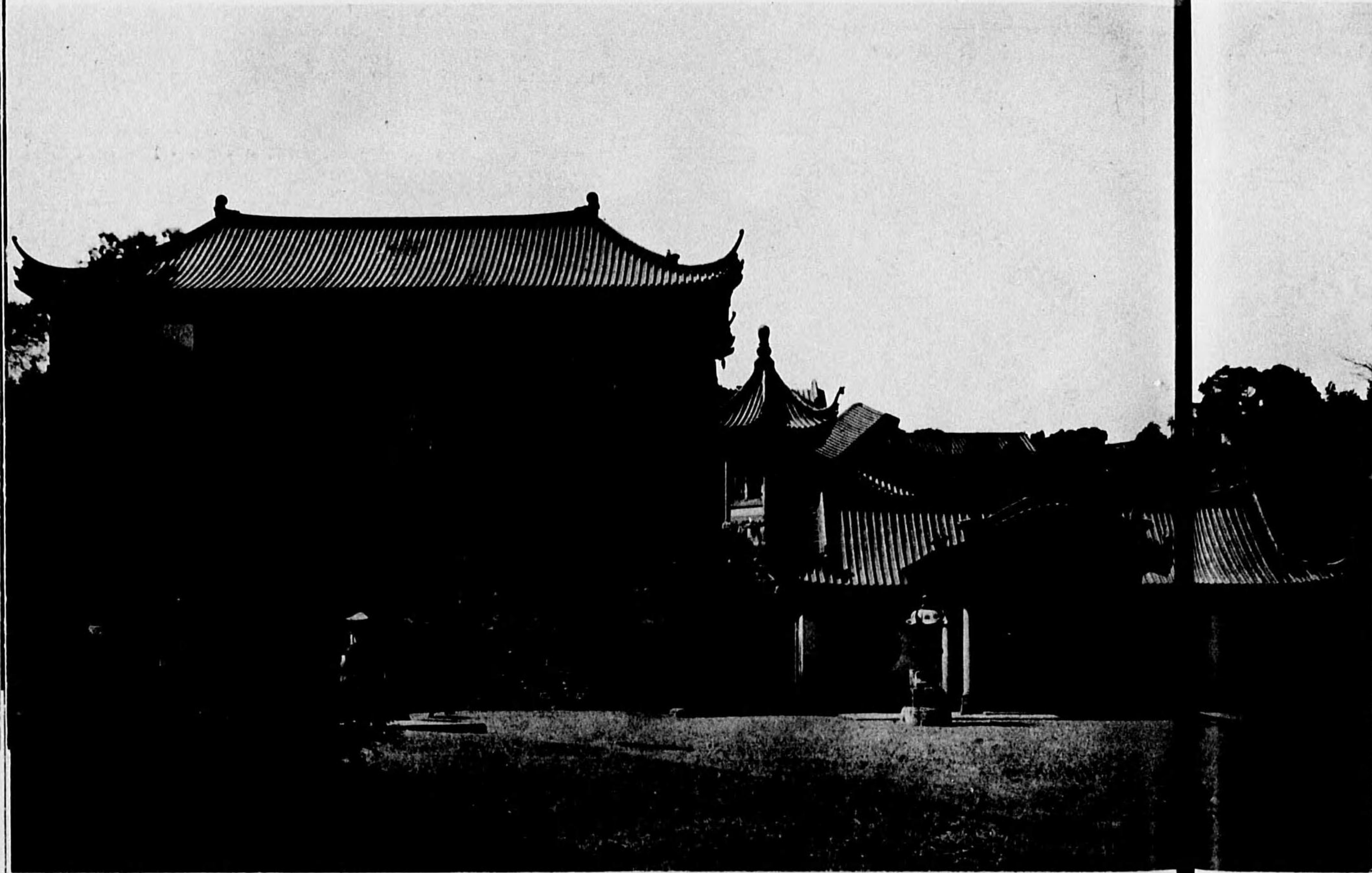
斜面



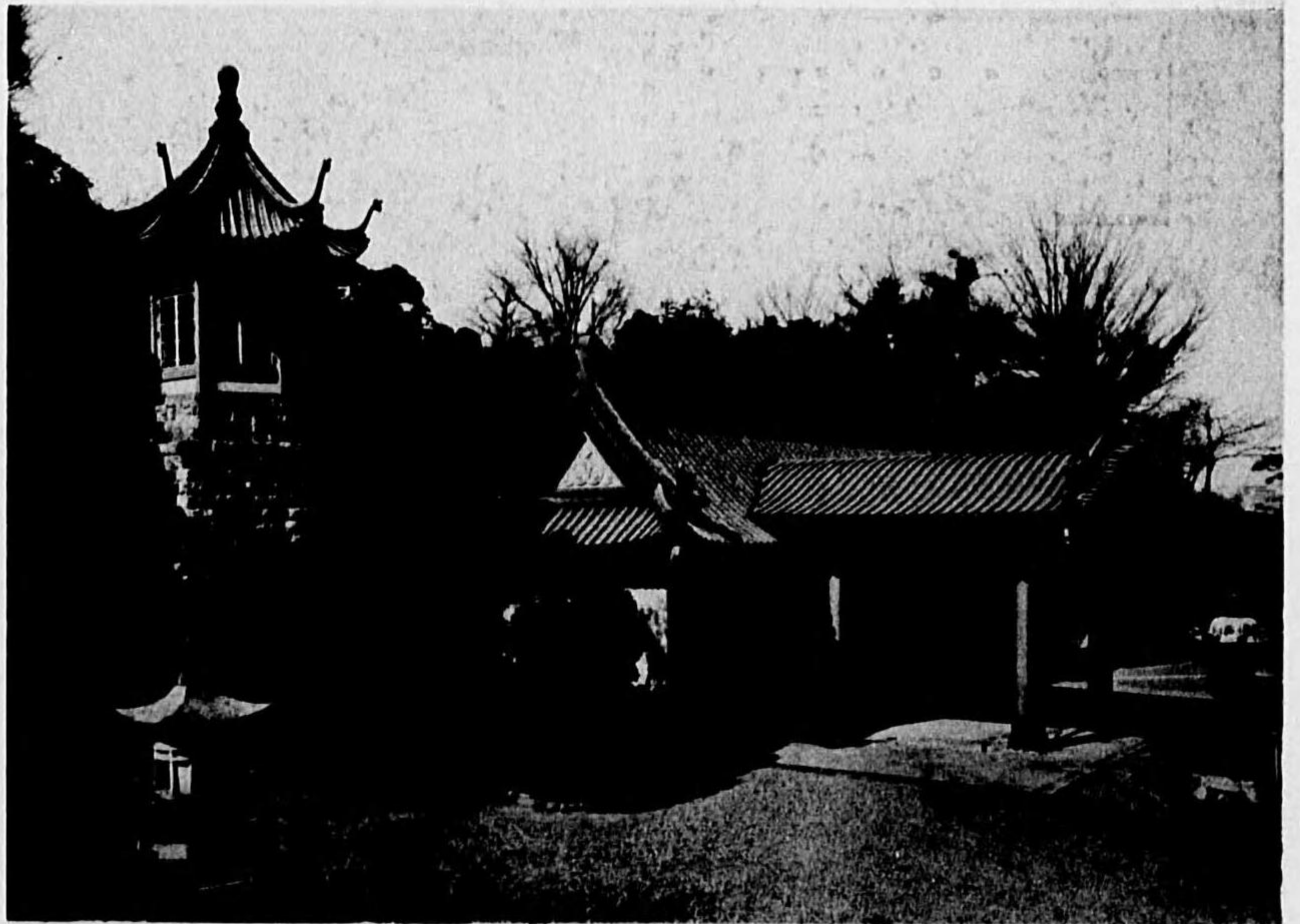
第一階平面

第二階平面

壁・天井クリーム色 漆
 喰仕上 演壇アーチ濃い
 クリーム色 演壇背壁薄
 紺色 家具漆紺色 棧敷
 アーチ金色 照明器濃赤
 褐色



別館・六角堂・本館

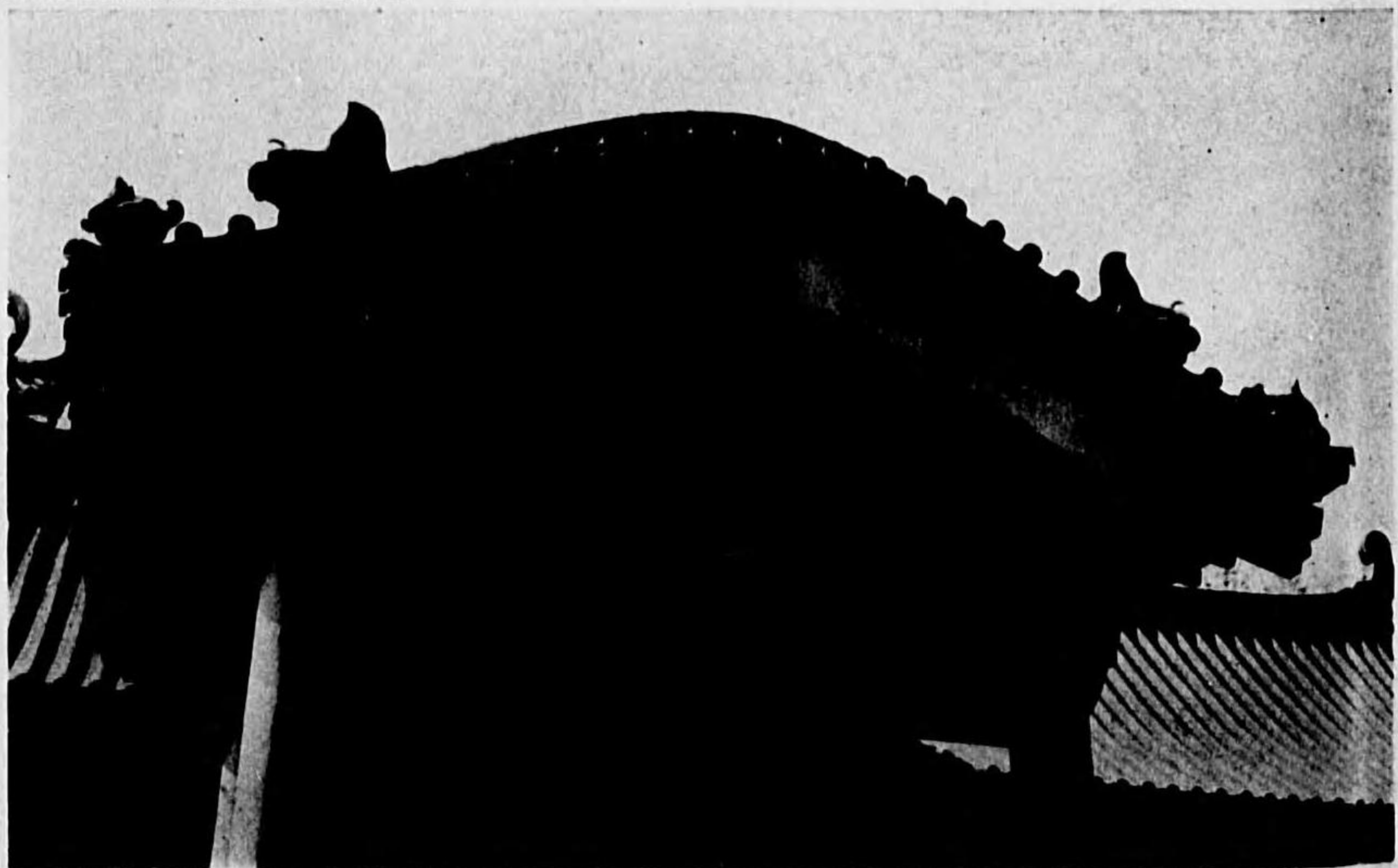


別館・六角堂・廊下

六角堂 天井は六角組天井 柱は
漆喰塗りロングライフペイント仕上
内部腰壁布目六角タイル貼 床は
支那風大理石モザイク



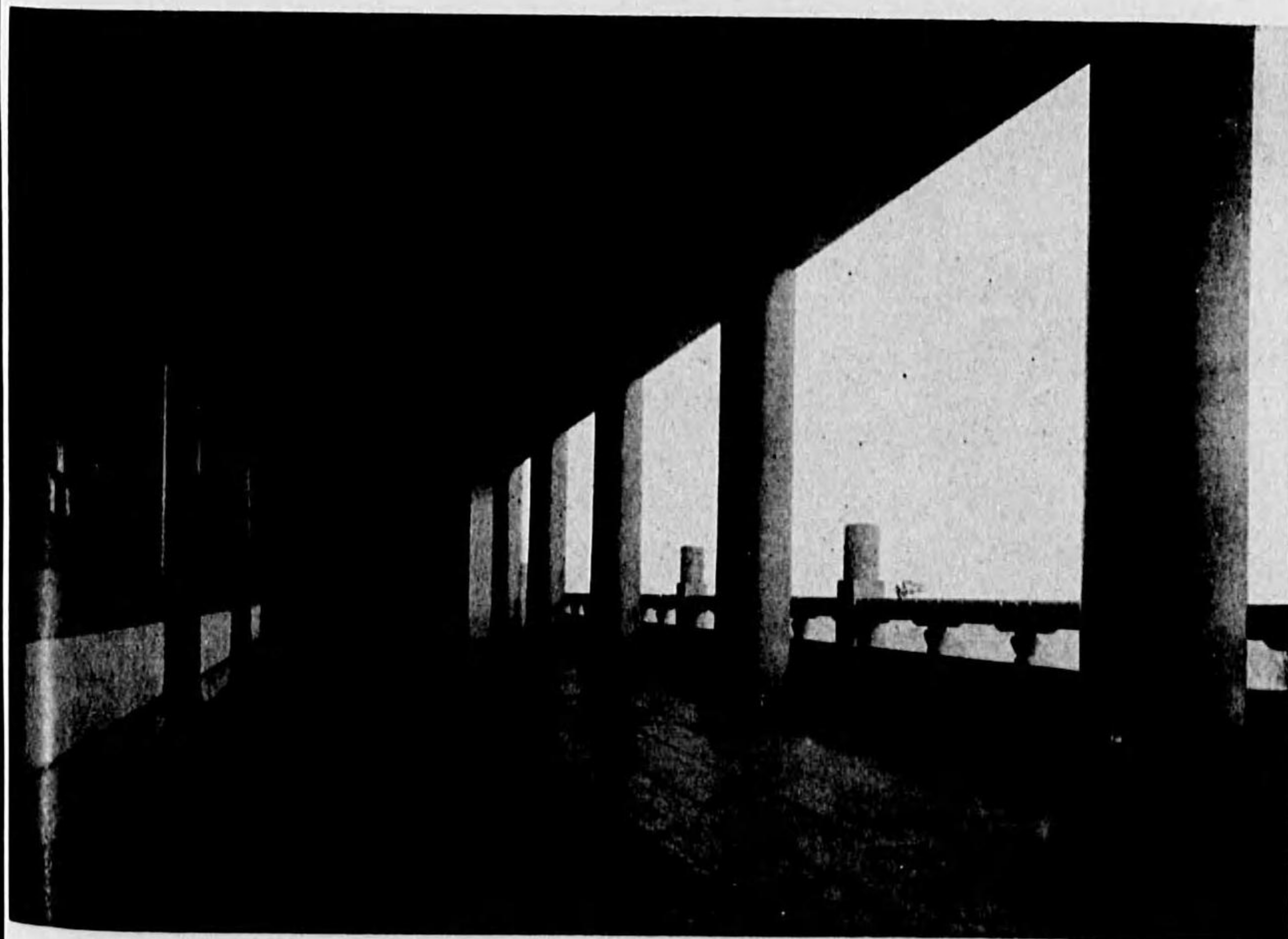
本館



別館車寄上部
天井・樑・柱モルタル塗り
ト仕上 懸魚・礎盤ブロンズ製
持懸壁彫
し銅板打出



本館二階内部
天井及壁は漆喰塗り、天井持懸等の彫刻は石膏仕上
床はリノリウム敷。



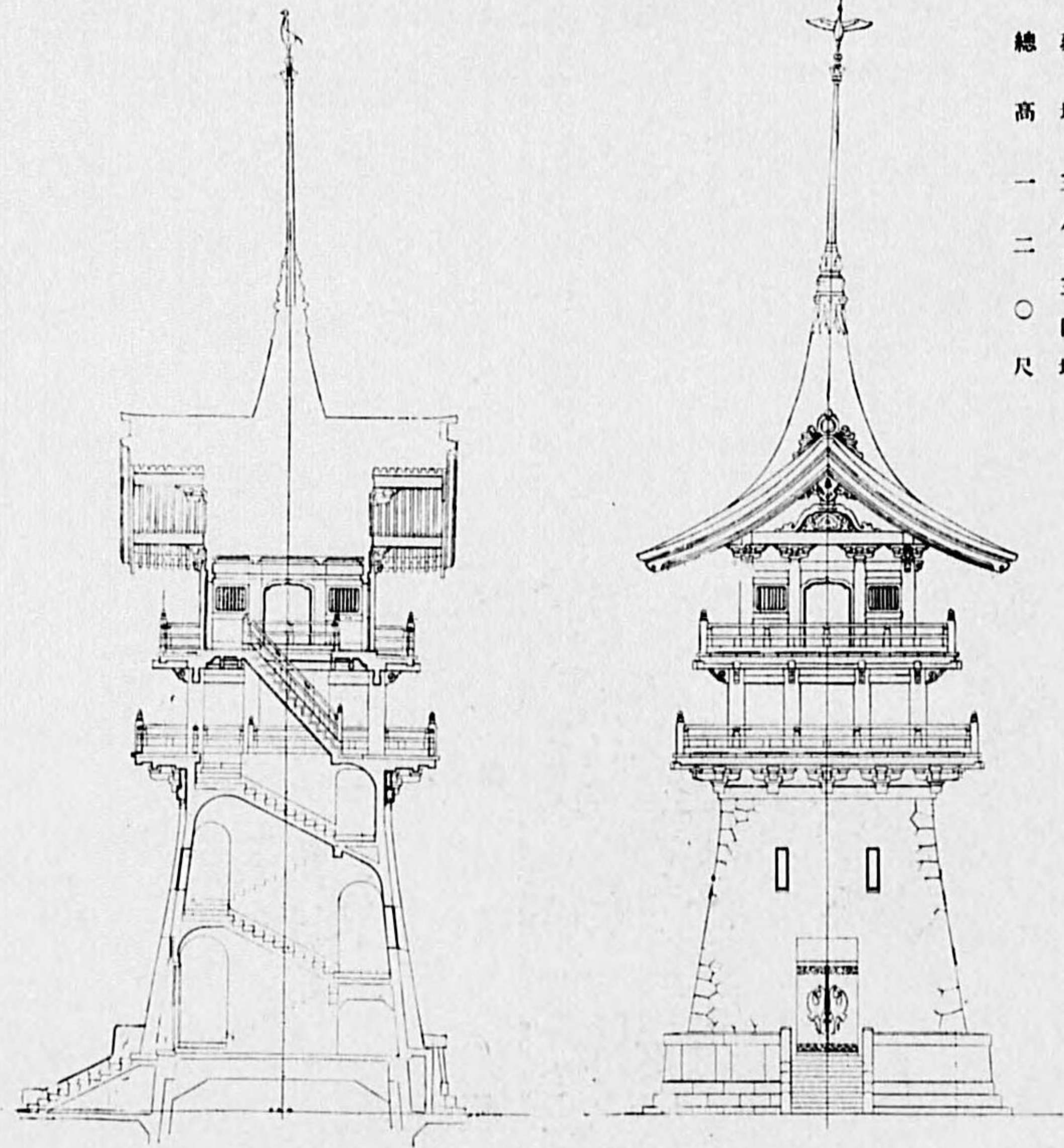
本館二階廊下
柱及壁部はモルタル塗り、ロンググライフペイント仕
上、床は人造黄龍石研出、勾欄は紅龍石と彫刻す



外觀

祇園閣 京都市真葛ヶ原

起工 大正十五年七月五日
 竣工 昭和二年十二月十日
 敷地面積 一四二・一三坪
 建坪 三八・三四坪
 總高 一二〇尺

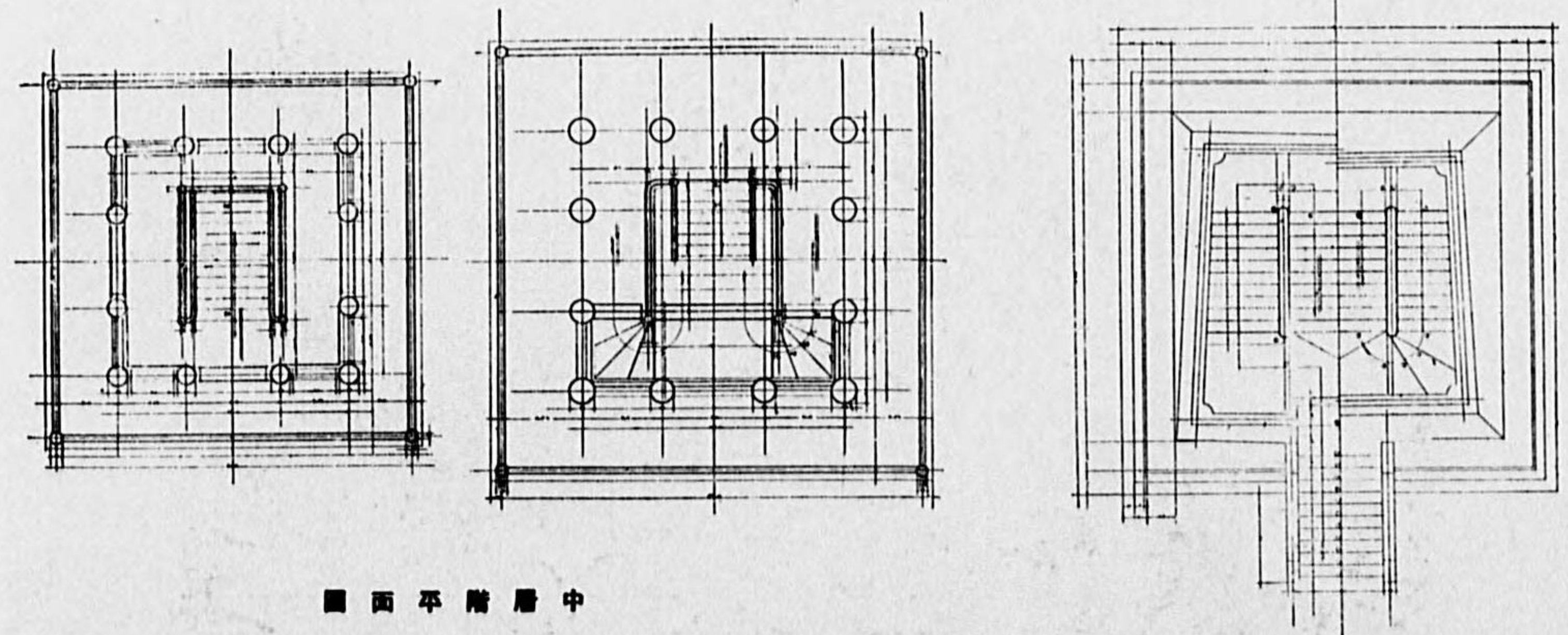


圖面斷縦

圖面正

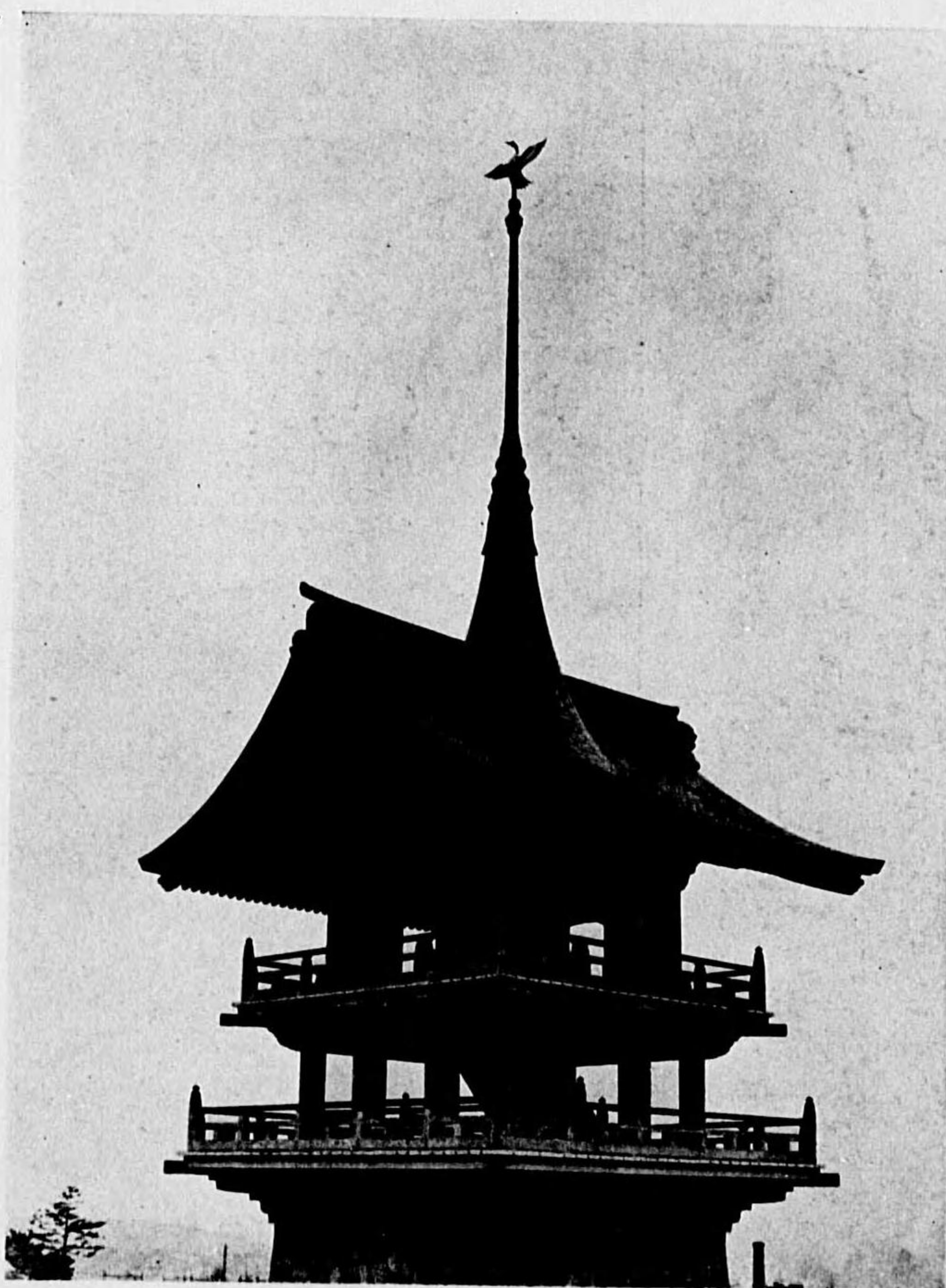
基礎深さ三間及下層階鐵筋コンクリート造 中層・上層階鐵骨鐵筋コンクリート造

設計及監料 工學博士 伊東忠太
 構造計算 工學博士 阿部美樹志
 製圖及施工 大倉土木株式會社建築部



圖面平階層中

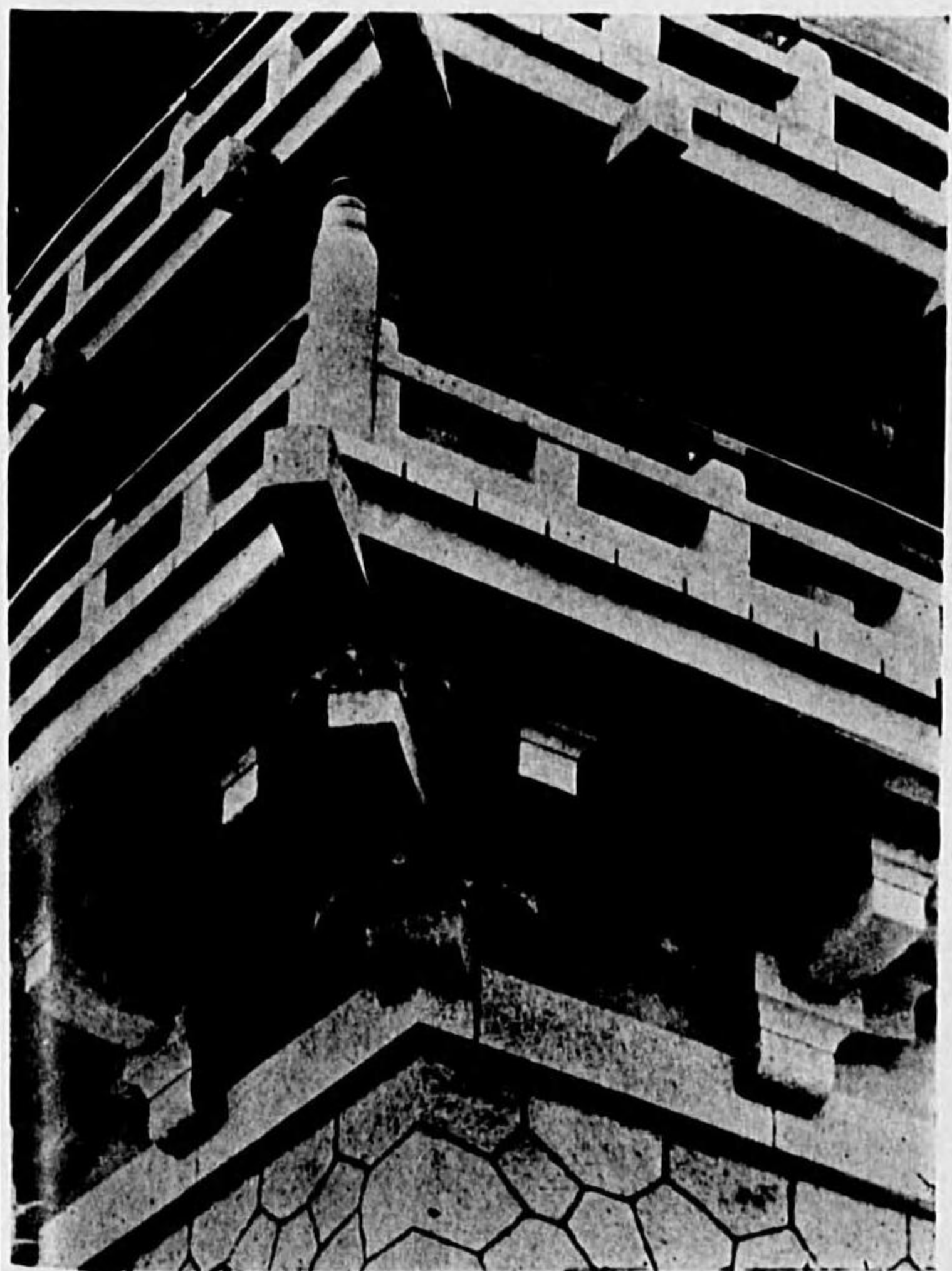
圖面平階層下



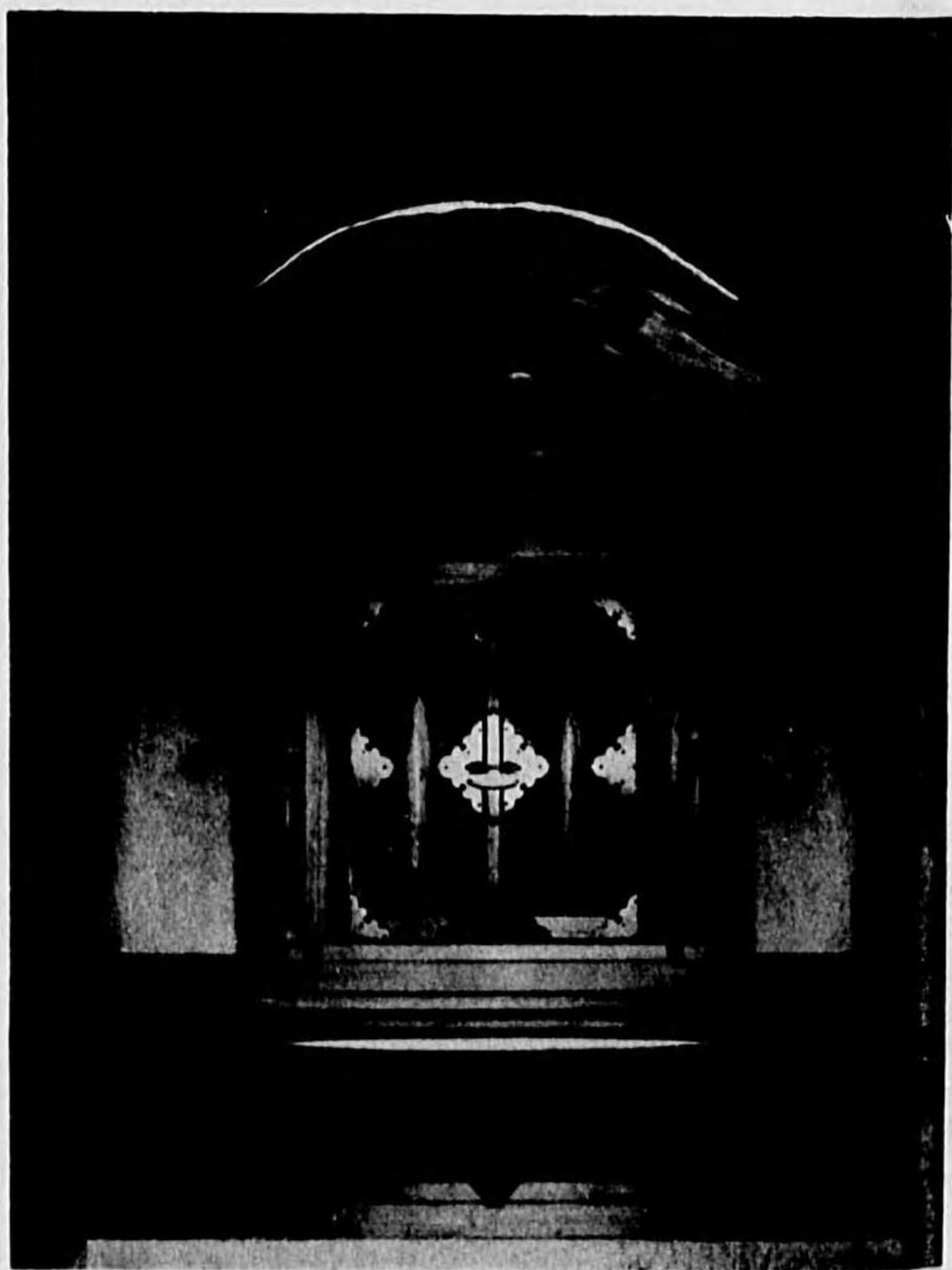
上層及中層の一部

下層の演線廻り及正面昇降口階段は萬成石 踏面小叩き 其他叩仕上 演線腰鐵板は北木産錆色石荒粗面切亂積 外壁は黄龍石荒粗面切亂積 臺輪は北木産錆色石粗面叩仕上 中層椽裏出組・上層椽裏持送頭貫・軒廻り斗組・臺・臺設は紅龍石粗面叩仕上 兩椽床敷は中層及上層共北木産花崗石四盤形敷小叩仕上 外部勾欄の地覆平桁擬寶珠斗東及込欄は紅龍石粗面叩仕上 擬寶珠架木及斗は青銅製

柱及内法長押は人造紅龍石粗面叩仕上 壁の腰廻り 丸桁・虹梁・棟・破風・懸魚・木負・茅負及寒甲は人造紅龍石研出 内法長押上の壁及裏板は人造黄龍石洗出 屋根は銅板葺下地アスベスト・モルタイト喰 胡麻殼銅板葺 鬼板・鳥衣・圓錐塔上部・露盤及長飾竿は青銅製、頂上鶴は青銅製金箔五回押



下層の天井・壁及柱は人造黄龍石洗出仕上 腰廻りは人造紅龍石研出仕上 中木・階段石・登り勾欄の地覆等は北木石小叩仕上 勾欄親柱は青木石水研 擬寶珠は青銅製 床及各踊場敷石は青木石四盤形敷小叩仕上 中層階同様 但し床は四盤形北木産花崗石小叩仕上 天井は折上格縁造格縁は人造紅龍石研出 鏡板は人造黄龍石洗出仕上 上層階は中層階同様 但し天井は格縁造り 鏡板は人造紅龍石洗出仕上

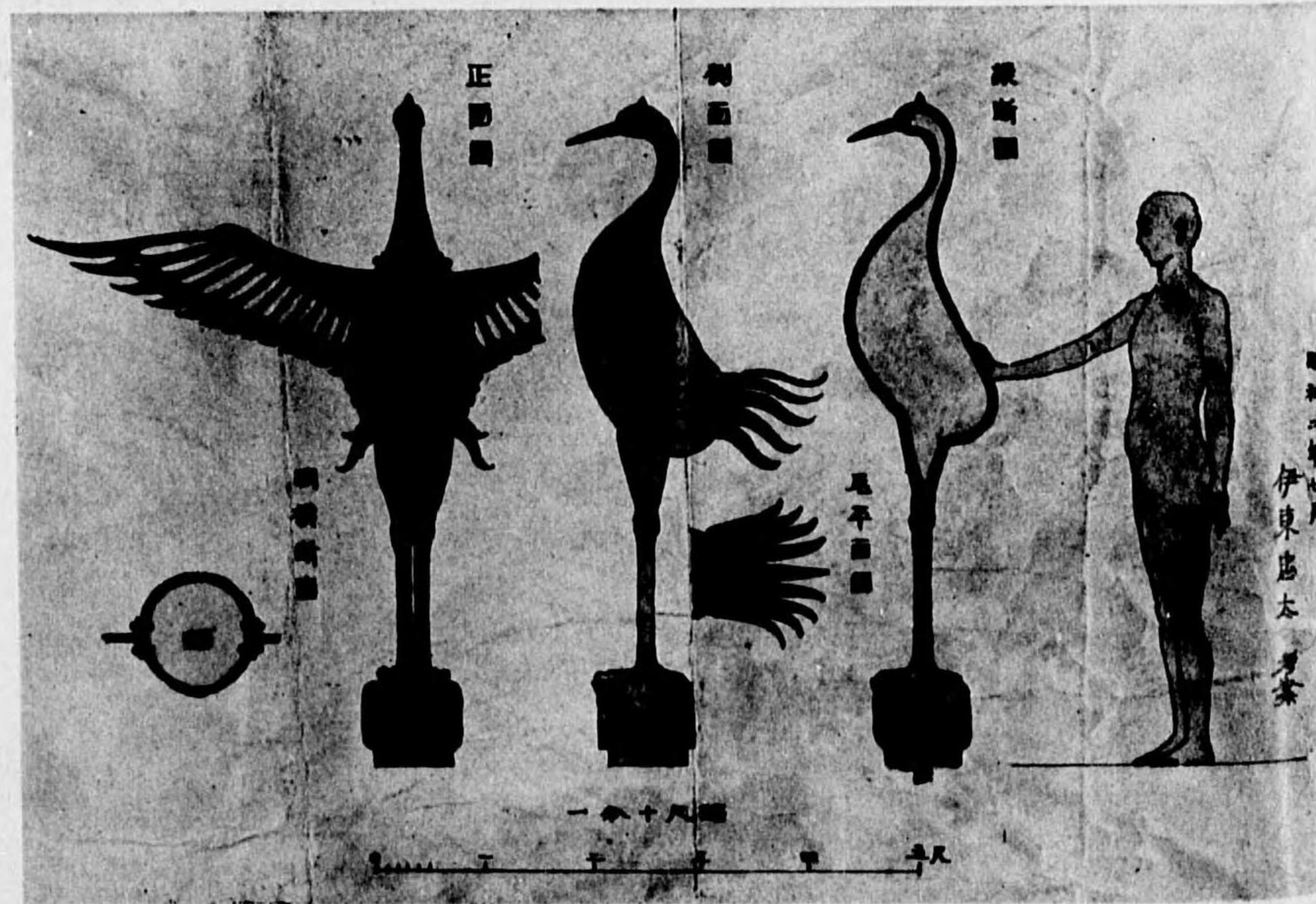


龕
尾州産柏白木造 扉に青銅製八双金物打付 屋根銅板葺 鬼板は青銅製



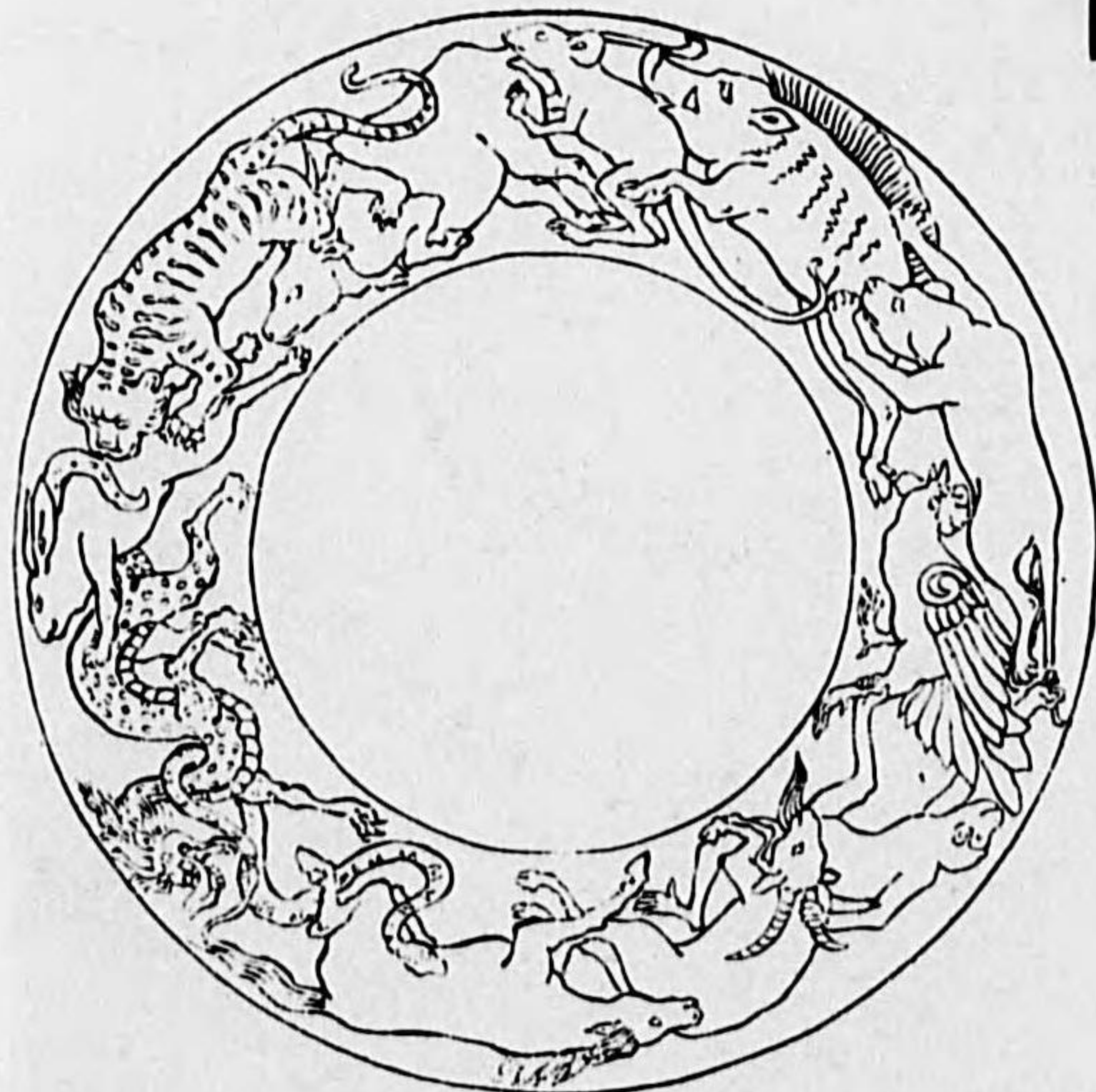
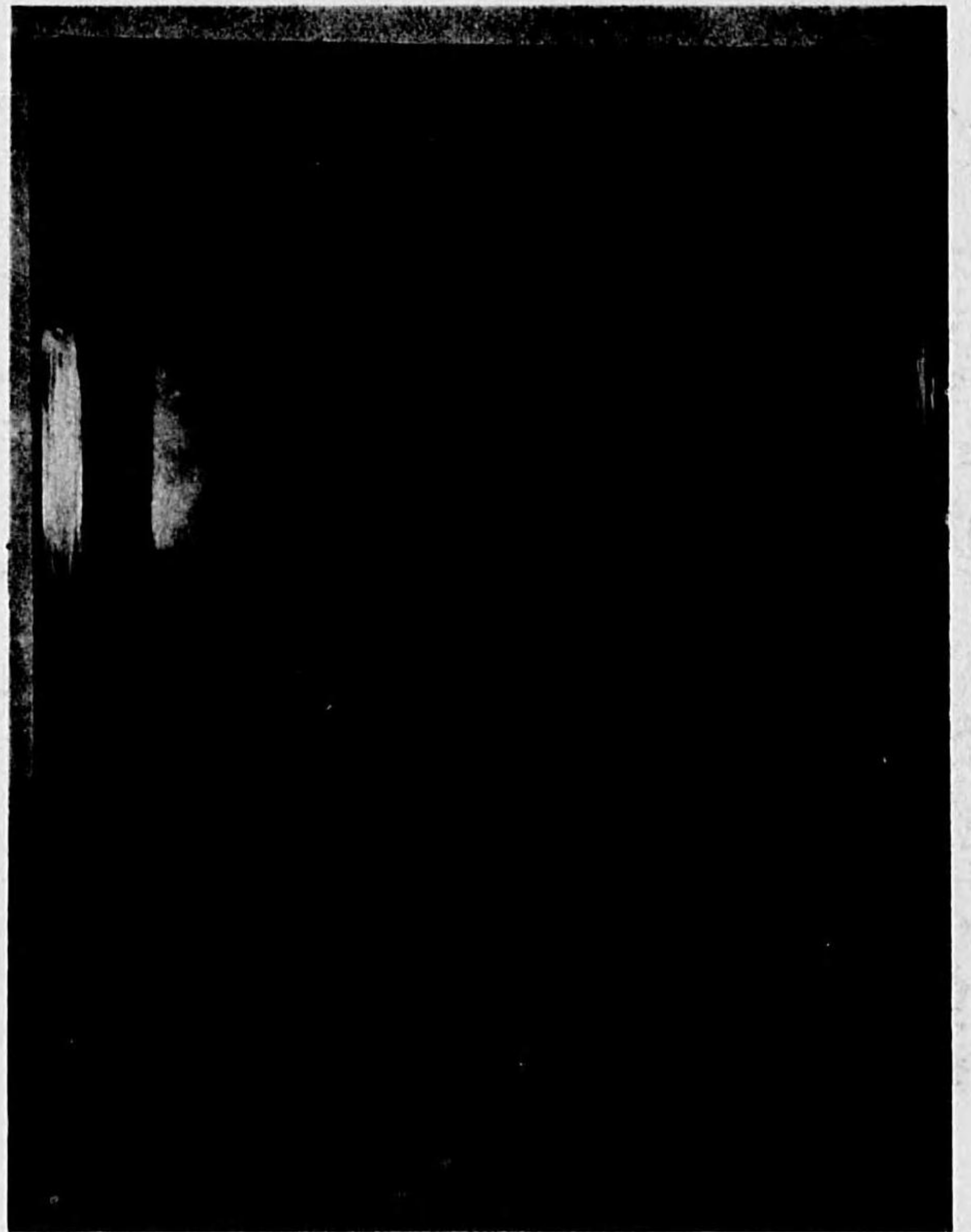


上層妻の一部
斗拱・墓股は紅龍石粗面叩仕上 丸桁・虹梁棟
等は人造紅龍石研出 裏板は人造黃龍石洗出

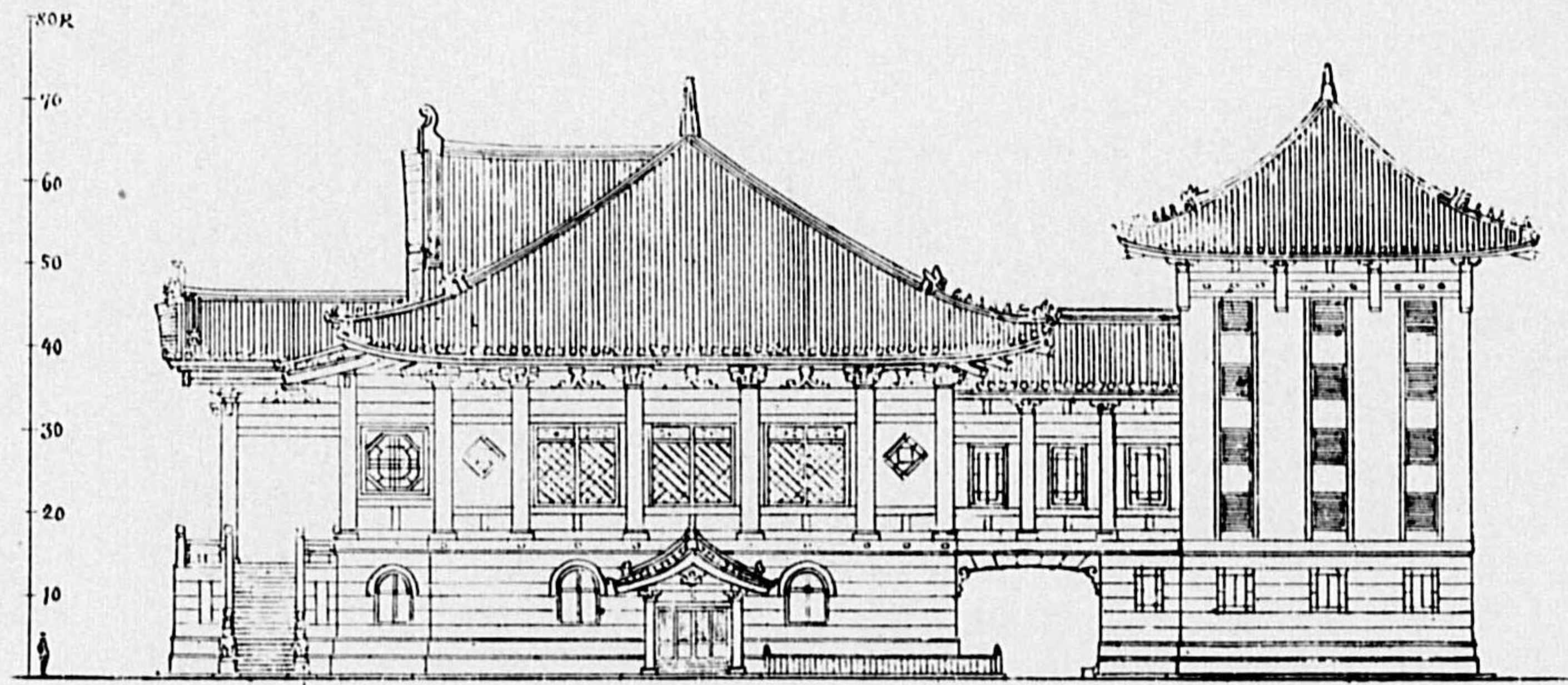


頂上の飾(博士自筆)

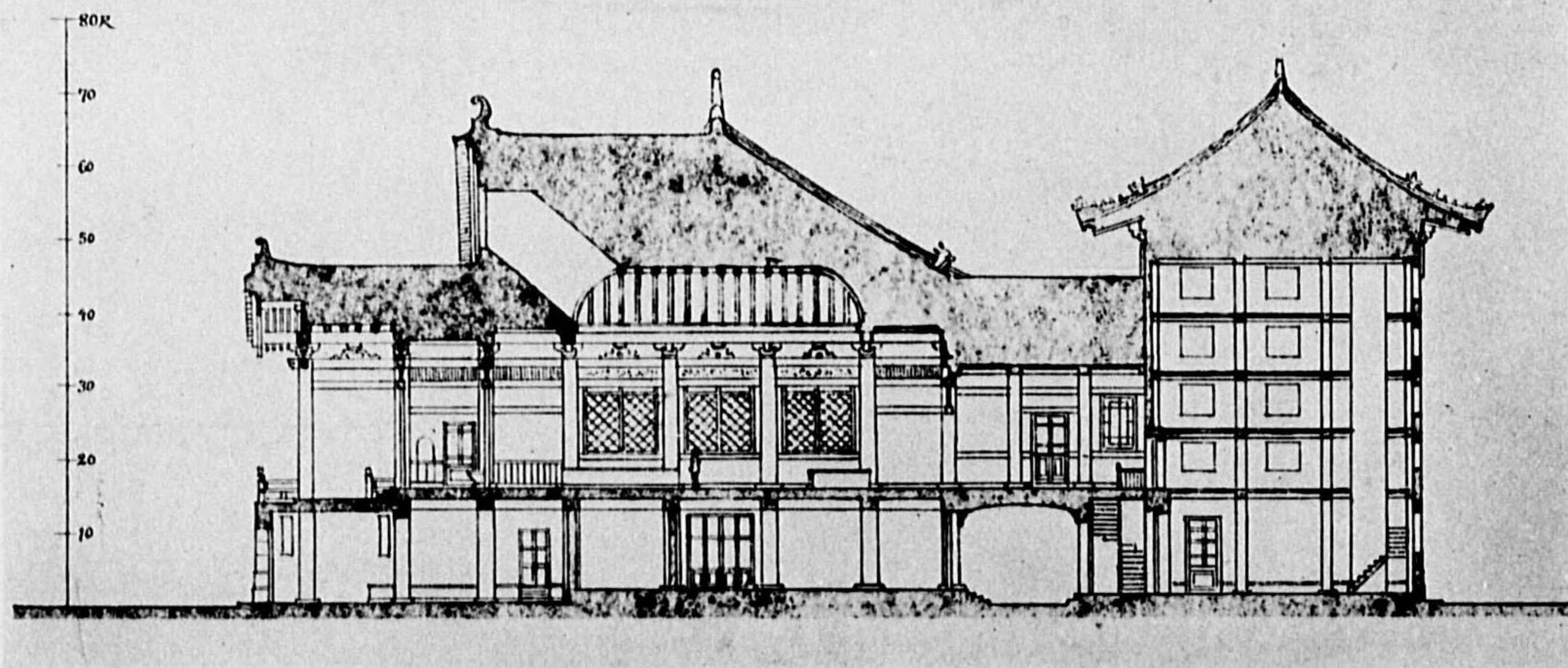
入口扉見返し 青銅製



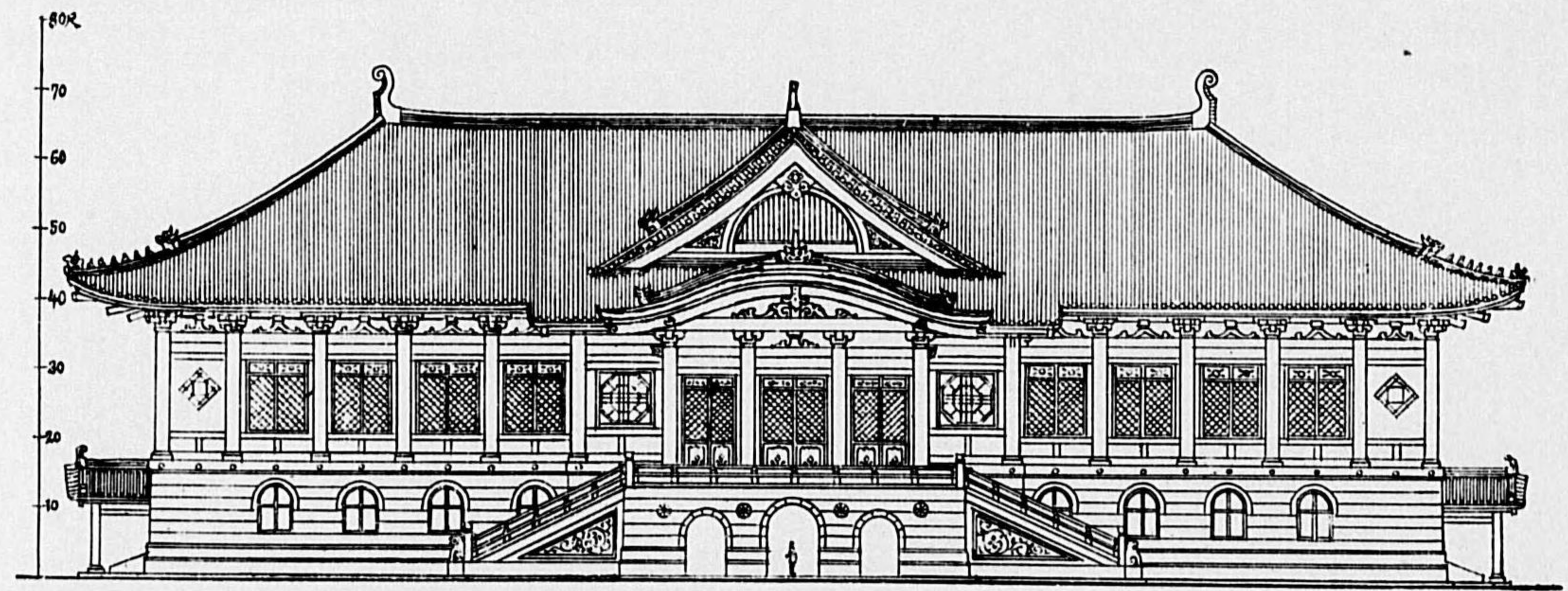
天井中心飾十二支の圖(博士自筆)
青銅電鍍製薄肉彫 中心より青銅製燈籠を吊す



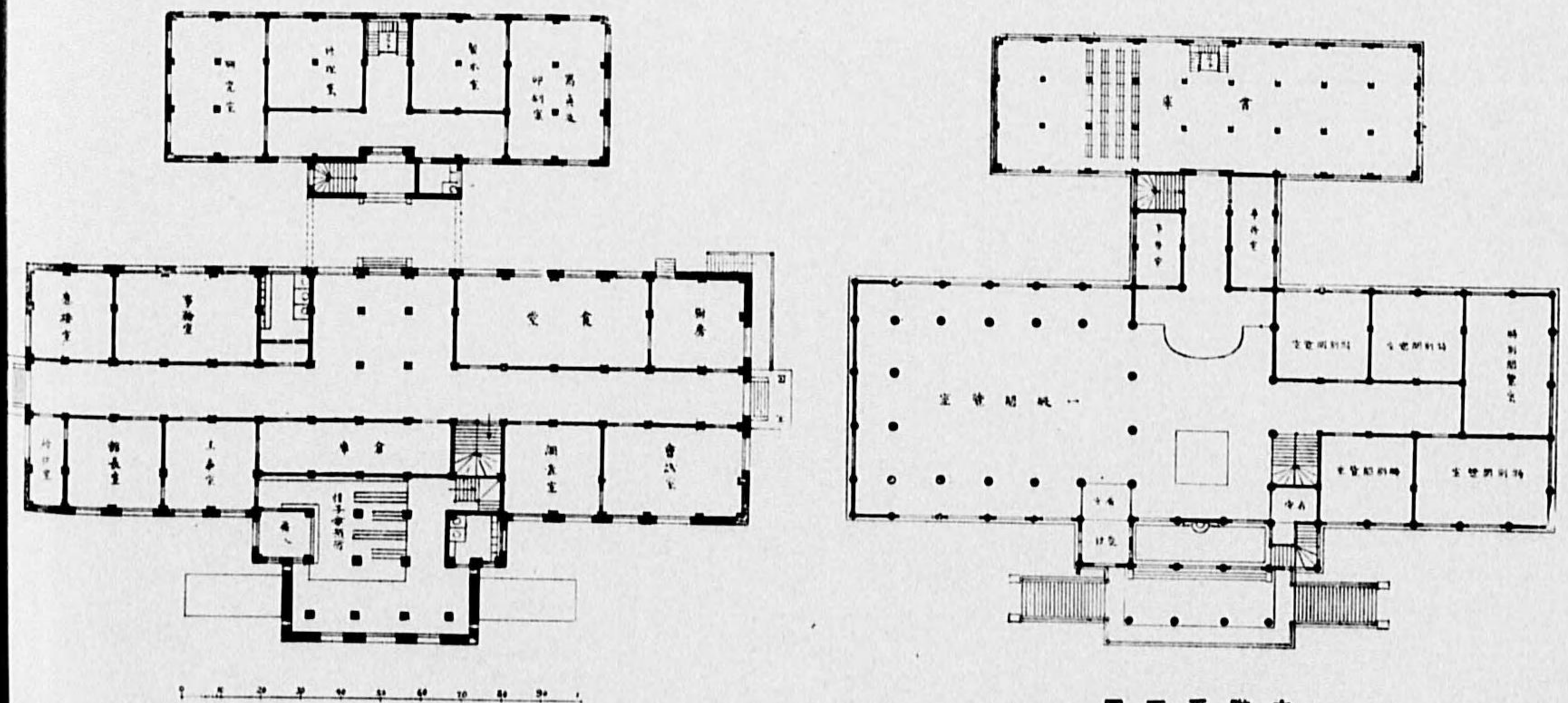
(筆自博士) 圖面側



(筆自士博) 圖面斷



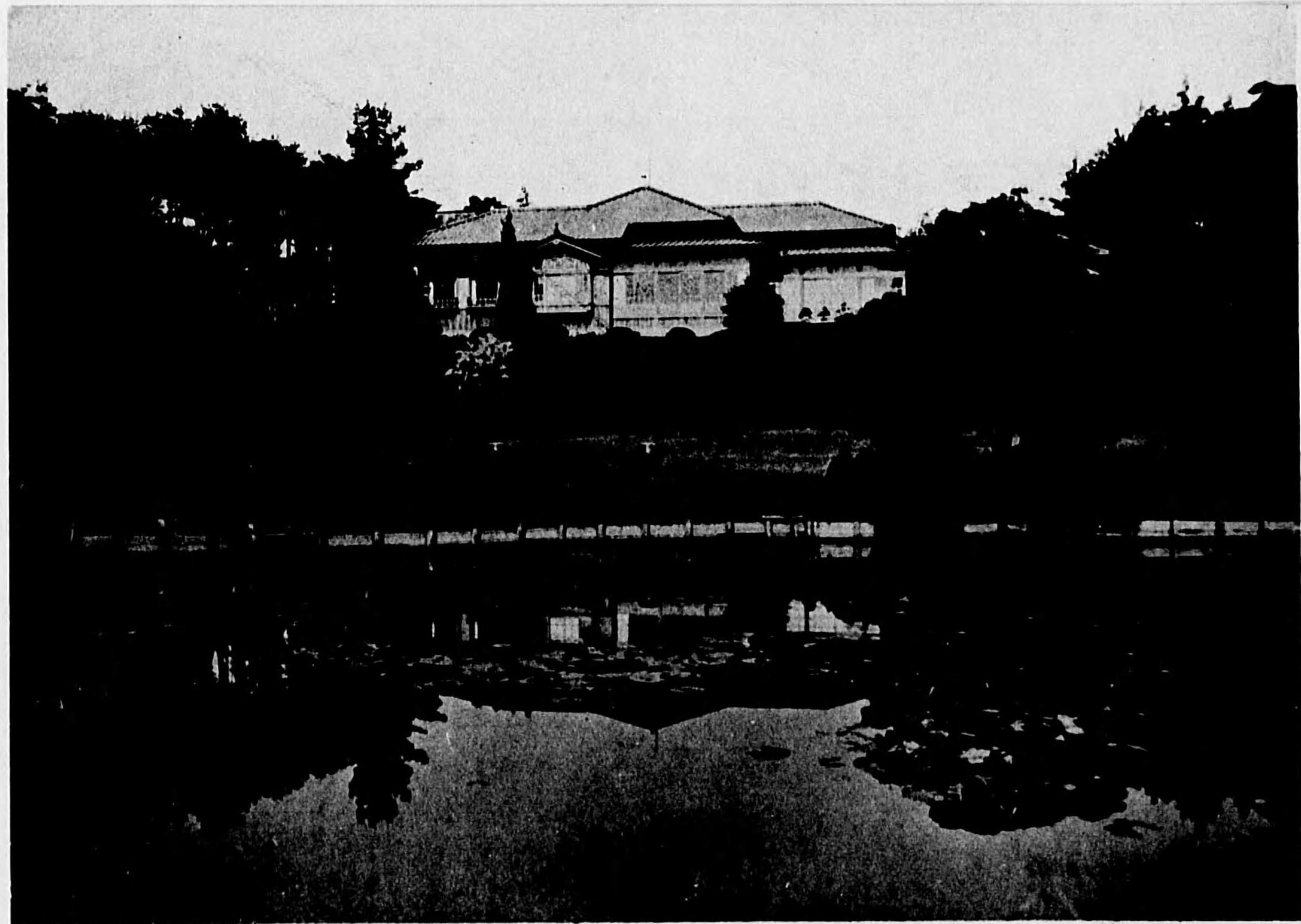
(筆自士博) 圖面正



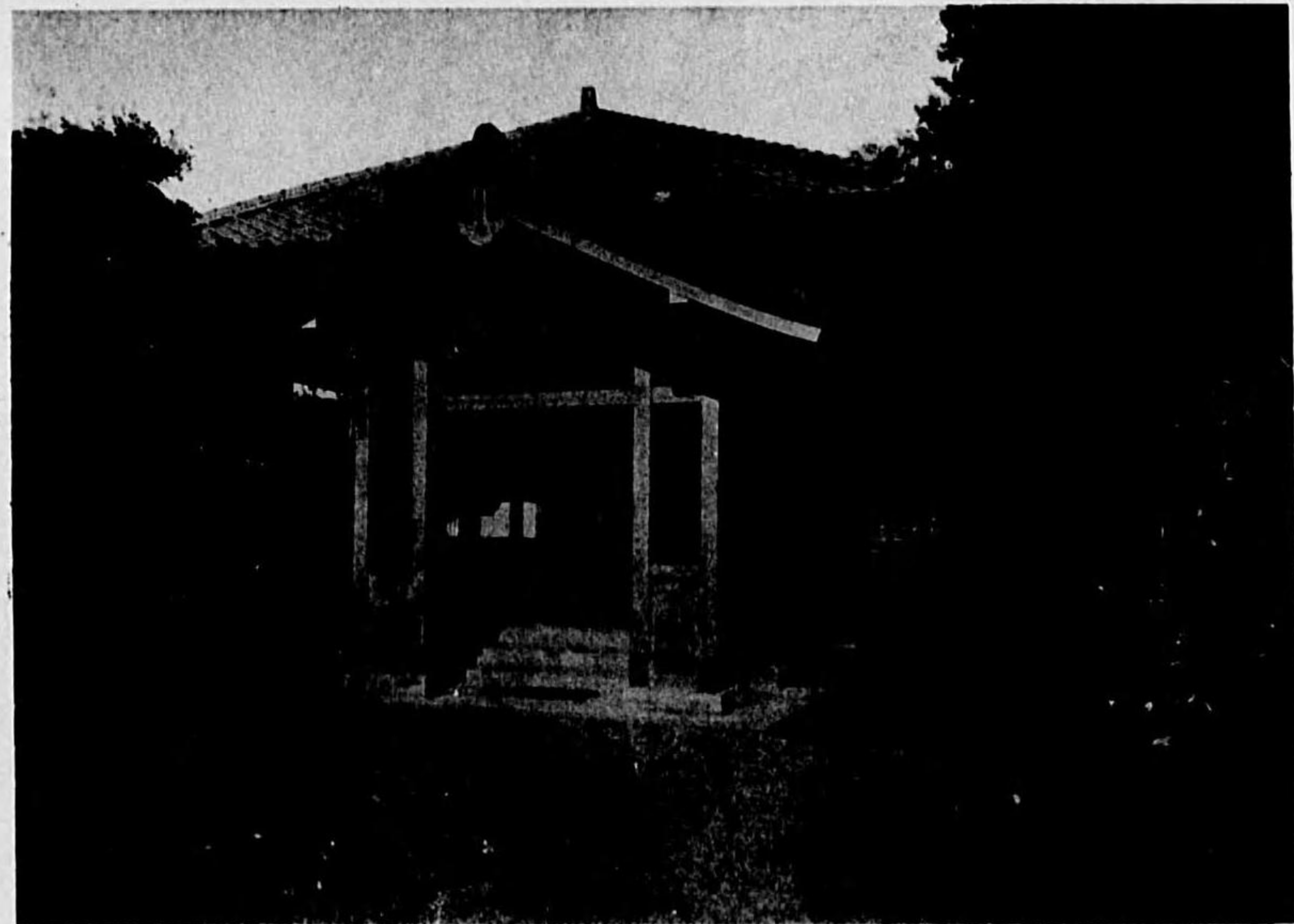
圖面平階地

圖面平階主

三野田内 士博學工 計設同共 年元和昭 (施實未) 館書圖京北

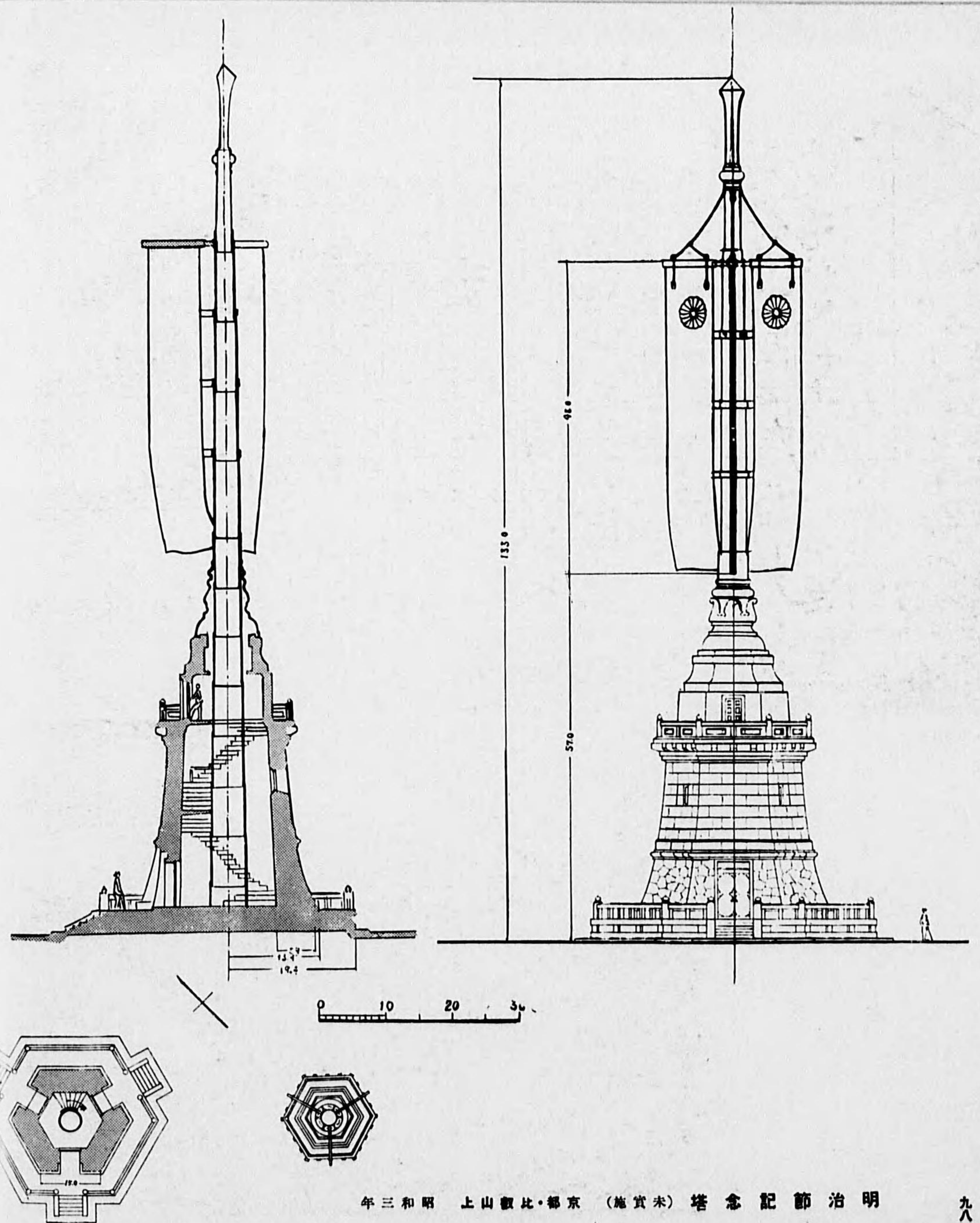


景 外



玄 關

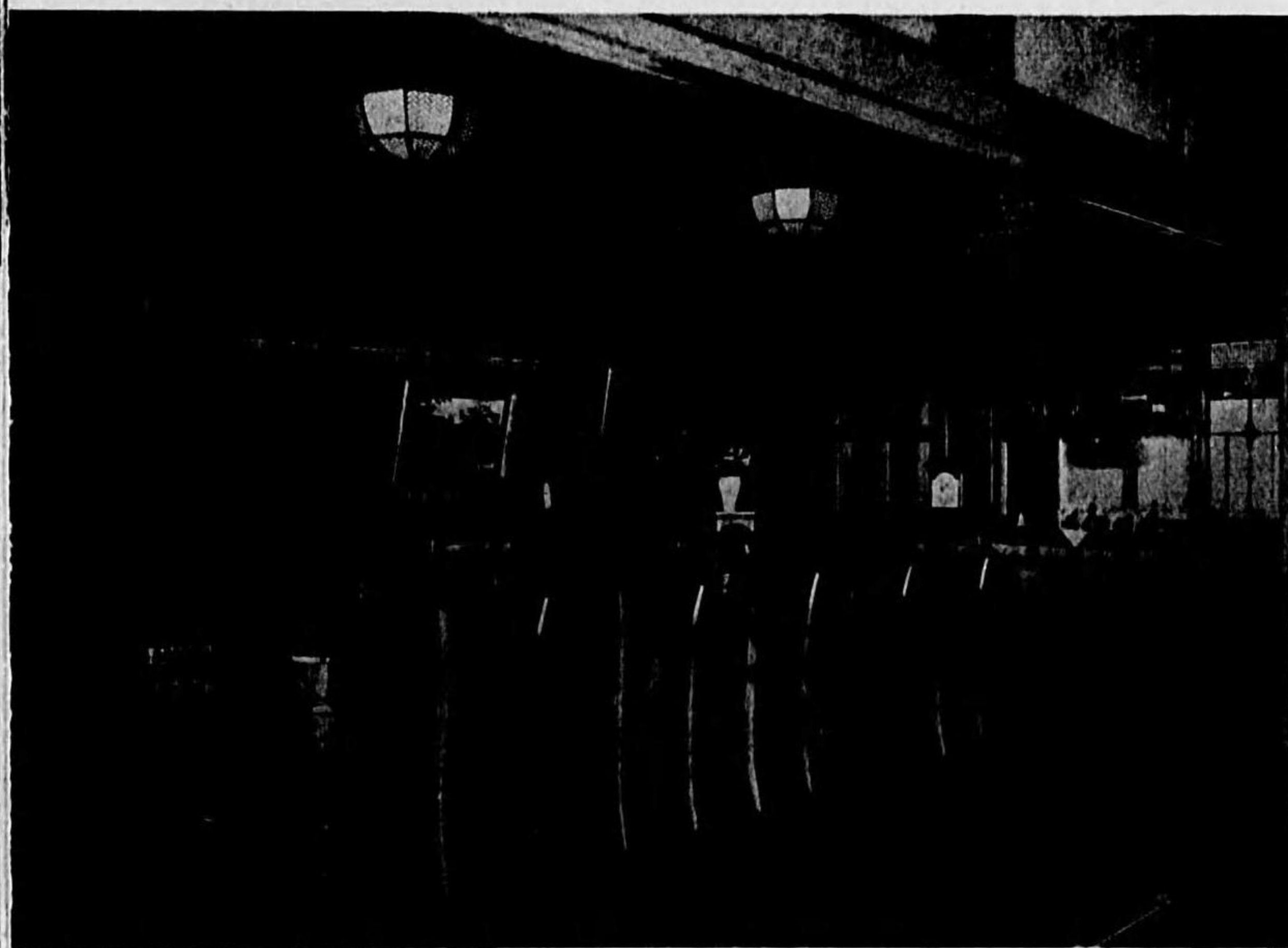
荻外莊(前入澤邸) 昭和二年頃竣工
 東京市杉並區荻窪 主任金子清吉



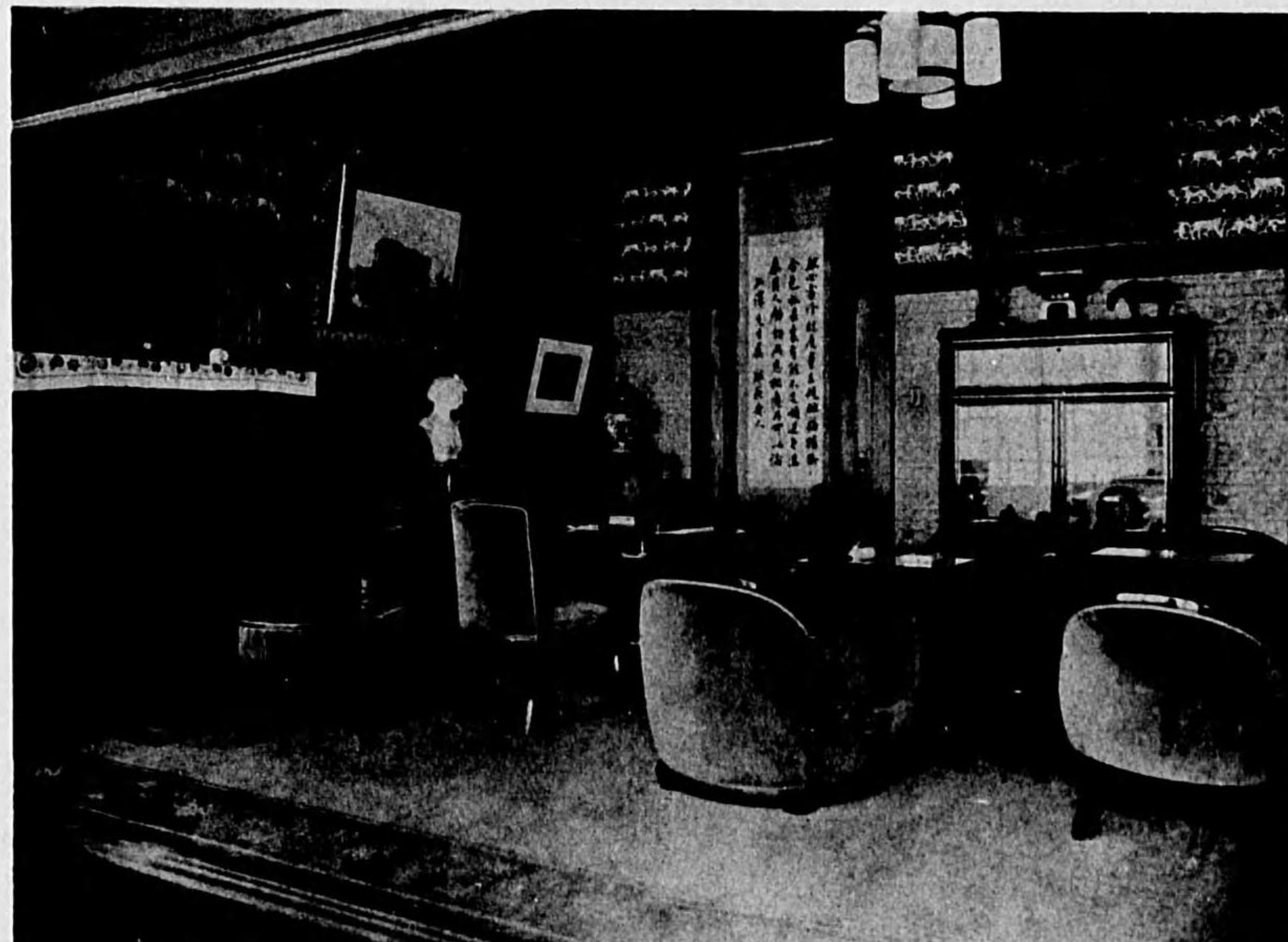
明 治 節 節 記 念 塔 (施 實 未) 都 京 比 數 山 上 昭 和 三 年



書齋



食堂



書室



支那式應接室

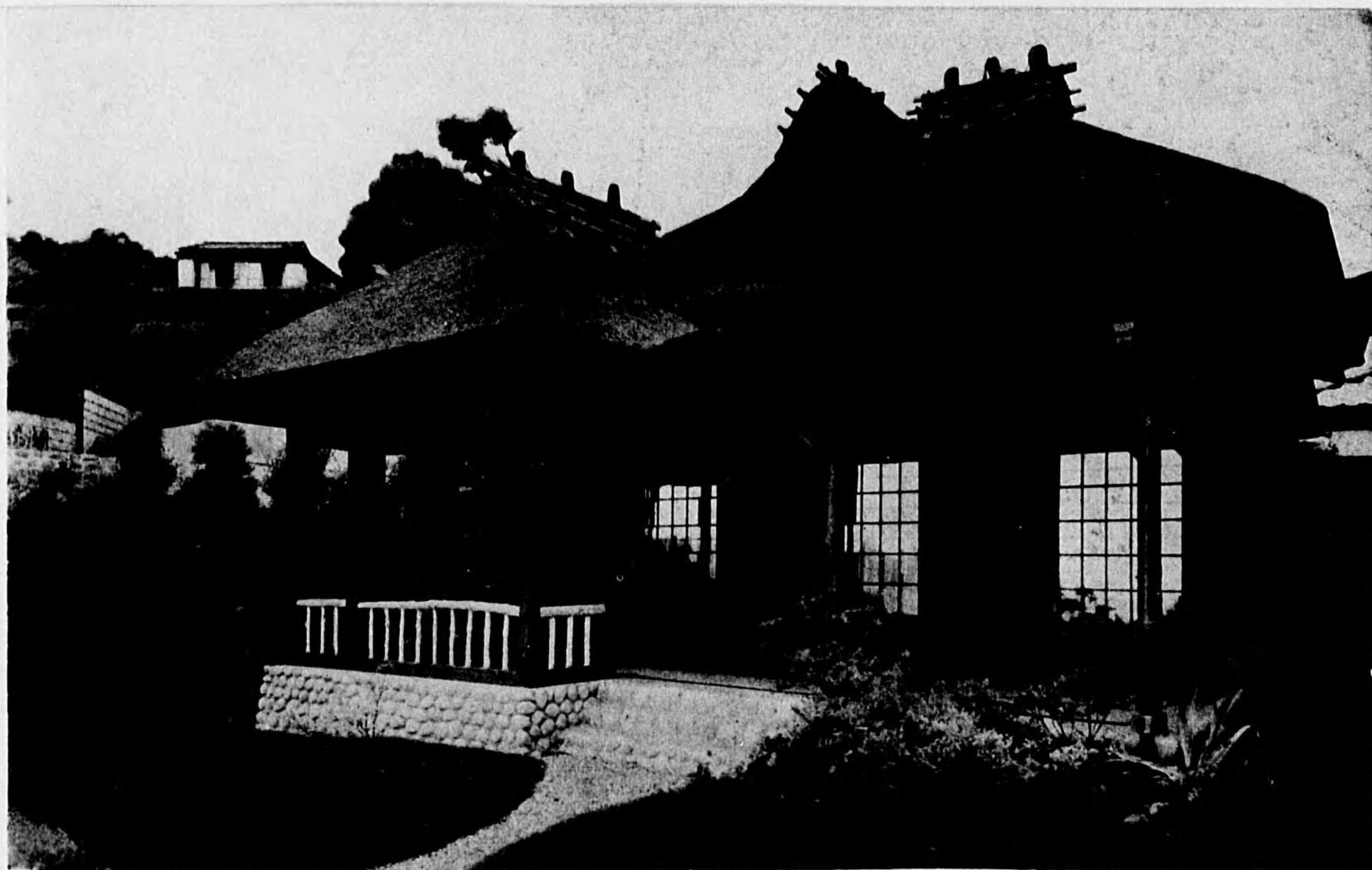


談話室

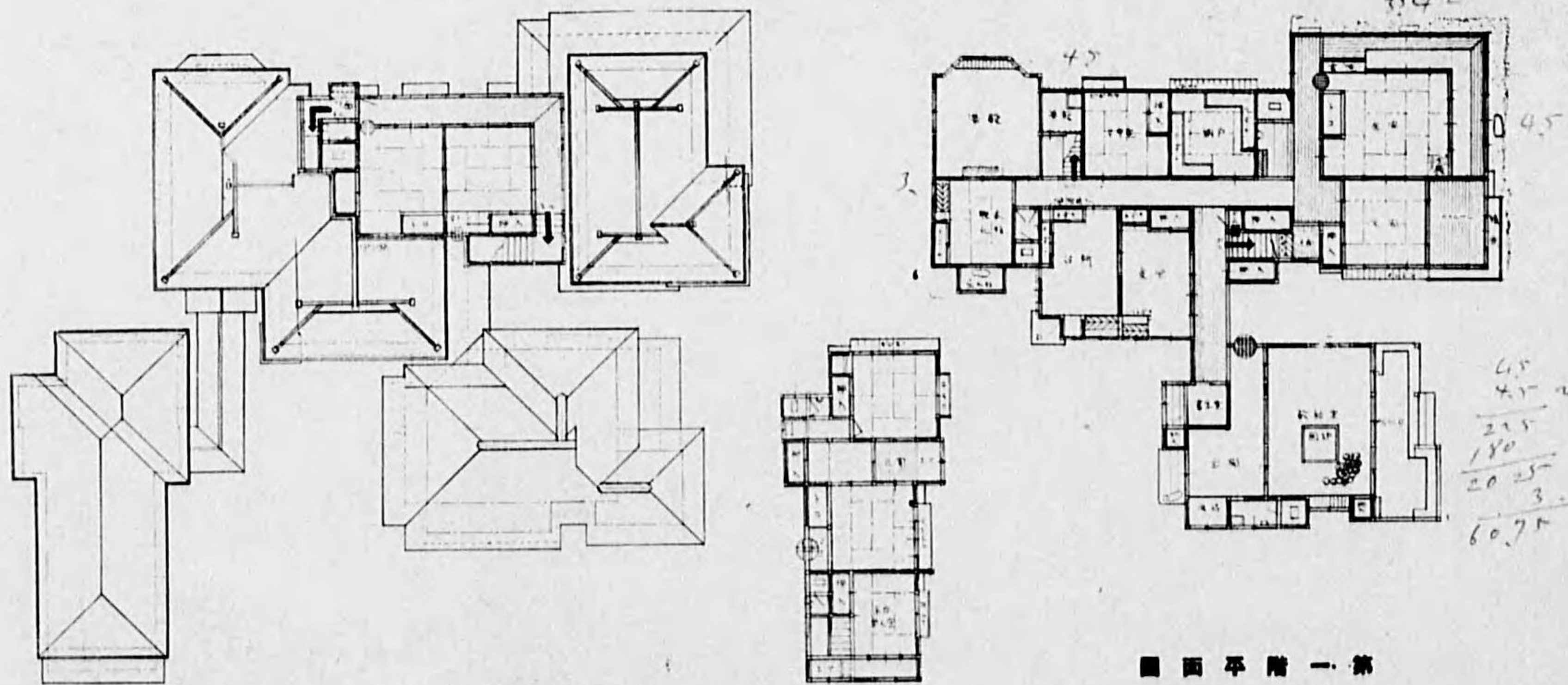
浴室



起工	昭和九年九月
竣工	同十年九月
敷地面積	四〇〇坪
建坪	
本屋	
一階	六六・八坪
二階	一八・四坪
茅葺	二三・七坪
瓦葺離れ	二五・五坪



談話室・エヴラシ

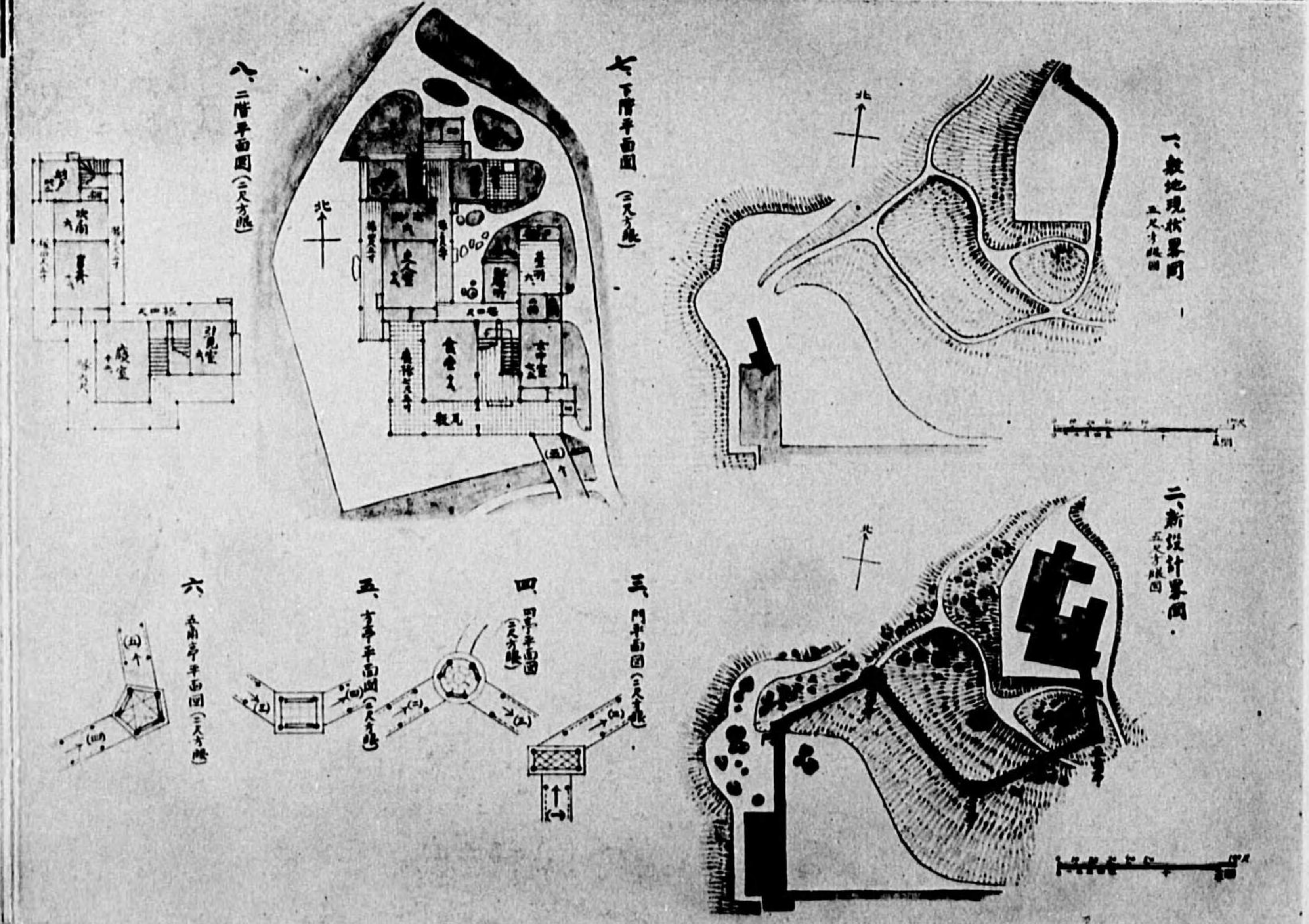
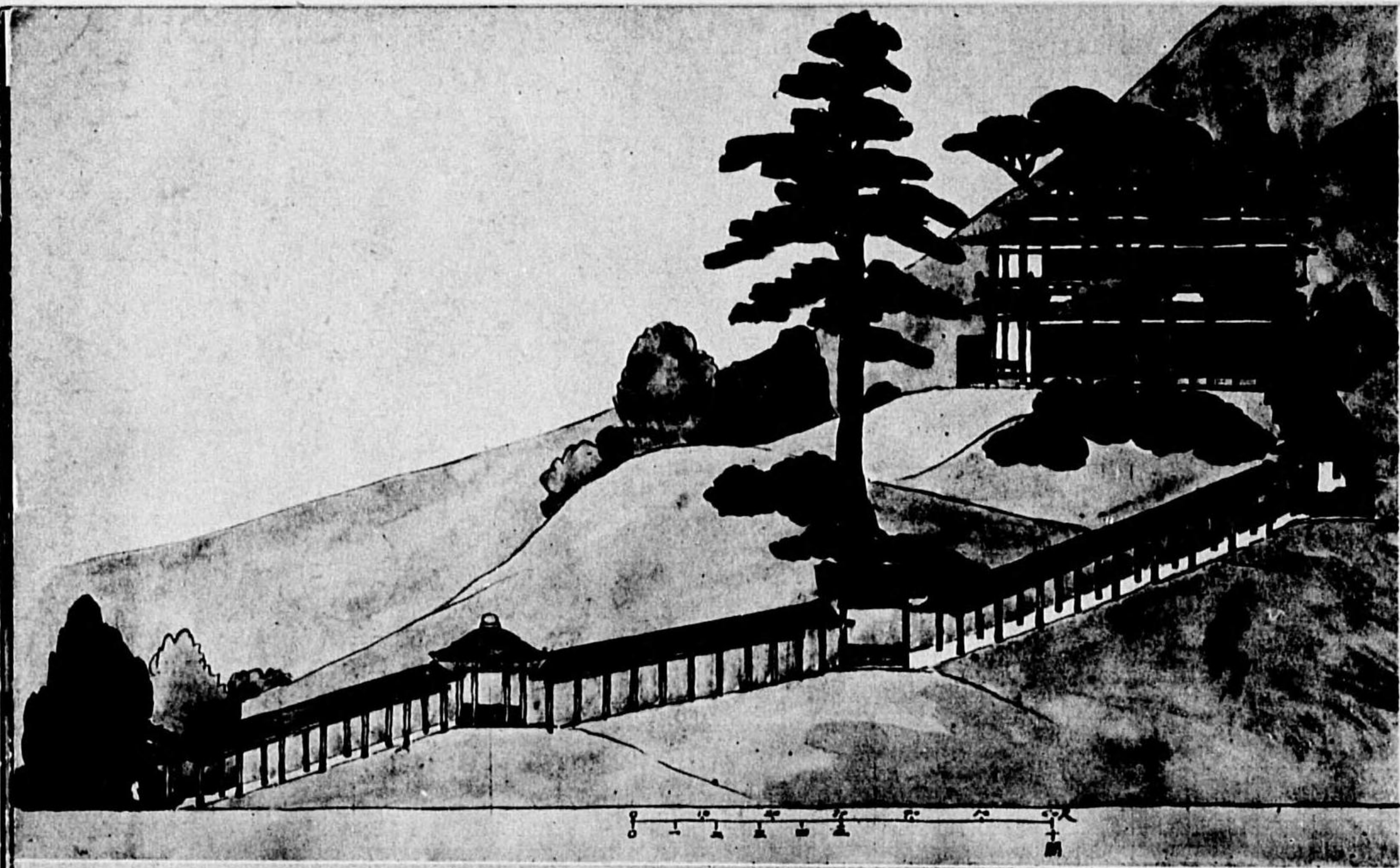


第二階平面圖

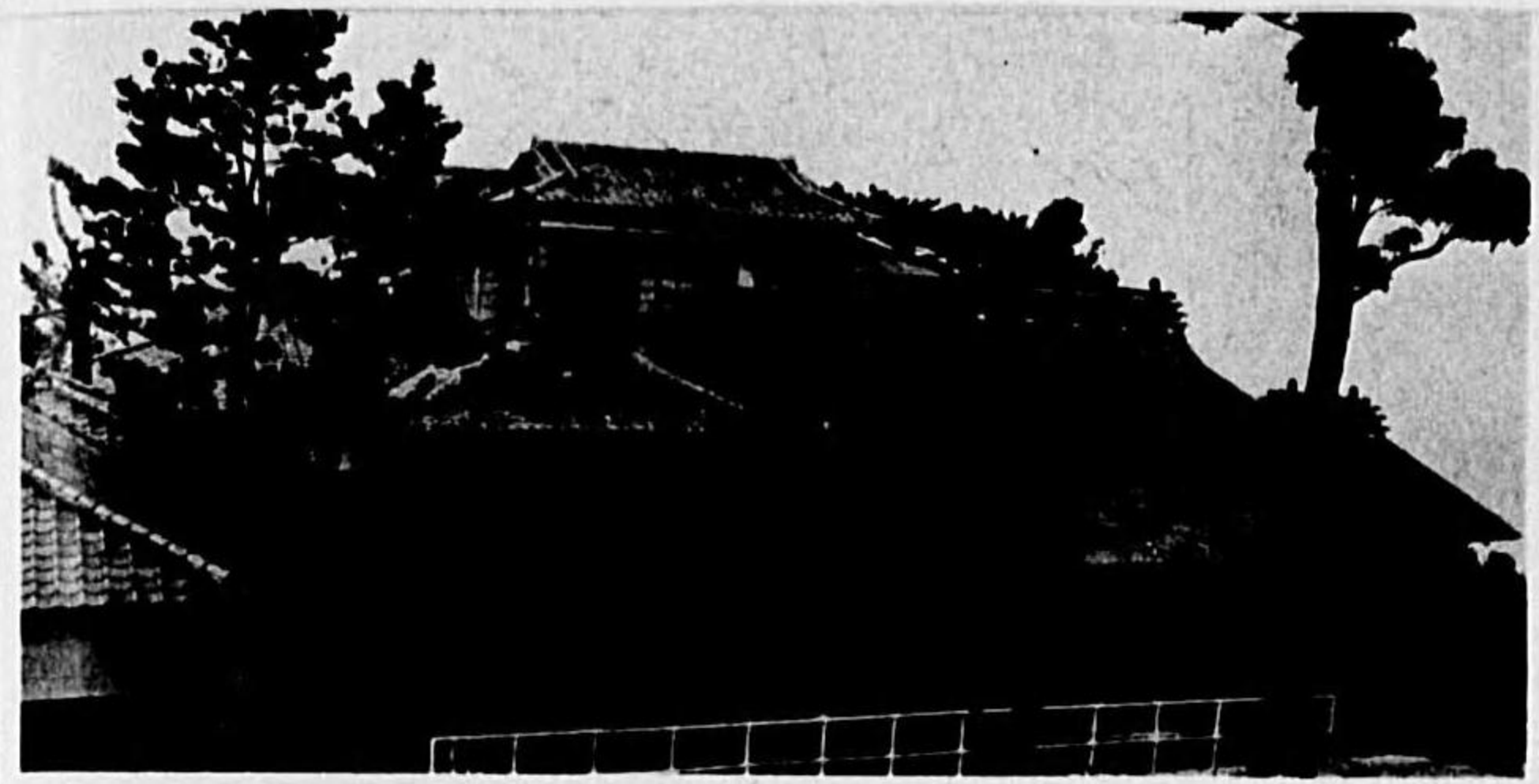
第一階平面圖

靜岡縣熱海市伊豆山字押出

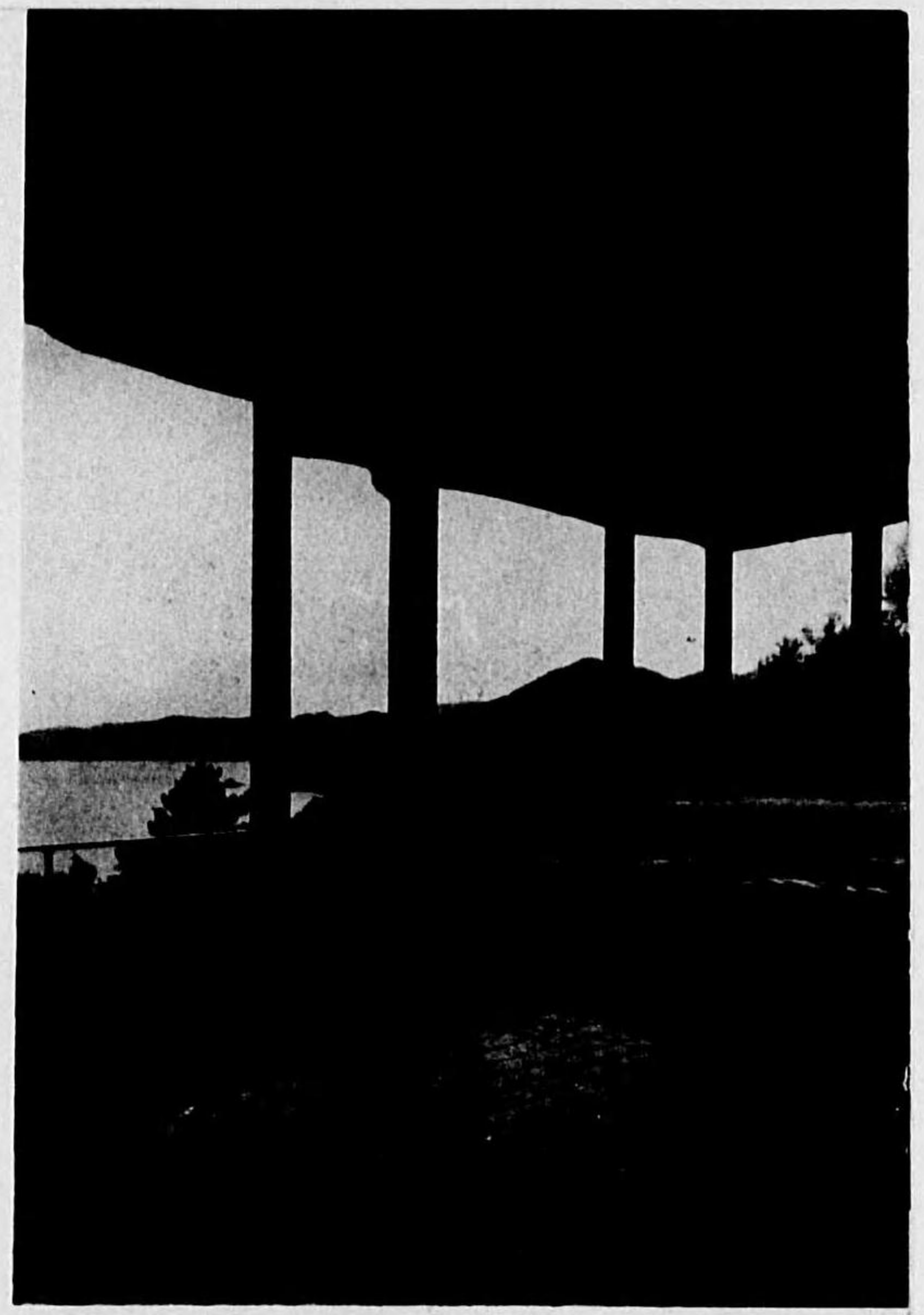
白石元治郎氏熱海別邸



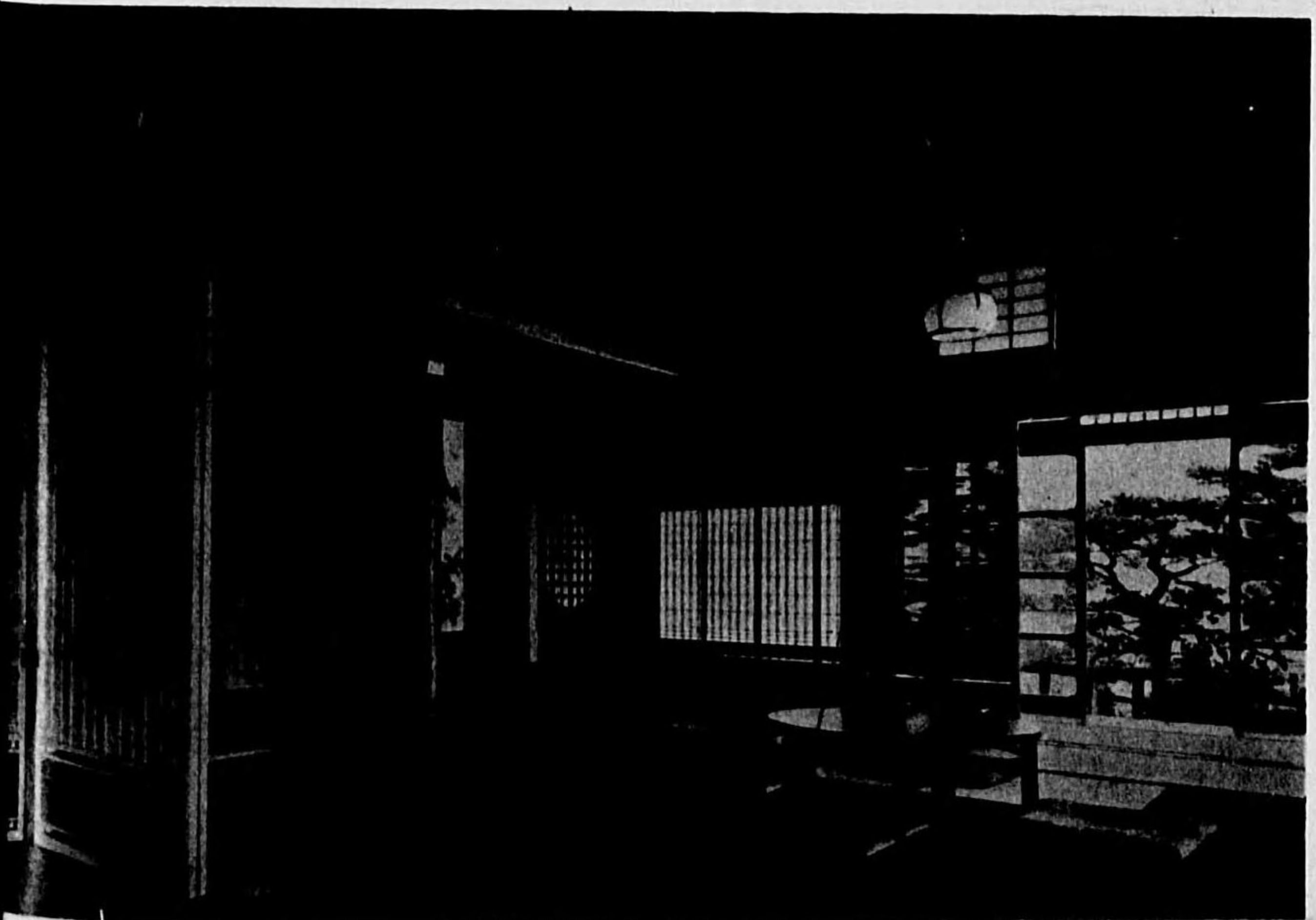
男爵大倉喜八郎氏小田原別邸 (不實施) 神奈川縣小田原市 大正八年設計



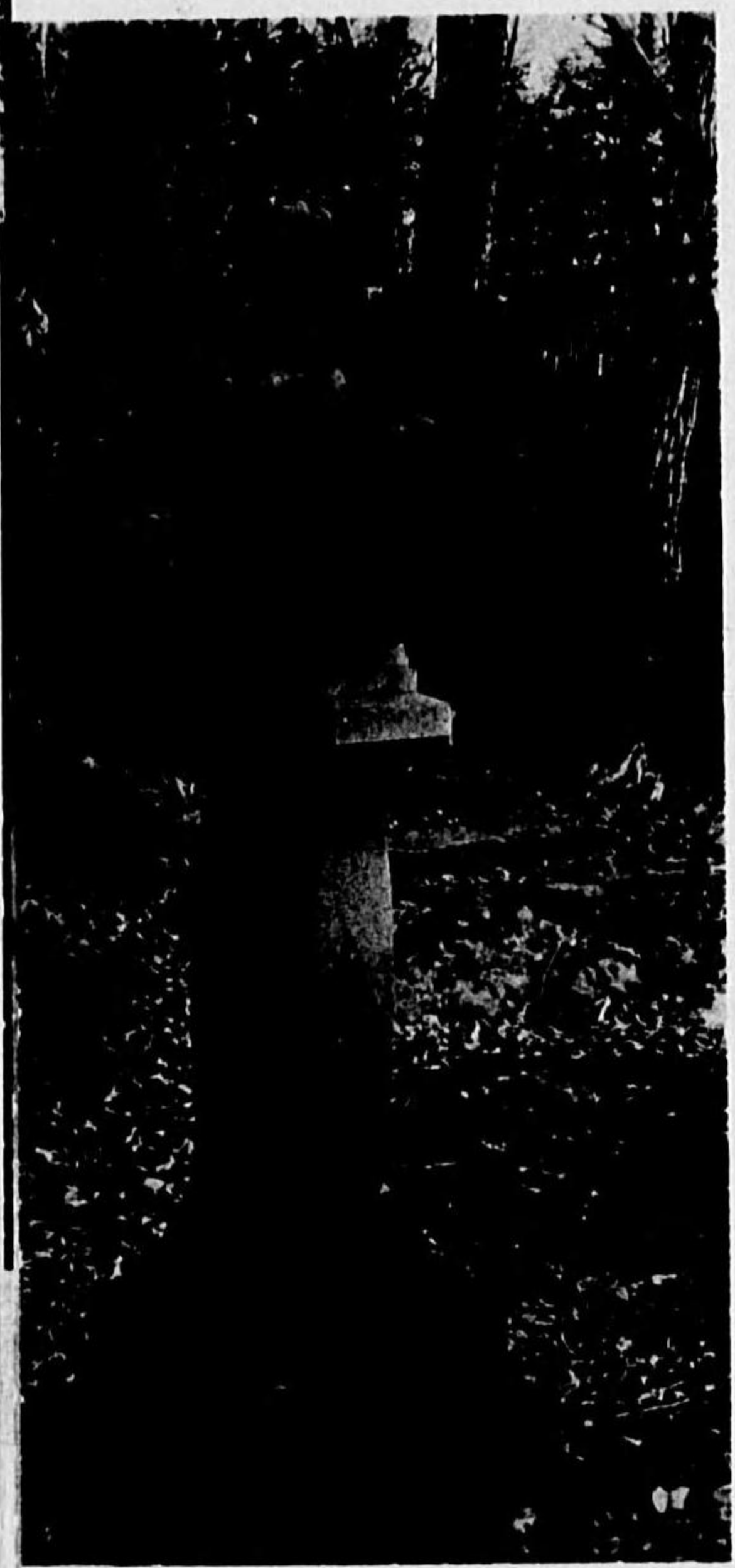
景 外



ウエランダ

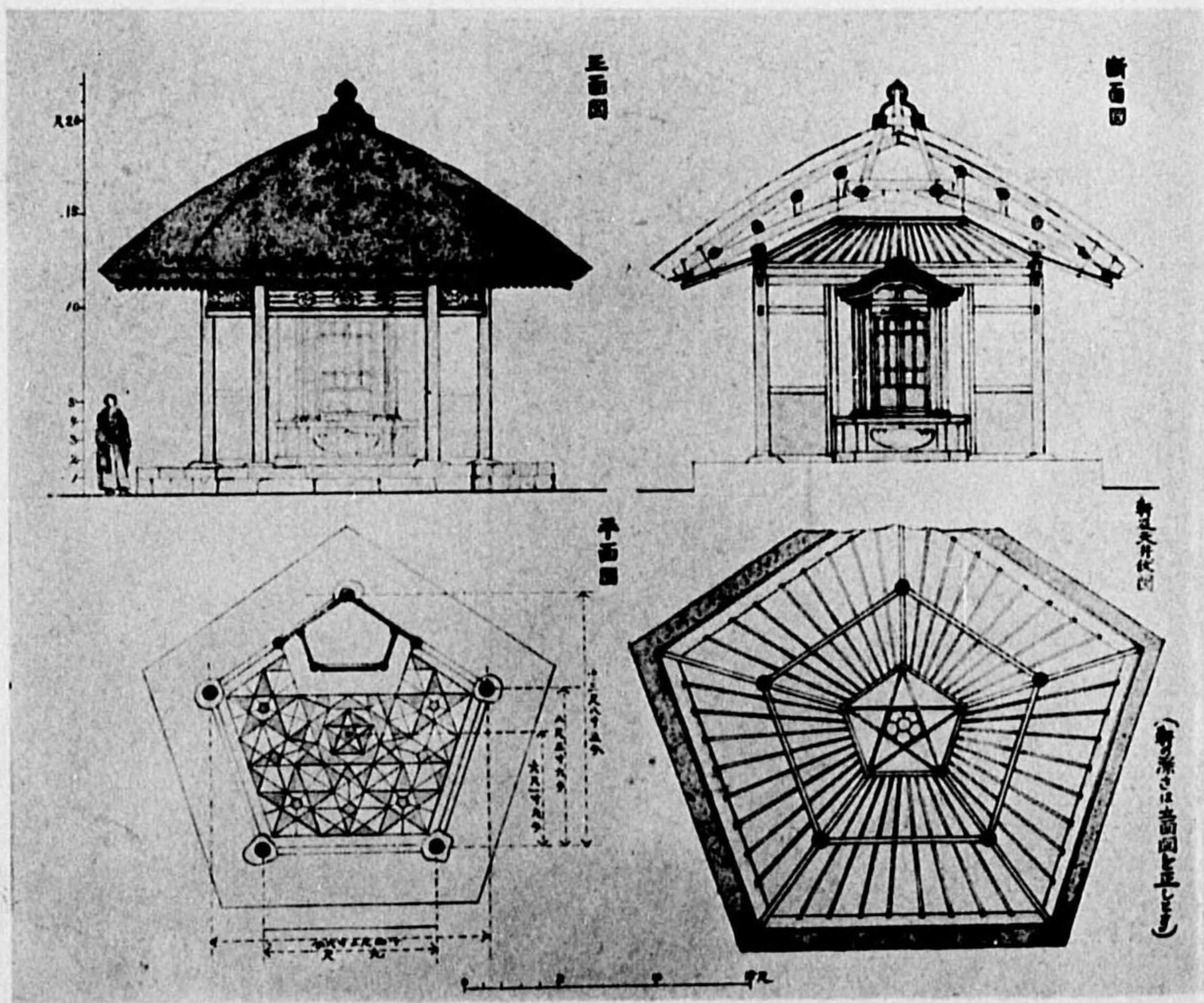


居 間



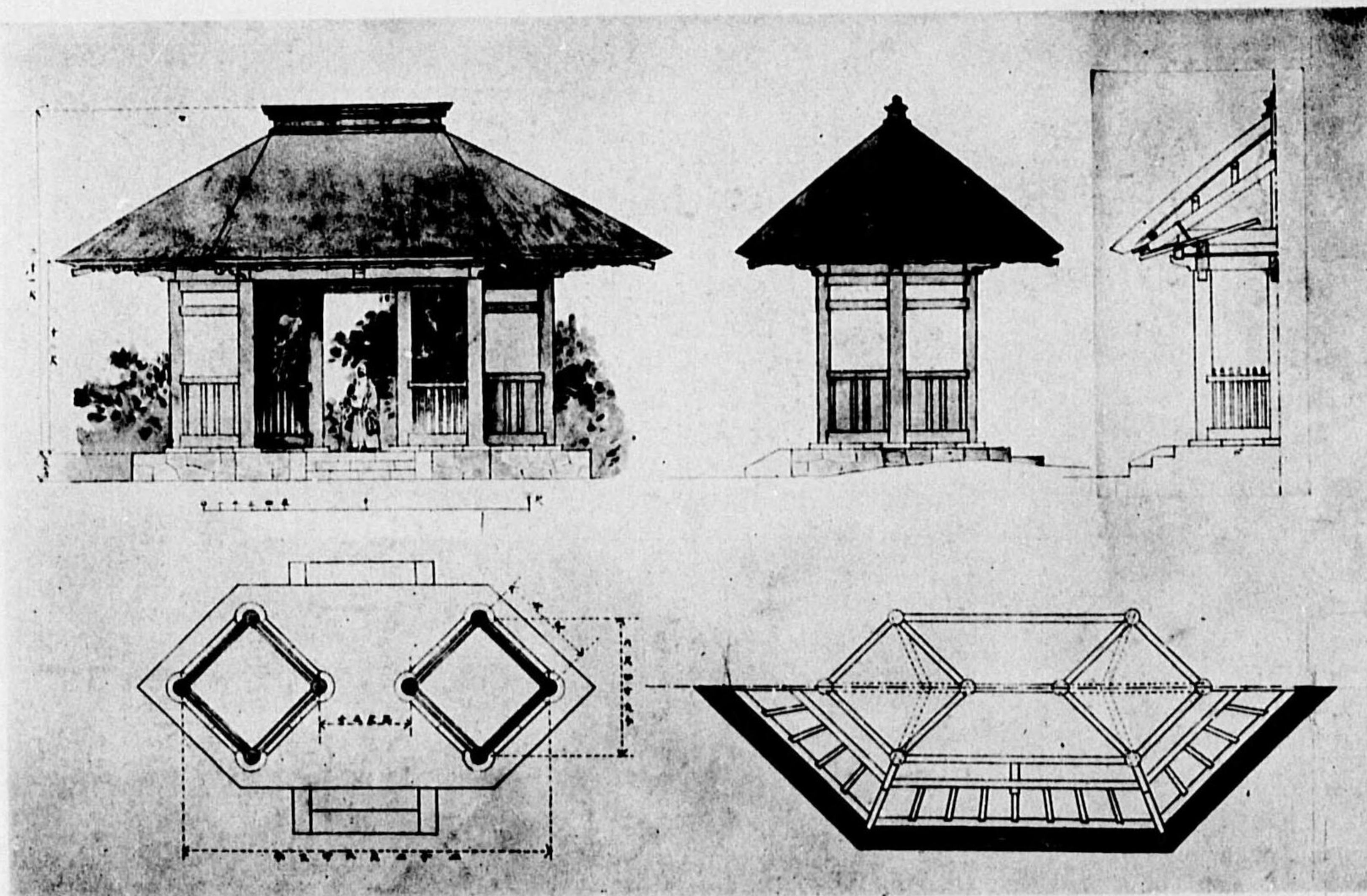
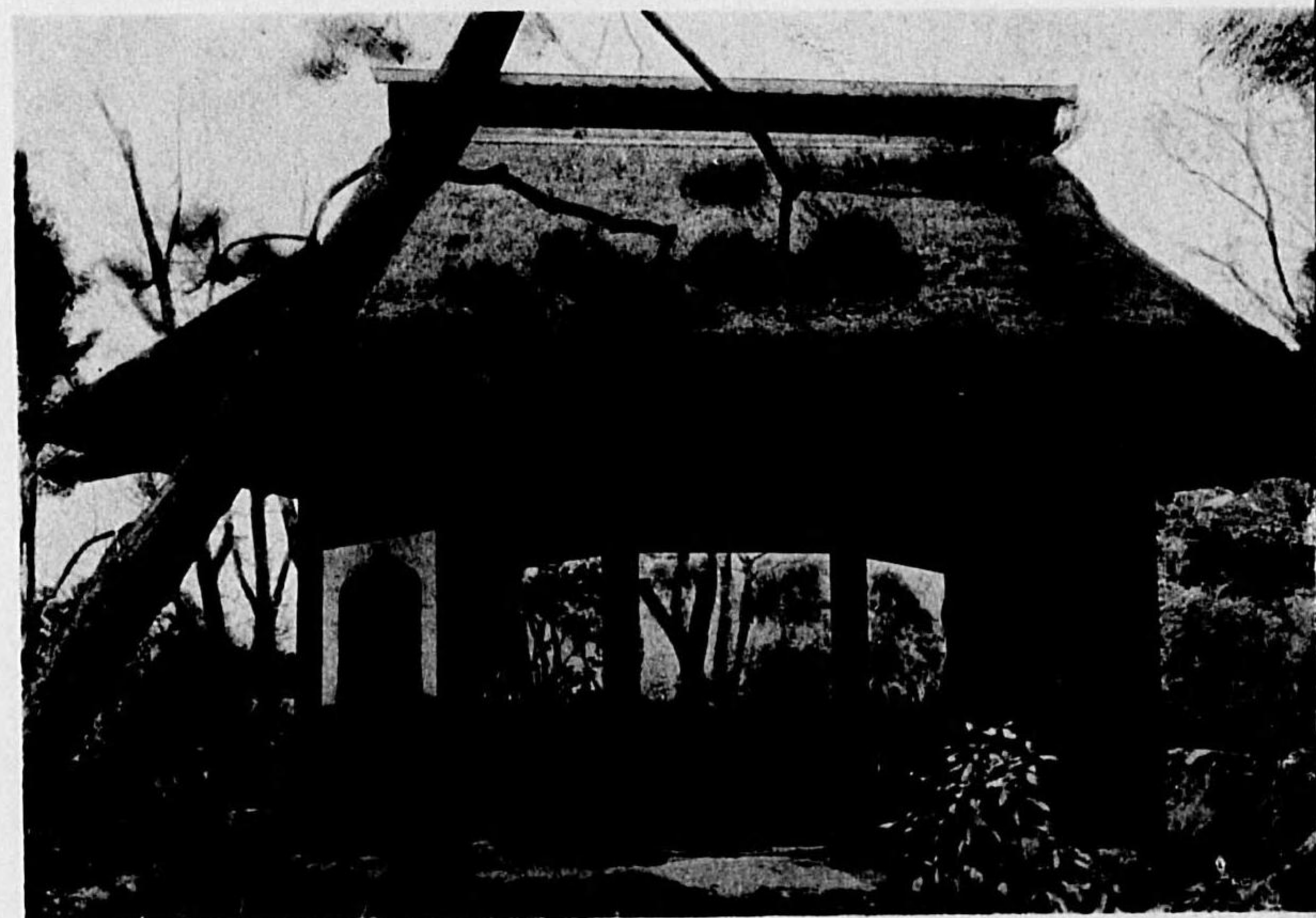
石燈籠

(寺米久) 邸別根箱氏助之民米久
 年四十四正大一年九正大 羅強根箱縣川奈神



五角亭設計圖 (不實施)
 (博士自筆) 大正十四年設計

仁王門
 大正九年



(筆自土博) 圖計設門王仁

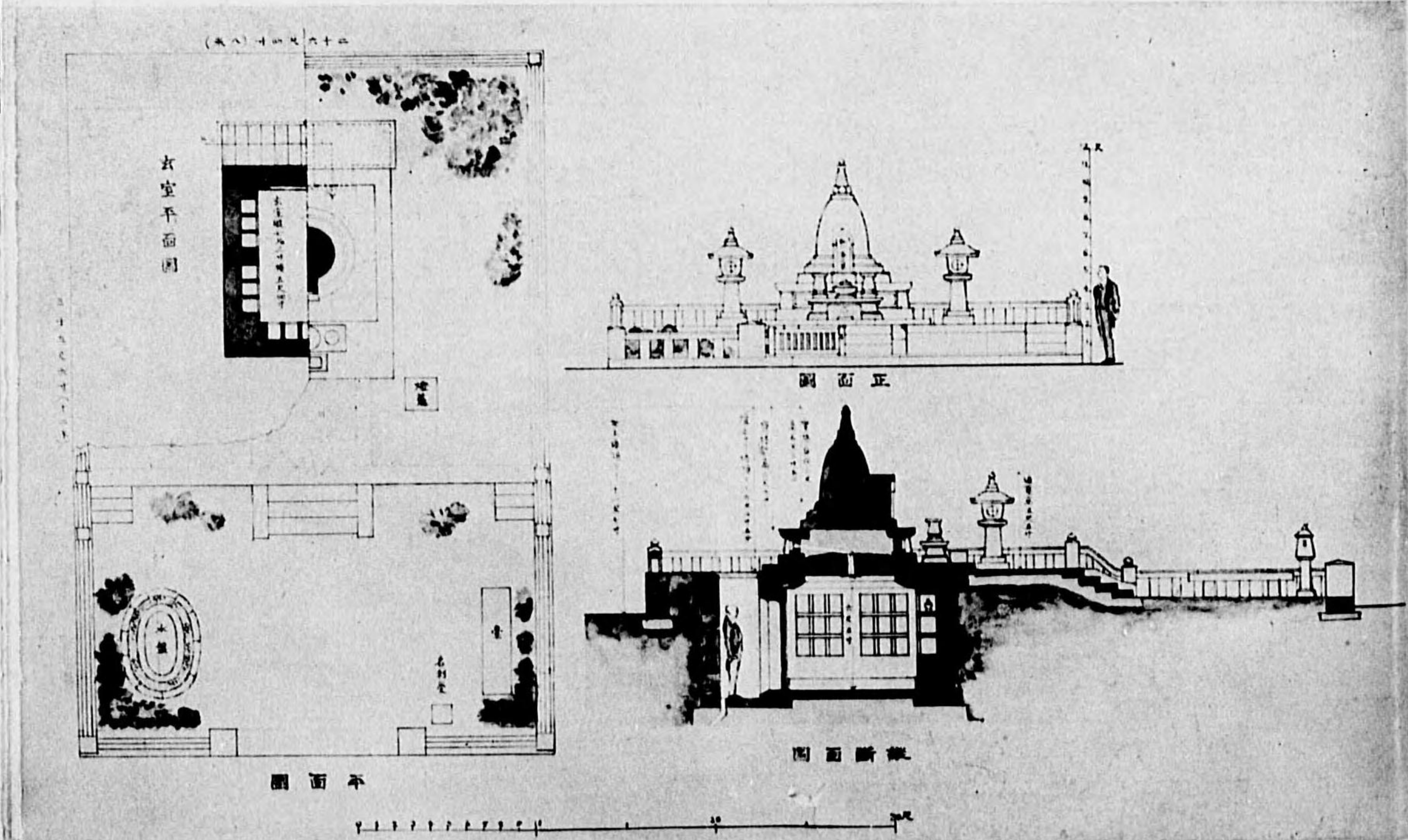
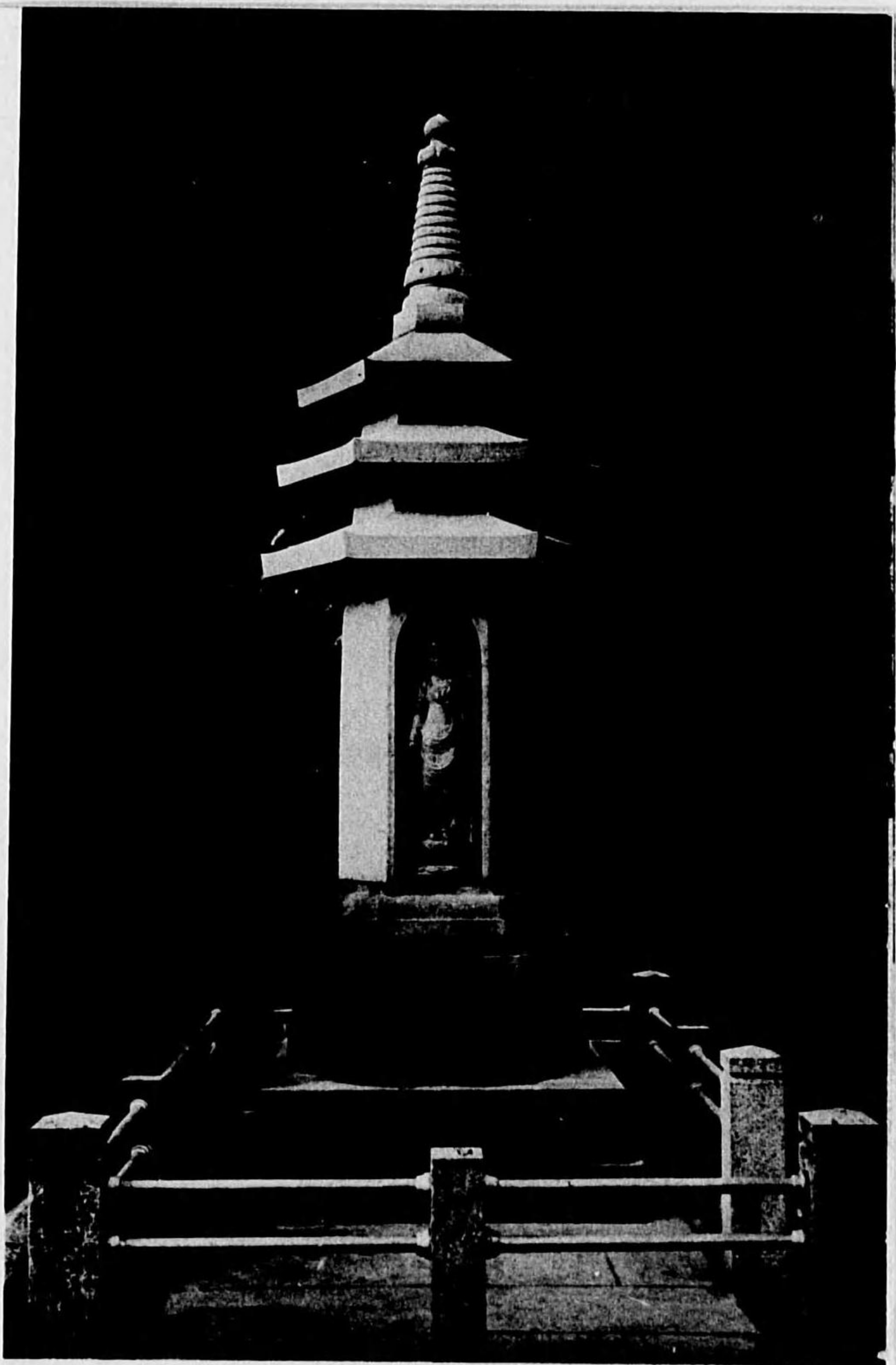


(筑自土博) 圖計設

鮎川家墓

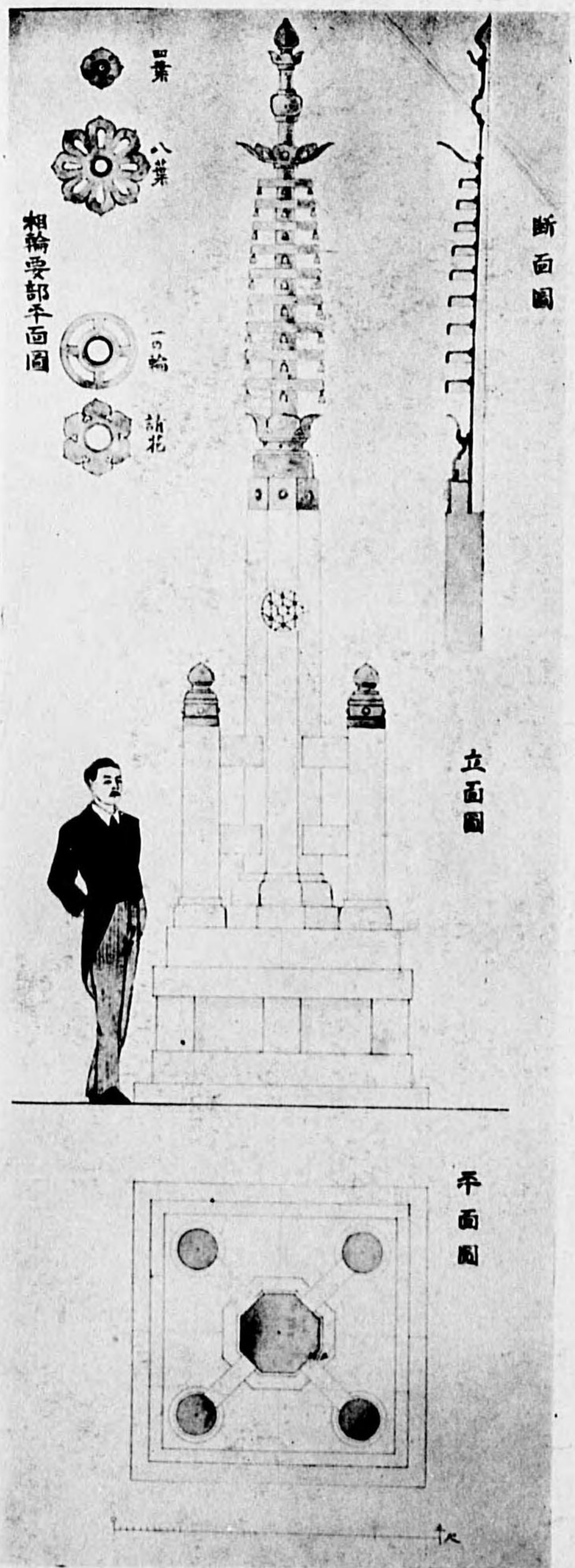
東京市多磨墓地 昭和十三年十二月竣工

鮎川家祖先供奉養塔昭和十四年

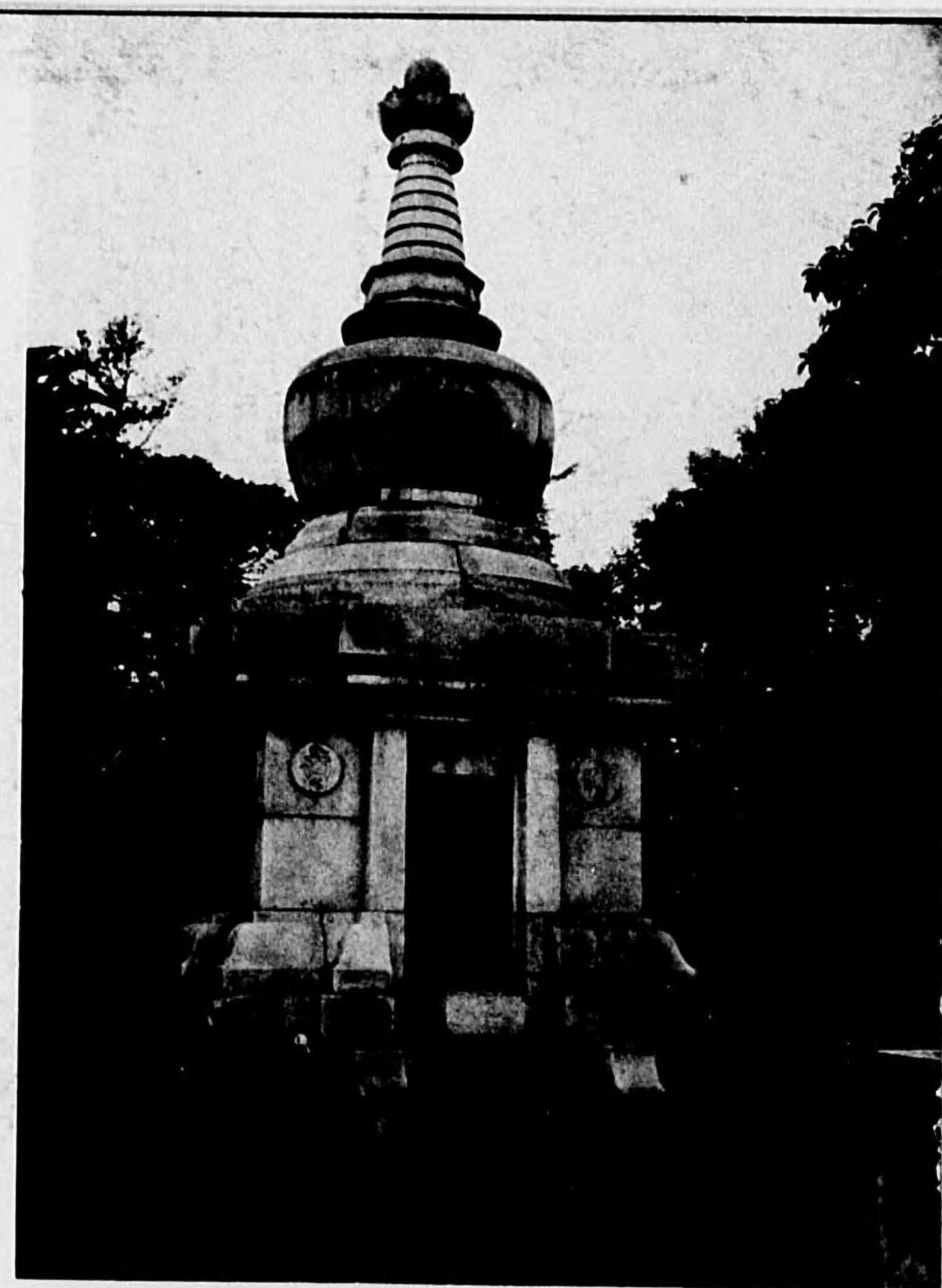




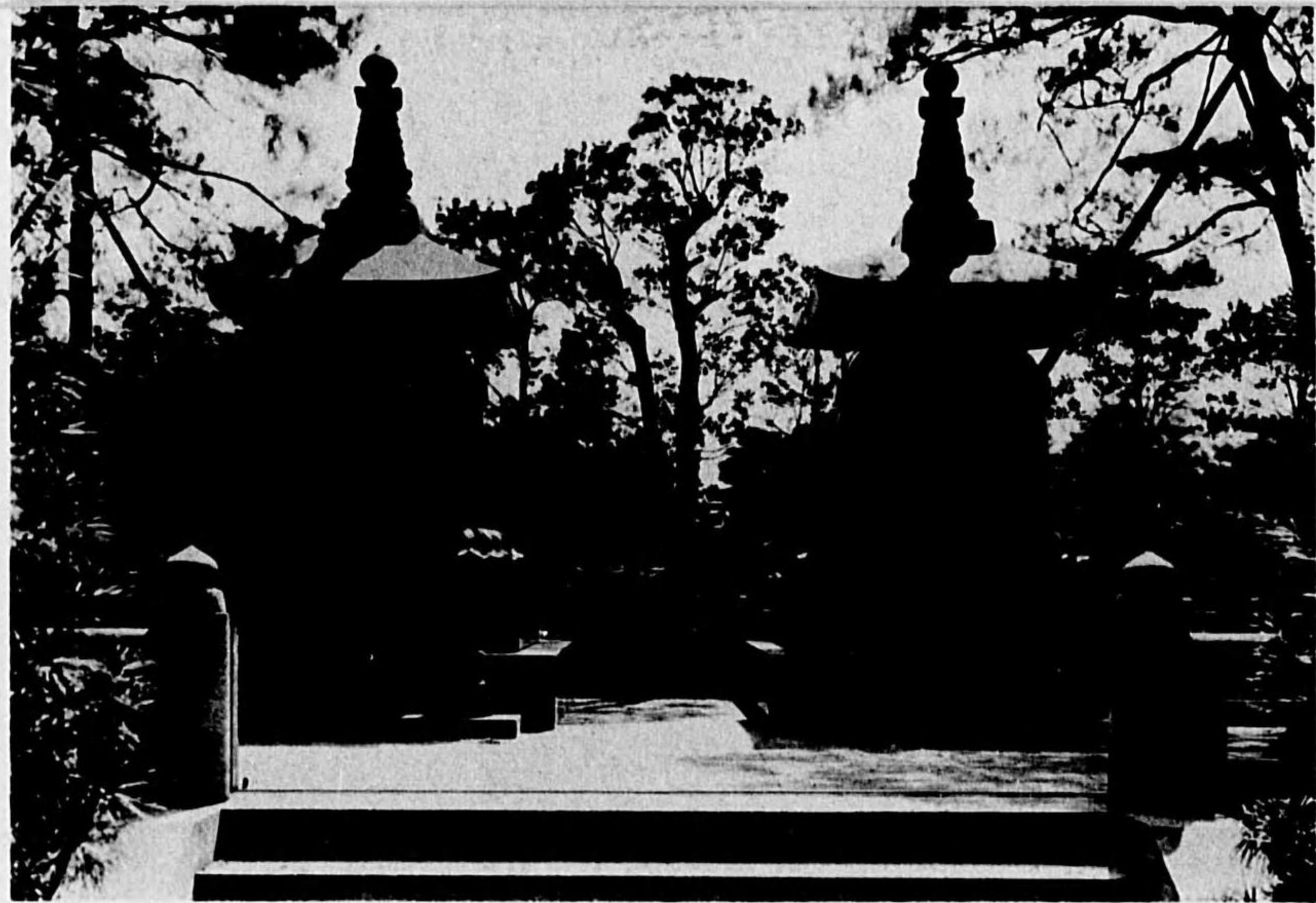
藤田家墓 東京市多摩地 昭和十一年



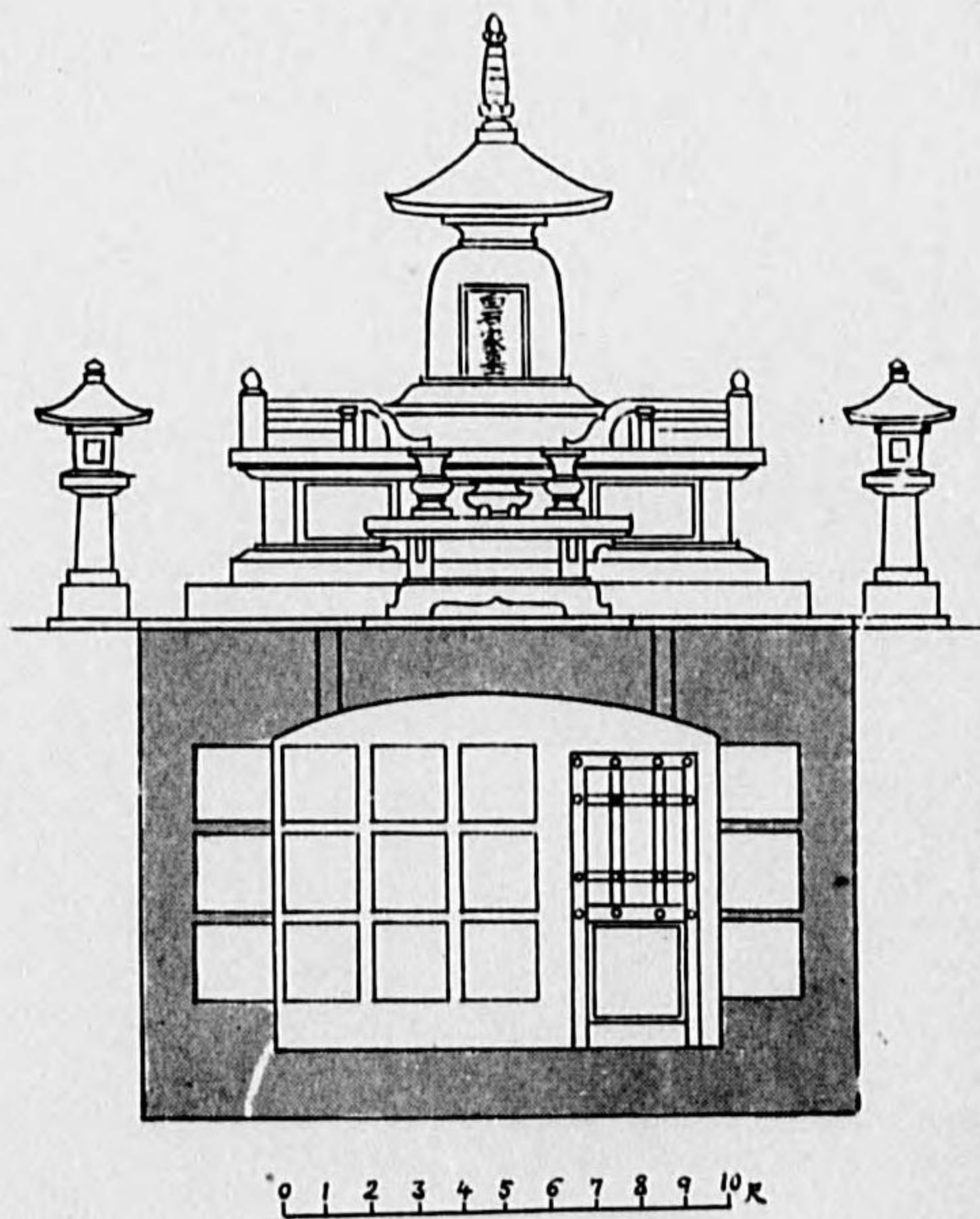
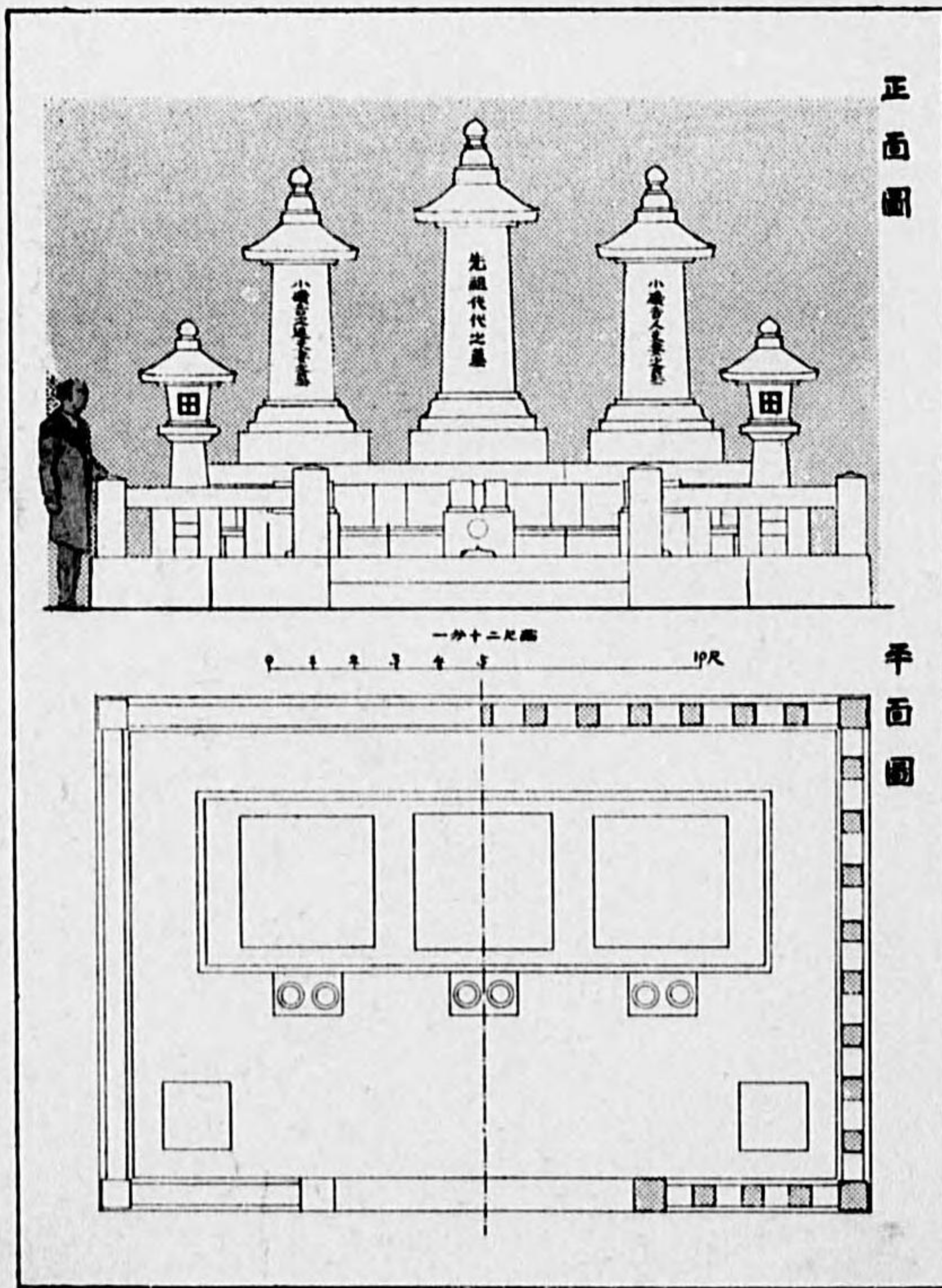
某家墓相輪標 橫濱市鶴見總持寺境内 設計圖(博士自筆) 昭和五年



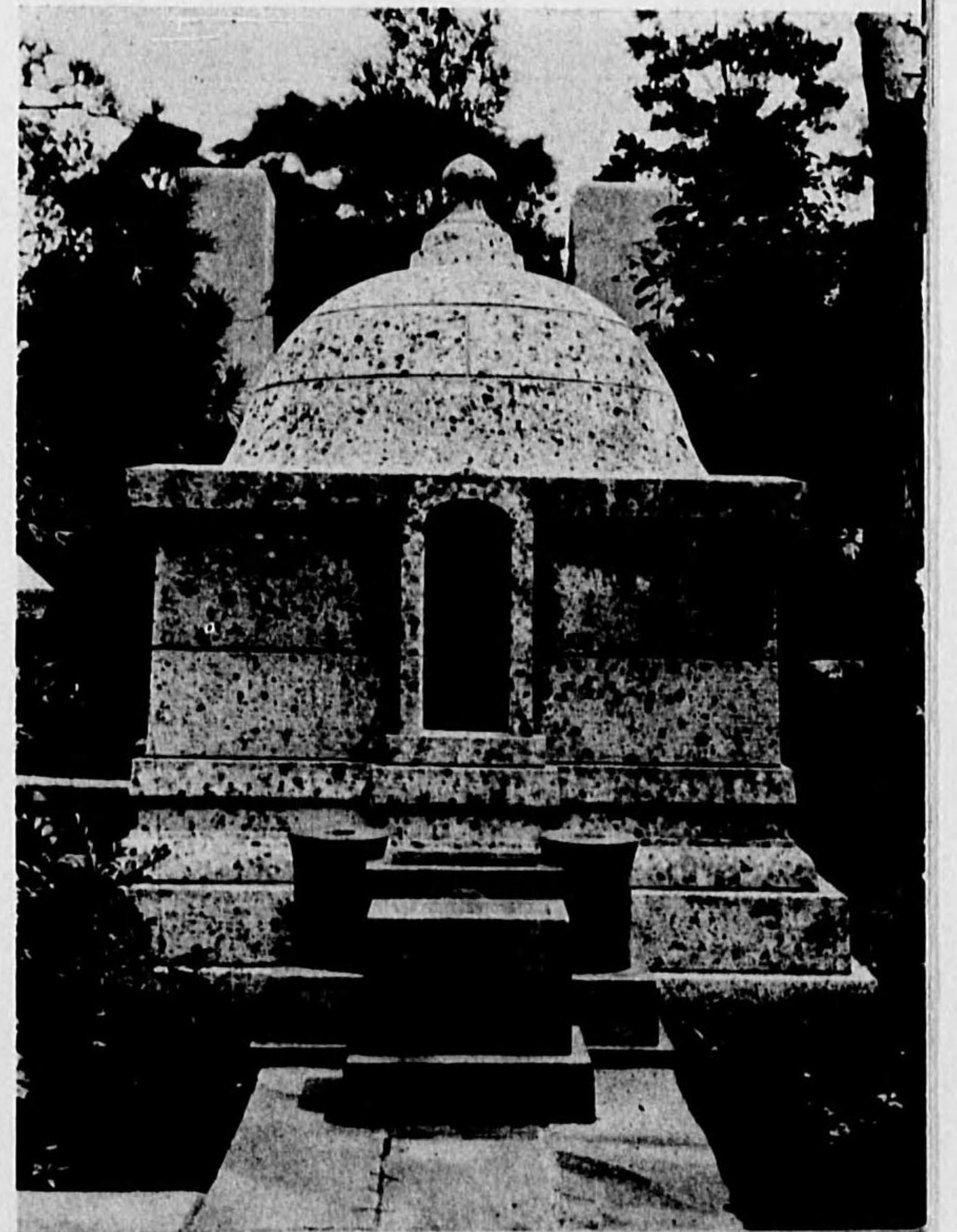
田中家墓 橫濱市鶴見町總持寺境内 大正十四年 花崗石造 扉素木金具打



墓之妻夫氏郎八喜倉大爵男
年五和昭 内境寺園隈羽會區川石小市京東



(策自士博) 圖計設



伊東家墓 横濱市鶴見總持寺境内 大谷石造 昭和十五年竣工

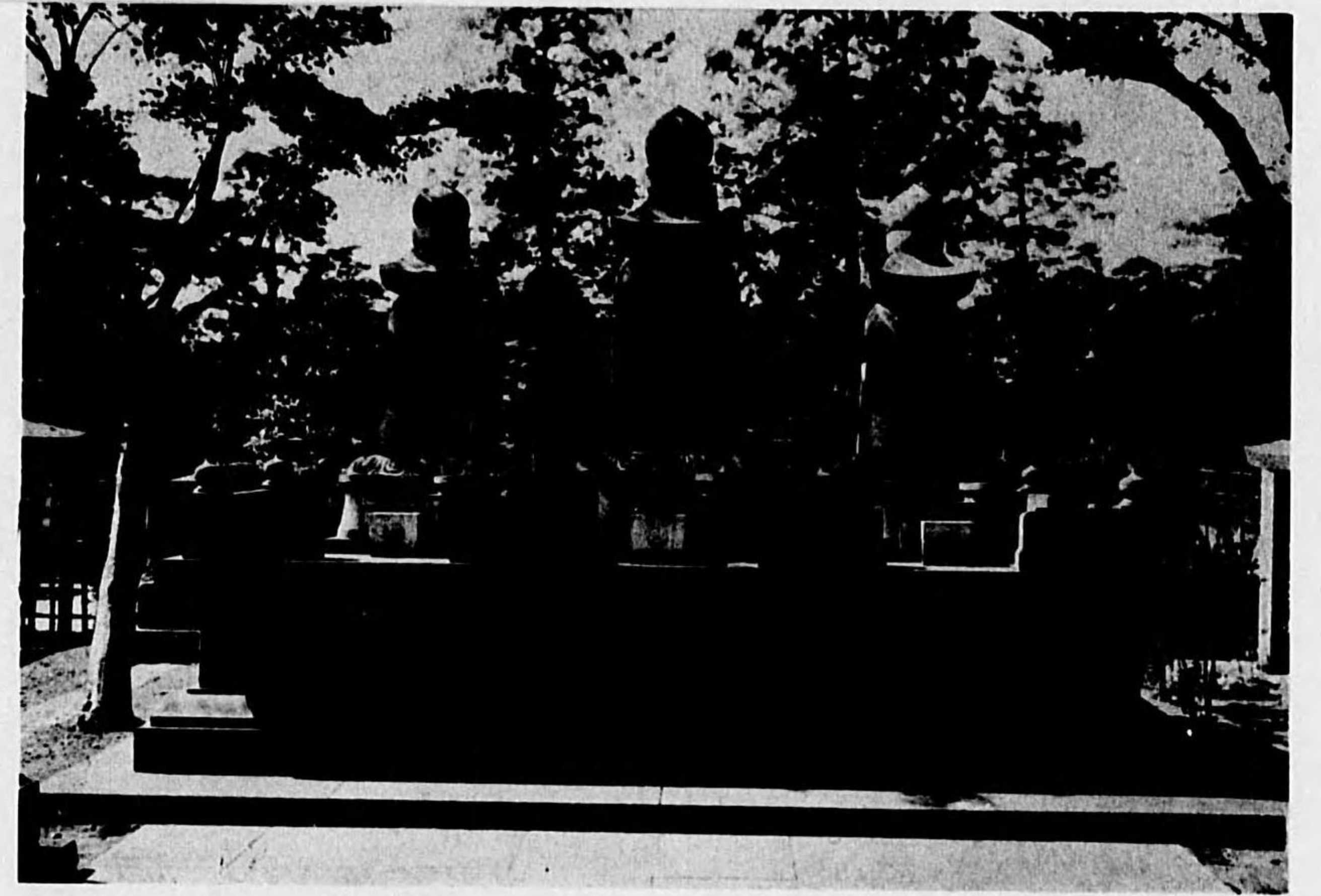


墓妻夫氏郎一總野淺

年七和昭一年三和昭 内魂寺持總見鶴市濱横



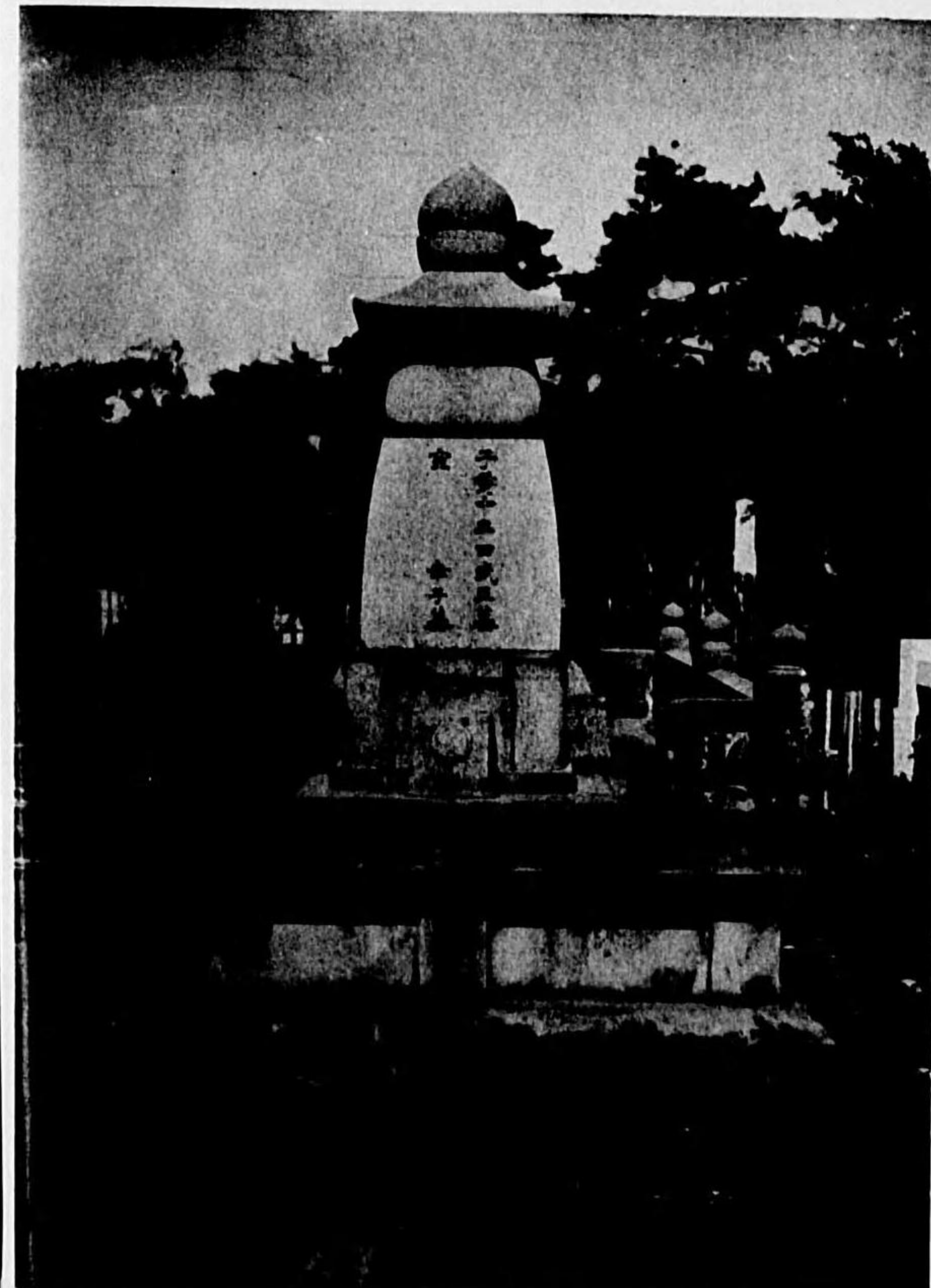
墓前相輪標 昭和九年



中牟田子爵家墓

東京市赤坂區青山墓地

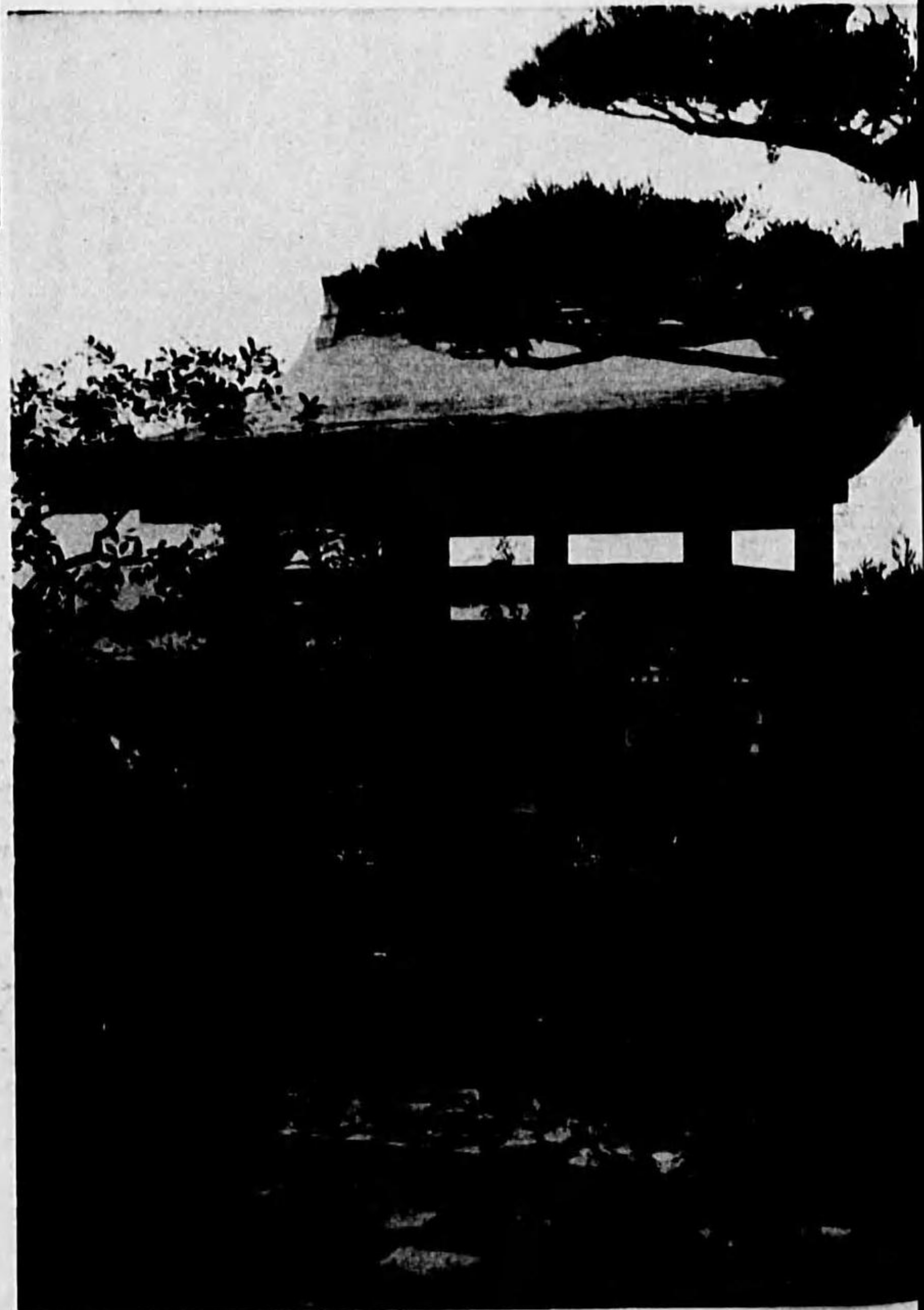
大正二年





中橋五郎氏墓

東京市小石川區普羽園寺境内 昭和九年



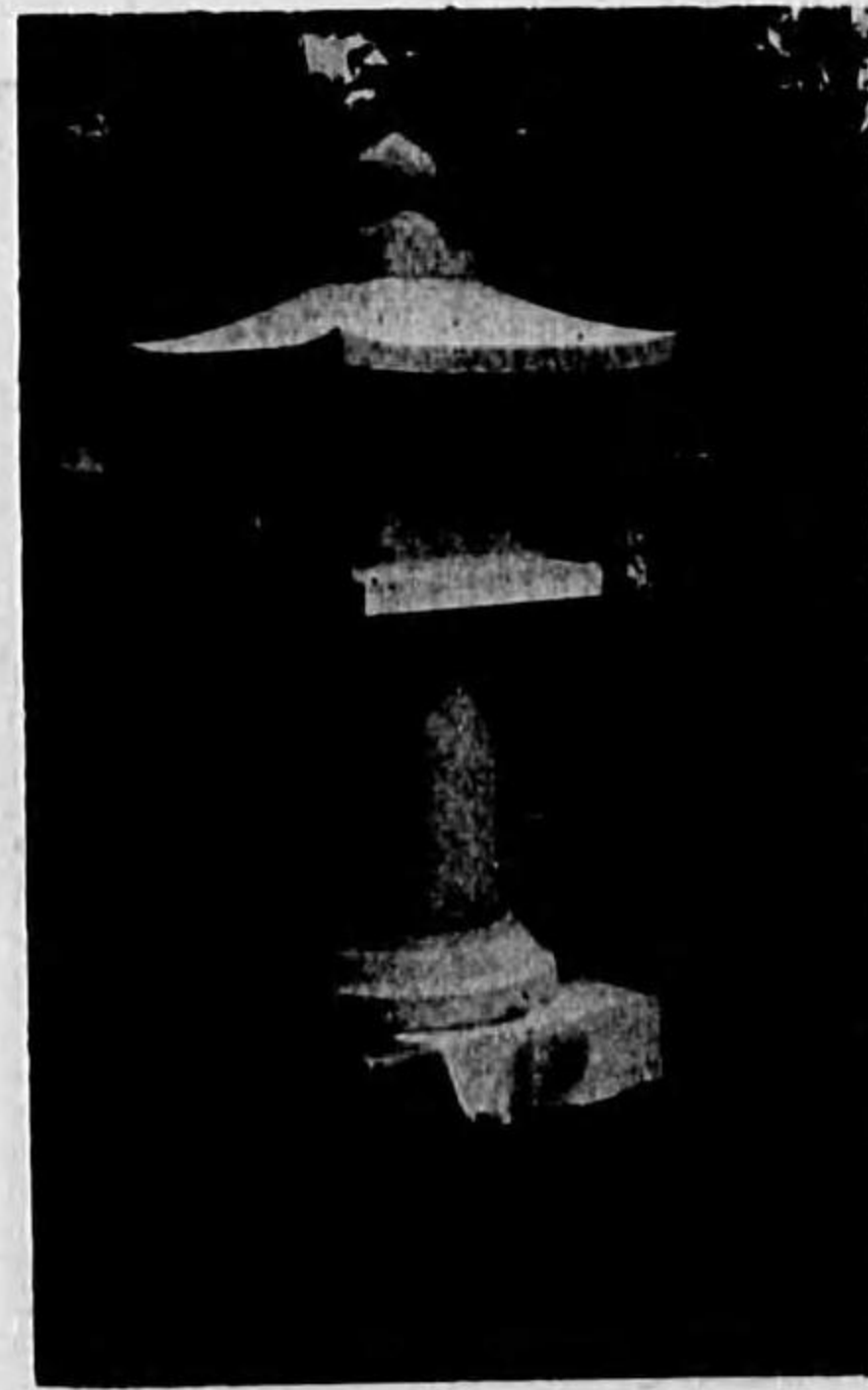
墓

手水舎

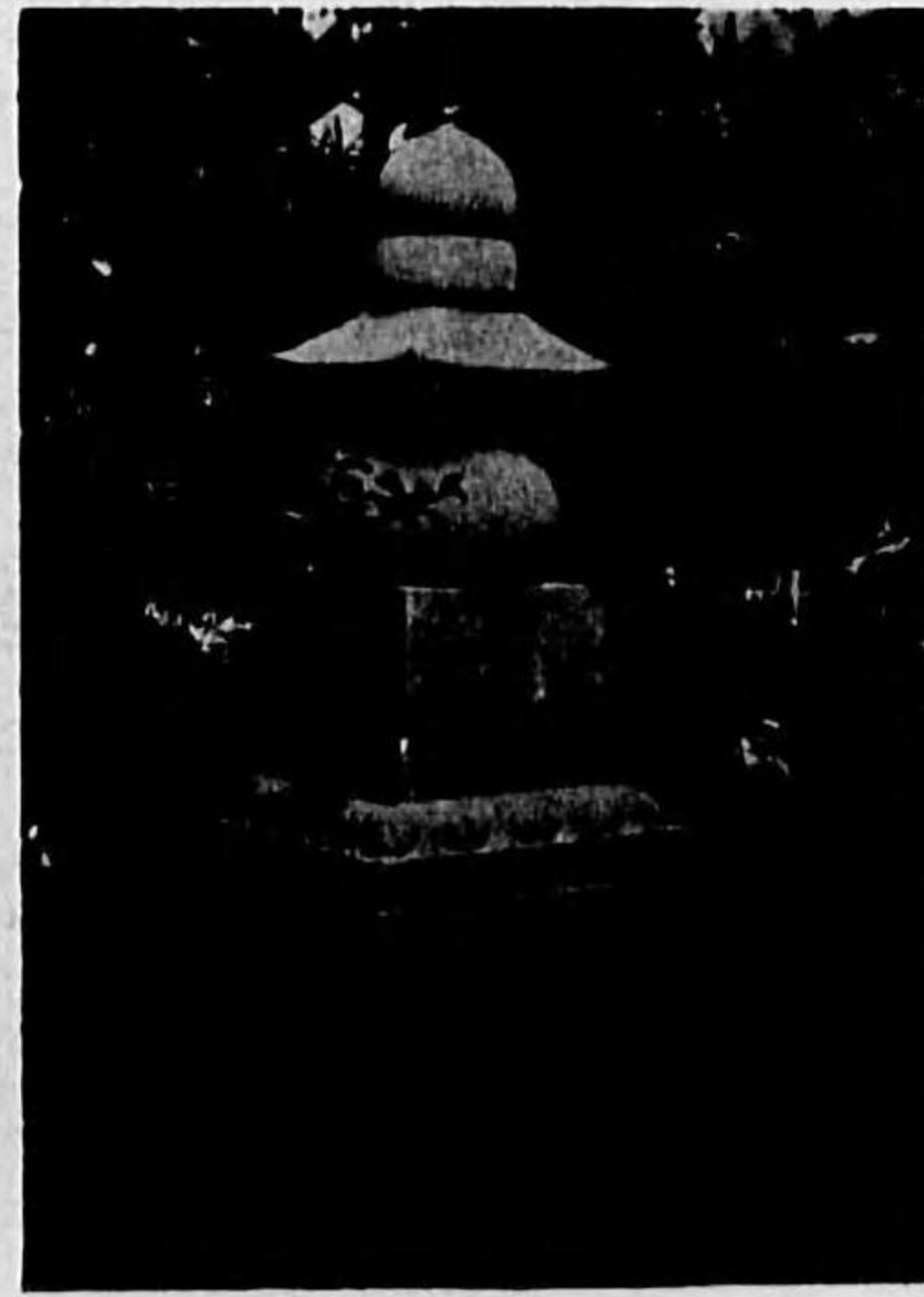


伯耆平田東助氏墓

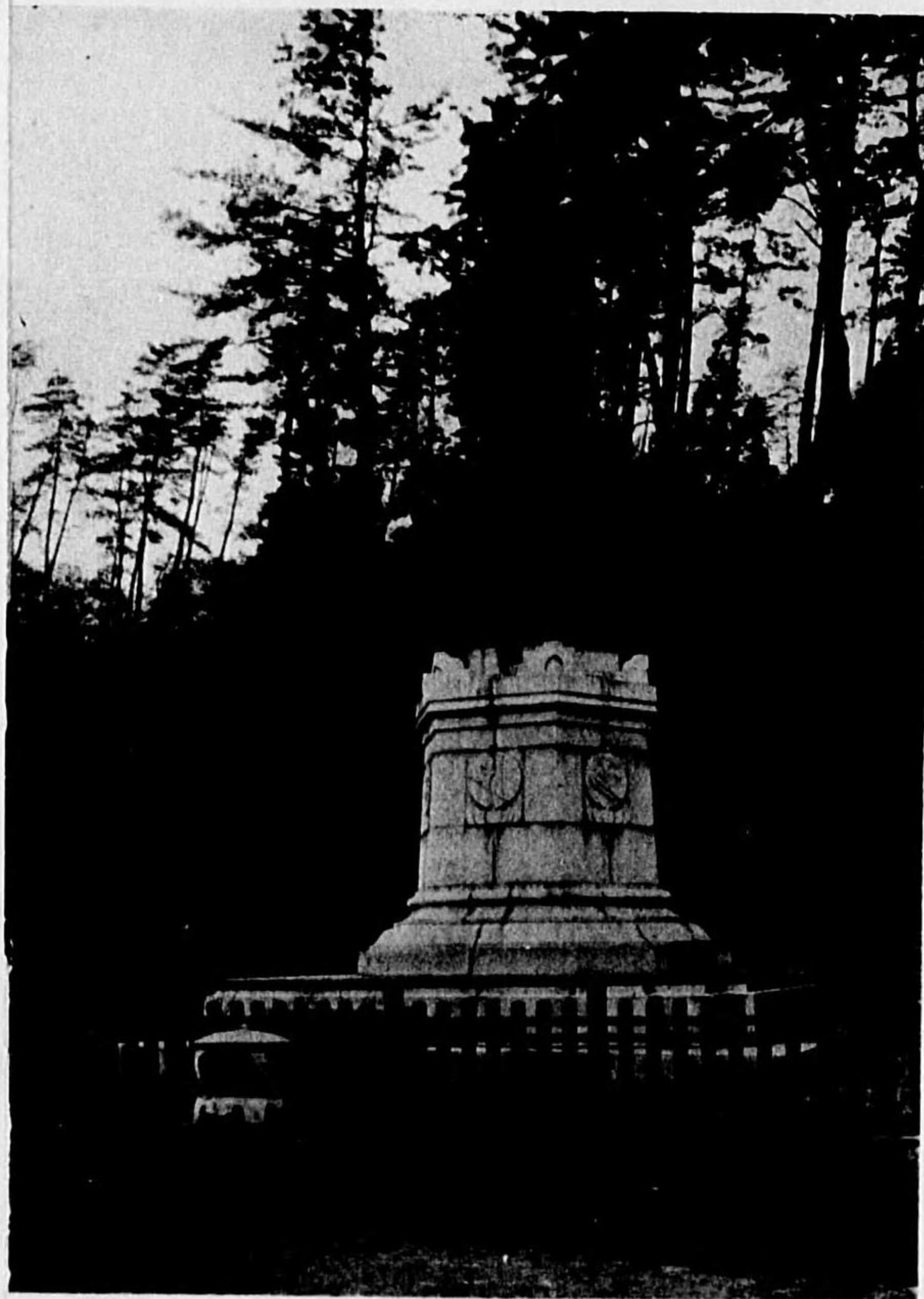
東京市小石川區普羽園寺境内 昭和元年



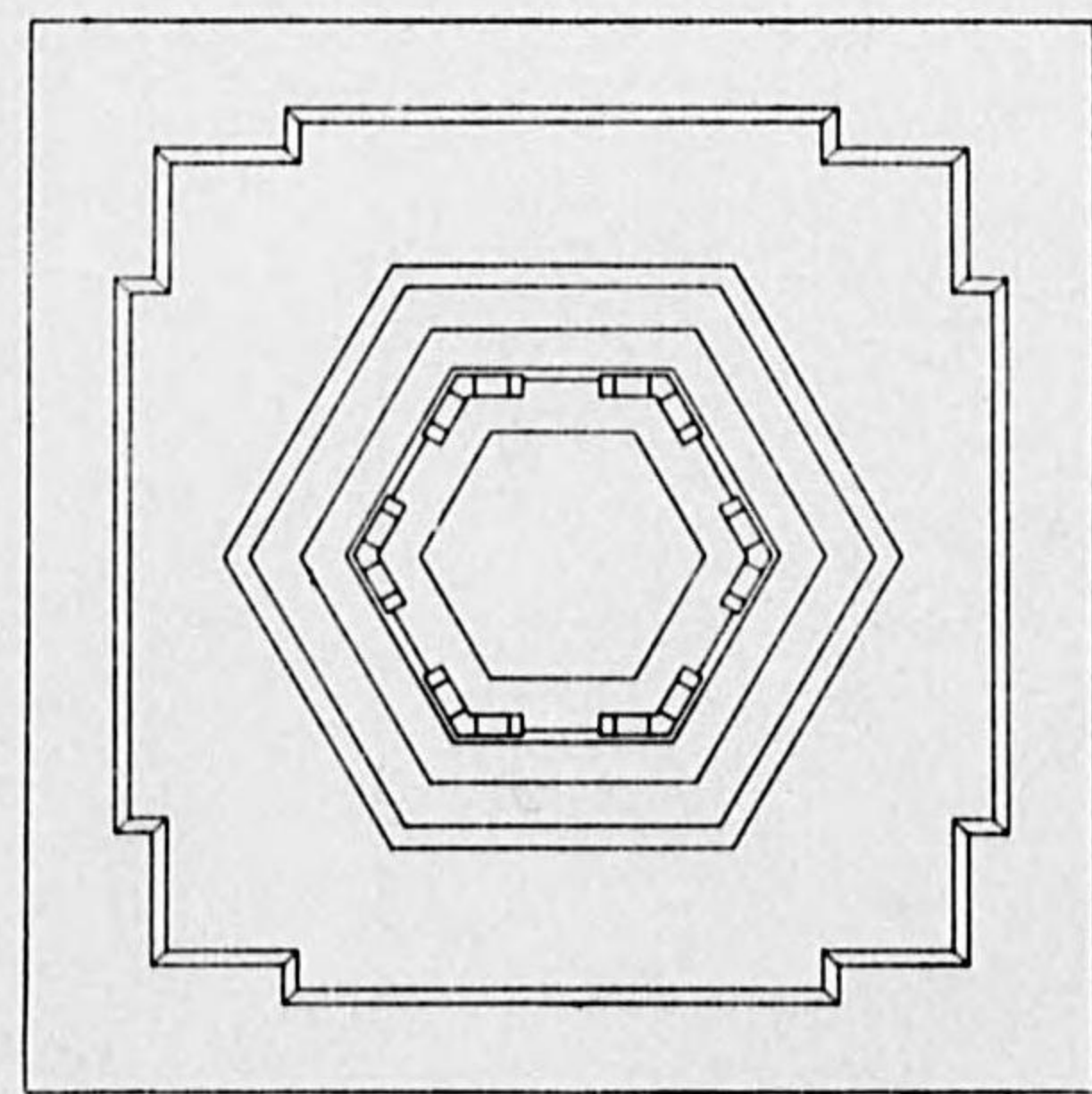
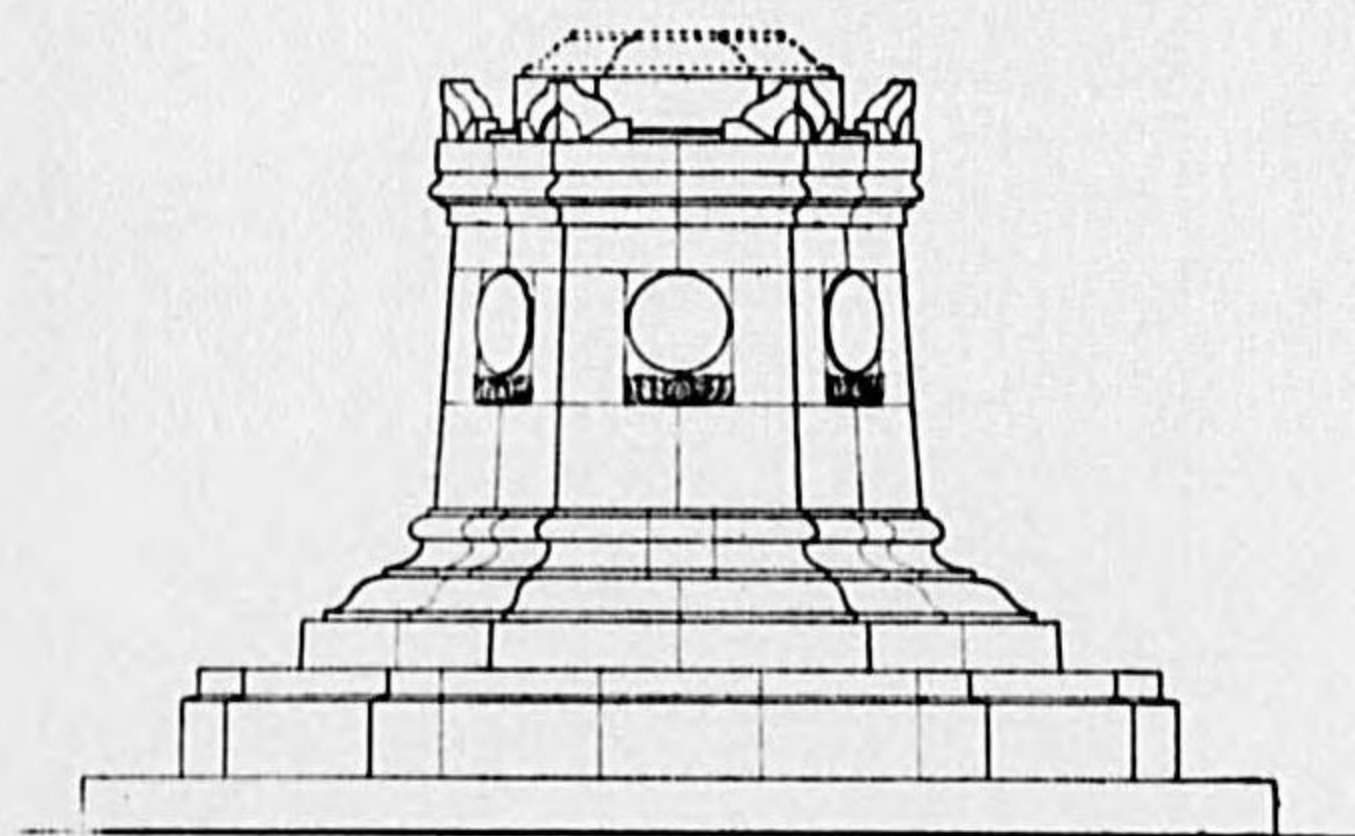
同石燈籠



中橋家墓



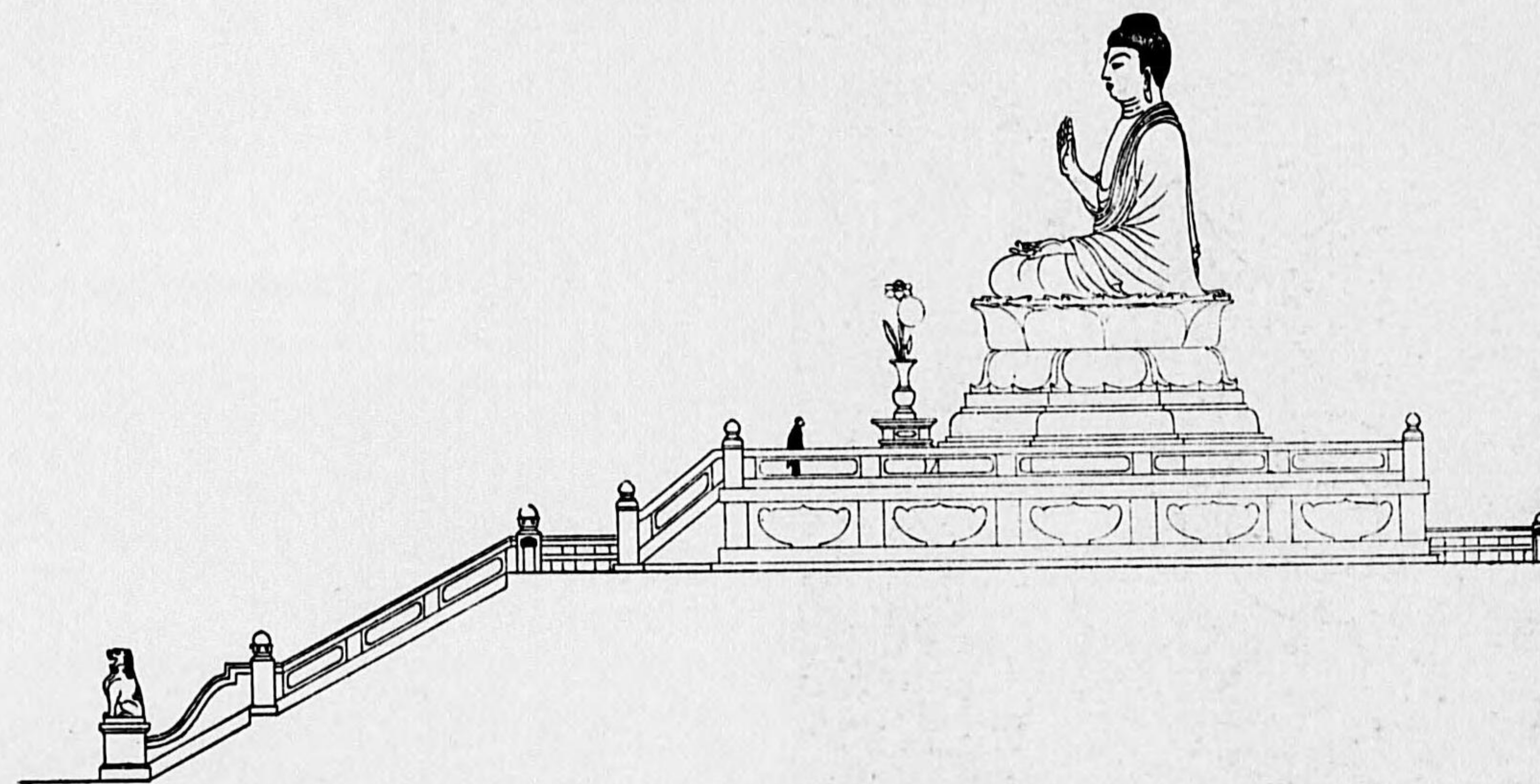
圖面立



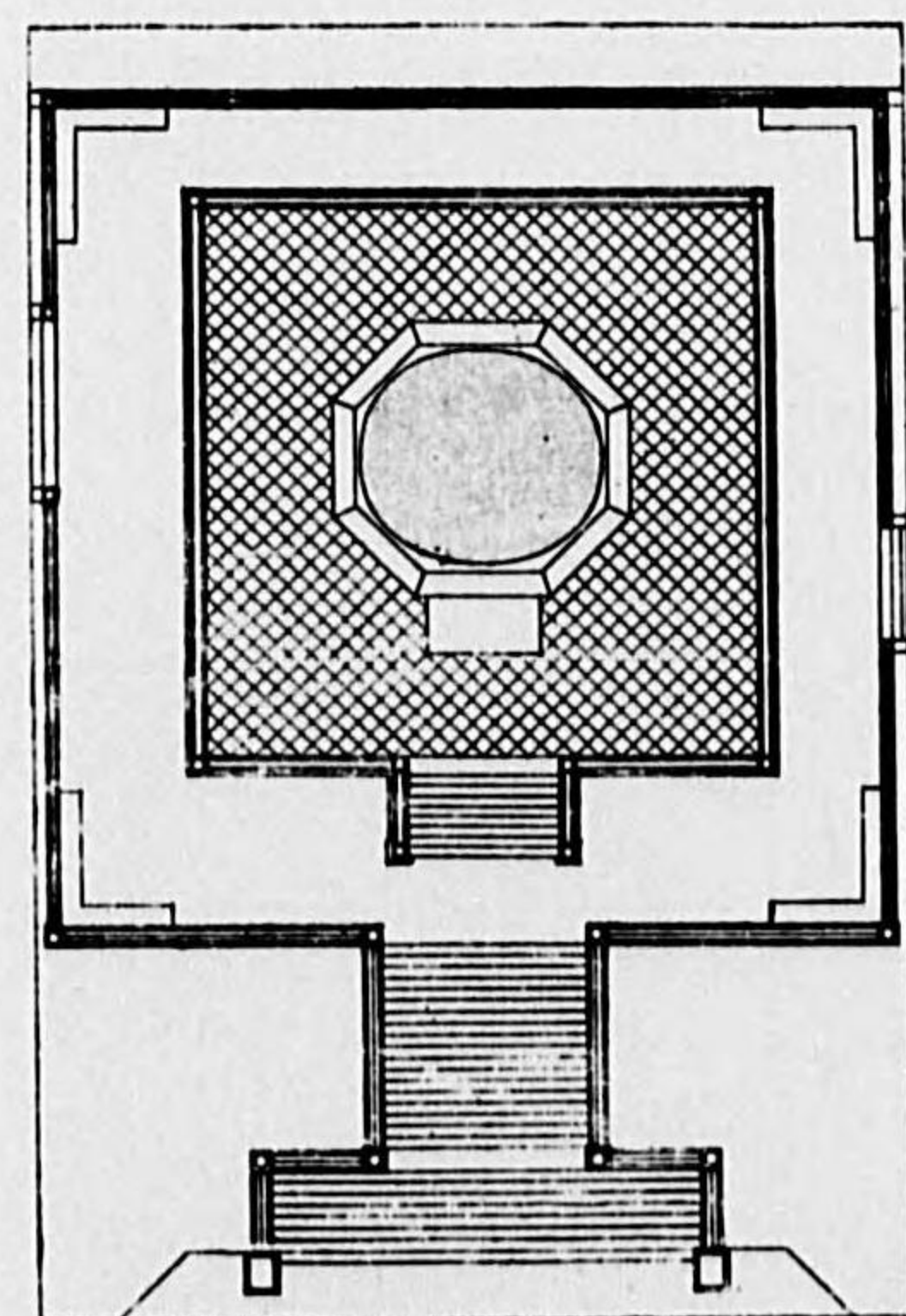
圖面平

總持寺內觀音像臺座 廣濟市見 大正二十一年 像博參劉 新海竹太郎原型

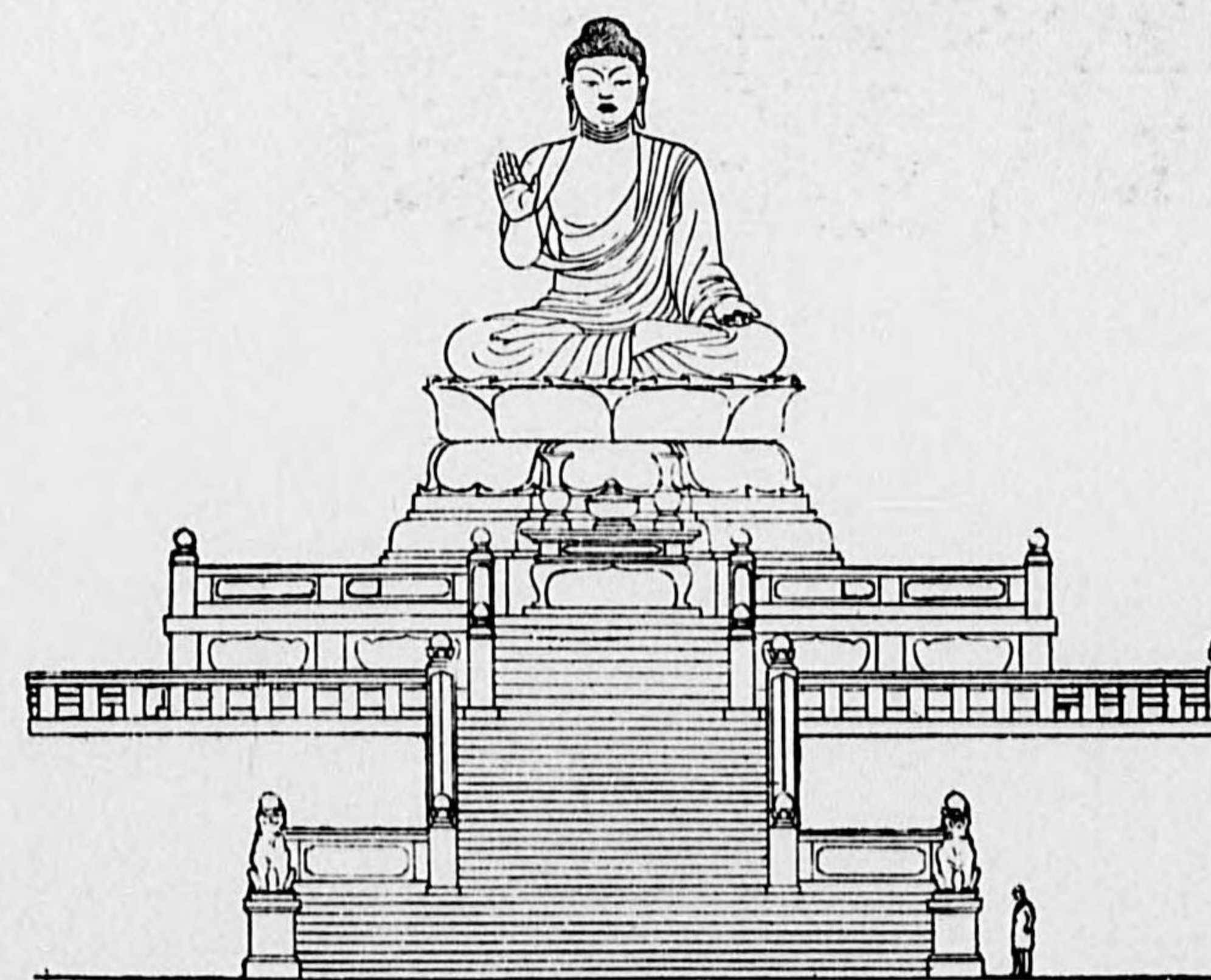
上野大佛石壇石階 (未實施) 大正三十三年二月設計



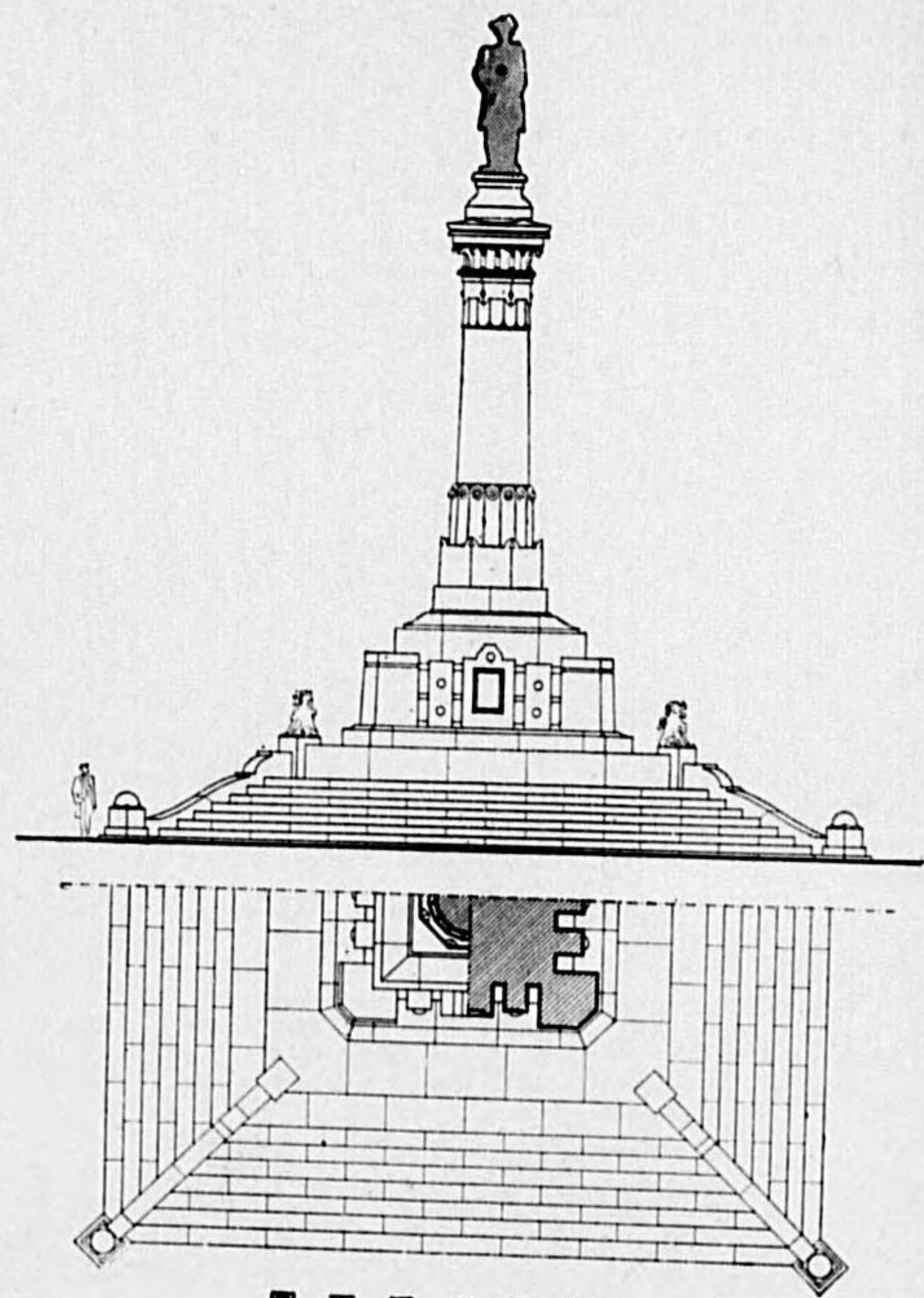
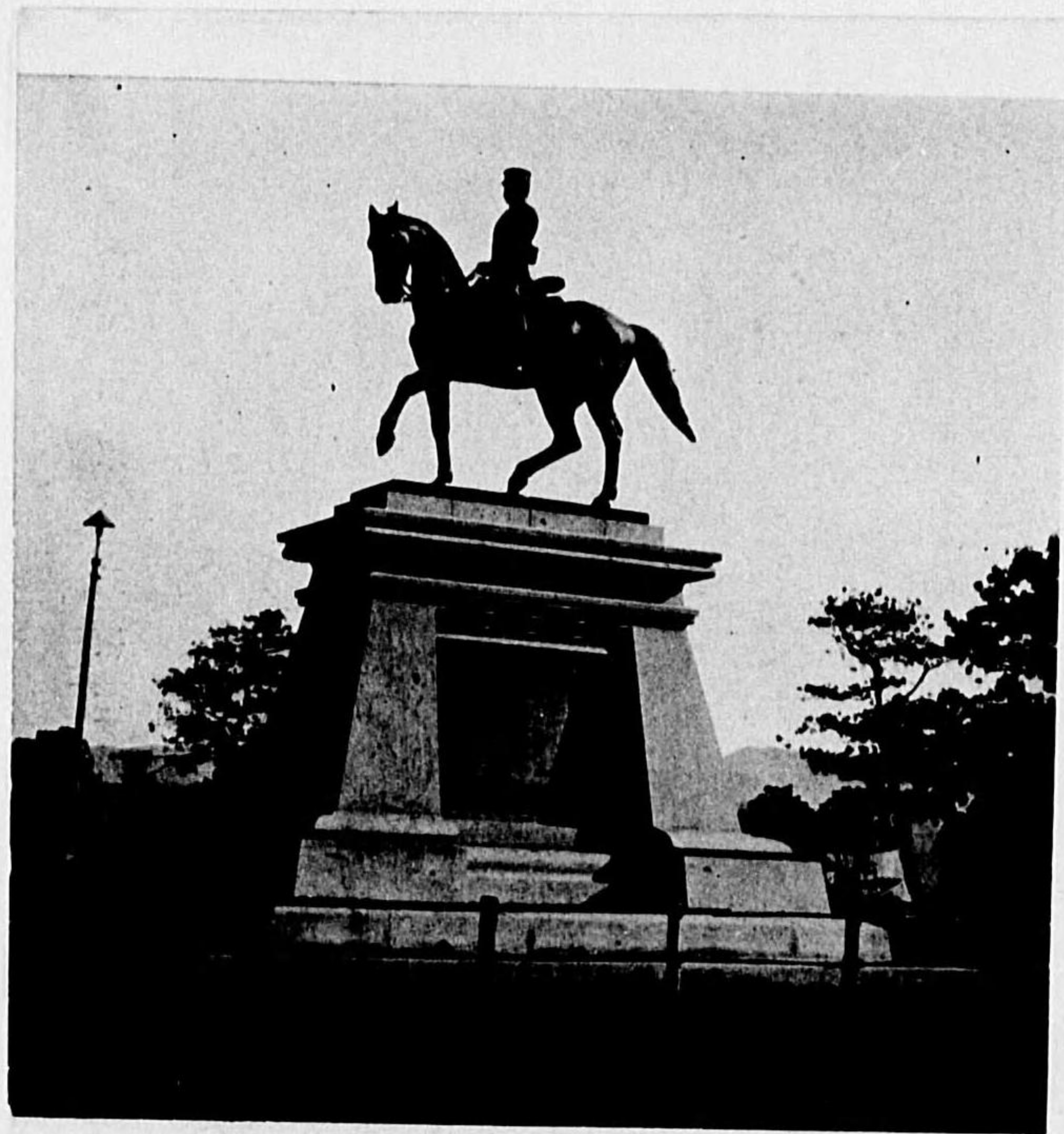
圖面側



圖面平



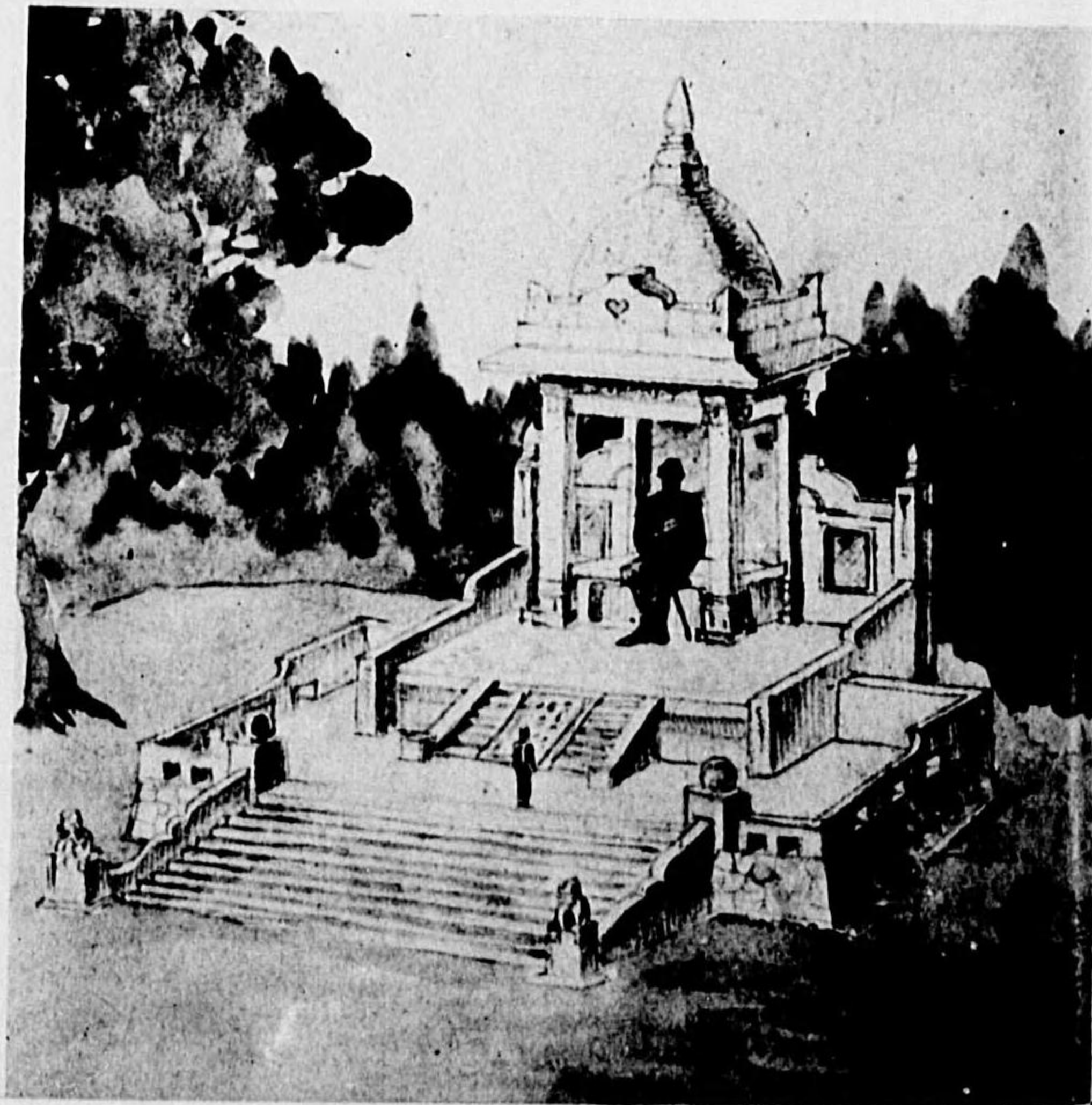
圖面正



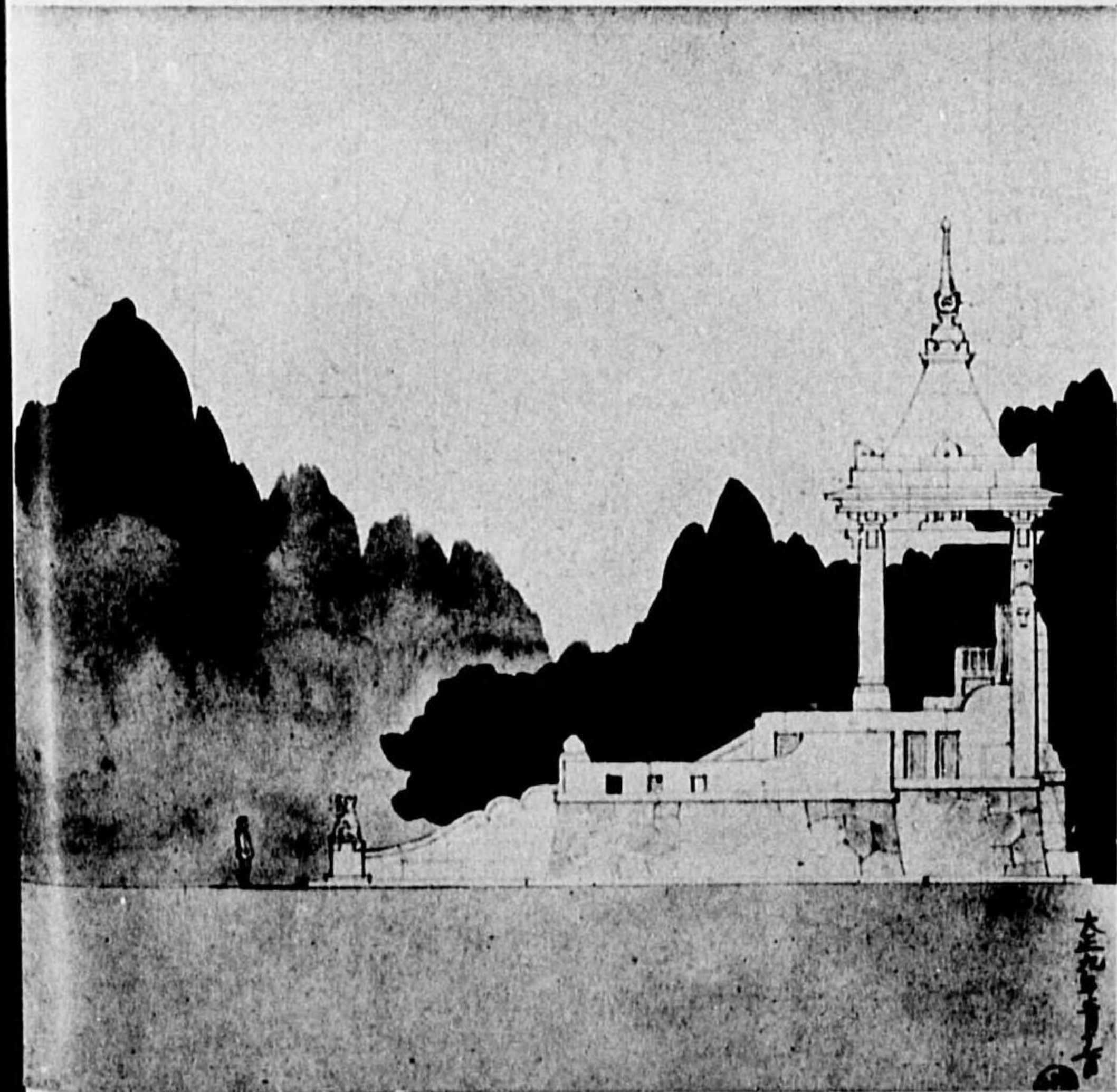
圖面平及圖面立

1:10

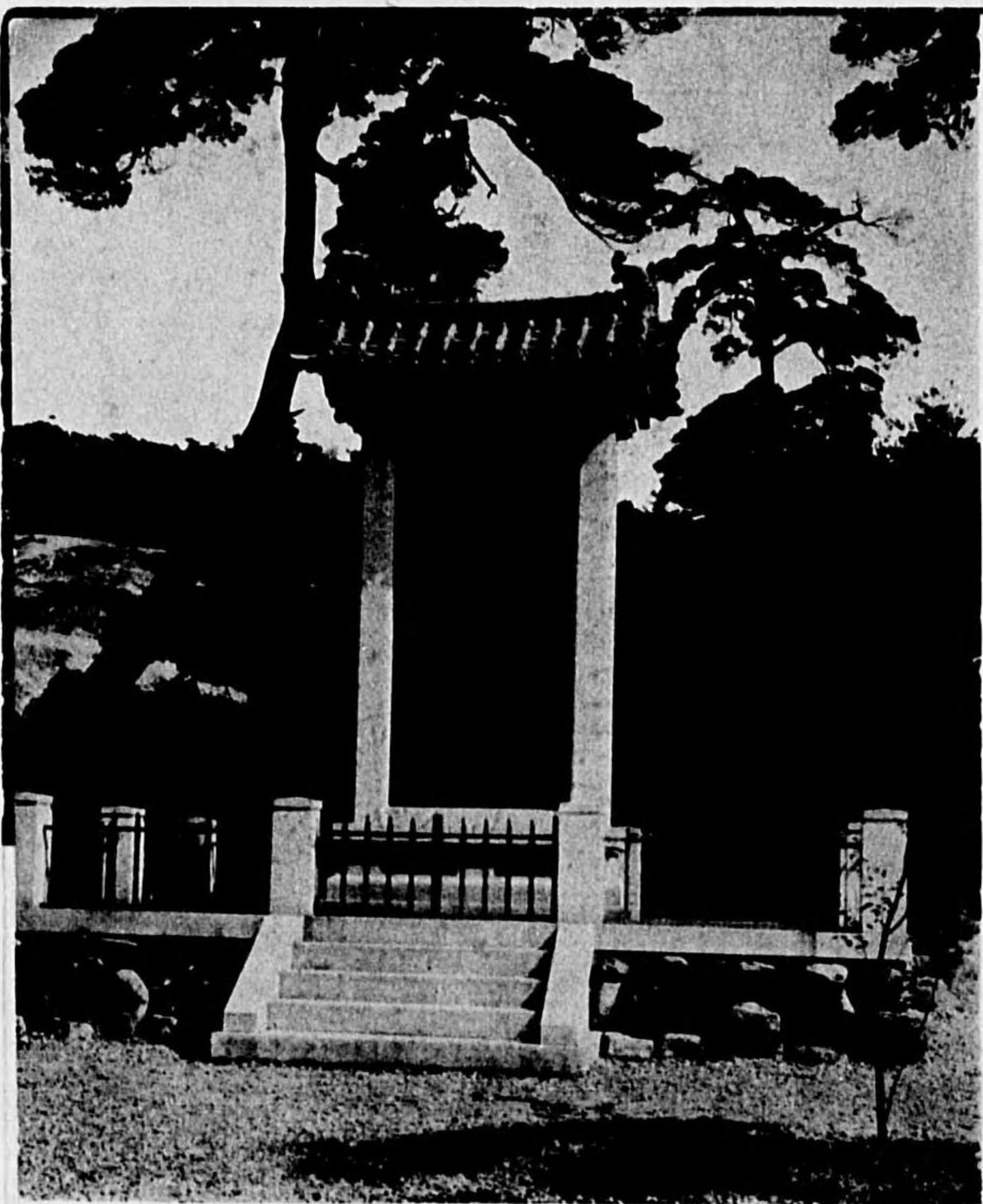
有栖川宮威仁親王像臺 東京市京橋區 昭和三年



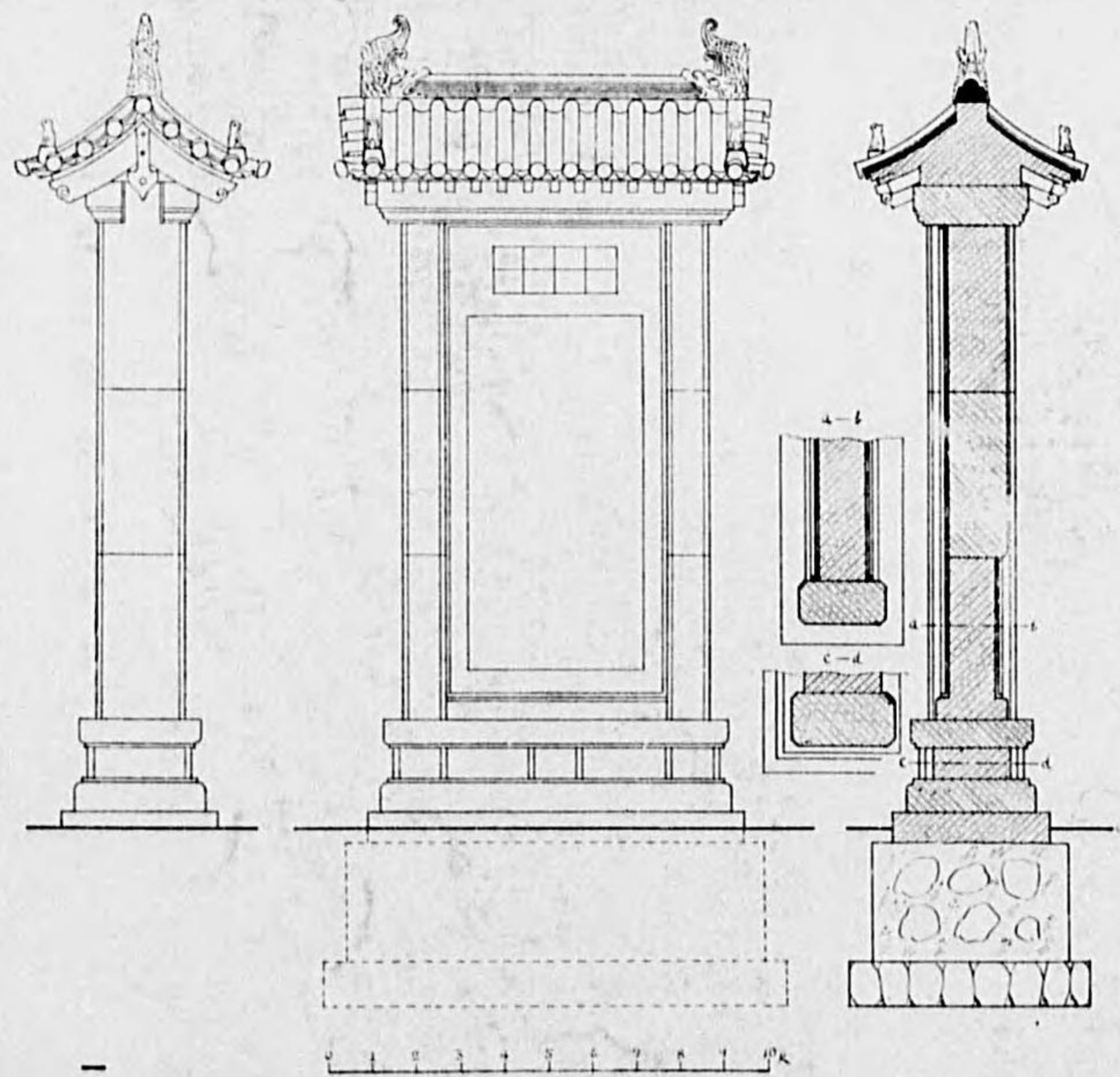
(筆自士博) 案六第圖計設



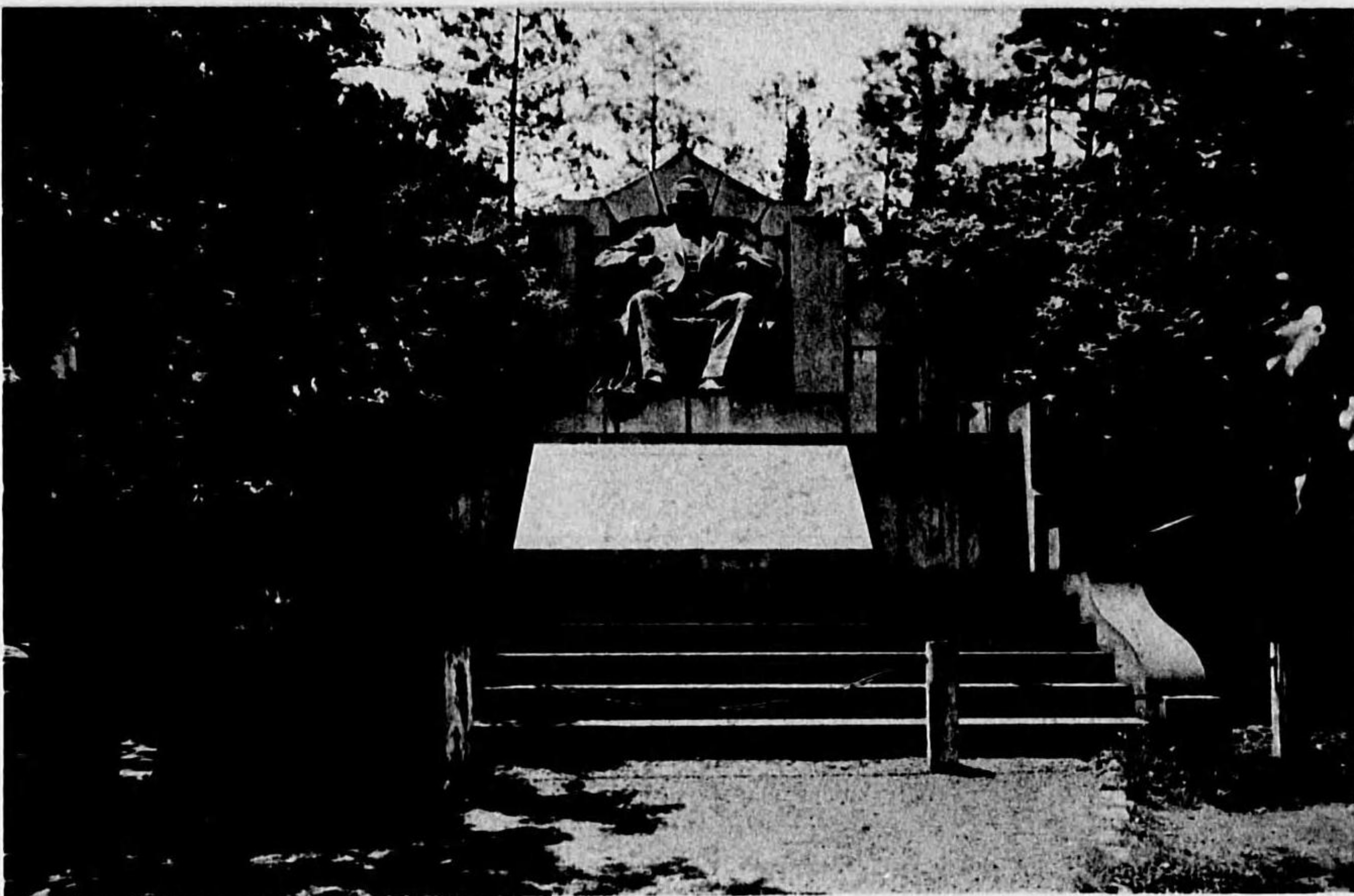
設計圖第八案(博士自筆)



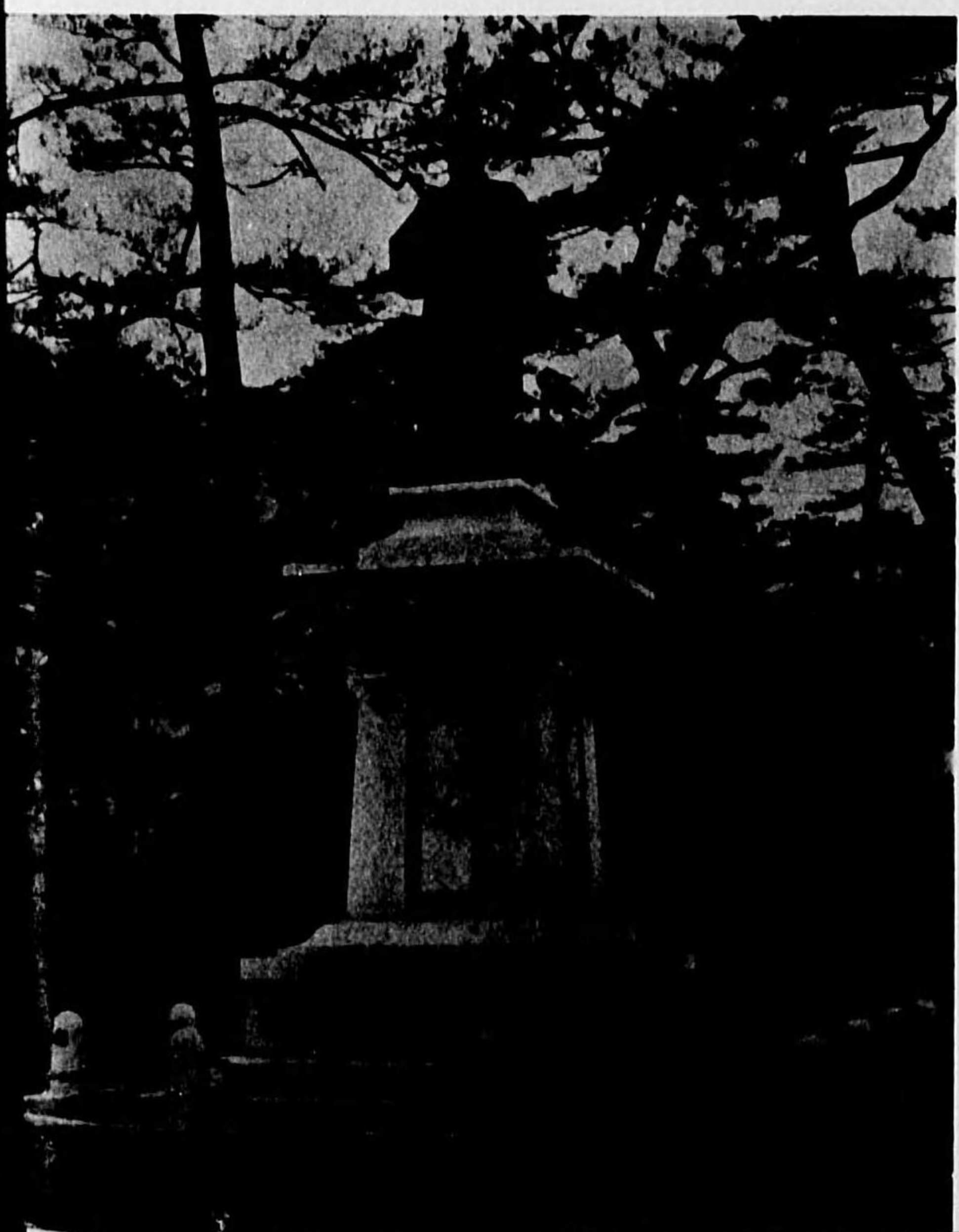
香取山博文寺之碑 朝鮮京城府英忠壇博文寺境内



伯爵伊東巳代治氏發願、伊藤博文公の
勳功を追頌すると共に博文寺創建の由
を記す
起工 昭和八年八月二十五日
竣工 同 年十月二十日
全高 一七尺二五 幅七尺
花崗石造 碑文面銅鍍厚一分 文字凸
刻の上嵌込



伯爵平田東助氏像臺 昭和二年

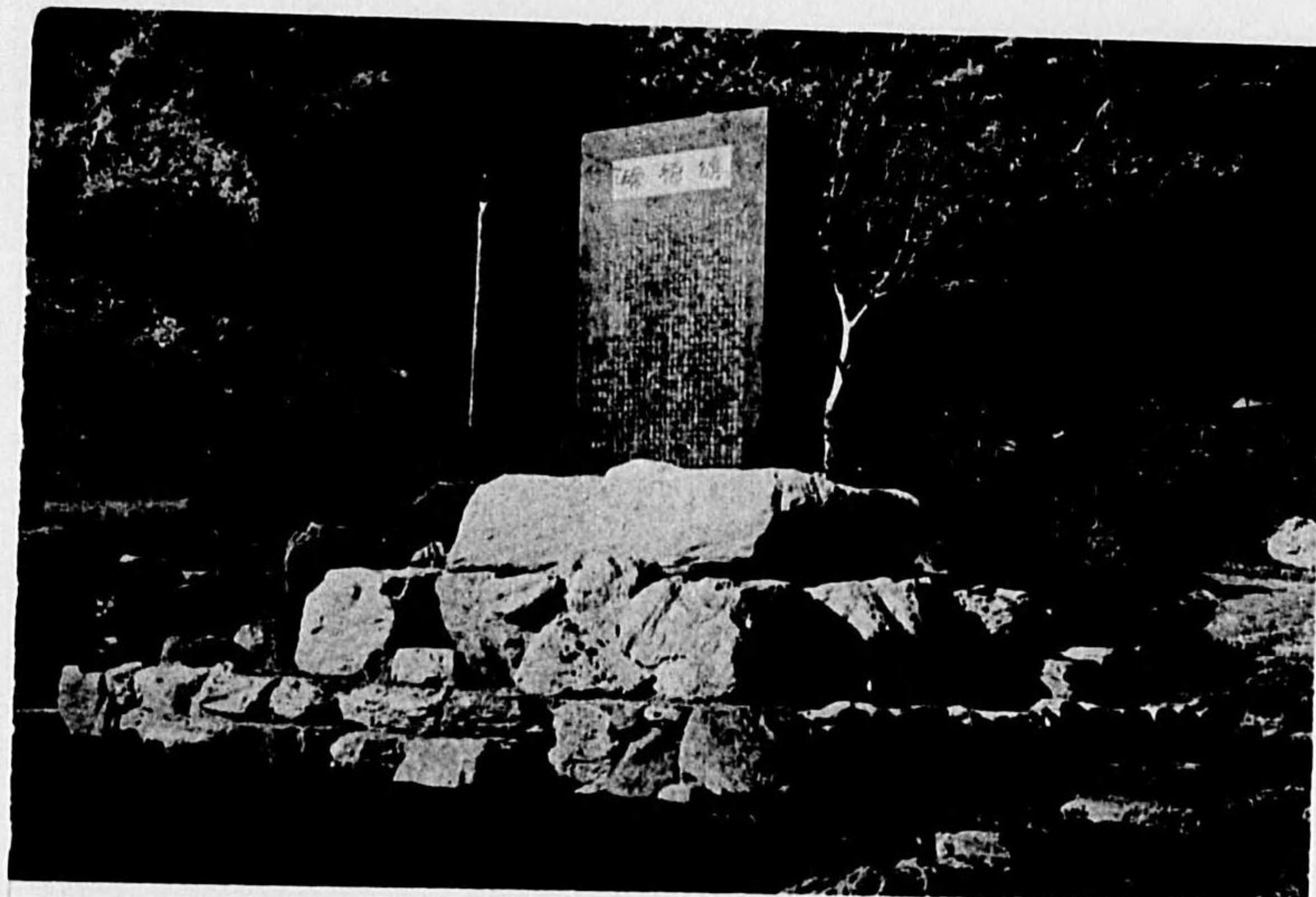


西村捨三氏像臺 大塚市住吉區住吉公園

明治四十四年四月一日除幕 像は津田信夫原型

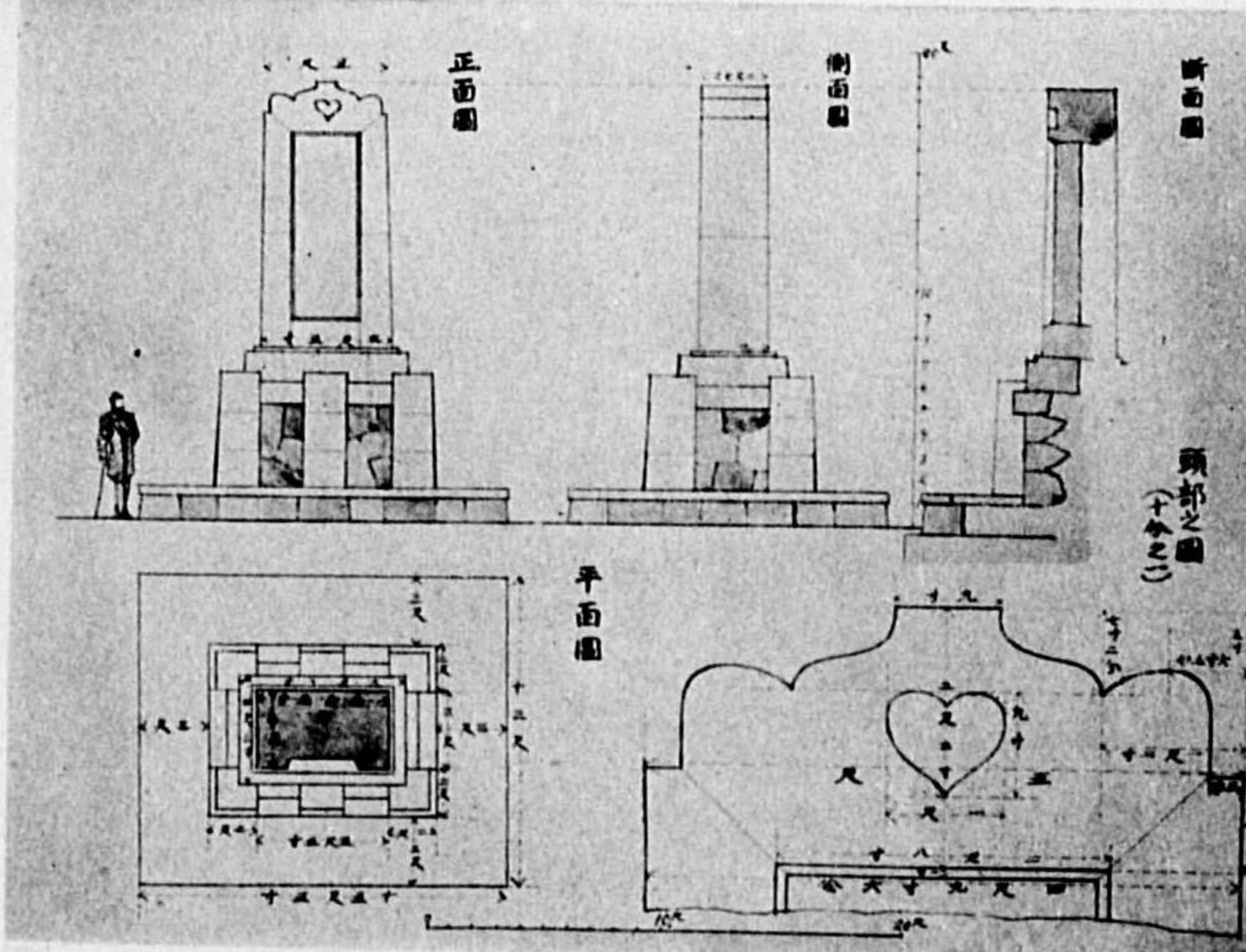
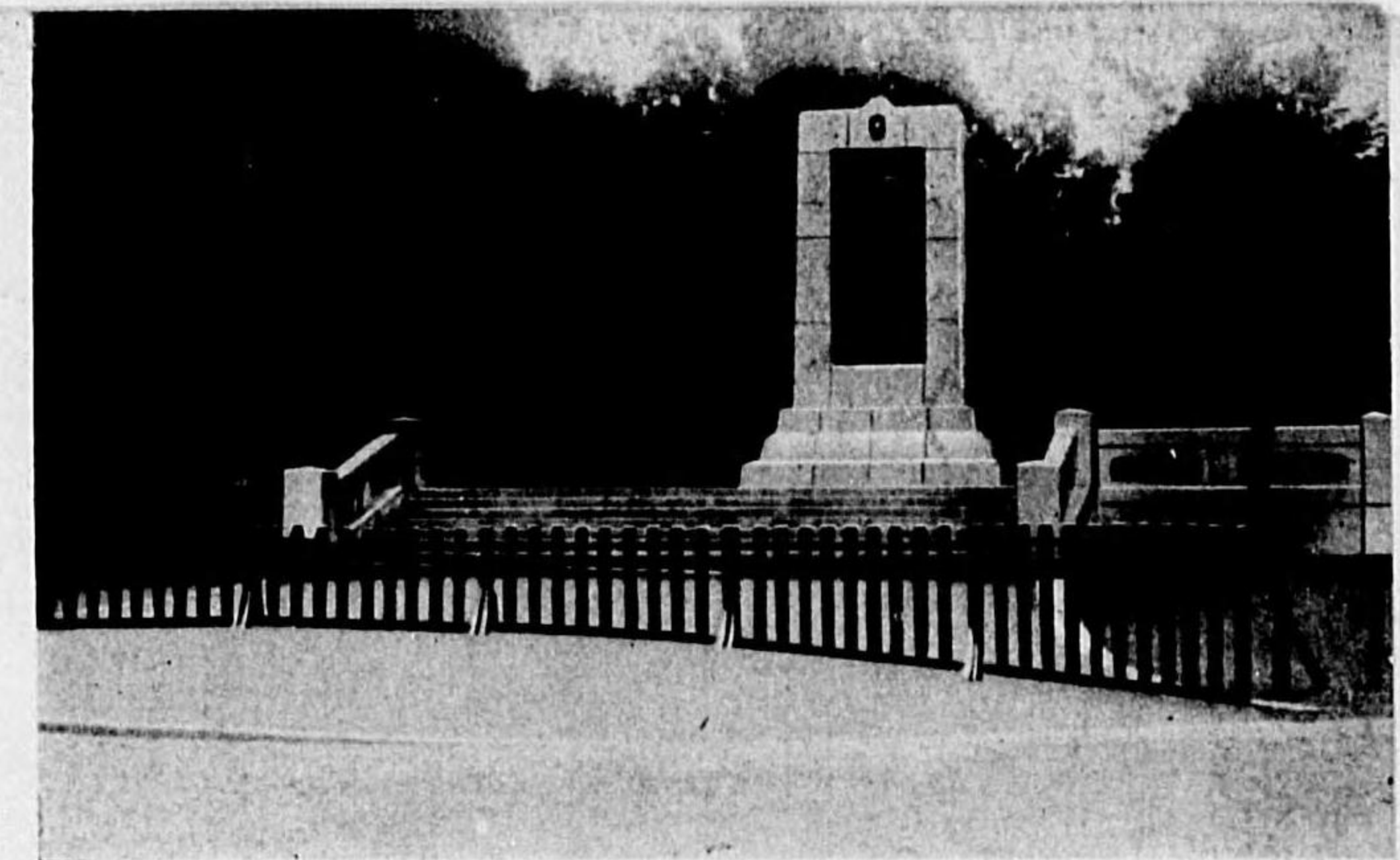


男爵前島密氏像臺 東京市芝區 大正二年

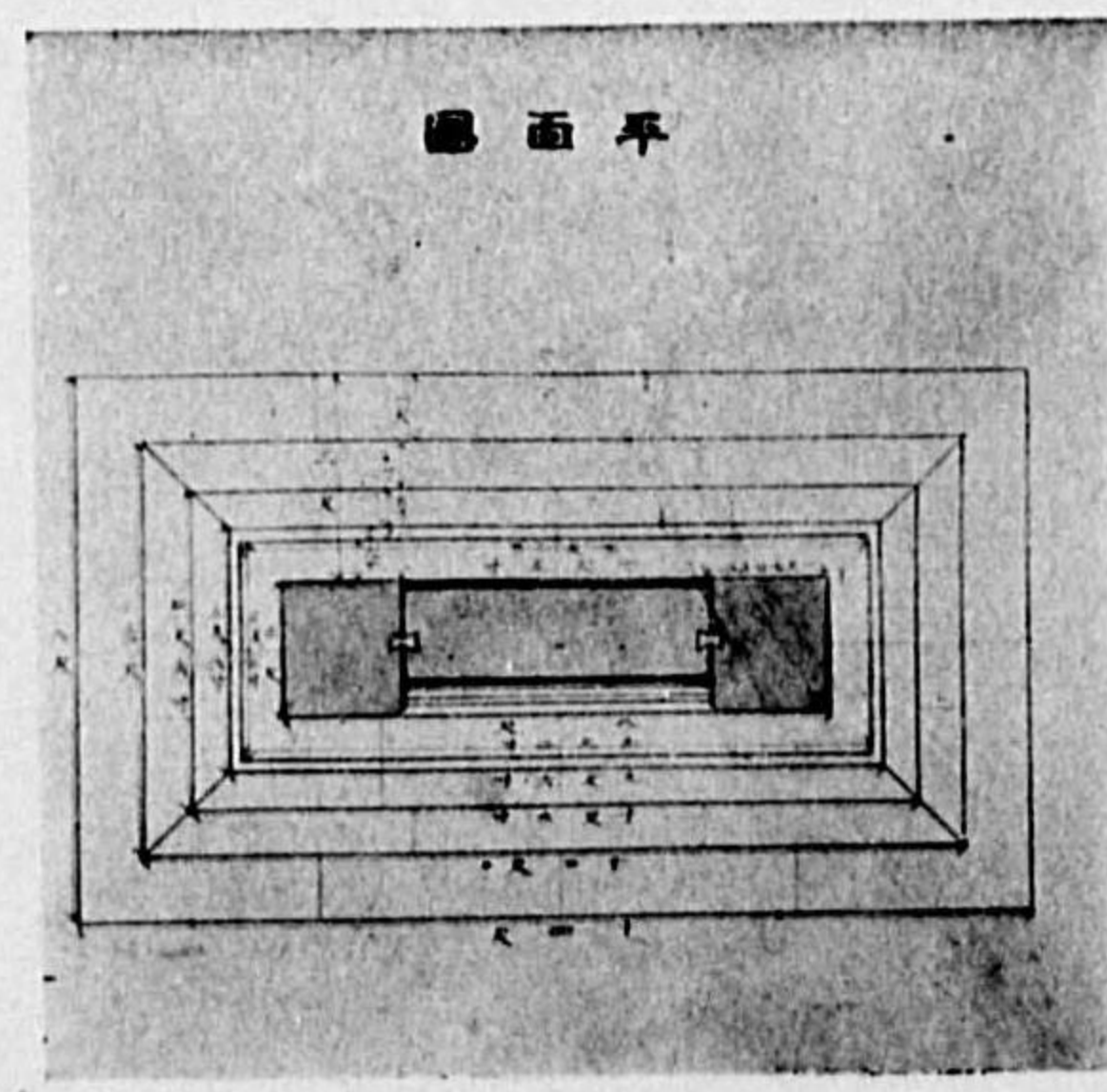
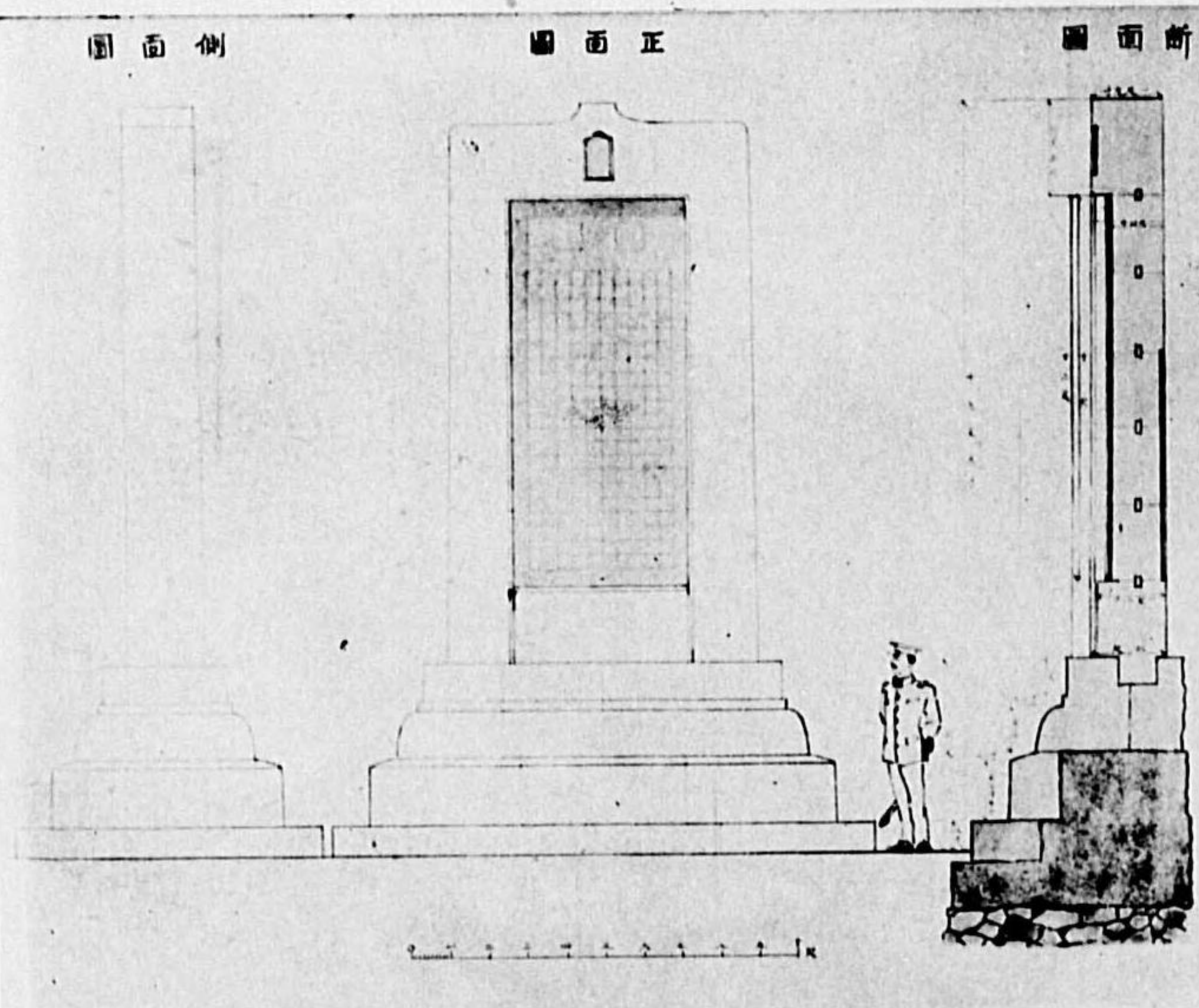


片倉太皇太后頌徳碑
 長野縣上野原神社前 昭和十一年

桃山御前軍人勳諭之碑
 大正十三年



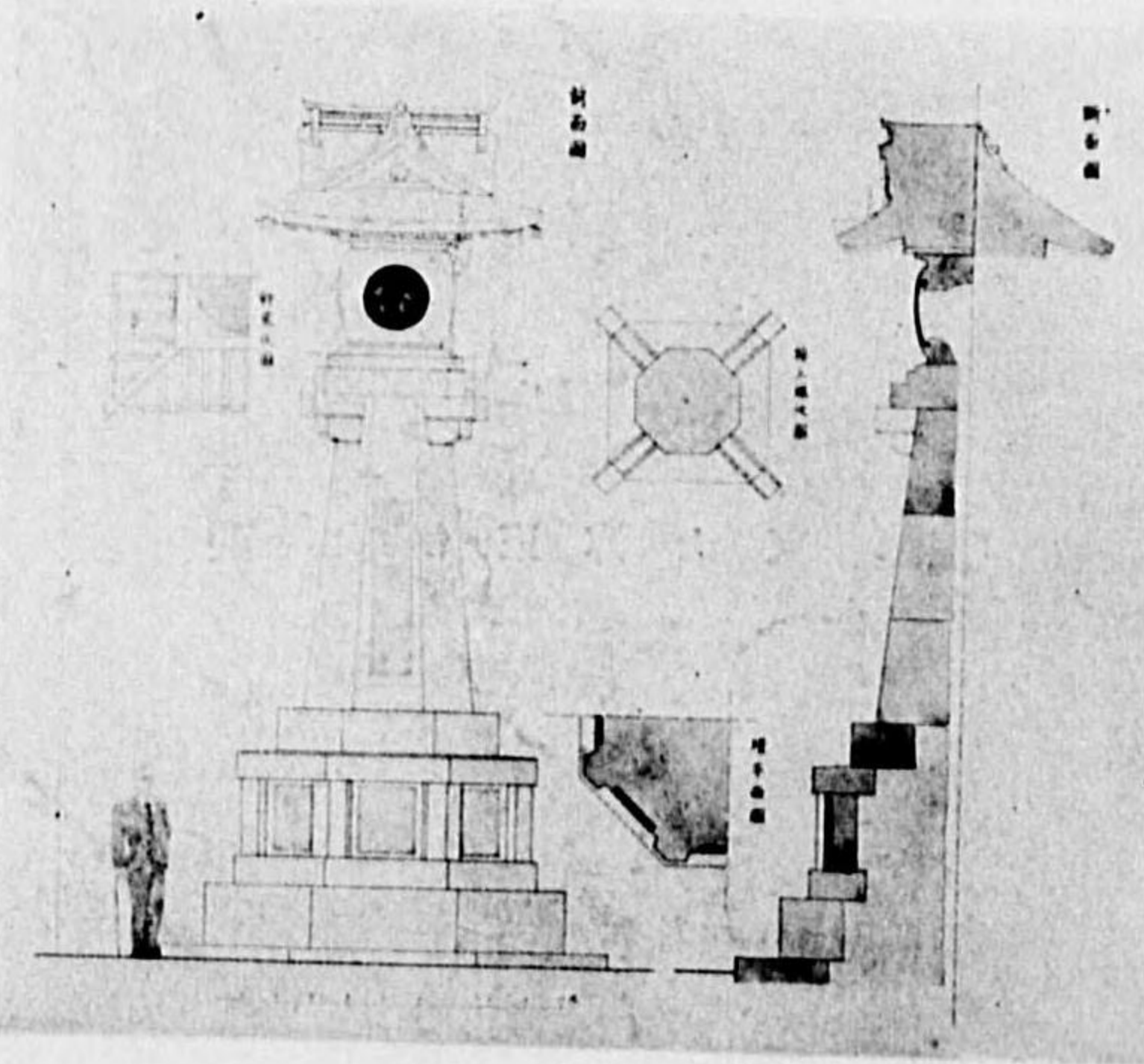
元寇殲滅碑 關西縣今津町 大正十一年



多博有士 良多日本の理解者たりし「御札博士」フレデリック・スタール博士 (Prof. Frederick Starr 1858-1933) の墓碑にして昭和九年生前崇仰せる富士の裾野に日本に於ける友人によりて建設せられたり 設計は伊東博士並びに佐藤功一工學博士撰文は徳富蘇峰 書は杉山三郎 石材は神奈川縣入生田村石垣山頂より發掘せる自然石にして高さ四米幅三米重さ四八〇〇貫 陸軍の好意にて超重索引車を動かして運搬せり



花櫻の碑 (未完) 北米合衆国ワシントン市ナトム河畔 大正十四年



日蓮寺佛舍利奉安塔	名古屋市	大正一七	實	設計・監督	施工 清水庄太郎
三會寺遺式佛堂	神奈川市	大正一三	不實施	設計	
暹羅佛奉安殿并厨子	岡崎市	大正一三	厨子のり實施	設計	
總持寺震災記念三重供養塔	横濱市	大正一四	實	設計・監督・顧問	顧問 木下幸三郎、主任 佐々木岩次郎
増上寺大徳堂	東横濱市	大正一四	實	設計	主任 金子清吉
弘誓院本堂	横濱市	大正一五	實	設計	
宗吾廟山門及奥院	千葉縣津市	昭和六	不實施	設計	
東本願寺伽藍	關東州旅順	昭和六	不實施	設計	
中山法華經寺聖教殿	千葉縣中山	大正一五	實	設計・監督	共同 内田祥三、請負 清水組
清水堂庫裡	東京市	昭和七	實	顧問	主任 金子清吉
淺草寺觀音堂(大修理)	東京市	昭和八	實	顧問	主任 小林福太郎
築地本願寺	東京市	昭和六	實	設計・監督	主任 金子清吉
大雄山最乘寺眞殿・本堂等	神奈川縣大雄山中	昭和五	一部實施	設計・監督	主任 金子清吉
可睡齋國塔前拜殿・山門等	靜岡縣久野西村	昭和九	未定	設計	主任 金子清吉
運羅舍利塔	千葉縣成田町	昭和九	不實施	設計	
新勝寺紀念塔・紀念館	同	昭和九	不實施	設計	
同太子堂・開山堂	同	昭和九	不實施	設計	
普光寺毘沙門堂	新潟縣浦佐村	昭和九	實	設計・監督	主任 金子清吉
總持寺大僧堂	横濱市鶴見	昭和九	實	顧問	主任 金子清吉
明善寺本堂	山形市	昭和九	實	設計	
東善郷寺	東京府	昭和九	未定	設計	主任 金子清吉
可睡齋大僧堂	靜岡縣久野西村	昭和九	未定	顧問	主任 金子清吉
日蓮寺納骨堂	名古屋	昭和九	實行見合	設計	
印度釋迦涅槃地記念塔	名古屋	昭和九	未定	設計	

三 廟

四 公共建築

眞宗信徒生命保險會社 東京市 大正元 實 設計・監督 主任 鶴岡長三郎

湯島聖堂(原案) 東京市 大正一四 實 設計・監督 主任 藤原孝一 請負 戸田組

秋田縣物産陳列場	秋田市	大正七	實	顧問・監督	主任 山田長舒 實 施 佐々木岩次郎
ロンドン萬國博覽會日本館	ロンドン市	大正七	實	設計	
サンフランシスコ・ミラー氏日本館	サンフランシスコ市	大正七	實	設計	
東京商科大學兼松講堂	東京府國立	大正一〇	實	設計・監督	
大倉倉庫	東京市	大正一三	實	設計・監督	
阪急ビル一階内部裝飾	大阪市	大正一四	實	設計・監督	
對支文化事業北京圖書院及研究所	北京市	昭和元	不實施	設計	
三田中學校小寺奉次郎記念塔	兵庫縣三田	昭和二	實	設計	共同 内田祥三、施工 大倉土木株式會社
大倉倉庫	東京市	大正一五	實	設計・監督	施工 大倉土木株式會社
東京兒童會館	東京市	昭和八	實	設計・監督	共同 鶴岡長三郎
大倉集古館三層閣及廊	東京市	昭和八	未定	設計	

五 住宅

淺野總一郎氏邸	東京市	明治四二	實	設計・監督	主任 佐々木岩次郎
二樂吉氏邸	東京市六甲山	明治四三	實	設計	
入澤建吉氏邸	東京市本郷區	明治四四	實	設計	
内務大臣等官邸	東京市	明治四四	實	設計・監督	主任 鶴岡長三郎
大倉喜八郎氏小田原別邸	神奈川縣小田原町	大正八	實	設計・監督	主任 佐々木岩次郎
久米民之助氏箱根別邸の門	神奈川縣箱根強羅	大正九	實	設計・監督	共同 佐野利壽
三井養之助氏庭内の亭子	東京市	大正一〇	延期	設計	
暹羅王宮内宮室及庭園	泰國バンコック	大正一三	中止	設計	主任 佐々木岩次郎
入澤達吉氏葉山別邸	神奈川縣葉山町	大正一四	實	設計	
久米民之助氏箱根別邸五角堂	神奈川縣箱根強羅	大正一四	中實	設計	
蒲田梅屋敷舊跡保存計畫	東京市	大正一四	一部實施	設計	
大倉喜八郎男京都別邸	京都市	昭和二	實	設計・顧問	主任 金子清吉
入澤達吉氏萩外莊	京都市	昭和二	實	設計・監督	
白石元治郎氏熱海別莊	靜岡縣熱海市	昭和九	實	設計・監督	

六 紀念碑・銅像臺・彫刻

南部伯爵像臺 盛岡市岩手公園 明治四一 實 設計・監督

西村拾三氏像臺 大阪市住吉區 明治四二 實 設計・監督

前島密像臺	順德天皇遺趾碑	元寇殲滅紀念碑	日本海々戰紀念碑	總持寺聖觀音像臺	桃山御陵軍人勅諭之碑	上野大佛再建	松平政直公像臺	伯爵平田東助像臺	有栖川宮威仁親王像臺	明治節紀念塔	中村非杉碑	壽多行博士碑	今泉嘉一郎氏像臺	村井三雄藏碑・像臺	片倉兼太郎氏碑	山田長政氏碑	女子教育發祥碑
東京市京橋區	新潟縣寺泊町	福岡縣今津町	橫濱市鶴見	東京市桃山	東京市江	東京市京橋區	東京市比叡山上	京都市比叡山上	滿洲國老翁廟	靜岡縣須走村	群馬縣馬	山形縣	長野縣諏訪市	東京市御茶の水			
大正二	大正四	大正一〇	大正二	大正三	大正三	大正四	大正二	大正三	大正三	大正八	大正九	大正一	大正一	大正一	大正一	大正一	大正一
實	實	實	實	實	實	實	實	實	實	實	實	實	實	實	實	實	實
設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督

七 墓

伊東家墓	中平田家墓	田中(新七)家墓	白石元治郎家墓	伯爵平田東助氏墓	志賀重昂氏墓	淺野總一郎氏夫妻墓	某家墓	橋本左內墓	大倉喜八郎氏墓	淺野家墓	麻田(駒之助)家墓
東京市青山市	東京市總持寺	東京市總持寺	東京市總持寺	東京市護國寺	東京市總持寺	東京市總持寺	東京市總持寺	東京市總持寺	東京市總持寺	東京市總持寺	東京市總持寺
明治四	大正一	大正一	大正一	大正一	昭和七	昭和七	昭和五	昭和五	昭和五	昭和九	昭和九
實	實	實	實	實	實	實	實	實	實	實	實
設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督

共同佐藤功一

中橋德五郎氏墓	藤田政輔氏墓	鮎川(義介)家墓	鮎川家先祖供養塔	入澤達吉氏墓	伊東家墓
東京市護國寺	東京府多磨墓地	山口縣長府町	東京市谷中	東京市總持寺	東京市總持寺
昭和九	昭和九	昭和四	昭和四	昭和四	昭和五
實	實	實	實	實	實
設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督

八 燈籠

平安神宮銅燈籠一對	ソレントン櫻園石燈籠一本(櫻花の碑)	五々會供養石燈籠	上杉神社獻燈一對	寺野博士及井口博士墓前燈籠一對	靖國神社大燈籠	明治神宮參道大燈籠	可睡齋十三重塔及燈籠	富士山頂歌詞燈籠
京都市	京都市	米澤市	東京市	東京市	東京市	東京市	靜岡縣久野西村	富士山頂
明治三〇	大正一四	大正元	昭和元	昭和〇	昭和〇	昭和〇	昭和五	昭和五
實	實	實	實	實	實	實	實	實
設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督

九 雜

淺草區胸形町神輿	御木本眞珠塔	入澤達吉氏邸街立	入澤達吉氏邸長椅子	湯島聖堂大成殿內椅子四脚	伊東家觀音厨子及香爐
東京市	東京市	東京市	東京市	東京市	東京市
大正一〇	昭和二	昭和二	昭和二	昭和二	昭和二
實	實	實	實	實	實
設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督	設計・監督

1I2M-34

已實紙規第壹九八號東京府規格外許可

昭和十六年十月五日印刷

昭和十六年十月十五日發行

編輯 伊東博士作品集刊行會

東京市京橋區木挽町二ノ四竹田

發印並行 中村勝哉

東京市大森區入新井三ノ五〇

發行所 城南書院

東京市京橋區木挽町二ノ四竹田

電話京橋代表三三九番 振替東京三三三番

配給元 日本出版配給株式會社

東京市神戶區淡路町二ノ九

定價 金拾貳圓

送料 內地 23 毫 棧 47 鮮滿 62

終

